

に下して之を推せしむ。蘊、威を死に處す。威、以て自ら明かにする無く、但だ推謝するのみ。帝、憫みて之を釋して曰はく、「未だ即ち殺すに忍びず」と。其子孫三世を并せて、皆、名を除く。

秋七月壬戌、(二六)濟の景公樊子蓋卒す。江都新に龍舟を作りて成り、東都に送る。宇文述、江都に幸せんことを勸む。右候衛大將軍、酒泉の趙才諫めて曰はく、「今、百姓疲勞し、府藏空しく竭き、

盜賊蜂起し、禁令、行はれず。願はくは陛下、京師に還り、兆庶を安んせよ」と。帝、大に怒り、才を以て吏に屬す。旬日にして意解け、乃ち之を出す。朝臣、皆、行くを欲せず。帝、意甚だ堅し。敢て諫むる者無し。(二七)建節尉任宗、上書して極諫す。

即日、朝堂に於て之を杖殺す。甲子、帝、江都に幸す。越王侗に命じ、光祿大夫段達・太府卿元文都・檢校民部尚書韋津・右武衛將軍皇甫無逸・右司郎盧楚等と與に、留後の事を總べしむ。津は(二八)孝寬の子なり。帝、詩を以て宮人に留別して曰はく、「我、江都の好きを夢みる。遼を征するも亦偶然」と。(二九)奉信郎崔民象、盜賊充斥するを以て、(三〇)建國門に於て、上表して諫む。帝大に怒り、先づ其頤を解き、然る後之を斬る。

戊辰、(三一)馮翊の孫華、兵を擧げて盜を爲す。虞世基、盜賊充斥するを以て、兵を發して(三二)洛口倉に屯せんことを請ふ。帝曰はく、「卿は是れ書生

なり。定めて猶ほ懼怯ならん」と。戊辰、車駕、(三三)鞏に至る。有司に勅して、箕山・公路の二府を倉内に移し、仍つて城を築かしめ、以て不虞に備ふ。汜水に至る。奉信郎王愛仁、復た上表し、西京に還らんことを請ふ。

帝、之を斬りて行く。(三四)梁郡に至る。郡人、車駕を邀へ、上書して曰はく、「陛下若し遂に江都に幸せば、天下は陛下の有に非ざらん」と。又、之を斬る。是時、李子通、海陵に據り、左才相、淮北を掠め、杜伏威、(三五)六合に屯す。衆各、數萬。帝、光祿大夫陳稜を遣はし、宿衛の精兵八千を將ゐて之を討たしむ。往往にして克捷す。

八月乙巳、賊帥趙萬海、衆數十萬、(三六)恆山より高陽に寇す。

冬十月己丑、許の恭公宇文述卒す。初め述の子化及・智及、皆無頼なり。化及、帝に東宮に事へ、帝、之を寵昵す。位に即くに及び、以て太僕少卿と爲す。(三七)帝、榆林に幸するや、化及・智及、禁を冒し、突厥と交市す。帝怒り、將に之を斬らんとす。已に衣を解き鬘髪す。既にして之を釋し、述に賜うて奴と爲す。智及の弟士及、主に尙するの故を以て、常に智及を輕んず。惟だ化及、之と親昵す。述卒し、帝、復た化及を以て右屯衛將軍と爲し。智及を將作少監と爲す。李密が亡ぐるや、往きて郝孝德に依る。孝德、之を禮せず。又、王薄に入る。薄も亦之を奇とせざ

【二六】 帝、樊子蓋が東都を守り、玄感を平ぐるの功を以て、爵を濟公に進む。其功、天下を濟へりと爲し、封するに嘉名を以てす、此郡國無きなり。

【二七】 酒泉、今の甘肅省安肅道酒泉縣に、舊、酒泉郡を置く。

【二八】 建節尉を置くこと、前卷前年に見ゆ。

【二九】 宇文孝寬は宇文干城の將。

【三〇】 奉信郎、謁者臺の屬官、從九品。

【三一】 洛都羅城門の正南を建國門と曰ふ。

【三二】 馮翊、郡、後魏、華州を置く。西魏改めて同州と曰ふ。帝改めて郡と爲す。

【三三】 洛口倉、大業二年置く。

【三四】 鞏縣は今の河南省河洛道鞏縣。

【三五】 梁郡、帝、宋州を改めて梁郡と爲す。

【三六】 六合縣は江都に屬す。舊、尉氏と曰ふ。開皇の初め、改めて六合縣と爲す。今の江蘇省金陵道六合縣。

【三七】 恆山、帝、恆州を改めて恆山郡と爲す。

【三八】 三年、榆林に幸すること、一百八十卷に見ゆ。

るなり。密・困乏し、樹皮を削りて之を食ふに至る。(二九)淮陽の村舎に匿れ、姓名を變じ、徒を聚めて教授す。郡縣疑うて之を捕ふ。密亡げ去る。其妹の夫、雍丘の令丘君明に抵る。君明、敢て舍せず。轉じて密を遊俠王秀才の家に寄す。秀才、女を以て之に妻す。君明の從姪懷義、其事を告ぐ。帝、懷義をして自ら勅書を齎し、梁郡通守楊汪と相知り、收捕せしむ。汪、兵を遣はして秀才の宅を圍む。適密が外に出づるに値る。是に由りて免るるを獲たり。君明・秀才、皆死す。(三〇)韋城の翟讓、東都の法曹たり。事に坐して斬に當す。獄吏黃君漢、其驍勇を奇とし、夜中潜に讓に謂つて曰はく、「翟法司、天時・人事、抑も亦知る可し。豈に能く死を獄中に守らんや」と。讓驚き喜びて曰はく、「讓は圜牢の豕なり。死生唯だ黃曹主の命する所のままなり」と。君漢即ち械を破りて之を出す。讓・再拜して曰はく、「讓、再生の恩を蒙るは則ち幸なり。黃曹主を奈何せん」と。因つて泣下る。君漢怒りて曰はく、「本、公を以て大丈夫にして生民の命を救ふ可しと爲す。故に其死を顧みずして、以て奉脱せり。奈何ぞ反つて兒女子に效うて、涕泣して相謝するか。君但だ努力して自ら免れよ。吾を憂ふる勿れ」と。讓遂に亡命し、(三一)瓦崗に於て羣盜を爲す。同郡の單雄信、驍健にして善く馬槊を用ふ。少年を聚め、往きて之に従ふ。(三二)離狐の徐世勣、(三三)衛南に家す。年十七、勇略有り。讓に説きて曰はく、「東郡は、

- 【二九】 淮陽。帝、陳州を改めて淮陽郡と爲す。
- 【三〇】 雍丘縣は梁郡に屬す。
- 【三一】 韋城縣は東郡に屬す、開皇六年置く。
- 【三二】 瓦崗。東都の界に在り。
- 【三三】 離狐。今の直隸省大名道東明縣の東南。
- 【三四】 衛南縣は今の河南省河北道滑縣の東六十里。

公と勣とに於て、皆、郷里と爲し、人多く相識る。宜しく侵掠すべからず。(三四)滎陽。梁郡は、(三五)汴水の經る所なり。行舟を剽し、商旅を掠めば、以て自ら資するに足らん」と。讓、之を然りとし、衆を引き二郡の界に入り、公私の船を掠む。資用豊給し、附く者益衆し。徒を聚むること萬餘人に至る。時に又、(三六)外黃の王當仁、濟陽の王伯當、韋城の周文舉、雍丘の李公逸等有り、皆、衆を擁し、盜を爲す。李密、雍丘より亡命し、諸帥の間に往來し、説くに天下を取るの策を以てす。始めは、皆、信せず。之を久しくして、稍以て然りと爲し、相謂つて曰はく、「斯人は公卿の子弟にして、志氣、是の若し。今人人皆云ふ、「楊氏將に滅びんとし、李氏將に興らんとす」と。吾聞く、「王者は死せず」と。斯人、再三、濟るを獲。豈に其人に非ずや」と。是に由りて漸く密を敬す。密、諸帥を察するに、唯だ翟讓最も彊し。乃ち王伯當に因りて以て讓を見、讓の爲めに策を畫し、往きて諸小盜を説き、皆、之を下す。讓悦び、稍く密を親近し、之と事を計る。密因つて讓に説きて曰はく、「劉項は、皆、布衣に起りて帝王と爲れり。今、主、上に昏く、民、下に怨み、銳兵、遼東に盡き、和親、突厥に絶ゆ。方に乃ち楊越に巡遊し、東都を委棄す。此れ亦た劉項が奮ひ起るの會なり。足下の雄才大略・士馬の精銳なるを以て、二京を席卷し、暴虐を誅滅せば、隋氏は亡ぼすに足らざるなり」と。讓・謝して曰はく、「吾が儕は羣盜にして、旦夕、

- 【三四】 滎陽。帝、鄭州を改めて滎陽郡と爲す。
- 【三五】 梁郡。宋州を改めて梁郡と爲す。
- 【三六】 汴水。滎陽の西南に出で、東南して梁郡の界に入る。
- 【三七】 外黃。濟陽の二縣、皆、今の河南省開封道に屬す。

生を草間に偷むのみ。君の言ふ者は、吾の及ぶ所に非ざるなり」と。會、李玄英といふ者有り、東都より逃れ來り、諸賊を経歴し、李密を求訪して云ふ、「斯人當に隋家に代るべし」と。人、其故を問ふ。玄英言ふ、「比來民間の謠歌に、桃李章有り、曰はく、「桃李子、皇后・楊州を繞り、花園裏に宛轉す。浪語する勿れ、誰か道はんや」と。桃李子とは、逃亡者李氏の子を謂ふなり。皇太后とは皆君なり。花園裏に宛轉すとは、天子、楊州に在り、還る日無く、將に溝壑に轉せんとするを謂ふなり。浪語する莫かれ、誰か道はんやとは密なり」と。既に密と遇ひ、遂に身を委ねて之に事ふ。前の宋城の尉齊郡の房玄藻、自ら其才を負み、時に用ひられざるを恨み、楊玄感の謀に預り、姓名を變じて亡命し、密に梁宋の間に遇ひ、遂に之と俱に漢沔に遊び、徧く諸賊に入り、其豪傑に説く。還る日、從者數百人。仍ほ遊客と爲り、讓の營に處る。讓、密が豪傑の歸する所と爲るを見、其計に従はんと欲すれども、猶豫して未だ決せず。賈雄といふ者有り、陰陽占候を曉り、讓の軍師と爲り、言、用ひられざる無し。密深く雄に結び、之をして術數に託して以て讓に説かしむ。雄・許諾す。之を懷へども未だ發せず。會、讓、雄を召し、告ぐるに密が言ふ所を以てし、其可否を問ふ。對へて曰はく、「吉、言ふ可からず」と。又曰はく、「公自ら立たば、恐らくは未だ必ずしも成らざらん。若し斯人を立てば、事、濟らざる無からん」と。讓曰はく、「卿の言の如くんば、蒲山公、當に自ら立つべし。何ぞ來りて我に従ふ」

【三九】 宋城縣は梁郡を帶ぶ。舊、睢陽と曰ふ、開皇十八年、名を更む。

と。對へて曰はく、「事、相因る有り。來る所以の者は、將軍の姓は翟にして、翟は澤なり。蒲は澤に非ざれば生せず。故に將軍を須つなり」と。讓、之を然りとし、密と情好日に篤し。密因つて讓に説きて曰はく、「今、四海、糜沸し、耕耘するを得ず。公、士衆、多しと雖も、食ふに倉廩無く、唯だ野掠に資り、常に給らざるに苦しむ。若し日を曠しくし久しきを持し、加ふるに大敵之に臨むを以てせば、必ず、渙然として離散せん。未だ若かず、先づ滎陽を取り、兵を休めて穀を館にし、士馬の肥充するを待ち、然る後人と利を争はんには」と。讓、之に従ふ。是に於て、金隄關を破り、滎陽の諸縣を攻め、多く之を下す。滎陽の太守郇王慶は、弘の子なり。討つ能はず。帝、張須陁を徙して滎陽の通守と爲し、以て之を討たしむ。庚戌、須陁、兵を引きて讓を撃つ。讓、數、須陁の敗る所と爲り、其の來るを聞きて大に懼れ、將に之を避けんとす。密曰はく、「須陁は勇なれども謀無し。兵又驕、勝つ。既に驕り且つ狠る。一戦して擒にす可きなり。公、但だ陳を列ねて以て待て。密、公の爲めに之を破るを保せん」と。讓、已むを得ず、兵を勸して將に戦はんとす。密、兵千餘人を分ち、大海寺の北の林間に伏す。須陁素より讓を輕んじ、方に陳して前む。讓與に戦ひ、利あらず。須陁、之に乗じ、北ぐるを逐ふこと十餘里。密、伏を發して之を掩ふ。須陁の兵敗る。密、讓及び徐世勣・王伯當と、軍を合はせて之を圍む。須

【四〇】 糜は粥なり。粥の沸くが如きを言ふ。
 【四一】 渙然。離れ散るる貌。
 【四二】 金隄關。當に滎陽の界に在るべし。漢の金隄を以て之に名づく。
 【四三】 弘。高祖の從祖弟なり。河間王に封ぜらる。

隋、圍を潰して出づ。左右、盡く出づる能はず。須陁、馬を躍らし、復た入りて之を救ふ。來往すること數四、遂に戦死す。【四】所部の兵、晝夜號哭し、數日、止まず。河南の郡縣、之が爲めに氣を喪ふ。鷹揚郎將河東の賈務本、須陁の副と爲り、亦、傷つけられ、餘衆五千餘人を帥ゐて、梁郡に奔る。務本尋ぎて卒す。詔して、光祿大夫裴仁基を以て河南道討捕大使と爲し、代りて其衆を領せしむ。徒りて【五】虎牢に鎮す。讓乃ち密をして牙を建て別に所部を統べしめ、蒲山

公の營と號す。密、部分嚴整にして、凡そ士卒に號令するに、盛夏と雖も、皆、背に霜雪を負ふが如し。躬、儉素を服ひ、得る所の金寶、悉く麾下に頒賜す。是に由りて、人、之が用を爲す。麾下の士卒、多く讓の士卒の陵辱する所と爲る。威約・素有るを以て、敢て報いざるなり。讓、密に謂つて曰はく、『今資糧粗ぼ足る。意、還りて瓦崗に向はんと欲す。公若し往かず

んば、唯だ公の適する所のままなり。讓、此より別れんと。讓、輜重を帥ゐて東に引く。密も亦西に行く。康城に至り、説きて數城を下し、大に資儲を獲たり。讓尋ぎて悔い、復た兵を引き密に従ふ。【四】郡陽の賊帥操師乞、自ら元興王と稱し、始興と建元す。攻めて豫章郡を陷る。其郷人林士弘を以て大將軍と爲す。治書侍御史劉子翊に詔し、兵を將ゐて之を討たしむ。師乞、流矢に中りて死す。士弘代りて其衆を統べ、子翊と彭蠡湖に戦ふ。子翊敗れ死す。士弘の兵大に振ひ、十餘萬人に至

【四】張須陁、士卒の心を得たり。
 【五】虎牢。即ち滎陽郡汜水縣。
 【六】郡陽。帝、饒州を改めて郡陽郡と爲す。
 【七】豫章郡。帝、洪州を改めて豫章郡と爲す。

る。十二月壬辰、士弘自ら皇帝と稱し、國を楚と號し、太平と建元す。遂に【四】九江、【五】臨川、【六】南康、【七】宜春等の郡を取る。豪傑争うて隋の守令を殺し、郡縣を以て之に應ず。其地、北は九江より、南は【八】番禺に及ぶまで、皆、所有と爲る。詔して、右驍衛將軍唐公李淵を以て【九】太原の留守と爲し、【十】虎賁郎將王威・虎牙郎將高君雅を以て之が副と爲し、兵を將ゐて甄翟兒を討たしむ。翟兒と、雀鼠谷に遇ふ。淵の衆纒に數千。賊、淵を圍むこと數匝。李世民、精兵を將ゐて之を救ひ、淵を萬衆の中に抜く。會、歩兵に至る。合撃して大に之を破る。

【四】九江。帝、江州を改めて九江郡と爲す。
 【五】臨川。撫州を改めて臨川郡と爲す。
 【六】南康。虔州を南康郡と爲す。
 【七】宜春。袁州を宜春郡と爲す。
 【八】番禺。南海郡は番禺に治す。隋并せて南海縣と爲す。
 【九】太原。帝、并州を改めて太原郡と爲す。
 【十】帝、官制を改定し、十二衛府、衛毎に護軍四人を置き、將軍に副貳するを掌る。尋ぎて護軍を改めて虎賁郎將と爲す、正四品。而して虎牙郎將六人を置き、これに副とす、從四品。
 【十一】雀鼠谷。今の山西省襄寧道孝義縣に在り。
 【十二】虎賁中郎將。當に虎賁郎將に作るべし。隋の官制には虎賁中郎將無く、且つ王辯傳には、辯、鷹揚郎將より、虎賁郎將に遷る」とあり。
 【十三】蒲城縣は今の陝西省關中道蒲城縣。

帝、骨肉を疎薄す。蔡王智積、毎に自ら安んぜず。病むに及びて醫を呼ばず。終りに臨みて、所親に謂つて曰はく、『吾、今日、始めて首領を保ちて地に没するを得るを知る』と。張金稱・郝孝德・孫宜雅・高士達・楊公卿等、河北を寇掠し、郡縣を屠陷す。隋の將帥敗亡する者相繼ぐ。唯だ【十四】虎賁中郎將【十五】蒲城の王辯・清河の郡丞華陰の楊善會のみ、數功有り。善會、前後、

賊と七百餘戰し、未だ嘗て負敗せず。帝、太僕卿楊義臣を遣はし、張金稱を討たしむ。金稱、平恩の東北に營す。義臣、兵を引きて直に臨清の西に抵り、永濟渠に據りて營を爲る。金稱の營を去ること四十里。溝を深くし壘を高くし、與に戰はず。金稱、日に兵を引き、義臣の營の西に至る。義臣、兵を勒し甲を擐し、之と戰ふを約す。既にして出でず。日暮る。金稱、營に還り、明旦復た來る。是の如くすること月餘。義臣竟に出でず。金稱、以て怯と爲し、屢其營に逼りて之を冒辱す。義臣、乃ち金稱に謂つて曰はく、『汝明旦來れ。我當に必ず戰ふべし』と。金稱、之を易り、復た備を設けず。義臣、精騎二千を簡び、夜館陶より河を濟り、金稱が營を離るるを伺ひ、即ち入りて其累重を撃つ。金稱、之を聞き、兵を引きて還る。義臣、後より之を撃つ。金稱、大に敗れ、左右と、清河の東に逃る。月餘にして、楊善會、討ちて之を擒にす。吏、木を市に立て、其頭を懸け、其手足を張り、仇家をして之を割き食はしむ。未だ死せざる間、歌謳すること輟まず。詔して、善會を以て清河の通守と爲す。

【五八】 平恩縣は武安郡に屬す。
 【五九】 臨清縣は清河郡に屬す。
 【六〇】 館陶縣は武陽郡に屬す。
 【六一】 河。清河をいふ。

涿郡の通守郭絢、兵萬餘人を將ゐて、高士達を討つ。士達、自ら才略・竇建德に及ばずと以ひ、乃ち建德を進めて軍司馬と爲し、悉く兵を以て之に授く。建德、士達に請うて輜重を守らしめ、自ら精兵七千人を簡び、絢を拒ぐ。詐りて士達と隙有りて叛ける爲し、人を遣はして降を絢に請ひ、『願はくは

前驅と爲り、士達を撃ち、以て自ら効さん』と。絢、之を信じ、兵を引きて建德に隨うて、長河に至り、復た備を設けず。建德、之を襲ひ、數千人を殺虜し、絢の首を斬り、士達に獻す。張金稱の餘衆、皆、建德に歸す。楊義臣、勝に乗じて平原に至り、高雞泊に入りて之を討たんと欲す。建德、士達に謂つて曰はく、『隋の將を歴觀するに、善く兵を用ふる者は、義臣に如くは無し。今、張金稱を滅ばして來る。其鋒、當る可からず。請ふ兵を引きて之を避け、其をして戰はんと欲するも得ず、坐ながら歲月を費さしめ、將士疲倦し、然る後間に乘じて之を撃たん。乃ち破る可からん。然らずんば、恐らくは公の敵に非ざらん』と。士達、從はず。建德を留めて營を守らしめ、自ら精兵を帥ゐて、義臣を逆へ撃つ。戰小しく勝つ。因つて酒を縱にして高宴す。建德、之を聞きて曰はく、『東海公、未だ敵を破る能はざるに、遽に自ら矜大なり。禍の至らんこと久しからず』と。後五日、義臣、大に士達を破り、陳に於て之を斬り、勝に乗じ北ぐるを逐ひ、其營に趣く。營中の守兵皆潰ゆ。建德、百餘騎と與に亡げ去り、饒陽に至り、其の備無きに乗じ、攻めて之を陥れ、兵を收めて三千餘人を得。義臣、既に士達を殺し、建德は憂ふるに足らずと以爲ひ、引き去る。建德、平原に還り、士達の散兵を收め、死者を收葬し、士達の爲めに喪を發す。軍復た大に振ふ。自ら將軍と稱す。是より先、羣盜、隋の官及び士族の子弟を得れば、皆、之を殺す。獨り建德、善く之を遇す。是に由りて、隋の

【六二】 長河縣は平原郡に屬す。
 【六三】 饒陽縣は河間郡に屬す。
 今の直隸省保定道饒陽縣。

官、稍く城を以て之に降る。聲勢日に盛に、勝兵、十餘萬人に至る。

内史侍郎虞世基、帝が賊盜を聞くを惡むを以て、諸將及び郡縣、敗を告げ救を求むる者有るも、世基、皆、表状を抑損し、實を以て聞せず。但だ云ふ、「鼠竊狗盜、郡縣捕逐す。行くゆく當に殄盡すべし。願はくは陛下、以て(五)懷に介する勿れ」と。帝良に以て然りと爲し、或は其使者を杖ち、以て妄言と爲す。是に由りて、盜賊、海内に徧く、郡縣を陷没すれども、帝、皆、之を知らざるなり。楊義臣、(六)河北の賊數十萬を破り降し、狀を列ねて上聞す。帝、歎じて曰はく、「我、初め賊の頓に此の如きを聞かず。義臣が賊を降すこと、何ぞ多きや」と。世基對へて曰はく、「小竊、多しと雖も、未だ慮、と爲すに足らず。義臣、之に克ち、兵を擁すること少からず、久しく(七)閩外に在り。此れ最も宜に非ず」と。帝曰はく、「卿が言、是なり」と。

遽に義臣を追ひ、其兵を放散す。賊、是に由りて復た盛なり。治書侍御史韋雲起、世基及び御史大夫裴蘊を劾奏す、「職、樞要を典り、内外を維持し、四方、變を告ぐれども、爲めに奏聞せず。賊數、實に多きに、裁減して「少し」と言ふ。陛下既に賊少しと聞き、兵を發すること多からず。衆寡懸殊し、往きて皆克たす。故に官軍をして利を失ひ、賊黨をして日に滋からしむ。請ふ有司に付し、其罪を(八)結正せん」と。大理卿鄭善果、雲起を奏す、「名臣を詆訾し、言ふ所實ならず、朝政を非毀し、妄

に威權を作す」と。是に由りて、雲起を左遷して(九)大理司直と爲す。帝、江都に至る。江淮の郡官の謁見する者、専ら禮餉の豐薄を問ふ。豐なれば則ち丞守に超遷し、薄なれば則ち率ね停解に従ふ。江都の郡丞王世充、銅鏡・屏風を獻じ、通守に遷る。(一〇)歷陽の郡丞趙元楷、異味を獻じ、(一一)江都の郡丞に遷る。是に由りて、郡縣競うて刻剝を務め、以て貢獻に充つ。民、外は盜賊の掠むる所と爲り、内は郡縣の賦する所と爲り、生計、遺る無く、之に加ふるに(一二)飢饉にして食無し。民始め樹の皮葉を采り、或は藁を擣きて末と爲し、或は土を煮て之を食ふ。諸物皆盡き、乃ち自ら相食む。而るに官食猶ほ充物す。吏、皆、法を畏れ、敢て振救するもの莫し。王世充、密に帝の爲めに江淮の民間の美女を簡閱して之を獻す。是に由りて益々寵有り。

(一三)河間の賊帥格謙、衆十餘萬を擁し、豆子航に據り、自ら燕王と稱す。帝、王世充に命じ、兵を將ゐて討たしめ、之を斬る。謙の將、勃海の高開道、其餘衆を收め、燕の地を寇掠す。軍勢復た振ふ。

初め帝、高麗を伐たんと謀り、器械資儲、皆、涿郡に積む。涿郡は人物殷阜にして、屯兵數萬あり。又、臨朔宮は珍寶多し。諸賊競ひ來りて侵掠す。留守官虎賁郎將趙仕住等、拒ぐ能はず。唯だ虎賁

- 【六】 降る所の者は張金稱・高士達の衆なり。
- 【七】 閩外に在り。出征軍の將たるをいふ。
- 【八】 結。新舊唐書韋雲起傳には詰に作る。
- 【九】 大理司直。官名、大理寺に屬す、五品に視ふ。
- 【一〇】 歷陽。帝、和州を改めて歷陽郡と爲す。
- 【一一】 小郡の丞より大郡の丞に遷るなり。
- 【一二】 穀無きを飢と曰ひ、蔬果無きを饑と曰ふ。
- 【一三】 河間。帝、瀛州を改めて河間郡と爲す。
- 【一四】 勃海。帝、滄州を改めて勃海郡と爲す。

郎將(五)雲陽の羅藝、獨り出で戦ひ、前後、賊を破ること甚だ衆く、威名日に重し。什住等陰に之を忌む。藝將に亂を作さんとし、先づ宣言し、以て其衆を激して曰はく、「吾が輩、賊を討ち、數功有り。城中の倉庫山積し、制、留守の官に在り。而るに肯て散施して以て貧乏を濟ふこと莫し。將た何を以てか將士を勸めん」と。衆皆憤怨す。軍還るや、郡丞、城を出でて藝を候す。藝因つて之を執へ、兵を陳して入る。什住等懼れ、皆來りて命を聽く。乃ち庫物を發し、以て戰士に賜ひ、倉廩を開き、以て貧乏を賑す。境内咸服す。己に同せざる者勃海の太守唐禕等數人を殺す。威、燕の地に振ふ。(七五)柳城・懷遠、竝に之に歸す。藝、柳城の太守楊林甫を黜け、郡を改めて營州と爲す。襄平の太守鄧嵩を以て總管と爲し、藝自ら幽州總管と稱す。

突厥數、北邊に寇す。(七六)晉陽の留守李淵に詔し、太原道の兵を帥る、馬邑の太守王仁恭と與に、之を撃たしむ。時に突厥方に彊く、兩軍の衆、五千に満たず。仁恭、之を患ふ。淵、善く騎射する者二千人を選び、之をして飲食舍止すること一に突厥の如くならしめ、或は突厥と遇へば、則ち便を伺うて之を撃たしむ。(七七)前後屢捷つ。突厥頗る之を憚る。

- 【七四】雲陽縣は京兆郡に屬す。
- 【七五】柳城縣は遼西郡を帶ぶ。襄平郡と、蓋し皆帝の置く所なり。郡を改めて州と爲すは、開皇の舊に復するを示すなり。
- 【七六】晉陽の留守。即ち太原の留守なり。太原に晉陽宮有り。
- 【七七】馬邑。帝、朔州を改めて馬邑郡と爲す。
- 【七八】前後屢、小捷を得るなり。
- 【七九】頗る憚るとは、未だ深く憚らざるなり。

恭皇帝上

(三)義寧元年、春正月、右禦衛將軍陳稜、杜伏威を討つ。伏威、衆を帥るて之を拒ぐ。稜、壁を閉ぢて・戦はず。伏威遺るに婦人の服を以てし、之を陳姥と謂ふ。稜怒りて出で戦ふ。伏威奮撃して大に之を破る。稜僅に身を以て免る。伏威、勝に乗じて、高郵を破り、兵を引きて歷陽に據り、自ら總管と稱し、輔公祐を以て長史と爲し、諸將を分遣して屬縣を絢へしむ。至る所輒ち下る。江淮の間の小盜争うて之に附く。伏威常に敢死の士五千人を選び、之を上募と謂ひ、寵遇甚だ厚し。攻戦する有れば、輒ち上募をして先づ之を撃たしむ。戦罷れば、闕視し、傷の背に在る者有れば、即ち之を殺す。其の退きて撃たれしを以ての故なり。獲る所の資財は、皆以て軍士を賞し、戦死する者有れば、妻妾を以て殉葬せしむ。故に人自ら戦を爲し、向ふ所敵無し。丙辰、竇建德、壇を樂壽に爲り、自ら長樂王と稱し、百官を置き、丁丑と改元す。

辛巳、魯郡の賊徐圓朗、東平を攻め陥れ、兵を分ちて地を略し、琅邪より以西北、東平に至るま

- 【一】恭帝。諱は侑、代王に封ぜらる。元德太子昭の子、煬帝の孫なり。
- 【二】義寧元年。是年十一月、李淵、長安に克ち、方めて代王を奉じて位に即かしめ、改元す。西紀六一七年。
- 【三】高郵縣は江都郡に屬す。今の江蘇省淮揚道高郵縣。
- 【四】樂壽縣は河間郡に屬す。古の樂城縣、仁壽の初め名を更む。今の直隸省津海道獻縣の東南。
- 【五】煬帝、兗州を改めて魯郡と爲し、鄆州を改めて東平郡と爲し、沂州を琅邪郡と爲す。

で、盡く之を有つ。勝兵二萬餘人。

盧明月、河南を轉掠して、淮北に至る。衆、四十萬と號し、自ら無上王と稱す。帝、江都の通守王世充に命じ、之を討たしむ。世充、與に南陽に戦ひ、大に之を破り、明月を斬る。餘衆皆散す。

二月壬午、朔方の鷹揚郎將梁師都、郡丞唐世宗を殺し、郡に據り、自ら大丞相と稱し、北のた突厥に連なる。

馬邑の太守王仁恭、多く貨賂を受け、振施する能はず。郡人劉武周、

驍勇にして任俠を喜み、鷹揚府校尉と爲る。仁恭、其の土豪なるを以て、甚だ之を親厚し、親兵を帥ゐて閣下に屯せしむ。武周、仁恭の侍兒と私通

し、事の泄れんことを恐れ、亂を作さんと謀り、先づ宣言して曰はく、『今百姓饑饉し、僵尸、道に滿つ。王府君、倉を閉ぢ、賑卹せず。豈に民の父母と爲るの意ならんや』と。衆皆憤怒す。武周、疾と稱して家に臥す。豪

傑來りて候問すれば、武周、牛を椎して酒を縦にし、因つて大言して曰はく、『壯士豈に能く坐ながら溝壑を待たんや。今、倉粟爛積す。誰か能く我と共に之を取らん』と。豪傑皆許諾す。己丑、仁恭、

聽事に坐す。武周、謁を上る。其黨張萬歲等、隨つて入りて階に升り、仁恭を斬り、其首を持して出で徇ふ。郡中、敢て動く者無し。是に於て、倉を開きて以て饑民を賑はす。檄を境内の屬域に馳せ、

【六】 南陽。郡、舊、荊州を置く、開皇の初め、鄧州と改む。

【七】 朔方。帝、夏州を改めて朔方郡と爲す。

【八】 馬邑。煬帝、朔州を改めて馬邑郡と爲す。

【九】 煬帝、大都督を改めて校尉と爲す。

皆之を下す。兵を收めて萬餘人を得。武周、自ら太守と稱し、使を遣はして突厥に附く。

李密、翟讓に説きて曰はく、『今、東都空虚にして、兵、素練ならず。越王は冲幼にして、留守の

諸官、政令、壹ならず、士民、心を離す。段達、元文都は、闇にして謀無し。僕を以て之を料るに、彼は將軍の敵に非ず。若し將軍能く僕の計を用ひば、天下、指麾して定む可からん』と。乃ち其黨

裴叔方を遣はし、東都の虚實を覘はしむ。留守の官司、之を覺り、始めて守禦の備を爲し、且つ表を馳せて江都に告ぐ。密、讓に謂つて曰はく、『事勢、此の如し。發せざる可からず。兵法に曰はく、『先

んずれば則ち己に制せられ、後るれば則ち人に制せらる』と。今、百姓

饑饉し、洛口倉に積粟多く、都を去ること百里有餘。將軍若し親ら大衆を帥ゐ、輕行して掩襲せば、彼遠くして未だ救ふ能はず。又、先づ豫備無し。之を取ること遺ちたるを

拾ふが如くならんのみ。其の聞知する比はひ、吾己に之を獲ん。粟を發して以て窮乏を賑はさば、遠近孰か歸附せざらん。百萬の衆、一朝にして集む可からん。威に枕り銳を養ひ、逸を以て勞を待た

ば、縦ひ彼能く來るとも、吾、備有り。然る後四方を檄召し、賢豪を引きて計策を資け、驍悍を選びて兵柄を授け、亡隋の社稷を除き、將軍の政令を布かば、豈に盛ならずや』と。讓曰はく、『此れ

英雄の略なり。僕の堪ふる所に非ず。惟だ君の命は、力を盡して事に従はん。請ふ君先づ發せよ。僕、後殿を爲さん』と。庚寅、密、讓、精兵七千人を將ゐて、陽城に出で、北して方山を踰え、

【一〇】 陽城縣は河南郡に屬す。

【一一】 陸渾縣に方山有り。

(三) 羅口より、(三) 興洛倉を襲うて之を破り、倉を開き、民の取る所を恣にす。老弱襁負して、道路相屬く。朝散大夫時德叙、(四) 尉氏を以て密に應ず。前の(三) 宿城の令祖君彦、(五) 昌平より、往きて之に歸す。君彦は瑳の子なり。博學強記、文辭瞻敏にして、名を海内に著はす。吏部侍郎薛道衡、嘗て之を高祖に薦む。高祖曰はく、『是れ(七) 斛律明月を歌殺せる人の兒か。朕、此輩を須ひず』と。煬帝、位に即き、尤も其名を疾む。常調に依り、東平の(二) 書佐に選ばれ、宿城の令を(二) 檢校す。君彦、自ら其才を負み、常に鬱鬱として亂を思ふ。密素より其名を聞き、之を得て大に喜び、引きて上客と爲し、軍中の書檄、一に以て之に委ぬ。越王侗、虎賁郎將劉長恭、光祿少卿房則を遣はし、步騎二萬五千を帥ゐて密を討たしむ。時に東都の人、皆密を以て『饑賊、米を盗み、烏合にして破り易し』と爲し、争ひ來りて募に應ず。(三) 國子三館學士及び貴勝親戚、皆來りて軍に従ふ。器械修整し、衣服鮮華に、旌旗鉦鼓甚だ盛なり。長恭等、其前に當り、河南討捕大使裴仁基等をして、所部の兵を將ゐて、汜水より西に入り、以て其後を掩はしめ、十一日に倉城に會せんことを約す。密、具に其計を知る。東都の兵先づ至り、士卒未だ

【三】 鞏縣に長羅川有り、羅口は蓋し長羅川の口ならん。
 【四】 興洛倉。鞏縣に在り。
 【五】 尉氏縣は潁川郡に屬す。今の河南省開封道尉氏縣。
 【六】 昌平縣は涿郡に屬す。今の山東省東臨道昌平縣。
 【七】 斛律光を歌殺すること、一百七十一卷陳の高宗太建四年に見ゆ。
 【八】 書佐。州郡に、皆、書佐有り。祭酒從事の上に在り、正九品に視ふ、之を流内視品と謂ふ。
 【九】 檢校。官、未だ眞と爲るを得ざるなり。
 【一〇】 三館。隋、國子・太學・四門を以て三館と爲す。

朝食せず。長恭等、之を驅りて洛水を度り、(三) 石子河の西に陳す。南北十餘里。密、驍雄を選び、分ちて十隊と爲し、四隊をして横嶺の下に伏し、以て仁基を待たしめ、六隊を以て石子河の東に陳す。長恭等、密の兵少きを見て之を輕んず。讓先づ接戰し、利あらず。密、麾下を帥ゐて横さまに之を衝く。隋の兵饑乏疲れ、遂に大に敗る。長恭等、衣を解き潛に竄れ、免るるを得、奔りて東都に還る。士卒死する者什に五六。越王侗、長恭等の罪を釋し、之を慰撫す。密、盡く其輜重器甲を收む。威聲大に振ふ。讓、是に於て、密を推して主と爲し、密に號を上りて魏公と爲す。庚子、壇場を設けて位に即き、元年と稱す。大赦す。其文書の行下するには、行軍元帥府と稱す。其魏公府には、三司・六衛を置き、元帥府には、長史以下の官屬を置く。翟讓を拜して上柱國・司徒・東郡公と爲す。亦、長史以下の官置き、元帥府の半を減す。單雄信を以て左武侯大將軍と爲し、徐世勣を右武侯大將軍と爲し、各、所部を領せしめ、房彥藻を元帥の左長史と爲し、東郡の邴元眞を右長史と爲し、楊德方を左司馬と爲し、鄭德韜を右司馬と爲し、祖君彦を記室と爲す。其餘の封拜各、差有り。是に於て、趙魏以南、江淮以北、羣盜、響應せざるもの莫し。孟讓、郝孝德、王德仁及び濟陰の房獻伯・上谷の王君廓、(三) 長平の李士才、淮陽の魏六兒、李德謙、

【一】 石子河。水經注に、洞水は南溪の石泉に出づ。世亦之を名づけて石泉水と爲す。鞏東の坎歌聚の西を過ぎて北して洛に入ると。蓋し即ち石子河なり。
 【二】 長平郡は、舊、建州と曰ふ。開皇の初め、改めて澤州と爲す。煬帝改めて郡と爲す。
 【三】 譙郡。後魏、南兗州を置く。後周、亳州と改む。煬帝改めて郡と爲す。

李文相・譙郡の 黑社・白社・濟北の張青特・上洛の周比・洮胡驢賊等、官爵に拜し、各、其衆を領せしめ、百營簿を置き、以て之を領す。道路降る者絶えざること流るるが如く、衆、數十萬に至る。乃ち其護軍田茂に命じて、廣く洛口城を廣め築かしむ。方四十里。而して之に居る。密、房彦藻を遣はし、兵を將ゐて、東して地を略せしめ、安陸・汝南・淮南・濟陽を取る。河南の郡縣、多く密に陥れらる。

鷹門郡丞河東の陳孝意、虎賁郎將王智辯と、共に劉武周を討ち、其桑乾鎮を圍む。壬寅、武周、突厥と兵を合はせ、智辯を撃ちて之を殺す。孝意奔りて鷹門に還る。三月丁卯、武周、襲うて樓煩郡を破り、進みて汾陽宮を取り、隋の宮人を獲、以て突厥の始畢可汗に賂ふ。始畢、馬を以て之に報ゆ。兵勢益々振ふ。又攻めて定襄を陥る。突厥、武周を立てて定楊可汗と爲し、遺るに狼頭驢を以てす。武周、皇帝の位に即き、妻沮氏を立てて皇后と爲し、天興と改元す。衛士楊伏念を以て尙書左僕射と爲し、妹婿同縣の苑君璋を内史令と爲す。武周、兵を引きて鷹門を圍む。陳孝意、力を悉して拒ぎ守り、間に乘じて出でて武周を撃ち、屢、之を破

皆、密に歸す。密悉く

【二四】 黑社・白社。蓋し賊の號なり。

【二五】 濟北。濟州を改めて濟北郡と爲す。

【二六】 上洛。商州を上洛郡と爲す。

【二七】 安陸。煬帝、安州を改めて安陸郡と爲す。

【二八】 汝南。郡、後魏、豫州を置く。帝、洛州を改めて豫州と爲し、此を以て濠州と爲す。

【二九】 又改めて蔡州と曰ふ。尋ぎて改めて郡と爲す。

【三〇】 淮安。郡、後魏、東荊州を置く。西魏改めて淮州と爲す。開皇五年、又改めて顯州と爲す。煬帝改めて郡と爲す。

【三一】 濟陽。縣、濟陰郡に屬す。今の山東省濟寧道曹縣の西南五十里に在り。

【三二】 桑乾。今の山西省雁門道

る。既にして外、救援無く、間使を遣はして江都に詣らしむれども、皆、報せず。孝意、誓ふに必死を以てし、旦暮、詔敕庫に向つて、俯伏して流涕し、左右を悲動す。城を圍むこと百餘日、食盡く。校尉張倫、孝意を殺して以て降る。

梁師都、(三三) 雕陰・弘化・延安等の郡を略定し、遂に皇帝の位に即く。

國を梁と號し、永隆と改元す。始畢遺るに狼頭驢を以てし、號して大度毗伽可汗と爲す。師都乃ち突厥を引きて河南の地に居らしめ、攻めて鹽川郡を破る。

左翊衛蒲城の(三四) 郭子和、事に坐して榆林に徙さる。會、郡中大に饑う。

子和潛に敢死の士十八人を結び、郡門を攻め、郡丞王才を執へ、數むるに百姓を恤まざるを以てし、之を斬り、倉を開きて賑施し、自ら永樂王と稱し、(三五) 丑平と改元す。其父を尊びて太公と爲し、其弟子政を以て尙書令

と爲し、子端・子升を左右の僕射と爲す。二千餘騎有り。南は梁師都に連なり、北は突厥に附き、各、子を遣はして質と爲し、以て自ら固む。始畢、劉武周を以て定楊天子と爲し、梁師都を解事天子と爲し、子和を(三六) 平楊天子と爲す。子和・固辭し、

朔縣の界に在り。

【三三】 定襄。煬帝、雲州を改めて定襄郡と爲す。

【三四】 將に之をして揚州を定めしめんとする也。

【三五】 狼頭驢。突厥、本、狼種、牙門狼頭驢を建つ。本を忘れざるを示すなり。

【三六】 雕陰。郡、西魏、綏州を置く。大業の初め、上郡と爲し、尋ぎて改めて雕陰郡と爲す。

【三七】 弘化。慶州を改めて弘化郡と爲す。

【三八】 鹽川郡。西魏、西安州を置く。後改めて鹽州と爲す。煬帝、改めて郡と爲す。

【三九】 郭子和。蓋し左翊衛府に屬する衛士なり。

【四〇】 丑平。舊唐書梁師都傳には正平に作る。

【四一】 平楊。猶ほ定楊のことし。

敢て當らず。乃ち更めて以て屋利設と爲す。

汾陰の薛舉、金城に僑居し、驍勇絶倫にして、家貲鉅萬、豪傑に交結し、西邊に雄たり、金城府

の校尉と爲る。時に隴右、盜起る。金城の令郝瑗、兵を募りて數千人を

得、舉をして將として之を討たしむ。夏四月癸未、方に甲を授け、置酒し

て土を覆す。舉、其子仁果及び同黨十三人と與に、坐に於て瑗を劫して兵

を發し、郡縣の官を囚へ、倉を開きて賑施し、自ら西秦の霸王と稱し、秦興

と改元し、仁果を以て齊公と爲し、少子仁越を晉公と爲し、羣盜を招集し、

官の牧馬を掠む。賊帥宗羅暎、衆を帥りて之に歸す。以て義興公と爲す。

將軍皇甫緒、兵一萬を將りて、枹罕に屯す。舉、精銳二千人を選びて之

を襲ふ。(遂ニ枹罕) 岷山の羌會鍾利俗、衆二萬を擁して之に歸す。舉の

兵大に振ふ。更めて仁果を以て齊王と爲し、東道行軍元帥を領せしめ、仁

越を晉王と爲し、河州の刺史を兼ねしめ、羅暎を興王と爲し、以て仁果

に副とし、兵を分ちて地を略せしめ、西平、澆河の二郡を取る。未だ

幾くならずして、盡く隴西の地を有ち、衆、十三萬に至る。

李密、孟讓を以て總管・齊郡公と爲す。己丑夜、讓、步騎二千を帥りて、東都の

【四】 汾陰。縣、河東郡に屬す、煬帝、蘭州を改めて金城郡の僑寓と爲す。

【四二】 金城縣は郡を帶ぶ。

【四三】 枹罕。煬帝、河州を改めて枹罕郡と爲す。

【四四】 岷山。今の甘肅省蘭山道岷縣に岷山有り。

【四五】 復た枹罕を以て河州と爲す。

【四六】 西平。煬帝、鄯州を改めて西平郡と爲す。

【四七】 澆河。周の武帝、吐谷渾を逐うて廓州を置く。煬帝改めて澆河郡と爲す。

【四八】 外郭。羅郭なり。

都の市を燒掠し、曉に比びて去る。是に於て、東京の居民、悉く遷りて宮城に入り、臺省府寺皆滿つ。

鞏縣の長柴孝和・監察御史鄭頊、城を以て密に降る。密、孝和を以て護軍と爲し、頊を右長史と爲す。

裴仁基、賊を破りて軍資を得る毎に、悉く以て士卒を賞せんとす。監軍御史蕭懷靜、許さず。士卒、

之を怨む。懷靜、又、屢、仁基の長短を求め、之を劾奏す。倉城の戰に、仁基、期を失ひて、至らず。

劉長恭等敗れぬと聞き、懼れて、敢て進まず。(四九) 百花谷に屯し、壘を固

くして自ら守り、又、罪を朝に獲んことを恐る。李密、其の狼狽せるを知

り、人をして之に説かしめ、略はすに厚利を以てす。(五〇) 賈務本の子閏甫、

軍中に在り、仁基に、密に降らんことを勸む。仁基曰はく、「蕭御史を如何せ

ん」と。閏甫曰はく、「蕭君は樓上の雞の如し。若し機變を知らずんば、

明公の一刀に在るのみ」と。仁基、之に従ひ、閏甫を遣はし、密に詣りて

降らんと請ふ。密、大に喜び、閏甫を以て元帥府の司兵參軍と爲し、直記室事を兼ねしめ、之をして

復命せしめ、仁基に書を遣り、之を慰納す。仁基還りて虎牢に屯す。蕭懷靜、密に其事を表す。仁基、

之を知り、遂に懷靜を殺し、其衆を帥る、虎牢を以て密に降る。密、仁基を以て上柱國・河東公と爲

す。仁基の子儼、驍勇にして善く戰ふ。密、亦、以て上柱國・絳郡公と爲す。密、秦叔寶及び(五一) 東阿

の程儼金を得、皆用て、驃騎と爲し、軍中の尤も驍勇なる者八千人を選び、分ちて四驃騎に隸し、

【四九】 百花谷。蓋し汜水縣の西、鞏縣の東南に在り。

【五〇】 賈務本。上の滎陽の戰に見ゆ。

【五一】 東阿縣は濟北郡に屬す。

【五二】 驃騎。開皇の官制なり。煬帝改めて鷹揚郎將と爲す。

以て自ら衛る。號して内軍と曰ふ。常に曰はく、「此八千人は、百萬に當るに足る」と。敵金、後、名を知節と更む。羅士信・趙仁基、皆、衆を帥ゐて密に歸す。密、署して總管と爲し、各をして所部を統べしむ。癸巳、密、裴仁基・孟讓を遣はし、二萬餘人を帥ゐて、回洛の東倉を襲はしめ、之を破る。遂に天津橋を燒き、兵を縱ちて大に掠む。東都、兵を出して之を撃つ。仁基等敗れ走る。密自ら衆を帥ゐて回洛倉に屯す。東都の兵、尙ほ二十餘萬人あり、城に乘り柝を撃ち、晝夜、甲を解かず。密、偃師・金墉を攻め、皆、克たず。乙未、洛口に還る。東都の城内、糧乏しく、而して布帛山積す。絹を以て汲綆と爲し、布を然して以て繫ぐに至る。越王侗、人をして回洛倉の米を運びて城に入れしめ、兵五千を遣はして豊都の市に屯し、五千は上春門に屯し、五千は北邙山に屯せしめ、九營と爲し、首尾相應じ、以て密に備ふ。丁酉、房獻伯、汝陰を陷る。淮陽の太守趙陁、郡を擧げて密に降る。己亥、密、衆三萬を帥ゐて、復た回洛倉に據り、大に營壘を修め、以て東都に逼る。段達等、兵七萬を出して之を拒ぐ。辛丑、倉北に戰ふ。隋の兵敗れ走る。丁未、密、其幕府をして檄を郡縣に移せしめ、煬帝の十罪を數へ、且つ曰はく、「南山の竹を罄

【五三】新唐志に、孟州河陽に回洛の故城あり。是地、名を得るの由は、一百五十八卷梁の武帝大同九年に見ゆ。

【五四】天津橋。煬帝、宇文愷をして東都を營造せしむ。洛水、都を貫き、河漢の象有り。因つて其橋を名づけて天津橋と爲す。

【五五】偃師縣は河南郡に屬す、都城の東六十里に在り。

【五六】金墉。晉の金墉城は洛城の西北に在り。隋、東都城を營み、東、故都を去ること十八里、則ち金墉も亦都城の東に在り。

【五七】汲綆。つるべなば。

【五八】汝陰。煬帝、潁州を改めて汝陰郡と爲す。

して、罪を書すとも窮り無く、東海の波を決して、惡を流すとも盡き難し」と。祖君彦の辭なり。越王侗、太常丞元善達を遣はし、賊中を間行し、江都に詣り、奏して稱す、「李密、衆百萬有り、東都を圍逼し、洛口倉に據り、城内、食無し。若し陛下速かに還らば、烏合必ず散せん。然らずば、東都決没せん」と。因つて獻歎嗚咽す。帝、之が爲めに容を改む。虞世基進みて曰はく、「越王年少く、此輩、之を誑く。若し言ふ所の如くば、善達何に縁りてか來り至らん」と。帝乃ち勃然として怒りて曰はく、「善達小人、敢て我を廷辱す」と。因つて賊中を経て、東陽に向つて運を催さしむ。善達遂に羣盜の殺す所と爲る。是後、人人、口を杜ぢ、敢て賊を以て聞するもの莫し。世基、容貌沈審にして、言多く意に合ひ、特に帝の親愛する所と爲り、朝臣、與に比を爲すもの無し。親黨、之に憑り、官を鬻ぎ獄を賣り、賄賂公行し、其門、市の如し。是に由りて、朝野共に之を疾怨す。内史舍人封德彝、世基に託附し、世基が吏務に閑はざるを以て、密に指畫を爲し、詔命を宣行し、帝の意に諂順す。羣臣の表疏の旨に忤ふ者は、皆、屏けて奏せず。獄を鞠し法を用ふるには、峻文深詆多く、功を論じ賞を行ふには、則ち抑削して薄きに就く。故に世基の寵日に隆にして、隋の政益壞る。皆、德彝の爲す所なり。初め唐公李淵、神武の肅公寶毅に娶り、四男を生む。建成・世民・玄霸・元吉。一女、太子の千

【五九】此の東陽は蓋し婺州の東陽郡を指すなるべし。

【六〇】今の山西省雁門道神池縣の東北に神武郡を置く。

【六一】千牛備身。隋志に、東宮の左右内率府に千牛備身八人有り。千牛刀を執るを掌る。其の千牛を解けども世刃鈍らざるを取る。

牛備身（三）臨汾の柴紹に適く。世民、聰明勇決にして、識量、人に過ぐ。隋室方に亂るるを見、陰に天下を安んずるの志有り、身を傾けて士に下り、財を散じて客を結び、咸其歡心を得。世民、右驍衛將軍長孫晟の女を娶る。（三）右勳衛長孫順德は晟の族弟なり。右勳侍池陽の劉弘基と、皆遼東の役を避け、亡命して晉陽に在り、淵に依り、世民と善し。左親衛竇琮は、熾の孫なり。亦亡命して太原に在り。素、世民と隙有り。毎に以て自ら疑ふ。世民、意を加へて之を待ち、臥内に出入す。琮の意乃ち安し。晉陽の宮監猗氏の裴寂（三）晉陽の令武功の劉文靜、相與に同じく宿す。城上の烽火を見、寂、嘆じて曰はく、「貧賤なること此の如く、復た亂離に逢ふ。將た何を以てか自ら存せん」と。文靜笑つて曰はく、「時事、知るべし。吾二人相得ば、何ぞ貧賤を憂へん」と。文靜、李世民を見て之を異とし、深く自ら結納す。寂に謂つて曰はく、「此れ常人に非ず。豁達なること漢高に類し、神武なること魏祖に同じ。年、少しと雖も、命世の才なり」と。寂初め（三）未だ之を然りとせず。文靜、李密と昏を連ぬるに坐し、太原の獄に繋がる。世民就きて之を省す。文靜曰はく、「天下大に亂る。（三）高光の才に非ざれば、定

【三】臨汾縣は臨汾郡を帶ぶ、本、平陽なり。開皇の初め名を改む。

【三】勳衛。隋の開皇、親勳武三衛を置く。大業の初め、改めて親勳武の三侍と爲す、順德は蓋し開皇中、勳衛と爲る。

【六】池陽縣は今の陝西省關中道涇陽縣の北。

【六】竇熾は隋初の三公。

【六】猗氏縣は河東郡に屬す。今の山西省河東道猗氏縣。

【六】晉陽縣は太原郡を帶ぶ。今の陝西省關中道武功縣。

【六】未だ文靜の言を以て然りと爲す。

【七】高光云云。漢の高祖・光武の事を以て世民を稱發するなり。

高光の才に非ざれば、定

むる能はざるなり」と。世民曰はく、「安んぞ其の無きを知らん。但だ人、識らざるのみ。我來りて相省するは、兒女子の情に非ず。君と大事を議せんと欲するなり。計將に安に出でんとする」と。文靜曰はく、「今、主上、南して江淮を巡り、李密、東都を圍逼し、羣盜殆ど萬を以て數ふ。此の際に當りて、眞主有りて驅駕して之を用ひば、天下を取ること掌を反すが如くならんのみ。太原の百姓、皆盜を避けて城に入る。文靜、令たること數年、其豪傑を知る。一旦收拾せば、十萬人を得可からん。尊公の將ある所の兵、復た且に數萬ならんとす。一言、口より出でば、誰か敢て従はざらん。此を以て虚に乗じて關に入り、天下に號令せば、半年を過ぎずして、帝業成らん」と。世民笑つて曰はく、「君が言、正に吾が意に合ふ」と。乃ち陰に賓客を部署す。淵、之を知らざるなり。世民、淵が従はざらんことを恐れ、猶豫すること之を久しくし、敢て言はず。淵、裴寂と舊有り。毎に相與に宴語し、或は日夜を連ぬ。文靜、寂に因りて（三）關說せんと欲し、乃ち寂を引きて世民と交らしむ。世民、私錢數百萬を出し、（三）龍山の令高斌廉をして寂と博せしめ、稍く以て之に輸す。寂、大に喜ぶ。是に由りて、日に世民に従つて遊び、情款益々狎る。世民乃ち其謀を以て之に告ぐ。寂、許諾す。會、突厥、馬邑に寇す。淵、高君雅を遣はし、兵を將ゐて、馬邑の太守王仁恭と、力を并せて之を拒ぐ。仁恭、君雅、戰、利あ

【七】關。白すなり。

【三】龍山。後齊、龍山縣を置き、太原郡を帶ぶ。開皇十年、改めて晉陽と曰ふ。此時復た龍山有らず。斌廉、開皇中、嘗て令史たり。舊官を以て之を書するか。

【三】輸す。博して勝たざる者、物を納れ、勝つ者に與ふるをいふ。

らす。淵、并せて罪を獲んことを恐れ、甚だ之を憂ふ。世民、間に乗じ、人を屏けて淵に説きて曰はく、『今、主上無道にして、百姓困窮し、晉陽城外、皆、戰場と爲る。大人若し小節を守らば、下に寇盜有り、上に嚴刑有り、危亡すること日無からん。民心に順つて義兵を興し、禍を轉じて福と爲すに若かず。此れ天授くるの時なり』と。淵大に驚きて曰はく、『汝安んぞ此言を爲すを得ん。吾今汝を執へ、以て縣官に告げん』と。因つて紙筆を取り、表を爲らんと欲す。世民徐ろに曰はく、『世民、天時人事を觀るに、此の如し、故に敢て言を發す。必ず執告せんと欲せば、敢て死を辭せず』と。淵曰はく、『吾豈に汝を告ぐるに忍びんや。汝慎みて、口より出す勿れ』と。明日、世民復た淵に説きて曰はく、『今盜賊日に繁く、天下に逼し。大人、詔を受けて賊を討つ。賊、盡す可きか。之を要するに終に罪を免れざらん。且つ世人皆傳ふ、『李氏當に圖讖に應ずべし』』と。故に李金才、罪無くして一朝族滅せらる。大人設し能く賊を盡さば、則ち功高くして賞せられず、身益、危からん。唯だ昨日の言、以て禍を救ふ可からん。此れ萬全の策なり。願はくは大人、疑ふ勿れ』と。淵乃ち嘆じて曰はく、『吾、一夕、汝の言を思ふに、亦大に理有り。今日、家を破り軀を亡ぼすも、亦汝に由らん。家を化して國と爲すも、亦汝に由らん』と。是より先、裴寂、私に晉陽の宮人を以て淵に侍せしむ。淵、寂に従つて飲す。酒酣にして、寂、從容として言つて曰はく、『二郎、陰に士馬を養ひ、大事

【七四】 李渾、字は金才。族滅の事、前卷大業十一年に見ゆ。
【七五】 二郎。世民は淵の第二子なり。

を擧げんと欲す。正に、寂が宮人を以て公に侍せしむるが爲めに、事覺はれ并せて誅せられんことを恐れ、此急計を爲すのみ。衆情已に協へり。公の意如何』と。淵曰はく、『吾が兒誠に此の謀有り、事已に此の如くば、當に復た奈何すべき。正に須く之に従ふべきのみ』と。帝、淵が王仁恭と與に寇を禦ぐ能はざりしを以て、使者を遣はし、執へて江都に詣らしむ。淵大に懼る。世民、寂等と、復た淵に説きて曰はく、『今主昏く國亂れ、忠を盡すも益無し。偏裨、律を失ひ、而して罪、明公に及ぶ。事已に迫れり。宜しく早く計を定むべし。且つ晉陽は士馬精彊にして、宮監の蓄積巨萬なり。茲を以て事を擧げば、何ぞ成る無きを患へん。代王は幼冲にして、關中の豪傑竝び起り、未だ附く所を知らず。公若し鼓行して西し、撫して之を有たば、囊中の物を探るが如くならんのみ。奈何ぞ單使の囚を受け、坐ながら夷滅を取らんや』と。淵、之を然りとす。密に部勒して將に發せんとす。會、帝繼ぎて使者を遣はし、驛を馳せ、淵及び仁恭を赦し、舊任に復せしむ。淵の謀も亦緩む。
【七六】 帝は煬帝を謂ふ。
【七七】 大業十一年、淵、使と爲り、河東を討捕す。
【七八】 梁の武帝、兵を荊雍に起し、夏侯詳、佐命たり。
【七九】 帝坐。晉書の天文志に、北極五星、第二星は帝坐を主る。太乙の坐は最赤明なる者を謂ふ。紫宮門内の六星を天牀と曰ふ。寢舍解息燕休を主る。又、大角一星、攝提の間に在り、大角は天王帝坐なりと。
【八〇】 參墟。左傳に、參を晉星と爲すと。故に晉陽を以て參墟と爲す。歲を得とは、歲星、參に居るを謂ふなり。

淵が河東討捕使と爲るや、大理司直夏侯端を請うて副と爲す。端は、詳の孫なり。善く占候し、及び人を相す。淵に謂つて曰はく、『今、玉牀搖動し、(毛)帝坐、安からず、(ハ)參墟、歳を得。必ず眞

人有り、其分(一)に起らん。公に非ずして誰ぞや。主上(二)猜忍にして、尤も諸李を忌む。金才(三)既に死せり。公、變通を思はずんば、必ず之が次と爲らん」と。淵、心に之を然りとす。晉陽を留守するに及び、鷹揚府の司馬太原の許世緒、淵に説きて曰はく、「公、姓は圖籙に在り、名は歌謠に應ず。五郡の兵を握り、四戦の地に當る。事を擧げば則ち帝業成る可く、端居せば則ち亡ぶること踵を旋さじ。唯だ公、之を圖れ」と。(四)行軍司鐙(五)文水の武士曩(六)前の太子左勳衛唐憲(七)の弟儉、皆、淵に兵を擧げんことを勸む。儉、淵に説きて曰はく、「明公、北は戎狄を招き、南は豪傑を收め、以て天下を取らば、此れ湯武の擧なり」と。淵曰はく、「湯武は敢て擬する所に非ず。私に在りては則ち存を圖り、公に在りては則ち亂を拯はん。卿姑く自重せよ。吾將に之を思はんとす」と。憲は(八)邕の孫なり。時に(九)建成(十)元吉、尙ほ河東に在り。故に淵、遷延して未だ發せず。劉文靜、裴寂に謂つて曰はく、「先に發すれば人を制し、後に發すれば人に制せらる。何ぞ早く唐公に勸めて兵を擧げずして、(十一)推遷して已まざる。且つ公、宮監と爲り、而して宮人を以て客に侍せしむ。公が死するは爾る可し。何ぞ唐公を誤るや」と。寂甚だ懼れ、屢、淵を趣して兵を起さしむ。淵乃ち文靜

【八一】 分。分野なり。

【八二】 鷹揚府に、司馬及び兵倉兩司有り。

【八三】 行軍司鐙。行軍府司鐙參軍。

【八四】 文水縣は太原郡に屬す。今の山西省冀寧道文水縣の東十里に在り。

【八五】 開皇の制、東宮左右衛率府にも亦親勳翊三衛あり。煬帝、親衛を改めて功曹と爲す。

【八六】 唐邕は強幹を以て高齊に事ふ。

【八七】 淵、建成を留めて家を護して河東に居らしむ。

【八八】 推遷。故を推し遷延するを言ふなり。

をして、詐りて敕書を爲らしめ、太原・西河・鴈門・馬邑の民の年二十已上・五十已下なるものを發して、悉く兵と爲し、歲暮を期して涿郡に集まり、高麗を撃たんとす。是に由りて、人情恟恟として、亂を思ふ者益衆し。劉武周が汾陽宮に據るに及び、世民、淵に言つて曰はく、「大人、留守と爲り、而して盜賊、離宮に竊據す。早く大計を建てずんば、禍今至らん」と。淵乃ち將佐を集め、之に謂つて曰はく、「武周、汾陽宮に據り、吾が輩、制する能はず。罪、族滅に當る。之を若何せん」と。王威等、皆懼れ、再拜して計を請ふ。淵曰はく、「朝廷、兵を用ふるに、動止皆節度を稟けしむ。今、賊は數百里の内に在り、江都は三千里の外に在り、加ふるに道路の險要なるを以てす。復た他賊有りて之に據る。城に嬰り柱に膠するの兵を以て、巨猾の豕突の勢に當るは、必ず、(十二)全からじ。進退維れ谷まれり。何を爲してか可ならん」と。威等皆曰はく、「公、地、親賢を兼ね、國の休戚を同じくす。若し奏報を俟たば、豈に事機に及ばんや。要は賊を平くるに在り。之を専らにして可なり」と。淵陽に已むを得ずして之に従ふ者の若くして曰はく、「然らば則ち先づ當に兵を集むべし」と。乃ほ世民に命じ、劉文靜・長孫順德・劉弘基等と與に、各、兵を募らしむ。遠近赴き集まり、旬日の間に、萬人に近し。仍ほ密に使を遣はし、建成・元吉を河東より、柴紹を長安より召す。王威・高君雅、兵大に集まるを見、淵が異志有るを疑ひ、武士曩に謂つて曰はく、「順德・弘基は皆、背征の三侍、犯す所死に當る。安んぞ兵に將たるを得ん」と。收へて之を按せん

【八九】 背征。二人、役を避けて亡命す、故に背征と曰ふ。

と欲す。士護曰はく、「二人は皆唐公の客なり。若し爾せば、必ず大に紛紜を致さん」と。威等乃ち止む。留守司兵田德平、威等に勸めて、人を募るの状を按せしめんと欲す。士護曰はく、「討捕の兵は、悉く唐公に隸す。威・君雅は但だ寄坐するのみ。彼何ぞ能く爲さん」と。德平も亦止む。晉陽の

郷長劉世龍、密に淵に告げて云はく、「威・君雅、晉祠に雨を祈るに因りて不利を爲さんと欲す」と。五月癸亥、夜、淵、世民をして兵を晉陽宮城の外に伏せしむ。甲子旦、淵、威・君雅と、共に坐して事を視る。劉文靜をして、開陽府の司馬、胙城の劉政會を引き、入りて庭中に立たしむ。密状有りと稱す。淵、威等に目くばせし、状を取り之を視しむ。政會、與へずして曰はく、「告ぐる所は乃ち副留守の事なり。唯だ唐公のみ之を視るを得」と。淵陽り驚きて曰はく、「豈に是れ有らんや」と。其状を視、乃ち云はく、「威・君雅、潜在突厥を引きて入寇せしむ」と。君雅、袂を攘つて大に詬りて曰はく、「此れ乃ち反者、我を殺さんと欲するのみ」と。時に世民已に兵を布き、衢路に塞がる。文靜因つて劉弘基・長孫順徳等と、共に威・君雅を執へて獄に繋ぐ。丙寅、突厥の數萬の衆、晉陽に寇し、輕騎、外郭の北門に入り、其東門に出づ。淵、裴寂等に命じ、兵を勸して備を爲さしめ、而して悉く諸城門を開かしむ。突厥、測る能はず、敢て進む

- 【九〇】 隋の制、留守に司功倉戸兵法士曹等の書佐を置く。
- 【九一】 寄坐。但だ身を留守の坐間に寄するを言ふ。
- 【九二】 郷長。開皇の初、保長・黨長・郷長を置く、亦此類なり。
- 【九三】 晉陽に晉王祠有り。
- 【九四】 太原に府十八有り、開陽は其一なり。
- 【九五】 胙城縣は東郡に屬す。今の河南省河北道延津縣の北三十五里に在り。
- 【九六】 密状。秘密なる書状。

もの莫し。衆以爲へらく、威・君雅、實に之を召すなりと。淵、是に於て威・君雅を斬りて以て徇ふ。淵の部將王康達、千餘人を將りて出で戦ひ、皆死す。城中懼す。淵、夜、軍を遣はして潛に城を出で、旦には則ち旗を張り鼓を鳴らし、他道より來らしめ、援軍の者の如くす。突厥終に之を疑ひ、城外に留まること二日、大に掠めて去る。

煬帝、(七) 監門將軍、涇陽の龐玉・虎賁郎將霍世舉に命じ、關内の兵を將りて、東都を援けしむ。

柴孝和、李密に説きて曰はく、「秦の地は、山川の固あり、秦・漢の憑りて以て王業を成す所の者なり。今、若かず、(八) 翟司徒をして洛口を守り、(九) 裴柱國をして回洛を守らしめ、明公自ら精銳を簡び、西して長安を襲はんに、既に京邑に克ち、業固く兵彊く、然る後東向して以て河洛を平げば、檄を傳へて天下定まらん。方今、隋、其鹿を失ひ、豪傑競ひ逐ふ。早く之を爲さずんば、必ず我に先んずる者有らん。悔ゆとも及ぶ無からん」と。密曰はく、「此れ誠に上策なり。吾も亦之を思ふこと久し。但だ昏主尙ほ存し、從兵猶ほ衆く、我が所部は皆山東の人なり。洛陽未だ下らざるを見ば、誰か肯て我に従つて西に入らん。諸將は羣盜に出づ。之を留めば、各、雌雄を競はん。此の如くならば則ち大業墮れん」と。孝和曰はく、「然らば則ち大軍既に未だ西上す可からず。僕請ふ間行して壘を觀ん」と。密、之を許す。孝和、數十騎と與に

- 【七】 隋の制、左右監門府に各、將軍一人有り、宮殿の門禁及び守衛の事を掌る。
- 【八】 涇陽縣は京兆郡に屬す。
- 【九】 翟司徒。讓なり。
- 【一〇】 裴柱國。仁基なり。
- 【一一】 陝縣。河南郡に屬す。

隋恭帝義寧元年

に至る。山賊、之に歸する者萬餘人。時に密の兵鋒甚だ鋭く、毎に〔一〇〕苑に入り、隋の兵と連に戰ふ。會、密、流矢の中る所と爲り、尙ほ營中に臥す。丁丑、越王侗、段達をして、龐玉等と與に、夜、兵を出し、回洛倉の西北に陳せしむ。密、裴仁基と與に、出で戰ふ。達等、大に之を破る。殺傷太半。密乃ち回洛を棄て、洛口に奔る。龐玉、霍世舉、〔一一〕偃師に軍す。柴孝和の衆、密退くと聞き、各、散じ去る。孝和、輕騎にて密に歸す。楊德方、鄭德韜、皆死す。密、鄭頰を以て左司馬と爲し、滎陽の鄭乾象を右司馬と爲す。

李建成・李元吉、其弟、智雲を河東に棄てて去る。吏、智雲を執へ、長安に送り、之を殺す。建成・元吉、柴紹に道に遇ひ、之と偕に行く。

【一〇】苑。即ち大業の初め築く所の西苑。

【一一】偃師。帝營の都する所、古の西亳なり。湯も亦之に都す。武王、紂を伐ち、師を廻し戎を息む。遂に偃師と名づく。縣、河南郡に屬す。今の河南省河洛道偃師縣。

卷の第一百八十四

隋紀八

恭皇帝下

〔一〕義寧元年、六月己卯、李建成等、晉陽に至る。

劉文靜、李淵に勸む、「突厥と相結び、其士馬に資り、以て兵勢を益さん」と。淵、之に従ひ、自ら手啓を爲り、辭を卑くし禮を厚くし、始畢可汗に遣りて云ふ、「大に義兵を擧げ、遠く主上を迎へ、復た突厥と和親すること。開皇の時、如くせんと欲す。若し能く我と俱に南せば、願はくは百姓を侵暴する勿れ。若し但だ和親し、坐ながら寶貨を受くも、亦唯だ可汗の擇ぶ所のままなり」と。始畢、啓を得、其大臣に謂つて曰はく、「隋主の人と爲りは、我の知る所なり。若し迎へて以て來らば、必ず唐公を害して我を撃たんこと疑無し。苟し唐公自ら天子と爲らば、我當に盛暑を避けず、兵馬を以て之を助くべし」と。即ち命じて此意を以て復書を爲らしむ。使者七日にして返る。將佐皆喜び、突厥の言に従はんと請ふ。淵、可かず。裴寂・劉文靜、

【一】義寧元年。西紀六一七年なり。

皆曰はく、「今、義兵、集まると雖も、而も戎馬殊だ乏し。胡兵は須むる所に非ず、而も馬は失ふ可からず。若し復た稽回せば、恐らくは其れ悔有らん」と。淵曰はく、「諸君、宜しく更に其次を思ふべし」と。寂等乃ち請ふ、「天子を尊びて太上皇と爲し、代王を立てて帝と爲し、以て隋室を安んじ、檄を郡縣に移し、旗幟を改易し、〔三〕絳白を雜用し、以て突厥に示さん」と。淵曰はく、「此れ耳を掩うて鍾を盗むと謂ふ可し。然れども時事に逼られ、爾せざるを得ず」と。乃ち之を許し、使を遣はし、此議を以て突厥に告ぐ。

西河郡、淵の命に従はず。甲申、淵、建成・世民をして兵を將ゐて西河を撃たしむ。〔三〕太原の令太原の温大有に命じ、之と偕に行かして曰はく、「吾が兒年少し。卿を以て軍事に參謀せしむ。事の成敗は、當に此行を以て之を卜すべし」と。時に軍士新に集まり、咸未だ閱習せず。建成・世民、之と甘苦を同じくし、敵に遇へば則ち身を以て之に先だつ。近道の菜果は、買ふに非ざれば食はず。軍士、之を竊む者有れば、輒ち其主を求めて之を償ひ、亦、竊む者を詰らず。軍士及び民、皆感悦す。西河の城下に至る。民、城に入らんと欲する者有れば、皆、其の入るを聽す。郡丞高德儒、城を閉ぢて拒ぎ守る。己丑、攻めて之を拔く。德儒を執へて軍門に至る。世民、之を數めて曰はく、「汝、〔四〕野鳥を指して鸞と爲し、以て人主を欺き、高官を

【一】絳白を雜用す。隋の色は赤を尙ぶ。今、絳を用ひて之に雜ふるに白を以てし、隋に純ならざる若きを示すなり。

【二】太原縣は、舊、晉陽と曰ふ。開皇十年、分ちて太原縣を置き、而して後齊置く所の龍山縣を改めて晉陽縣と爲す。今の山西省冀寧道太原縣の東北に在り。

【三】野鳥云云。事一百八十二卷大業十一年に見ゆ。

取る。吾、義兵を興せるは、正に、佞人を誅せんが爲めなるのみ」と。遂に之を斬る。自餘は一人を戮せず。秋毫も犯す無し。各、尉撫して、業に復せしむ。遠近、之を聞き、大に悦ぶ。建成等兵を引き、晉陽に還る。往返凡そ九日。淵喜びて曰はく、「此を以て兵を行らば、天下に横行すと雖も、可なり」と。遂に關に入るの計を定む。淵、倉を開き、以て貧民を賑はず。募に應ずる者日に益多し。淵、命じて三軍と爲し、左右に分ち、通じて之を義士と謂ふ。裴寂等、淵に號を上りて大將軍と爲す。癸巳、〔五〕大將軍府を建て、寂を以て長史と爲し、劉文靜を司馬と爲し、唐儉及び前の長安の尉温大雅を記室と爲す。大雅仍て弟大有と、共に機密を掌る。武士韋を鑑曹と爲し、劉政會及び武城の崔善爲・太原の張道源を戸曹と爲し、晉陽の長上邽の姜暮を司功參軍と爲し、〔六〕太谷の長段開山を府掾と爲し、長孫順德・劉弘基・竇琮及び鷹揚郎將高平の王長諧・天水の姜寶誼・陽屯を左右統軍と爲す。自餘の文武は、才に隨つて任を授く。又、世子建成を以て

【五】世民が兵を行ふこと紀律有るを言ふなり。

【六】此れ唐公、大將軍府を開き、官屬を署置するに、隋の親王府・大將軍府・州郡の官屬の制を參用する也。隋の制、唯だ親王府に掾あり屬あり、記室あり、大將軍府に鑑曹有り、州軍に戸曹あり、皆、行參軍なり。煬帝、州を改めて郡と爲し、郡に諸司書佐を置く、而して書佐は即ち參軍の職なり。行書佐は即ち行參軍の職なり。

【七】武城縣、清河郡に屬す。今の山東省東臨道武城縣。

【八】上邽縣、天水郡を帶ぶ。今の甘肅省渭川道天水縣。

【九】太谷縣、太原郡に屬す。今の山西省冀寧道太谷縣。

【一〇】高平縣、後魏、高平郡を置く。隋改めて平高縣と爲す。今の甘肅省涇原道固原縣。

【一一】天水。煬帝、秦州を改めて天水郡と爲す。古の郡名に因るなり。

隴西公・左領軍大都督と爲し、左三統軍、焉に隸し、世民を敦煌公・右領軍大都督と爲し、右三統軍、焉に隸し、各官屬を置く。柴紹を以て右領軍府の長史と爲し、諸議譙の人劉瞻をして西河の通守を領せしむ。道源、名は河、開山、名は嶠、皆、字を以て行はる。開山は(三)不害の孫なり。李密復た衆を帥ゐて東都に向ふ。丙申、大に(四)平樂園に戦ふ。密、騎を左にし歩を右にし、中に彊弩を列ね、千鼓を鳴らして以て之を衝く。東都の兵大に敗る。密復た回洛倉を取る。

突厥、其柱國康鞘利等を遣はし、馬千匹を送り、李淵に詣りて互市を爲し、兵を發して淵を送りて關に入れ、多少は欲する所に隨はんことを許す。丁酉、淵、康鞘利等を引見し、可汗の書を受け、禮容、恭を盡し、康鞘利等に贈遺すること甚だ厚く、其馬の善き者を選び、止だ其半を市ふ。義士、私錢を以て其餘を市はんと請ふ。淵曰はく、「虜、馬饒くして利を貪り、其の來ること將に已まざらんとす。恐らくは汝、市ふ能はざらん。吾が少しく取る所以は、貧を示し、且つ以て急と爲さざるが故なり。當に汝が爲めに之を貰ふべし。汝が費と爲すに足らず」と。乙巳、(五)靈壽の賊帥鄒士陵、衆數千を帥ゐて淵に降る。淵、以て鎮東將軍・燕都公と爲し、仍ほ鎮東府を置き、僚屬を補し、以て山東の郡縣を招撫せしむ。(六)己

【三】この左右領軍は左右軍を總領するを以て名づく。隋の十二衛の左右領軍を取りて名づくるに非ざるなり。
 【四】平樂園。此れ蓋し即ち漢魏の平樂觀の地を園と爲すなり。
 【五】貰は賒なり。即時に價を拂はずして物を買ふなり。
 【六】靈壽縣は恆山郡に屬す。今の直隸省保定道靈壽縣。
 【七】己巳。乙巳の誤。

巴、康鞘利、北に還る。淵、劉文靜に命じ、突厥に使し、以て兵を請はしむ。私に文靜に謂つて曰はく、「胡騎、中國に入るは、生民の大蠹なり。吾、之を得んと欲する所以は、劉武周が之を引きて共に邊患を爲さんことを恐るればなり。又、胡馬は行牧し、芻粟を費さず。聊か、之を藉りて以て聲勢を爲さんと欲すればなるのみ。數百人の外は、之を用ふる所無し」と。

秋七月、煬帝、江都の通守王世充を遣はし、江淮の勁卒を將ゐ、將軍王隆をして(一)邛黃蠻を帥ゐ、(二)河北の大使太常少卿韋霽・河南の大使虎牙郎將王辯等をして、各所領を帥ゐ、同じく東都に赴きて相知り、李密を討たしむ。霽は(三)世康の子なり。

壬子、李淵、子元吉を以て太原の太守と爲し、晉陽宮を留守せしめ、後事は悉く以て之に委ぬ。癸丑、淵、甲士三萬を帥ゐて晉陽を發し、軍門に立ちて衆に誓ふ。并に檄を郡縣に移し、諭すに代王を尊立するの意を以てす。西突厥の阿史那大奈も亦、其衆を帥ゐて以て從ふ。甲寅、通議大夫張綸を遣はし、兵を將ゐて(四)稽胡を徇へしむ。丙辰、淵、西河に至り、吏民を慰勞し、窮乏を賑贍す。民の年七十以上なるは、皆散官に除す。其餘の豪俊は、才に隨つて任を授く。口に功能を詢ひ、手に官秩を注し、一日に千餘人を除す。官を受くるに、皆、告身を取らず、各淵が書する所の官

【一】邛黃蠻。蓋し邛部の蠻の一種なるべし。
 【二】韋霽・王辯の二人は蓋し皆討捕大使なるべし。
 【三】韋世康は開皇の四大總管の一。
 【四】稽胡の部落は郿石の間に居る。
 【五】朝議等の八郎・武騎等の八尉は皆散官なり。
 【六】告身。唐志に、官に補する者、皆、給するに符を以てす、之を告身と謂ふ。

名を分ちて去る。淵、雀鼠谷に入る。壬戌、賈胡堡に軍す。霍邑を去ること五十餘里。代王侑、虎牙郎將宋老生を遣はし、精兵二萬を帥ゐて霍邑に屯し、左武侯大將軍屈突通をして河東に屯せしめ、以て淵を拒ぐ。會、積雨、淵、進むを得ず。府佐沈叔安等を遣はし、羸兵を將ゐて太原に還り、更に一月の糧を運ばしむ。乙丑、張綸、離石に克ち、太守楊子崇を殺す。劉文靜、突厥に至り、始畢可汗を見て兵を請ひ、且つ之と約して曰はく、「若し長安に入らば、民衆・土地は唐公に入り、金玉・繒帛は突厥に歸せん」と。始畢、大に喜ぶ。丙寅、其大臣級失特勒を遣はし、先づ淵の軍に至らしめ、告ぐるに兵已に道に上るを以てす。淵、書を以て李密を招く。密、自ら兵の彊きを得、盟主と爲らんと欲し、祖君彦をして復書せしめて曰はく、「兄と、派流、異なりと雖も、根系本同じ。自ら、唯ふに虚薄にして、四海の英雄に、共に盟主に推さる。望む所は左提右挈し、力を戮せ心を同じくし、子嬰を咸陽に執へ、商辛を牧野に殛すなり。豈に盛ならずや」と。且つ淵をして歩騎數千を以て、自ら河内に至り、面のあたり盟約を結ばしめんと欲す。淵、書を得、笑つて曰はく、「密妄に自ら殆大なり。折簡の致す可きに非ず。吾、方に關中に事有り。若し遽に之を絶たば、乃ち是れ更に一敵を生

- 【一】 賈胡堡。霍邑の西北に在り。
- 【二】 楊帝、石州を改めて離石郡と爲す。
- 【三】 唐公は李虎に出で、密は李弼に出づ、是れ異派なり。然して李弼の先は、本、遼東襄平の人、李虎の祖は、本、隴西成紀の人、所謂根系は但だ同姓なるのみ。
- 【四】 唯。當に惟に作るべし。思ふなり。
- 【五】 子嬰。代王をいふ。
- 【六】 商辛。煬帝をいふ。
- 【七】 楊帝、懷州を改めて河内郡と爲す。

するなり。如かず、辭を卑くして推奨し、以て其志を驕らせ、我が爲めに東都の兵を綴めしめ、我、意を専らにして西征するを得んには。關中の平定するを俟ち、險に據り威を養ひ、徐ろに鵠蚌の勢を觀、以て漁人の功を收むるも、未だ晚しと爲さざるなり」と。乃ち温大雅をして復書せしめて曰はく、「吾、庸劣なりと雖も、幸に餘緒を承け、出でて八使と爲り、入りて六屯を典る。願して、扶けざるは、通賢の責むる所なり。大に義兵を會し、北狄に和親し、共に天下を匡す所以は、志、隋を尊ぶに在り。天、丞民を生じ、必ず司牧有り。當今、牧と爲るは、子に非ずして誰ぞ。老夫、年、知命を逾え、願、此に及ばず。大弟を欣戴し、鱗を攀ち翼に附かん。唯だ弟早く圖籙を膺け、以て兆民を寧んせよ。宗盟の長、屬籍、容れられ、復た唐に封せられなば、斯に榮足りなん。商辛を牧野に殛すは、言ふに忍びざる所、子嬰を咸陽に執ふるは、未だ敢て命を聞かず。汾晉の左右、尚ほ須く安輯すべし。盟津の會は、未だ期を下するに暇あらず」と。密、書を得て甚だ喜び、以て將佐に示して曰はく、「唐公、推さる。天下は定むるに足らず」と。是より信使往來すること絶えず。雨久しく止まず。淵の軍中、糧乏しく、劉文靜未だ返らず。或は傳ふ、突厥、劉武周と與に、虚に乗じて晉陽を襲ふと。淵、將佐を召し、北に還らんと

- 【一】 成阜の道を塞ぐときは、江都の信使、通ぜず。
- 【二】 東都の兵を綴むるときは、西、長安に應ずるを得ず。
- 【三】 八使。漢の順帝、八使を遣はす。唐公、山西河東に使たり、故に然云ふ。
- 【四】 六屯を典る。隋の制、六軍十二衛にして、唐公嘗て將軍たり、故に云ふ。
- 【五】 知命。孔子曰はく、五十にして天命を知ると。
- 【六】 屬籍。宗屬の籍なり。

謀る。裴寂等皆曰はく、『宋老生・屈突通、兵を連ねて險に據り、未だ猝に下し易からず。李密、連和すと云ふと雖も、姦謀、測り難し。突厥は貪りて信無く、唯だ利を是れ視る。武周は胡に事ふる者なり。太原は一方の都會にして、且つ義兵の家屬焉に在り。如かず、還りて根本を救ひ、更に後舉を圖らんには』と。李世民曰はく、『今、禾菽、野を被ふ、何ぞ糧に乏しきを憂へん。老生輕躁なり、一戰して擒にす可し。李密は、倉粟を顧戀し、未だ遠略に違あらず。武周は、突厥と、外は相附くと雖も、内は實に相猜む。武周、遠く太原を利すと雖も、豈に近く馬邑を忘る可けんや。本、大義を興し、奮つて、身を顧みず、以て蒼生を救ふ。當に先づ咸陽に入り、天下に號令すべし。今、小敵に遇ひ、遽に已に師を班さば、恐らくは義に従ふの徒、一朝にして體を解かん。還りて太原一城の地を守らば、賊と爲らんのみ。何ぞ以て自ら全くせん』と。李建成も亦以て然りと爲す。淵、聽かず。促して、引き發せしむ。世民將に復た入りて諫めんとす。會、日暮る。淵已に寝ぬ。世民、入るを得ず、外に號哭す。聲、帳中に聞ゆ。淵、召して之を問ふ。世民曰はく、『今、兵、義を以て動く。進み戰はば則ち克ち、退き還らば則ち散せん。衆、前に散せば、敵、後に乘せん。死亡すること日無からん。何ぞ悲まざるを得ん』と。淵乃ち悟りて曰はく、『軍已に發せり。奈何せん』と。世民曰はく、『右軍は、嚴して未だ發せず、左軍は去ると雖も、計るに亦未だ遠からじ。請ふ自ら之を追はん』と。淵笑つて曰はく、『吾の成敗は皆爾に在り。知んぬ復た何をか言はん。』

【三七】嚴。裝なり。

唯だ爾の爲す所のまゝなり』と。世民乃ち建成と與に、夜、左軍を追うて復た還らしむ。丙子、太原の運糧も亦至る。

【三〇】武威の鷹揚府司馬李軌、家富み、任侠を好む。薛舉が亂を金城に作すや、軌、同郡の曹珍・關謹・梁頌・李贇・安修仁等と謀りて曰はく、『薛舉必ず來りて侵暴せん。郡官庸怯にして、勢、禦ぐ能はざらん。吾が輩、豈に手を束ね妻孥を并せて人の虜にする所と爲る可けんや。若かじ、相與に力を并せて之を拒ぎ、河右に保據し、以て天下の變を待たんには』と。衆皆以て然りと爲し、一人を推して主と爲さんと欲す。各相讓り、肯て當るもの莫し。曹珍曰はく、『久しく聞く、圖讖に、李氏當に王たるべしと。今、軌、謀中に在るは、乃ち天命なり』と。遂に相與に軌を拜し、奉じて以て主と爲す。丙辰、軌、修仁をして諸胡を集めしむ。軌、民間の豪傑を結び、共に兵を起し、虎賁郎將謝統帥・郡丞韋士政を執ふ。軌自ら河西大涼王と稱し、官屬を置き、竝に開皇の故事に擬す。關謹等、盡く隋の官を殺して其家貲を分たんと欲す。軌曰はく、『諸人既に逼りて以て主と爲す。當に其號令を稟くべし。今、義兵を興し、以て生民を救ふ。乃ち人を殺して貨を取るは、此れ羣盜なるのみ。將た何を以てか濟らん』と。是に於て、統帥を以て太僕卿と爲し、士政を太府卿と爲す。西突厥の闕達度設、會

【三一】武威。煬帝、涼州を改めて武威郡と爲す。各郡に鷹揚府を置き、郎將あり、副郎將あり、長史・司馬あり。

【三二】是年夏四月、薛舉起る。

【三三】安氏は涼州の豪望にして、世、民夷の附く所と爲る、故に之をして諸胡を集めしむ。

【三四】會寧。大業八年、闕度設を分ちて會寧を居く。

寧川に據り、自ら闕可汗と稱し、降を軌に請ふ。

薛舉自ら秦帝と稱し、其妻鞠氏を立てて皇后と爲し、子仁果を皇太子と爲す。仁果を遣はし、兵を

將ゐて、天水を圍ましむ。之に克つ。擧、金城より徙りて之に都す。仁果、多力にして、騎射を善く

す。軍中、萬人の敵と號す。然れども性貪りて殺を好む。嘗て(四三)庾信の子立を獲、其の降らざるを怒

り、火上に磔し、稍割きて以て軍士に噉はしむ。天水に克つに及び、悉く富人を召し、之を倒懸し、

醋を以て鼻に灌ぎ、其金寶を責む。擧毎に之を戒めて曰はく、『汝の才略

は、以て事を辨するに足る。然れども苛虐にして恩無し。終に當に我が國

家を覆すべし』と。擧、晉王仁越を遣はし、兵を將ゐて(四四)劔口に趨かし

む。河池郡に至る。太守蕭瑀、拒ぎて之を却く。又、其將常仲興を遣は

し、河を濟りて李軌を撃たしむ。軌の將李贇と、昌松に戰ふ。仲興、

軍を擧げて敗没す。軌、縱して之を遣らんと欲す。贇曰はく、『力戰して

俘を獲、復た縱して以て敵に資するは、將た焉ぞ之を用ひん。盡く之を阬

にするに如かず』と。軌曰はく、『天若し我に祚せば、當に其主を擒にすべし。此屬終に我が有と

爲らん。若し其れ成る無くんば、之を留むとも何の益かあらん』と。乃ち之を縱す。未だ幾くならず

して、張掖・敦煌・西平・枹罕を攻め、皆之に克ち、盡く河西五郡の地を有す。

【四三】庾信は梁より關に入り、
文名有り。

【四四】劔口は劔門の關口。擧、
仁越に指授し、之をして劔口
に趨かしむ。未だ至らざるに、
蕭瑀、河池を以て之を拒ぐ。
遂に退却す。

【四五】昌松縣は武威郡に屬す。
今の甘肅省甘涼道古浪縣の
西。

煬帝、左禦衛大將軍涿郡の留守薛世雄に詔し、燕の地の精兵三萬を將ゐて、李密を討たしめ、王

世充等諸將に命じて、皆、世雄の節度を受け、過ぐる所の盜賊は、便に隨つて誅翦せしむ。世雄、行き

て河間に至り、(四六)七里井に軍す。竇建徳の士衆・惶懼す。悉く諸城を拔きて南に遁れ、『還りて豆子航

に入らん』と聲言す。世雄以爲へらく己を畏ると。復た備を設けず。建徳、還りて之を襲はんと謀る。

其處、世雄の營を去ること百四十里。建徳、敢死の士二百八十人を帥ゐて先づ行き、餘衆をして續ぎ

て發せしむ。建徳、其士衆と約して曰はく、『夜至らば則ち其營を撃たん。已に明けなば則ち之に降

らん』と。未だ至らざること一里所にして、天、明けんと欲す。建徳・惶惑し、降らんと議す。會、天

大に霧ふり、人、咫尺にして、相辨せず。建徳喜びて曰はく、『天、我を

贊くるなり』と。遂に突きて其營に入り、之を撃つ。世雄の士卒大に亂れ、

皆柵に騰りて走る。世雄、禁する能はず。左右數十騎と、遁れて涿郡に歸る。慙恚して病を發して卒

す。建徳遂に河間を圍む。

八月己卯、雨霽る。庚辰、李淵、軍中に命じて、鎧仗・行装を曝さしむ。辛巳旦、東南して山足の細

道に由りて霍邑に趣く。淵、宋老生が出でざらんことを恐る。李建成・李世民曰はく、『老生は勇にし

て謀無し。輕騎を以て之を挑まば、理、出でざる無からん。脱し其れ固守せば、則ち誣ふるに我に貳

あるを以てせん。彼、左右の奏する所と爲らんことを恐れ、安んぞ敢て出でざらんや』と。淵曰はく、

隋恭皇帝義寧元年

六二七

「汝、之を測ること善し。老生、賈胡に逆へ戦ふ能はざりき。吾、其の能く爲す無きを知るなり」と。淵、數百騎と與に、先づ霍邑城の東數里に至り、以て歩兵を待ち、建成・世民をして、數十騎を將りて、城下に至り、鞭を擧げて指麾すること、將に城を圍まんとするの狀の若くし、且つ之を詭らしむ。老生怒り、兵三萬を引き、東門・南門より、道を分ちて出づ。淵、殷開山をして、趣して後軍を召さしむ。後軍至る。淵、軍士をして先づ食して戦はしめんと欲す。世民曰はく、「時、失ふ可からず」と。淵乃ち建成と與に城東に陳し、世民、城南に陳す。淵、建成、戦うて小しく却く。世民、軍頭、臨淄の段志玄と與に、南原より、兵を引きて馳せ下り、老生の陳を衝き、其背に出づ。世民、手づから數十人を殺し、兩刀皆缺け、流血、袖に滿つ。之を灑ぎて復た戦ふ。淵の兵復た振ふ。因つて傳呼して曰はく、「已に老生を獲たり」と。老生の兵大に敗る。淵の兵先づ其門に趣く。門閉づ。老生、馬より下りて塹に投ず。劉弘基、就きて之を斬る。僵尸數里。日已に暮る。淵即ち命じて城に登らしむ。時に攻具無し。將士肉薄して登り、遂に之に克つ。淵、霍邑の功を賞す。軍吏、奴の募に應ずる者は良人と同じきを得ざるを疑ふ。淵曰はく、「矢石の間は、貴賤を辨せず。勳を論ずるの際、何ぞ等差有らんや。宜しく竝に本勳に従つて授くべし」と。壬午、淵、霍邑の吏民を引見し、勞賞すること西河の

【四六】淵が賈胡堡に屯する時、老生、逆へ戦ふ能はざりしを謂ふ。
 【四七】軍頭。新唐志に曰はく、武德元年、鷹揚郎將を改めて軍頭と曰ふと。蓋し兵を起すの初め、已に軍頭を置くなり。後、又、軍頭を改めて驃騎將軍と爲す。
 【四八】臨淄縣は北海郡に屬す。

如し。其丁壯を選び、軍に關中に從はしむ。軍士の歸らんと欲する者は、竝に五品の散官を授け、遣り歸す。或るひと諫むるに官の太だ濫なるを以てす。淵曰はく、「隋氏、勳賞を吝惜せり。此れ人心を失ひし所以なり。奈何ぞ之に效はん。且つ衆を收むるに官を以てせば、兵を用ふるに勝へざらんや」と。丙戌、淵、臨汾郡に入る。慰撫すること霍邑の如し。庚寅、鼓山に宿す。絳郡の通守陳叔達拒ぎ守る。辛卯、進み攻めて之に克つ。叔達は陳の高宗の子、才學有り。淵、禮して之を用ふ。癸巳、淵、龍門に至る。劉文靜・康鞘利、突厥の兵五百人・馬二千匹を以て來り至る。淵、其の來り、緩くるを喜び、文靜に謂つて曰はく、「吾、西行して河に及び、突厥始めて至り、兵少く馬多し。皆、君が命を將ふの功なり」と。汾陽の薛大鼎、淵に説く、「請ふ河東を攻むる勿く、龍門より直に河を濟り、永豐倉に據り、檄を遠近に傳へよ。關中、坐して取る可きなり」と。淵將に之に従はんとす。諸將、先づ河東を攻めんと請ふ。乃ち大鼎を以て大將軍府の察非掾と爲す。河東縣の戶曹任瓌、淵に説きて

【四九】煬帝、散職九大夫を置く、朝請大夫は正五品、朝散大夫は從五品。
 【五〇】既に其歸志に順ひ、又、以て關中の士民の心を動かすなり。
 【五一】臨汾。郡は、舊、平陽縣、今の山西省河東道臨汾縣。
 【五二】鼓山。絳郡の北に在り。
 【五三】絳郡。煬帝、絳州を改めて絳郡と爲す。今の山西省河東道新絳縣。
 【五四】龍門縣は河東郡に屬す。
 【四五】今の山西省河東道河津縣西。
 【五五】綏。一本には授に作る、從ふべし。
 【五六】汾陽。當に汾陰に作るべし。
 【五七】察非掾。之をして姦非を察せしむるなり。漢の刺姦掾の若し。
 【五八】河東縣は河東郡を帶ぶ。舊、蒲坂と曰ふ。開皇十六年、名を改む。今の山西省河東道永濟縣治。隋の制、縣に金戸兵法士等の曹佐を置く。

曰はく、「關中の豪傑、皆、踵を企てて以て義兵を待つ。(五九) 瓌、馮翊に在ること積年、其豪傑を知る。請ふ往きて之を諭さん。必ず風に從つて靡かん。義師、(六〇) 梁山より河を濟り、(六一) 韓城を指し、郃陽に逼らば、蕭造は文更なれば、必ず當に塵を望みて服を請ふべく、孫華の徒は、皆當に遠く迎ふべし。然る後鼓行して進み、直に永豐に據らば、未だ長安を得ずと雖も、關中固より已に定まらん」と。淵悅び、瓌を以て(六二) 銀青光祿大夫と爲す。時に關中の羣盜、孫華最も彊し。丙申、淵、(六三) 汾陰に至り、書を以て之を招く。己亥、淵進みて(六四) 壺口に軍す。河濱の民、舟を獻する者、日に百を以て數ふ。仍て水軍を置く。壬寅、孫華、郃陽より、輕騎にて河を渡り、淵に見ゆ。淵、手を握りて與に坐し、之を慰獎す。華を以て(六五) 左光祿大夫・武鄉縣公と爲し、(六六) 馮翊の太守を領せしめ、其徒、功有る者は、華に委ねて次を以て官を授けしめ、賞賜甚だ厚し。之をして先づ濟らしめ、繼ぎて左右統軍王長諧・劉弘基及び左領軍の長史陳演壽。(六七) 金紫光祿大夫史大奈を遣はし、步騎六千を將ゐて、梁山より濟り、河西に營し、以て大軍を待たしむ。任瓌を以て招慰大使と爲す。瓌、韓城を説きて之を下す。淵、長諧に謂つて曰はく、「屈

【五九】 瓌、仁壽中、馮翊の韓城尉と爲る。

【六〇】 梁山。韓城縣の界に在り、河に臨む。

【六一】 韓城郃陽。二縣、皆、馮翊郡に屬す。今、陝西省關中道に屬す。

【六二】 隋の制、銀青光祿大夫は散職、從三品。

【六三】 汾陰縣は、河東郡に屬す。

【六四】 壺口。今の山西省河東道鄉寧縣の西に在り。

【六五】 隋の制、左光祿大夫は散職、正二品。

【六六】 馮翊。縣、後魏、華陰と曰ふ。西魏改めて武鄉と曰ふ。

【六七】 大業の初め、改めて馮翊と曰ふ。今、開皇の舊縣の名を以て華を封す。

【六八】 金紫光祿は散職、正三品。

突通は、精兵、少からず、相去ること五十餘里、敢て來り戰はず。其衆之が用を爲さざるを明かにするに足る。然れども通、罪を畏れ、敢て出でずんばあらず。若し自ら河を濟りて卿等を撃たば、則ち我進みて河東を攻めん。必ず守る能はざらん。若し至軍、城を守らば、則ち卿等、其(六九) 河梁を絶ち、前は其喉を扼し、後は其背を拊て。彼、走らずんば、必ず擒と爲らん」と。驍果の煬帝に從つて江都に在る者、多く逃れ去る。帝、之を患へ、以て表矩に問ふ。對へて曰はく、「人情、匹偶有るに非ざれば、以て久しく處り難し。請ふ軍士が此に於て室を納るるを聽さん」と。帝、之に從ふ。九月、悉く江都の境内の寡婦・處女を召し、宮下に集め、將士の取る所を恣にする。或は先づ與に姦する者は、自首するを聽し、即ち以て之に配す。(七〇) 武陽の郡丞元寶藏、郡を以て李密に降る。甲寅、密、寶藏を以て上柱國・武陽公と爲す。寶藏、其客 鉅鹿の魏徵をして啓を爲りて密に謝せしめ、且つ、武陽を改めて魏州と爲さんと請ひ、又、所部を帥ゐて西のかた(七一) 魏郡を取り・南のかた諸將を會して(七二) 黎陽倉を取らんと請ふ。密喜び、即ち寶藏を以て魏州總管と爲し、魏徵を召して元帥府の文學參軍と爲し、記室を掌らしむ。微、少きとき孤貧、好みて書を読み、大志有り、(七三) 落拓として生業を事とせず。始め道士と爲る。寶藏、召して書記を典らしむ。密、其文辭を愛す、故に之を

【六九】 河梁。蒲津橋を謂ふ。

【七〇】 武陽。煬帝、魏州を改めて武陽郡と爲す。

【七一】 鉅鹿縣は襄國郡に屬す。今の直隸省大名道鉅鹿縣北。

【七二】 魏郡。煬帝、相州を改めて魏郡と爲す。

【七三】 黎陽倉。汲郡黎陽縣(今の河南省河北道滑縣の東北)に在り。

【七四】 落拓。廣大なる貌。

召す。初め (七四) 貴郷の長弘農の魏德深、政を爲すこと清靜に、嚴ならずして治まる。遼東の役に、徵稅百端にして、使者 (七五) 旁午し、成を郡縣に責む。民、命に堪へず。唯だ貴郷の閭里のみ擾れず、有無相通じ、其力を竭さず、求むる所皆給す。元寶藏、詔を受けて賊を捕へ、數、器械を調し、動もすれば軍法を以て事に従ふ。其鄰城の營造、皆、聽事に聚まる。官吏遞に相督責し、晝夜喧囂すれども、猶ほ、濟す能はず。德深、便に隨つて修營するを聽し、官府寂然として、恆に、事無きが若く、唯だ吏を戒むるに、須く餘縣に過勝して百姓をして勞苦せしむべからざるを以てす。然れども民各、自ら心を竭し、常に諸縣の最と爲る。民、之を愛すること父母の如し。寶藏深く其能を害み、千兵を將ゐて東都に赴かしむ。領する所の兵、寶藏が密に降るを聞き、其親戚を思ひ、輒ち都門を出で、東に向ひ慟哭して返る。或るひと之に、密に降らんことを勸む。皆泣きて曰はく、『我、魏明府と同じく來る。何ぞ弃て去るに忍びんや』と。河南・山東・大水あり、餓殍、野に滿つ。煬帝詔して、黎陽倉を開きて之を賑はす。吏、時に給せず、死する者日に數萬人。徐世勣、李密に言つて曰はく、『天下大に亂るるは、本、饑饉の爲めなり。今更に黎陽倉を得ば、大事濟らん』と。密、世勣を遣はし、麾下五千人を帥る、(七六) 原武より河を濟り、元寶藏・郝孝德・李文相及び (七七) 洹水の賊帥張升・清河の賊帥趙君德に會し、共に襲うて黎陽倉を破りて之に據

【七四】 貴郷縣は武陽郡を帶ぶ。今の直隸省大名道元城縣東。
【七五】 旁午。縱横交錯する也。
【七六】 原武縣は滎陽郡に屬す。今の河南省河北道原武縣。
【七七】 洹水縣は魏郡に屬す。今の直隸省大名道大名縣西。

る。倉を開き、民が食に就くを恣にす。洹旬の間に、勝兵二十餘萬を得。 (七八) 武安。永安。義陽。弋陽。齊郡、相繼ぎて密に降る。寶建德・朱祭の徒、亦使を遣はして密に附く。密、(七九) 祭を以て楊州總管・鄧公と爲す。泰山の道士徐洪客、書を密に獻じ、以爲はく、『大衆久しく聚まらば、恐らくは米盡き人散せん。師老い戰を厭はば、功を成す可きこと難し』と。密に勸む、『進取の機に乗じ、士馬の銳きに因り、流に沿うて東に指し、直に江都に向ひ、獨夫を執取し、天下に號令せよ』と。密、其言を壯とし、書を以て之を招く。洪客、竟に出でず。之く所を知るもの莫し。乙卯、張綸、龍泉、文成等の郡を徇へ、皆、之を下し、文成の太守鄭元璠を獲たり。元璠は (八〇) 譯の子なり。

【七八】 武安。煬帝、洛州を改めて武安郡と爲す。
【七九】 永安。黃州を永安郡と爲す。
【八〇】 義陽郡、齊梁、司州と曰ふ。後魏、郢州と曰ふ。後周、申州と改む。大業二年、義州と改め、又改めて郡と爲す。
【八一】 弋陽。光州を改めて弋陽郡と爲す。
【八二】 齊郡。齊州を改めて齊郡と爲す。
【八三】 祭を以て揚州を總管せしめ、而して爵鄧公と爲す。
【八四】 龍泉。煬帝、隰州を改めて龍泉郡と爲し、隰州縣に治す。今の山西省河東道隰縣。
【八五】 文成。汾州を改めて文成郡と爲し、吉昌縣に治す。今の山西省河東道吉縣なり。文成は起居注には文成に作る、下同じ。
【八六】 鄭譯は、隋の文帝の業を成せる者。

屈突通、虎牙郎將桑顯和を遣はし、驍果數千人を將ゐて、夜、王長諧等の營を襲ふ。長諧等、戰、利あらず。孫華・史大奈、遊騎を以て後より顯和を撃ち、大に之を破る。顯和、脱れ走りて城に入り、仍ほ自ら河梁を絶つ。丙辰、馮翊の太守蕭造、李淵に降る。造は脩の子なり。戊午、淵、諸軍を帥ゐて

河東を圍む。屈突通、城に嬰りて自ら守る。將佐復た淵を推して太尉を領し、官屬を増置せしむ。淵、之に従ふ。時に河東未だ下らず。三輔の豪傑、至る者日に千を以て數ふ。淵、兵を引き西して長安に趣かんと欲す。猶豫して未だ決せず。裴寂曰はく、「屈突通、大衆を擁して堅城に憑る。吾、之を捨て去り、若し長安を攻めて、克たずんば、退きて河東の踵む所と爲り、腹背に敵を受けん。此れ危道なり。若かじ、先づ河東に克ち、然る後西上せんには、長安は通を恃みて援と爲す。通敗れば、長安必ず破れん」と。李世民曰はく、「然らず。兵は神速を貴ぶ。吾、累勝の威に席り、歸順の衆を撫し、鼓行して西せば、長安の人、風を望みて震駭せん。智も謀るに及ばず、勇も斷するに及ばじ。之を取ること槁葉を振ふが若くならんのみ。若し淹留して自ら堅城の下に弊れば、彼、謀を成し備を脩めて以て待つを得ん。我坐ながら日月を費し、衆心離沮せば、則ち大事去りなん。且つ關中の蜂起の將、未だ屬する所有らず。早く招懷せざる可からざるなり。屈突通は自ら守るの虜のみ。慮と爲すに足らず」と。淵、兩つながら之に従ひ、諸將を留めて河東を圍ましめ、自ら軍を引き西す。朝邑の法曹武功の靳孝謨、蒲津・中潭二城を以て降る。華陰の令李孝常、永豐倉を以て降り、仍ほ河西の諸軍に應接す。孝常は、圓通の子なり。京兆の諸縣も亦多く使を遣はして、降らんと請ふ。

【八七】 朝邑縣は馮翊郡に屬す。今の陝西省關中道朝邑縣。其地、蒲津橋の西に當る。唐、河西縣と改む。大河に架して橋と爲す。故に中潭有り。

【八八】 華陰縣は京兆郡に屬す。今の陝西省關中道華陰縣。

【八九】 李圓通は開皇の初に寵任せらる。

王世充・韋叡・王辯及び河内の通守孟善誼、河陽の郡尉獨孤武都、各所領を帥ゐて東都に會す。唯だ、王隆、期に後れて至らず。己未、越王侗、虎賁郎將劉長恭等をして、留守の兵を帥ゐ、龐玉等をして、偃師の兵を帥ゐしめ、世充等と、十餘萬の衆を合はせ、李密を洛口に撃つ。密と洛水を夾みて相守る。煬帝、諸軍に詔して、皆、世充の節度を受けしむ。帝、攝江都郡丞、馮慈明を遣はし、東都に向はしむ。密の獲る所と爲る。密、素より其名を聞き、坐に延きて勞問し、禮意甚だ厚し。因つて謂つて曰はく、「隋祚已に盡く。公能く孤と與に大功を立てんか」と。慈明曰はく、「公の家、先朝に歴史し、榮祿兼ね備はり、善く門閥を守る能はず、乃ち玄感と與に兵を擧げ、偶罔羅を脱れ、今日有るを得、唯だ反噬を圖る。未だ高旨を諷らす。莽・卓・敦・玄、彊盛ならざるに非ざれども、一朝に夷滅し、罪、祖宗に及べり。僕、死して後已む。敢て命を聞かず」と。密怒りて之を囚ふ。慈明、防人席務本に説き、亡げ走らしめ、表を江都に奉り、及び書を東都に致し、賊の形勢を論す。雍丘に至り、密の將李公逸の獲る所と爲る。密、又、義として之を釋す。出でて營門に至る。翟讓、之を殺す。慈明は、子琮の子なり。

【九〇】 河陽は郡に非ざるなり。隋の制、舊、兵有る處は、州の刺史、諸軍事を帯びて以て之を統ぶ。煬帝、州を罷めて郡を置き、別に都尉を置いて兵を領せしめ、郡と相知らず。郡尉は當に都尉に作るべし。

【九一】 王隆、邛黃縷を帥ゐる者なり。

【九二】 馮慈明、煬帝に并省に事へ、位を朝に歴、其名夙に著る。

【九三】 莽・卓・敦・玄、王莽・董卓・王敦・桓玄。

【九四】 馮子琮は高齊に事へ、琅邪王儼の難に死す。

【九五】 是年二月、密、洛口に克つ。

密が洛口に克つや、

箕山府の郎將張季珣、固く守りて下らず。密、其の寡弱なるを以て、人を遣はして之を呼ばしむ。季珣、密を罵ること口を極む。密怒り、兵を遣はして之を攻む。克つ能はず。時に密の衆數十萬、其城下に在り。季珣、四面阻絶せられ、領する所、數百人に過ぎず。而れども志を執ること彌、固く、誓ふに必死を以てす。之を久しくして、糧盡き、水竭き、士卒羸病す。季珣、之を撫循す。一も離叛する無し。三月、是月に至り、城遂に陥る。季珣、密を見、肯て拜せずして曰はく、「天子の爪牙、何ぞ賊を拜す容けん」と。密、猶ほ之を降さんと欲し、誘諭すれども終に屈せず。乃ち之を殺す。季珣は、祥の子なり。

庚申、李淵、諸軍を帥めて河を濟る。甲子、朝邑に至り、長春宮に舍す。關中の士民、之に歸する者市の如し。丙寅、淵、世子建成、司馬劉文静を遣はし、王長諧等の諸軍數萬人を帥め、永豐倉に屯し、潼關を守らしめ、以て東方の兵に備ふ。慰撫使竇軌等、其節度を受く。敦煌公世民をして、劉弘基等諸軍數萬人を帥め、渭北を徇へしむ。慰撫使殷開山等、其節度を受く。軌は琮の兄なり。冠氏の長于志寧、安養の尉顏師古及び世民の婦兄長孫無忌、淵に長春宮に謁見す。師古、名は籀、字を以て行はる。志寧は、宣敏の兄の子、師古は、之推の孫なり。

- 【九六】 大業十二年、箕山・公路二府を移し、洛口倉を守らしむ。
- 【九七】 城は原上に在り、汲道、通ぜず。
- 【九八】 漢王諒、兵を擧ぐるや、張祥、井陘を守りて、下らず。
- 【九九】 長春宮は朝邑縣に在り。
- 【一〇〇】 冠氏安養。春秋の邑名。隋、館陶の東界を分ち、冠氏縣を置き、武陽郡に屬す。安養縣は襄陽郡に屬す。
- 【一〇一】 于宣敏は一百七十五卷陳の宣帝太建十三年に見ゆ。
- 【一〇二】 顔之推は一百七十三卷陳の宣帝太建九年に見ゆ。

皆、文學を以て名を知らる。無忌仍ほ才略有り。淵皆禮して之を用ひ、志寧を以て記室と爲し、師古を朝散大夫と爲し、無忌を渭北行軍典籤と爲す。屈突通、淵が西に入るを聞き、鷹揚郎將湯陰の堯君素を署して、河東の通守を領せしめ、蒲坂を守らしめ、自ら兵數萬を引き、長安に趣き、劉文静の遏むる所と爲る。將軍劉綱、潼關に成し、都尉の南城に屯す。通、往きて之に依らんと欲す。王長諧、先づ兵を引き、襲うて綱を斬り、城に據りて以て通を拒ぐ。通退きて北城に保す。淵、其將呂紹宗等を遣はし、河東を攻めしむ。克つ能はず。柴紹が長安より太原に赴くや、其妻李氏に謂つて曰はく、「尊公、兵を擧ぐ。今偕に行くは則ち不可なり。此に留まらば則ち禍に及ばん。奈何せん」と。李氏曰はく、「君、弟だ速かに行け。我は一婦人なり。以て潜匿し易し。當に自ら計を爲すべし」と。紹遂に行く。李氏、鄠縣の別墅に歸り、家貲を散じて徒衆を聚む。淵の從弟神通、長安に在り。亡げて鄠縣の山中に入り、長安の大俠史萬寶等と與に、兵を起して以て淵に應ず。西域の商胡何潘仁、司竹園に入りて盜を爲す。衆數萬有り。前の尙書右丞李綱を劫して長史と爲す。李氏、其奴馬三寶をして潘仁に説かしめ、之と與に神通に就き、勢を合はせ鄠縣を攻めて之を下す。

- 【一〇三】 朝散大夫。隋の散職、從五品なり。
- 【一〇四】 親王府より州郡に至るまで、皆、典籤有り。
- 【一〇五】 湯陰縣は汲郡に屬す。
- 【一〇六】 隋の河東郡は河東縣に治す、古の蒲坂なり。
- 【一〇七】 隋の潼關には守兵有り、故に都尉を置く。
- 【一〇八】 是年五月、紹、太原に赴く。
- 【一〇九】 弟。弟と通ず。
- 【一一〇】 鄠縣。京兆郡に屬す。
- 【一一一】 司竹園。今の陝西省關中道盤屋縣に在り。

す。神通の衆、一萬に逾ゆ。自ら關中道行軍總管と稱し、前の樂城の長令狐德榮を以て記室と爲す。德榮は熙の子なり。李氏、又、馬三寶をして、羣盜李仲文・向善志・丘師利等に説かしむ。皆、衆を帥ゐて之に従ふ。仲文は密の從父、師利は和の子なり。西京の留守屢、兵を遣はし、潘仁等を討ち、皆、敗る所と爲る。李氏、藍屋・武功・始平を徇へ、皆、之を下す。衆、七萬に至る。左親衛段綸は、(二二) 文振の子なり。淵の女を娶る。亦、徒を藍田に聚め、萬餘人を得。淵が河を濟るに及び、神通・李氏・綸、各、使を遣はして淵を迎ふ。淵、神通を以て(二七) 光祿大夫と爲し、子道彥を朝請大夫と爲し、綸を金光祿大夫と爲す。柴紹をして數百騎を將ゐて(二八) 南山に竝うて李氏を迎へしむ。何潘仁・李仲文・向善志及び關中の羣盜、皆、降を淵に請ふ。淵、一一、書を以て慰勞し、官を授け、各、をして其所に居り、敦煌公世民の節度を受けしむ。(二九) 刑部尚書領京兆內史衛文昇、年老いたり。淵の兵が長安に向ふを聞き、憂懼して疾を成し、復た事に預からず。獨り左翊衛將軍陰世師・京兆郡丞骨儀、代王侑を奉じ、城に乗りて拒ぎ守る。己巳、淵、蒲津に如き、庚午、(三〇) 臨晉より渭を濟り、永豐に至り、軍を勞ひ、倉を開きて飢民を賑はす。辛未、

【二二】樂城。信安郡に樂城縣有り。又、河間郡樂壽縣は、舊樂城と曰ふ。

【二三】令狐熙は宇文氏に事へて、勞績を河西に著はす。

【二四】丘和は饋食を以て煬帝の寵用する所と爲る。

【二五】段文振は一百八十一卷大業八年に見ゆ。

【二六】藍田縣は京兆郡に屬す。

【二七】隋の散職、光祿は從一品、金紫は正三品、朝請は正五品。

【二八】南山。華山より、南のかた藍屋・鄠杜の諸山に接す、皆長安の南山なり。

【二九】煬帝、京兆河南尹を改めて内史と爲す。

【三〇】朝邑は古の臨晉の地。

長春宮に還る。壬申、進みて馮翊に屯す。世民の至る所、吏民及び羣盜、之に歸すること流るが如し。世民、其豪俊を收め、以て僚屬に備へ、涇陽に營す。勝兵九萬。李氏、精兵萬餘を將ゐて、世民に渭北に會す。柴紹と、各、幕府を置き、娘子軍と號す。是より先、平涼の奴賊數萬、扶風の太守竇璡を圍む。數月、下らず。賊中、食盡く。丘師利、其弟行恭を遣はし、五百人を帥ゐて、米麥を負ひ、牛酒を持し、奴賊の營に詣らしむ。奴帥・長揖す。行恭手づから之を斬り、其衆に謂つて曰はく、「汝が輩は皆良人なり。何が故に奴に事へて主と爲し、天下をして之を奴賊と謂はしむる」と。衆皆俯伏して曰はく、「願はくは改めて公に事へん」と。行恭即ち其衆を帥ゐ、師利と共に世民に渭北に謁す。世民、以て光祿大夫と爲す。璡は琮の從子なり。隰城の尉房玄齡、世民に軍門に謁す。世民、一見して舊識の如く、記室參軍に署し、引きて謀主と爲す。玄齡も亦自ら以爲へらく知己に遇へりと。心力を罄竭し、知れば爲さざる無し。淵、劉弘基・殷開山に命じ、兵を分ちて、西して扶風を略せしむ。衆六萬有り。南して渭水を度り、長安の故城に屯す。城中出で戰ふ。弘基逆へ撃ちて之を破る。世民、兵を引きて司竹に趣く。李仲文・何潘仁・向善志、皆、衆を帥ゐて之に従ふ。(三一) 阿城に頓す。勝兵十三萬。軍令嚴整にして、秋毫も犯さず。乙亥、世民、藍屋より、使を遣はして淵に白し、期日を請ひ、長安に赴かんとす。淵曰はく、「屈突・東行す。復た西する能はず。虞るに足らず」と。乃ち建成に命じて倉上の精兵を選び、

【三一】馮翊縣は郡を帶ぶ。

【三二】阿城。即ち秦の阿房宮城。

(二二) 新豐より、(二四) 長樂宮に趣かむ。世民、新附の諸軍を帥る、(二五) 北して長安の故城に屯す。(二六) 至れば竝に教を聽く。延安・上郡・雕陰、皆、降を淵に請ふ。丙子、淵、軍を引きて、(二七) 西行す。過ぐる所の離宮園苑、皆、之を罷め、宮女を出して其親屬に還す。冬十月辛巳、淵、長安に至り、(二八) 春明門の西北に營す。諸軍皆集まる。合はせて二十餘萬。淵、命じて各、壘壁に依らしめ、村落に入りて侵暴するを得る母らしむ。屢、使を遣はして城下に至り、衛文昇等に諭すに、隋を尊ばんと欲するの意を以てす。報せず。辛卯、諸軍に命じて、進みて城を圍ましむ。甲午、淵、遷りて、(二九) 安興坊に館す。

【二三】 新豐縣は京兆郡に屬す。
 【二四】 長樂宮。漢の故宮なり。
 【二五】 熱屋より長安に趣く、故に之を北と謂ふ。
 【二六】 竝に期する所の地に至り、教令を聽く。
 【二七】 馮翊より西に行く。
 【二八】 春明門。長安城の東面の三門の中門なり。
 【二九】 安興坊。蓋し安興門外に在り。長安城の東面の三門は通化・春明・安興なり。
 【三〇】 巴陵郡、梁、巴州を置く。
 【三一】 蕭巖が陳に奔る事、開皇八年に見ゆ。殺さるる事、九年に見ゆ。
 【三二】 潁川。煬帝、許州を改めて潁川郡と爲す。

巴陵の校尉鄱陽の董景珍・雷世猛・旅帥鄧文秀・許玄徹・萬瓚・徐德基・郭華、(三三) 沔陽の張繡等、郡に據りて隋に叛かんと謀り、景珍を推して主と爲さんとす。景珍曰はく、「吾は素寒賤にして、衆の服する所と爲らず。(三四) 羅川の令、蕭銑は、梁室の後にして、寛仁大度なり。請ふ之を奉じて以て衆望に従はん」と。乃ち使を遣はして銑に報す。

銑喜びて之に従ふ。賊を討つと聲言し、召募して數千人を得たり。銑は、(三五) 巖の孫なり。會、潁川の賊帥沈柳生、羅川に寇す。銑、與に戦ひ、利あらず。因つて其衆に謂つて曰はく、「今、天下皆叛き、隋の政、行はれず。巴陵の豪傑、兵を起し、吾を奉じて主と爲さんと欲す。若し其請に従つて以て江南に號令せば、以て梁祚を中興す可からん。此を以て柳生を召さば、亦當に吾に従ふべし」と。衆皆悦びて命を聽く。乃ち自ら梁公と稱し、隋の服色・旗幟を改め、皆、梁の舊の如くす。柳生、即ち衆を帥るて之に歸す。柳生を以て車騎大將軍と爲す。兵を起して五日、遠近歸附する者、數萬人に至る。遂に衆を帥るて巴陵に向ふ。景珍、徐德基を遣はし、郡中の豪傑數百人を帥るて出で迎へしむ。未だ銑を見るに及ばず。柳生、其黨と謀りて曰はく、「我先づ梁公を奉じ、勳、第一に居る。今、巴陵の諸將は、皆、位高く兵多し。我若し城に入らば、返つて其下に出でん。如かず、德基を殺し、其首領を質とし、獨り梁公を挾みて、進みて郡城を取らんには、則ち我が右に出づる者無からん」と。遂に德基を殺し、入りて銑に白す。銑大に驚きて曰はく、「今、亂を撥ひて正に反さんと欲す。忽ち自ら相殺す。吾、若が主たる能はず」と。因つて歩いて軍門を出づ。柳生、大に懼れ、地に伏して罪を請ふ。銑、責めて之を赦し、兵を陳ねて城に入る。景珍、銑に言つて曰はく、「徐德基は、建義の功臣なり。而るに柳生、故無くして、擅に之を殺せり。此にして誅せずんば、何を以てか政を爲さ

ん。且つ柳生、盜を爲すこと日久し。今、義に従ふと雖も、凶悖、移らず。共に一城に處らば、勢必ず變を爲さん。今を失うて、取らずんば、後に悔ゆとも及ぶ無からん」と。銑、又、之に従ふ。景珍、柳生を收へて之を斬る。其徒皆潰え去る。丙申、銑、壇を築きて燔燎し、自ら梁王と稱し、鳴鳳と改元す。

壬寅、王世充、夜、洛水を度り、黒石に營す。明日、兵を分ちて營を守り、自ら精兵を將ゐて洛北に

陳す。李密、之を聞き、兵を引きて洛を度りて逆へ戦ふ。密の兵大に敗れ、

柴孝和溺れ死す。密、麾下の精騎を帥ゐて洛南に度り、餘衆、東して

月城に走る。世充、追うて之を圍む。密、洛南より、馬に策うちて直に黒

石に趣く。營中懼れ、連に六烽を擧ぐ。世充、月城の圍を釋き、狼狽して

自ら救ふ。密、還りて與に戦ひ、大に之を破り、首を斬ること三千餘級。

甲辰、李淵、諸軍に命じて城を攻めしめ、「七廟及び代王の宗室を犯すを得る母れ。違ふ者は三族を

夷げん」と約す。孫華、流矢に中りて卒す。十一月丙辰、軍頭雷永吉、先登し、遂に長安に克つ。代

王、東宮に在り。左右奔り散す。唯だ侍讀姚思廉、側に侍す。軍士將に殿に登らんとす。思廉、聲を

厲まして之を訶し、曰はく、「唐公、義兵を擧げ、帝室を匡す。卿等、禮無きを得る母れ」と。衆皆愕

然として、庭下に布立す。淵、王を東宮より迎へ、遷りて大興殿の後に居らしむ。思廉が王を扶

ぐるを聽す。順陽の閣下に至り、泣拜して去る。思廉は(三三) 察の子なり。淵、還りて長樂宮に舍し、民

と法十二條を約し、悉く隋の苛禁を除く。淵が兵を起すや、留守官、其墳墓を發き、(三五) 其五廟を毀

つ。是に至りて、衛文昇已に卒す。戊午、陰世師・骨儀等を執へ、數むるに貪婪苛酷にして、且つ義

師を拒ぐを以てし、俱に之を斬る。死する者十餘人。餘は問ふ所無し。馬邑の郡丞(二四) 三原の李靖、

素より淵と隙有り、淵、城に入り、將に之を斬らんとす。靖、大呼して曰は

く、「公、義兵を興し、暴亂を平げんと欲す。乃ち私怨を以て壯士を殺す

か」と。世民、之が爲めに固く請ふ。乃ち之を捨す。世民因つて召して幕

府に置く。靖、少きとき志氣を負ひ、文武の才略有り。其舅韓擒虎、毎に

之を撫して曰はく、「與に將帥の略を言ふ可き者は、獨り此子のみ」と。

王世充、洛北の敗より、壁を堅くして出でず。越王侗、使を遣はして之

を勞ふ。世充慙ち懼れ、戦を密に請ふ。丙辰、世充、密と、石子河を夾みて陳す。密、陳を布くこと

南北十餘里。翟讓先づ世充と戦ひ、利あらずして退く。世充、之を逐ふ。王伯當・裴仁基、旁より横

さまに其後を斷ち、密、中軍を勸して之を撃つ。世充大に敗れて西に走る。翟讓の司馬王儒信、讓に

自ら大冢宰と爲り、衆務を總統し、以て密の權を奪はんことを勸む。讓、從はず。讓の兄柱國榮陽公弘

は、粗愚の人なり。讓に謂つて曰はく、「天子は汝當に自ら爲るべし。奈何ぞ人に與へんや。汝、爲ら

【三三】姚察は陳に事へ、文義を以て稱せらる。

【三五】隋の制、諸公は五廟を立つ。

【二四】三原縣は京兆郡に屬す。今の陝西省關中道三原縣煬

帝、朔州を馬邑郡と改む。

【三六】月城。蓋し洛水に臨みて、偃月城を築き、倉城と相應す。

【三七】大興殿。隋宮の正殿なり、未だ尊位に即かず、故に殿後に居る。

すば、我當に之と爲るべし」と。讓但だ大に笑ひ、以て意と爲さず。密、聞きて之を惡む。總管崔世樞、
 鄆陵より、初めて密に附くや、讓、之を私府に囚へ、其貨を責む。世樞、營求すれども未だ辦せ
 ず。遂に刑を加へんと欲す。讓、元帥府の記室邢義期を召して博す。遂巡して未だ就かず。之を杖
 つこと八十。讓、左長史房彥藻に謂つて曰はく、「君、前に 汝南を破り、大に寶貨を得たり。獨り魏
 公に與へ、全く我に與へざりき。魏公は我の立つる所なり。事未だ知る可からず」と。彥藻懼れ、狀
 を以て密に告ぐ。因つて左司馬鄭頰と共に密に説きて曰はく、「讓は貪悞不
 仁にして、君を無みするの心有り。宜しく早く之を圖るべし」と。密曰は
 く、「今、安危未だ定まらず。遂に相誅殺せば、何を以て遠きに示さん」
 と。頰曰はく、「毒蛇、手を螫せば、壯士、腕を解く。全くする所の者大
 なるが故なり。彼先づ志を得ば、悔ゆとも及ぶ無からん」と。密乃ち之
 に從ふ。置酒して讓を召す。戊午、讓、兄弘及び兄の子司徒府の長史摩侯と、同じく密に詣る。密、
 讓・弘・裴仁基・郝孝徳と共に坐す。單雄信等皆立侍す。房彥藻・鄭頰、往來檢校す。密曰はく、「今日、
 達官と飲す。多人を須ひず。左右止だ給使を留めんのみ」と。密の左右皆引き去る。讓の左右猶
 ほ在り。彥藻、密に白して曰はく、「今方に樂を爲す。天時甚だ寒し。司徒の左右に、請ふ酒食を給
 せん」と。密曰はく、「司徒の進止に聽す」と。讓曰はく、「甚だ佳し」と。乃ち讓の左右を引き去て盡く

【四一】鄆陵縣は潁川郡に屬す。
 【四二】今河南省開封道鄆陵縣。
 【四三】汝南。煬帝、蔡州を改め
 て汝南郡と爲す。
 【四四】達官。顯官と言ふがこと
 し。

出づ。獨り密の下の壯士蔡建徳、刀を持して立侍す。食未だ進まず。密、良弓を出して、讓と射を習
 ふ。讓、方に滿を引く。建徳、後より之を斫る。牀前に踏る。聲、牛の吼ゆるが若し。弘・摩侯・儒信
 を并せて皆之を殺す。徐世勳、走り出づ。門者、之を斫り、頸を傷く。王伯當、遙に之を訶止す。單
 雄信、叩頭して命を請ふ。密、之を釋す。左右驚擾し、爲す所を知るもの莫し。密、大言して曰はく、
 『君等と、同じく義兵を起すは、本、暴亂を除くなり。司徒専ら貪虐を行ひ、羣僚を陵虐し、復た上
 下無し。今、誅する所は、其一家に止まる。諸君は預る無きなり』と。命
 じて徐世勳を扶けて幕下に置かじめ、親ら爲めに瘡に傳す。讓の麾下、散
 せんと欲す。密、單雄信をして前往して宣慰せしむ。密尋ぎて 獨騎に
 て其營に入り、歷く撫諭を加へ、世勳・雄信・伯當をして其衆を分ち領せし
 む。中外遂に定まる。讓は殘忍、摩侯は猜忌、儒信は貪縱なり。故に死するの日、所部、之を哀しむ
 者無し。然れども密の將佐、始めて自ら疑ふの心有り。始め王世充、讓と密と必ず久しく睦まじから
 ざるを知り、其の相圖り・從つて之に乗するを得んことを冀ふ。讓が死するを聞くに及び、大に望を
 失ひ、歎じて曰はく、「李密は天資明決なり。龍と爲り蛇と爲る、固に測る可からざるなり」と。
 壬戌、李淵、法駕を備へて代王を迎へ、皇帝の位に 天興殿に即かしむ。時に年十三。大赦し、
 改元す。遙に煬帝を尊びて太上皇と爲す。甲子、淵、長樂宮より、長安に入る。淵を以て假黃鉞・使持

【四五】獨騎。單騎と言ふが如
 し。
 【四六】天興殿。當に天興殿に作
 るべし。

隋恭皇帝義寧元年

節・大都督内外諸軍事・尚書令・大丞相と爲し、進めて唐王に封ず。武德殿を以て丞相府と爲し、教を改めて令と稱し、日に(二四)虔化門に於て事を視る。乙丑、榆林・靈武・平涼・安定の諸郡、皆、使を遣はして命を請ふ。丙寅、詔して、軍國の機務、事、大小と無く、文武、官を設くること、位、貴賤と無く、憲章賞罰、威、相府に歸し、唯だ天地を郊祀し、四時禘祫するは奏聞せしむ。丞相府の官屬を置き、裴寂を以て長史と爲し、劉文静を司馬と爲す。何潘仁、李綱をして入見せしむ。淵、之を留め、以て(二五)丞相府の司録と爲し、専ら選事を掌らしむ。又、前の考功郎中竇威を以て司録參軍と爲し、禮儀を定めしむ。威は(二六)熾の子なり。淵、府庫を傾け、以て勳人に賜ひ、國用、足らず。(二七)右光祿大夫劉世龍、策を獻じて以爲はく、「今、義師數萬、竝に京師に在り。樵蘇貴くして布帛賤し。請ふ(二八)六街及び苑中の樹を伐りて樵と爲し、以て布帛に易へん。數十萬匹を得可からん」と。淵、之に従ふ。己巳、李建成を以て唐の世子と爲し、李世民を京兆の尹・秦公と爲し、李元吉を齊公と爲す。

【二四】虔化門。大興殿前の東偏に在り。
 【二五】丞相府司録。錄は一府の事を總録するなり。隋の文帝、禪を受けてより後、復た丞相府有らず、亦、官屬無し。唐公、位を輔け、位、羣后に絶す。凡そ官屬皆復た特に之を置く。
 【二六】竇熾は隋初の三公。
 【二七】隋の散職、左右光祿は從二品。
 【二八】六街苑中。長安城中の六街苑城、漢の故都を包れ、渭水に抵る。
 【二九】郇王慶。河間王弘の子。弘は高祖の從祖弟なり。
 【三〇】梁郡。煬帝、宋州を改めて梁郡と爲す。

河南の諸郡、盡く李密に附く。唯だ滎陽の太守(三一)郇王慶、(三二)梁郡の太守楊汪、尙ほ隋の爲めに

守る。密、書を以て慶を招き、爲めに利害を陳べ、且つ曰はく、「王の家世は、本、山東に住し、本姓は郭氏にして、乃ち楊族に非ず。芝焚けて蕙歎するは、事、此に同じからず」と。初め慶の祖父元孫、早く孤にして、母郭氏に随つて舅族に養はる。(三五)武元帝が周文に従つて兵を關中に起すに及び、元孫、鄴に在り、高氏の誅する所と爲らんことを恐れ、姓郭氏を冒せり。故に密、然云ふ。慶、書を得て惶恐し、即ち郡を以て密に降り、姓を郭氏に復す。

十二月癸未、唐王淵の太父(三六)襄公を追諡して景王と爲し、考(三七)仁公

を元王と爲し、夫人(三八)竇氏を穆妃と爲す。

薛舉、其子仁果を遣はし、扶風に寇せしむ。唐弼、(三九)汧源に據りて之

を拒ぐ。舉、使を遣はして弼を招く。弼乃ち(四〇)李弘芝を殺し、降を舉に

請ふ。仁果、其の備無きに乗じ、襲うて之を破り、悉く其衆を并す。弼、

數百騎を以て走りて扶風に詣り、降を請ふ。扶風の太守竇進、之を殺す。

舉の勢益々張り、衆、三十萬と號す。長安を取らんと謀る。丞相淵が已に長安を定めしを聞き、遂に

扶風を圍む。淵、李世民をして兵を將ゐて之を撃たしむ。又、姜暮、竇軌をして、俱に(四一)散關を出

で、隴右を安撫せしめ、左光祿大夫李孝恭をして、山南を招慰せしめ、(四二)府戸曹張道源をして、山

【三一】武元帝。楊忠、武元皇帝と諡す。
 【三二】襄公。名は虎。
 【三三】仁公。名は昞。
 【三四】竇氏。毅の女。
 【三五】汧源縣は扶風郡に屬す。今の陝西省關中道汧源縣。
 【三六】唐弼が李弘芝を立つる事、百八十二卷大業十年に見ゆ。
 【三七】散關。今の陝西省關中道寶雞縣の西南に在り。
 【三八】道源は丞相府の戸曹なり。

東を招慰せしむ。孝恭は淵の從父兄の子なり。癸巳、世民、薛仁果を扶風に擊ち、大に之を破り、奔るを追うて壠坻に至りて還る。薛舉大に懼れ、其羣臣に問うて曰はく、「古より天子、降る事有るか」と。黃門侍郎（二六）錢唐の褚亮曰はく、「趙佗は漢に歸し、（二七）劉禪は晉に仕へき。（二八）近世の蕭瑄、今に至るまで猶ほ貴し。禍を轉じて福と爲すは、古より之れ有り」と。衛尉卿郝瑗趨り進みて曰はく、「陛下、問を失せり。褚亮の言、又何ぞ悖れるや。昔、漢の高祖、屢、奔敗を経、（二九）蜀の先主、亟、妻子を亡ひ、卒に大業を成せり。陛下、奈何ぞ一戦、利あらざるを以て、遽に亡國の計を爲すや」と。擧も亦之を悔いて曰はく、「聊か此を以て君等を試みるのみ」と。乃ち厚く瑗を賞し、引きて謀主と爲す。

乙未、平涼の留守張隆、丁酉、河池の太守蕭瑀及び扶風、（三〇）漢陽郡、相繼ぎて來り降る。寶進を以て工部尚書、燕國公と爲し、蕭瑀を禮部尚書、宋國公と爲す。

姜暮、寶軌、進みて（三一）長道に至る。薛舉の敗る所と爲り、引き還る。淵、（三二）通議大夫、（三三）醴泉の劉世讓をして、唐弼の餘黨を安集せしむ。擧と相遇ひ、戰敗れ、擧の虜にする所と爲る。

李孝恭、擊ちて朱粲を破る。諸將、盡く其俘を殺さんと請ふ。孝恭曰はく、「不可なり。是より以往、誰か復た肯て降らん」と。（三四）是に於て、（三五）金川より巴蜀に出で、檄書の至る所、降附する者三十餘州なり。

屈突通、劉文靜と、相持すること月餘、通復た桑顯和をして、夜、其營を襲はしむ。文靜、左光祿大夫段志玄と與に、力を悉して苦戰す。顯和、敗走す。盡く其衆を俘にす。通の勢益、蹙まる。或るひと通に、降らんことを説く。通泣きて曰はく、「吾、（三六）兩主に歴事し、恩顧甚だ厚し。人の祿を食みて、其難を違くるは、吾、爲さざるなり」と。毎に自ら其頸を摩でて曰はく、「要す當に國家の爲めに一刀を受くべし」と。將士を勞勉し、未だ嘗て流涕せずんばあらず。人も亦此を以て之に懐く。丞相淵、其家僮を遣はして之を召す。通、立ちどころに之を斬る。長安守られず、家屬皆淵の虜にする所と爲るを聞くに及び、乃ち顯和を留めて潼關に鎮せしめ、兵を引き東に出で、將に洛陽に趣かんとす。通適、去る。顯和即ち城を以て文靜に降る。文靜、寶琮等を遣はし、輕騎を將ゐて顯和と與に之を追はしむ。（三七）稠桑に及び。通、陳を結びて自ら固む。寶琮、通の子壽を遣はし、往きて之を諭さしむ。通罵りて曰はく、「此賊何ぞ來る。昔は汝と父子

【二六】錢唐縣は餘杭郡に屬す。

【二七】趙佗の事は、漢の高祖・文帝紀に見ゆ。

【二八】劉禪の事は、魏紀・晉紀に見ゆ。

【二九】蕭氏の子弟を謂ふ。

【三〇】蜀の先主云々。漢の獻帝紀に見ゆ。

【三一】漢陽郡。煬帝、成州を改めて漢陽郡と爲す。武都・仇池の地なり。

【三二】長道。漢陽郡に屬す。今の甘肅省渭川道禮縣の東南三十里に在り。

【三三】通議大夫は、隋の散職、從四品。

【三四】醴泉縣は京兆郡に屬す。今の陝西省關中道醴泉縣。

【三五】金川縣は西城郡を帶ぶ。漢の西城縣の地。今の陝西省漢中道安康縣。金川より巴中に出で、巴中より蜀に至る。

【三六】兩主。文帝・煬帝をいふ。

【三七】稠桑。今の河南省河洛道閩鄉縣の東稠桑驛有り。

たり。今は汝と仇讎たり」と。左右に命じて之を射しむ。顯和、其衆に謂つて曰はく、「今、京城已に陥る。汝が輩は皆關中の人なり。去りて何に之かんと欲する」と。衆皆仗を釋つて降る。通、免れざるを知り、馬を下りて東南に向ひ、再拜して號哭して曰はく、「臣の力屈きて此に至れり。敢て國に負くに非ず。天地神祇、實に之を知る」と。軍人、通を執へて長安に送る。淵、以て兵部尙書と爲し、爵(二)公を賜ひ、秦公の元帥府の長史を兼ねしむ。淵、通を遣はし、河東の城下に至り、堯君素を招諭せしむ。君素、通を見、獻款して自ら勝へず。通も亦泣下りて襟を濡す。因つて君素に謂つて曰はく、「吾が軍已に敗れ、義旗の指す所、響應せざるは莫し。事勢、此の如し。卿、宜しく早く降るべし」と。君素曰はく、「公、國の大臣と爲り、主上、公に委ぬるに關中を以てし、代王、公に付するに社稷を以てせり。奈何ぞ國に負きて生きながら降り、乃ち更に人の爲めに説客と作るや。公の乗る所の馬は、即ち代王の賜ふ所なり。公、何の面目ありて之に乗るや」と。通曰はく、「吁、君素、我が力屈きて來れり」と。君素曰はく、「方今力猶ほ屈きす。何ぞ多言を用ひん」と。通慙ぢて退く。

【三】蔣。古の國の名。

東都の米、斗ごとに千錢。人餓死する者什に二三。

庚子、王世充の軍士、亡げて李密に降る者有り。密問ふ、「世充の軍中、何の爲す所」と。軍士曰はく、「比、益兵を募るを見、再び將士を饗せり。其故を知らず」と。密、裴仁基に謂つて曰はく、「

『吾、幾ど奴の度中に落ちんとす。光祿、之を知るか。吾、久しく兵を出さず。世充、芻糧將に竭きんとし、戦を求むれども得ず。故に兵を募り士を饗し、月の晦きに乗じて以て倉城を襲はんと欲するのみ。宜しく速かに之に備ふべし』と。乃ち平原公郝孝徳・琅邪公王伯當・齊郡公孟讓に命じ、兵を勸して分ちて倉城の側に屯し、以て之を待たしむ。其夕三鼓、世充の兵果して至る。伯當、先づ之に遇ひ、與に戦ひ、利あらず。世充の兵即ち城を陵ぐ。總管魯儒、拒ぎて之を却く。伯當更に兵を收めて之を撃つ。世充、大に敗る。其驍將費青奴を斬る。士卒戦ひ溺れて死する者千餘人。世充、屢、密と戦ひ、勝たず。越王侗、使を遣はして之を勞ふ。世充、訴ふるに兵少く數戰ひて疲弊するを以てす。侗、兵七萬を以て之に益す。

安以西を定む。

甲辰、李淵、(二)雲陽の令詹俊・武功の縣正李仲衰を遣はし、巴蜀を徇へしめ、之を下す。

乙巳、(二)方輿の賊帥張善安、襲うて(二)廬江郡を陥れ、因つて江を度り、林士弘に

【七四】弘農郡。河南郡陝縣、舊弘農郡を置く。大業の初め、

【七五】新安縣。亦、河南郡に屬す。其の地、陝東に在り。今の河南省河洛道新安縣。

【七六】雲陽武功二縣、皆、京兆郡に屬す。雲陽は今の陝西省關中道淳化縣の西北。武功は同省同道武功縣。煬帝、縣尉を改めて縣正と爲す。

【七七】方輿縣は彭城郡に屬す。

【七八】廬江郡。煬帝、廬州を改めて廬江郡と爲す。

【七九】豫章。煬帝、洪州を改めて豫章郡と爲す。

士弘、之を疑ひ、(一八〇)南塘の上に營す。善安、之を恨み、襲うて士弘を破り、其郭郭を焚きて去る。士弘、徙りて(一八一)南康に居る。蕭銑、其將蘇胡兒を遣はし、豫章を襲うて之に克つ。士弘退きて(一八二)餘干に保す。

【一八〇】南塘。南昌縣の南塘は、本、大江に通ず。漢の永元中、太守張躬、塘を築き、以て南路を通ず。大江は南江なり。

【一八一】南康。煬帝、虔州を改めて南康郡と爲す。

【一八二】餘干縣、鄱陽郡に屬す。今の江西省潯陽道餘干縣。

國譯資治通鑑第十終

資治通鑑卷第一百六十七

陳紀一

高祖武皇帝

永定元年春正月辛丑周公即天王位柴燎告天朝百官于露門追尊王考文公爲文王妣爲文后大赦封魏恭帝爲宋公以木德承魏水行夏之時服色尚黑以李弼爲太師趙貴爲太傅大冢宰獨孤信爲太保大宗伯中山公護爲大司馬詔以王琳爲司空驃騎大將軍以尙書右僕射王通爲左僕射○周王祀園丘自謂先世出於神農以神農配二丘始祖獻侯配南北郊文王配明堂廟號太祖癸卯祀方丘甲辰祭太社除市門稅乙巳享太廟仍用鄭玄議立太祖與二昭二穆爲五廟其有德者別爲祧廟不毀辛亥祀南郊壬子立王后元氏后魏文帝之女晉安公主也○齊南安城主馮顯請降於周周柱國宇文貴使豐州刺史太原郭彥將兵迎之遂據南安○吐谷渾爲寇於周攻涼鄯河三州秦州都督遣渭州刺史于翼赴援翼不從僚屬咸以爲言翼曰攻取之術非夷俗所長此寇之來不過抄掠邊牧掠而無獲勢將自走勞師而往必無所及翼揣之已了幸勿復言數日問至果如翼所策○初梁世祖以始興郡爲東衡州以歐陽頴爲刺史久之徙頴爲郢州刺史蕭勃留頴不遣世祖以王琳代勃爲廣州刺史勃遣其將孫盪監廣州盡帥所部屯始興以避之頴別據一城不往謁閉門自守勃怒遣兵襲之盡收其貨財馬仗尋赦之使復其所與之結盟江陵陷頴遂事勃二月庚午勃起兵於廣州遣頴及其將傅泰蕭孜爲前軍孜勃之從子也南江州刺史

余孝頌以兵會之詔平西將軍周文育帥諸軍討之。○癸酉周王朝日於東郊。戊寅祭大社。○周楚公趙貴衛公獨孤信故皆與太祖等夷。及晉公護專政。皆怏怏不服。貴謀殺護。信止之。開府儀同三司宇文盛告之。丁亥。貴入朝。護執而殺之。免信官。○領軍將軍徐度出東關。侵齊。戊子。至合肥。燒齊船三千艘。○歐陽頌等出南康。頌屯豫章之苦竹灘。傅泰據贛口城。余孝頌遣其弟孝勸守郡城。自出豫章。據石頭。巴山太守熊曇朗誘頌。共襲高州刺史黃法。法又語法。約共破頌。且曰。事捷。與我馬仗。遂出軍。與頌俱進。至法。法乘之。法乘之。頌失援而走。曇朗取其馬仗。歸於巴山。周文育軍少。船余孝頌有船在上。文育遣軍主焦僧度襲之。盡取以歸。仍於豫章立柵。軍中食盡。諸將欲退。文育不許。使人間行。遺周迪書。約為兄弟。迪得書甚喜。許饋以糧。於是文育分遣老弱。乘故船。沿流俱下。燒豫章柵。偽若遁去者。孝頌望之大喜。不復設備。文育由間道兼行。據芋韶。芋韶上流。則歐陽頌。蕭孜。下流。則傅泰。余孝頌營。文育據其中間。築城。襲士。頌等大駭。頌退入泥溪。文育遣嚴威將軍周鐵虎等襲頌。癸巳。擒之。文育盛陳兵甲。與頌乘舟而宴。巡眺口城下。使其將丁法洪攻泰。擒之。汝孝頌退走。○甲午。周以子謹為太傅。大宗伯侯莫陳崇為太保。晉公護為大冢宰。柱國武川賀蘭祥為大司馬。高陽公達奚武為大司寇。○周人殺魏恭帝。○三月。庚子。周文育送歐陽頌傅泰於建康。丞相霸先與頌有舊。釋而厚待之。○周晉公護以趙景公獨孤信名重。不欲顯誅之。己酉。逼令自殺。○甲辰。以司空王琳為湘郢二州刺史。○曲江侯勃在南康。聞歐陽頌等敗。軍中懼。甲寅。德州刺史陳法武。前衡州刺史譚世遠。攻勃。殺之。○夏。四月。己卯。鑄四柱錢。一當二十。○齊遣使請和。○壬午。周王謁成陵。○乙酉。還宮。○齊以太師斛律金為右丞相。前大將軍可朱渾道元為太傅。開府儀同三司賀拔仁為太保。尚書令常山王演為司空。錄尚書事。長廣王湛為尚書令。右僕射楊愔為左僕射。仍加開府儀同三司。并省

尚書右僕射。崔暹為右僕射。上黨王煥錄尚書事。○丁亥。周王享太廟。○壬辰。改四柱錢。一當十。丙申。復閉細錢。故曲江侯勃主帥蘭鼓。襲殺譚世遠。軍主夏侯明徹殺鼓。持勃首降。勃故記室李寶藏。奉懷安侯任。據廣州。蕭孜。余孝頌。猶據石頭。為兩城。各據其一。多設船艦。夾水而陳。丞相霸先遣平南將軍侯安都助周文育擊之。戊戌。安都潛師夜燒其船艦。文育帥水軍。安都帥步軍。進攻之。蕭孜出降。孝頌逃歸新吳。文育等引兵還。丞相霸先以歐陽頌聲著南土。復以頌為衡州刺史。使討嶺南。未至。其子紇。已克始興。頌至嶺南。諸郡皆降。遂克廣州。嶺南悉平。○周儀同三司齊軌。謂御正中大夫薛善曰。軍國之政。當歸天子。何得猶在權門。善以告晉公護。護殺之。以善為中外府司馬。○五月。戊辰。余孝頌遣使詣丞相府。乞降。○王琳既不就徵。大治舟艦。將攻陳霸先。六月。戊寅。霸先以開府儀同三司侯安都為西道都督。周文育為南道都督。將舟師二萬。會武昌。以擊之。○秋。七月。辛亥。周王享太廟。○河南北大蝗。齊主問魏郡丞崔叔瓚曰。何故致蝗。對曰。五行志。土功不時。蝗蟲為災。今外築長城。內興三臺。殆以此乎。齊主怒。使左右毆之。擢其髮。以溷沃其頭。曳足以出。叔瓚季舒之兄也。○八月。丁卯。周人歸梁世祖之柩。及諸將家屬千餘人於王琳。○戊辰。周王祭太社。○甲午。進丞相霸先位太傅。加黃鉞。殊禮。贊拜不名。九月。辛丑。進丞相為相國。總百揆。封陳公。備九錫。陳國置百司。○周孝愍帝性剛果。惡晉公護之專權。司會李植自太祖時為相府司錄。參掌朝政。軍司馬孫恆亦久居權要。及護執政。植恆恐不見容。乃與宮伯乙弗鳳賀拔提等共譖之於周王。植恆曰。護自誅趙貴以來。威權日盛。謀臣宿將。爭往附之。大小之政。皆決於護。以臣觀之。將不守臣節。願陛下早圖之。王以為然。鳳提曰。先王之明。猶委植恆以朝政。今以事付二人。何患不成。且護常自比周公。臣聞周公攝政七年。陛下安能七年。邑邑如此乎。王愈信之。數引武士於後園講習。為執縛之勢。植等又引宮伯張光洛同謀。光洛以告護。護乃

出植爲梁州刺史。恆爲潼州刺史。欲散其謀。後王思植等。每欲召之。護泣諫曰。天下至親。無過兄弟。若兄弟尙相疑。它人誰可信者。太祖以陛下富於春秋。屬臣後事。臣情兼家國。實願竭其股肱。若陛下親覽萬機。威加四海。臣死之日。猶生之年。但恐除臣之後。姦回得志。非唯不利陛下。亦將傾覆社稷。使臣無面目見太祖於九泉。且臣既爲天子之兄。位至宰相。尙復何求。願陛下勿信讒臣之言。疎棄骨肉。王乃止。不召。而心猶疑之。鳳等益懼。密謀滋甚。刻日召羣公入齋。因執護誅之。張光洛又以告護。護乃召柱國賀蘭祥。領軍尉遲綱等。謀之。祥等勸護廢立。時綱總領禁兵。護遣綱入宮。召鳳等議事。及至。以次執送護第。因罷散宿衛兵。王方悟。獨在內殿。令宮人執兵自守。護遣賀蘭祥。逼王遜位。幽於舊第。悉召公卿會議。廢王爲略陽公。迎立岐州刺史寧都公毓。公卿皆曰。此公之家事。敢不唯命是聽。乃斬鳳等於門外。孫恆亦伏誅。時李植父柱國大將軍遠。鎮弘農。護召遠及植。還朝。遠疑有變。沈吟久之。乃曰。大丈夫寧爲忠鬼。安可作叛臣邪。遂就徵。既至。長安。護以遠功名素重。猶欲全之。引與相見。謂之曰。公兒。遂有異謀。非止屠戮護身。乃是傾危宗社。叛臣賊子。理宜同疾。公可早爲之所。乃以植付遠。遠素愛植。植又口辯。自陳初無此謀。遠謂植信然。詰朝。將植謁護。護謂植已死。左右白。植亦在門。護大怒曰。陽平公不信我。乃召入。仍命遠同坐。令略陽公與植相質於遠前。植辭窮。謂略陽曰。本爲此謀。欲安社稷。利至尊耳。今日至此。何事云云。遠聞之。自投於牀曰。若爾誠合萬死。於是護乃害植。并逼遠。令自殺。植弟叔詣。叔讓。叔讓亦死。餘子。以幼得免。初遠弟開府儀同三司穆。知植非保家之主。每勸遠除之。遠不能用。及遠臨刑。泣謂穆曰。吾不用汝言。以至此。穆當從坐。以前言獲免。除名爲民。及其子弟。亦免官。植弟浙州刺史基。尙義歸公主。當從坐。穆請以二子代基。命護兩釋之。後月餘。護弑。略陽公黜。王后元氏爲尼。癸亥。寧都公自岐州至。長安。甲子。卽天王位。大赦。○冬十月。戊辰。進陳公爵爲王。辛未。梁敬帝。

禪位於陳。○癸酉。周魏武公李弼卒。○陳王使中書舍人劉師知。引宣猛將軍沈恪。勒兵入宮。衛送梁主。如別宮。恪排闥見王。叩頭謝曰。恪身經事蕭氏。今日不忍見此。分受死耳。決不奉命。王嘉其意。不復逼。更以盪主王僧志代之。乙亥。王卽皇帝位於南郊。還宮。大赦。改元。奉梁敬帝爲江陰王。梁太后爲太妃。皇后爲妃。以給事黃門侍郎蔡景歷爲祕書監。兼中書通事舍人。是時。政事皆由中書省。置二十一局。各尙書諸曹。總國機要。尙書唯聽受而已。○丙子。上幸鍾山。祠蔣帝廟。庚辰。上出佛牙於杜姥宅。設無遮大會。帝親出闕前膜拜。○辛巳。追尊皇考文讚爲景皇帝。廟號太祖。皇妣董氏曰安皇后。追立前夫人錢氏爲昭皇后。世子克爲孝懷太子。立夫人章氏爲皇后。章后。烏程人也。○置刪定郎。治律令。○乙酉。周王祀園丘。丙戌。祀方丘。甲午。祭太社。○戊子。太祖神主。祔太廟。七廟。始共用一太牢。始祖薦首。餘皆骨體。○侯安都至武昌。王琳將樊猛。棄城走。周文育自豫章會之。安都聞上受禪。歎曰。吾今茲必敗。戰無名矣。時兩將俱行。不相統攝。部下交爭。稍不相平。軍至郢州。琳將潘純陀。於城中遙射官軍。安都怒。進軍圍之。未克。而王琳至。奔口。安都乃釋郢州。悉衆詣沌口。留沈泰一軍守漢曲。安都遇風。不得進。琳據東岸。安都據西岸。相持數日。乃合戰。安都等大敗。安都。文育。及裨將徐敬成。周鐵虎。程靈洗。皆爲琳所擒。沈泰引軍奔歸。琳引見諸將。與語。周鐵虎辭氣不屈。琳殺鐵虎。而囚安都等。總以一長鎖繫之。置琳所坐榻下。令所親宦者王子晉。掌視之。琳乃移湘州軍府。就郢城。又遣其將樊猛。襲據江州。○十一月。丙申。上立兒子蒨爲臨川王。頊爲始興王。弟子曇朗已死。而上未知。遙立爲南康王。○庚子。周王享太廟。丁未。祀園丘。十二月。庚午。謁成陵。癸酉。還宮。○譙淹。帥水軍七千。老弱三萬。自蜀江東下。欲就王琳。周使開府儀同三司賀若敦。叱羅暉等。擊之。斬淹。悉俘其衆。○是歲。詔給事黃門侍郎蕭乾。招諭閩中。時熊曇朗在豫章。周迪在臨川。留異在東陽。陳寶應在晉安。共相連結。閩中豪帥。往往

立誓以自保。上患之，使乾諭以禍福。豪帥皆帥衆請降，即以乾爲建安太守。乾子範之子也。○初，梁興州刺史席固，以州降魏。周太祖以固爲豐州刺史，久之，固猶習梁法，不遵北方制度。周人密欲代之，而難其人，乃以司憲中大夫令狐整權鎮豐州，委以代固之略。整，唐布威恩，傾身撫接，數月之間，化洽州府。於是除整豐州刺史，以固爲湖州刺史，整遷豐州於武當。旬日之間，城府周備，遷者如歸，固之去也。其部曲多願留爲整左右，整諭以朝制，弗許，莫不流涕而去。○齊人於長城內築重城，自庫洛枝東至鳴紇戍，凡四百餘里。○初，齊有術士言：亡高者黑衣，故高祖每出，不欲見沙門，顯祖在晉陽，問左右：何物最黑？對曰：無過於漆，帝以。上黨王渙於兄弟第七，使庫直都督破六韓伯昇之鄴，徵渙，渙至紫陌橋，殺伯昇而逃。浮河南度，至濟州，爲人所執，送鄴。帝之爲太原公也，與永安王浚皆見世宗，帝有時洩出，浚責帝左右曰：何不爲二兄拭鼻？帝深銜之，及即位，浚爲青州刺史，聰明矜恕，吏民悅之。浚以帝嗜酒，私謂親近曰：二兄因酒敗德，朝臣無敢諫者，大敵未滅，吾甚以爲憂，欲乘驛至鄴面諫，不知用吾不，或密以白帝，帝益銜之。浚入朝，從幸東山，帝裸裎爲樂，浚進諫曰：此非人主所宜，帝不悅。浚又於屏處召楊愔，譏其不諫，帝時不欲大臣與諸王交通，愔懼，奏之。帝大怒曰：小人由來難忍，遂罷酒還宮。浚尋還州，又上書切諫，詔徵浚，浚懼禍謝疾不至。帝遣馳驛收浚，老幼泣送者數千人。至鄴，與上黨王渙皆盛以鐵籠，寘於北城地牢，飲食糞穢，共在一所。二年春正月，王琳引兵下至溢城，屯於白水浦，帶甲十萬。琳以北江州刺史魯悉達爲鎮北將軍，上亦以悉達爲征西將軍，各送鼓吹女樂，悉達兩受之，遷延願望，皆不就。上遣安西將軍沈泰襲之，不克。琳欲引軍東下，而悉達制其中流，琳遣使說誘，終不從。己亥，琳遣記室宗號求援於齊，且請納梁永嘉王莊，以主梁祀。衡州刺史周迪欲自據南川，乃總召所部八郡守宰，結盟齊言入赴，上恐其爲變，厚慰撫之。新吳洞主余孝頃遣沙門道林說琳曰：周迪黃

法弊，皆依附金陵，陰窺間隙，大軍若下，必爲後患，不如先定南川，然後東下。孝頃請席卷所部，以從下。琳乃遣輕車將軍樊猛、平南將軍李孝欽、平東將軍劉廣德將兵八千赴之，使孝頃總督三將，屯於臨川，故郡徵兵糧於迪，以觀其所爲。○以開府儀同三司侯瑱爲司空，衡州刺史歐陽頔爲都督，交廣等十九州諸軍事，廣州刺史。○周以晉公護爲太師。○辛丑，上祀南郊，大赦。乙巳，祀北郊。○辛亥，周王耕籍田。○癸丑，周立王后獨孤氏。○戊午，上祀明堂。○二月壬申，南豫州刺史沈泰奔齊。○齊北豫州刺史司馬消難以齊主昏虐，陰爲自全之計，曲意撫循所部，消難尙高祖女，情好不睦，公主訴之。上黨王渙之亡也，鄴中大擾，疑其赴成臯，消難從弟子瑞爲尙書左丞，與御史中丞畢義雲有隙，義雲遣御史張子階詣北豫州，采風聞，先禁消難，典籤家客等，消難懼，密令所親中兵參軍裴藻託以私假，間行入關，請降於周。三月甲午，周遣柱國達奚武大將軍楊忠帥騎士五千迎消難，從問道馳入齊境，五百里，前後三遣使報消難，皆不報。去虎牢三十里，武疑有變，欲還，忠曰：有進死，無退生，獨以千騎夜趣城下，四面峭絕，但聞擊柝聲，武親來，磨數百騎，西去，忠勸餘騎不動，俟門開而入，馳遣召武，齊鎮城伏敬遠勒甲士二千人，據東城，舉烽嚴警，武憚之，不欲保城，乃多取財物，以消難及其屬先歸，忠以三千騎爲殿，至洛南，皆解鞍而臥，齊衆來追，至洛北，忠謂將士曰：但飽食，今在死地，賊必不敢度水，已而果然，乃徐引還。武歎曰：達奚武自謂天下健兒，今日服矣。周以消難爲小司徒。○丁酉，齊主自晉陽還鄴。○齊發兵援送梁永嘉王莊於江南，冊拜王琳爲梁丞相，都督中外諸軍，錄尙書事。琳遣兄子叔寶帥所部十州刺史子弟赴鄴，琳奉莊，卽皇帝位，改元天啓，追諡建安公淵明曰閔皇帝，莊以琳爲侍中，大將軍，中書監，餘依齊朝之命。○夏四月甲子，上享太廟。○乙丑，上使人害梁敬帝，立梁武林侯諮之子委卿爲江陰王。○己巳，周以太師護爲雍州牧。○甲戌，周王后獨孤氏殂。○辛巳，齊大赦。○

齊主以旱祈雨於西門豹祠不應毀之并掘其冢○五月癸巳余孝頃等屯二萬軍於工塘連八城以逼周迪迪懼請和并送兵糧樊猛等欲受盟而還孝頃貪其利不許樹柵圍之由是猛等與孝頃不協○周以大司空侯莫陳崇為大宗伯○癸丑齊廣陵南城主張顯和長史張僧那各帥所部來降○辛丑齊以尚書令長廣王湛錄尚書事驃騎大將軍平秦王歸彥為尚書左僕射甲辰以前左僕射楊愔為尚書令○辛酉上幸大莊嚴寺捨身壬戌羣臣表請還宮○六月乙丑齊主北巡以太子殷監國因立大都督府與尚書省分理衆務仍開府置佐齊主特崇其選以趙郡王叡為侍中攝大都督府長史○己巳詔司空侯瑱與領軍將軍徐度帥舟師為前軍以討王琳○齊主至邳連池戊寅還晉陽○秋戊戌上幸石頭送侯瑒等○高州刺史黃法氈吳興太守沈恪寧州刺史周敷合兵救周迪敷自臨川故郡斷江口分兵攻余孝頃別城樊猛等不救而沒劉廣德乘流先下故獲全孝頃等皆棄舟引兵步走迪追擊盡擒之送孝頃及李孝欽於建康歸樊猛於王琳○甲辰上遣吏部尚書謝哲往諭王琳哲肫之孫也○八月甲子周大赦○乙丑齊主還鄴○辛未詔臨川王蒨西討以舟師五萬發建康上幸冶城寺送之○甲戌齊主如晉陽○王琳在白水浦周文育侯安都徐敬成許王子晉以厚賂子晉乃僞以小船依鵠而釣夜載之上岸入深草中步投陳軍還建康自劾上引見竝宥之戊寅復其本官○謝哲返命王琳請還湘州詔追衆軍還癸未衆軍至自大雷○九月甲辰周封少師元羅為韓國公以紹魏後○丁未周王如同州冬十月辛酉還長安○余孝頃之弟孝勤及子公颺猶據舊柵不下庚午詔開府儀同三司周文育都督衆軍出豫章討之○齊三臺成更名銅爵曰金鳳金虎曰聖應水井曰崇光十一月甲午齊主至鄴大赦齊主遊三臺戲以槊刺都督尉子輝應手而斃常山王演以帝沈湎憂憤形於顏色帝覺之曰但令汝在我何為不縱樂演唯涕泣拜伏竟無所言帝亦大悲抵孟於

地曰汝似嫌我如是自今敢進酒者斬之因取所御盃盡壞棄未幾沈湎益甚或於諸貴戚家角力批拉不限貴賤唯演至則內外肅然演又密撰事條將諫其友王晞以為不可演不從因間極言遂逢大怒演性頗嚴尚書郎中剖斷有失輒加捶楚令史姦慝即考竟帝乃立演于前以刀鐶擬脇召被演罰者臨以白刃求演之短咸無所陳乃釋之晞听之弟也帝疑演假辭於晞以諫欲殺之王私謂晞曰王博士明日當作一條事為欲相活亦圖自全宜深體勿怪乃於衆中杖晞二十帝尋發怒聞晞得杖以故不殺髡鞭配甲坊居三年演又因諫爭大被毆撻閉口不食太后日夜涕泣帝不知所為曰儻小兒死奈我老母何於是數往問演疾謂曰努力彊食當以王晞還汝乃釋晞令詣演演抱晞曰吾氣息惛然恐不復相見晞流涕曰天道神明豈令殿下遂斃此舍至尊親為人兄尊為人主安可與計殿下不食太后亦不食殿下縱不自惜獨不念太后乎言未卒演彊坐而飯晞由是免徒還為王友及演錄尚書事除官者皆詣演謝去必辭晞言於演曰受爵天朝拜恩私第自古以為不可宜一切約絕演從之久之演從容謂晞曰主上起居不恆卿宜耳目所具吾豈可以前逢一怒遂爾結舌卿宜為諷諫草吾當伺便極諫晞遂條十餘事以呈因謂演曰今朝廷所恃者惟殿下乃欲學匹夫耿介輕一朝之命狂藥令人不自覺刀箭豈復識親疎一旦禍出理外將奈殿下家業何奈皇太后何演欬歎不自勝曰乃至是乎明日見晞曰吾長夜久思今遂息意即命火對晞焚之後復承閒苦諫帝使力士反接拔白刃注頸罵曰小子何知是誰教汝演曰天下噤口非臣誰敢有言帝趣杖亂捶之數十會醉臥得解帝褻驢之遊徧于宗戚所往留連唯至常山第多無適而去尚書右僕射崔暹屢諫演謂暹曰今太后不敢言吾兄弟杜口僕射獨能犯顏內外深相感愧太子殷自幼溫裕開朗禮士好學關覽時政甚有美名帝常嫌太子得漢家性質不似我欲廢之帝登金鳳臺召太子使手刃囚太子惻然有難色再三

不斷其首。帝大怒，親以馬鞭撞之。太子由是氣悸語吃，精神昏擾。帝因酣宴，屢云：「太子性懦，社稷事重，終當傳位常山。」太子少傅魏收謂楊愔曰：「太子國之根本，不可動搖。至尊三爵之後，每言傳位常山，令臣下疑貳。若其實也，當決行之。此言非所以爲戲，恐徒使國家不安。惜以收言白帝，帝乃止。帝既殘忍，有司訊囚，莫不嚴酷，或燒犁耳，使立其上，或燒車釘，使以臂貫之。既不勝苦，皆至誣伏。唯三公郎中武強蘇瓊，歷職中外，所至皆以寬平爲治。時趙州及清河，屢有人告謀反者，前後皆付瓊推檢。事多申雪，尚書崔昂謂瓊曰：「若欲立功名，當更思餘理。」數雪，反逆身命何輕。瓊正色曰：「所雪者，冤枉耳，不縱反逆也。」昂大慙。帝怒，臨漳令嵇暉舍人李文思以賜臣下爲奴。中書侍郎彭城鄭頤私誘祠部尚書王昕曰：「自古無朝士爲奴者，昕曰：「箕子爲之奴，頤以白帝曰：「王元景比陛下于紂，帝銜之，頃之，帝與朝臣酣飲，昕稱疾不至。帝遣騎執之，見方搖膝吟咏，遂斬于殿前，投尸漳水。齊主北築長城，南助蕭莊，士馬死者以數十萬計，重以修築臺殿，賜與無節，府藏之積，不足以供，乃減百官之祿，撤軍人常廩，併省州郡縣鎮戍之職，以節費用焉。○十二月，戊寅，齊以可朱渾道元爲太師，尉粲爲太尉，冀州刺史段韶爲司空，常山王演爲大司馬，長廣王湛爲司徒。○壬午，周大赦。○齊主如北城，因視永安簡平王浚，上黨剛肅王渙于地牢，帝臨穴謳歌，令浚等和之。浚等惶怖，且悲，不覺聲顫。帝愴然爲之下泣，將赦之。長廣王湛素與浚不睦，進曰：「猛虎安可出穴，帝默然。浚等聞之，呼湛小字曰：「步落稽。皇天見汝，帝亦以浚與渙皆有雄略，恐爲後害，乃自刺渙，又使壯士劉桃枝就籠亂刺，槊每下，浚輒以手拉折之，號哭呼天。於是薪火亂投，燒殺之，填以土石，後出之，皮髮皆盡，尸色如炭，遠近爲之痛憤。帝以儀同三司劉郁捷殺浚，以浚妃陸氏賜之。馮文洛殺渙，以渙妃李氏賜之。二人皆帝家舊奴也。陸氏尋以無寵于浚，得免。○高涼太守馮寶卒，海隅擾亂，寶妻洗氏懷集部落數州晏然。其子僕生九年，是歲遣僕帥諸酋長入

朝，詔以僕爲陽春太守。○後梁主遣其大將軍王操將兵略取王琳之長沙、武陵、南平等郡。三年春正月己酉，周太師護上表歸政。周王始親萬機，軍旅之事護猶總之。初改都督州軍事爲總管。○王琳召桂州刺史淳于量，量雖與琳合，而潛通于陳。二月辛酉，以量爲開府儀同三司。○壬午，侯瑱引兵焚齊舟艦于合肥。○丙戌，齊主于甘露寺禪居深觀，唯軍國大事乃以聞。尚書右僕射崔暹卒。齊主幸其第，哭之，謂其妻李氏曰：「頗思暹乎？」對曰：「思之。帝曰：「然則自往省之。」因手斬其妻，擲首牆外。○齊斛律光將騎一萬擊周開府儀同三司曹回，公斬之。柏谷城主薛禹生奔城走，遂取文侯鎮，立戍置柵而還。○三月，戊戌，齊以高德政爲尚書右僕射。○吐谷渾寇周邊，庚戌，周遣大司馬賀蘭祥擊之。○丙辰，齊主至鄴。○梁永嘉王莊至鄴州，遣使入貢于齊。王琳遣其將雷文策襲後梁監利太守蔡大有，殺之。○齊主之爲魏相也，膠州刺史定陽文肅侯杜弼爲長史，帝將受禪，弼諫止之，帝問治國當用何人，對曰：「鮮卑車馬客，會須用中國人。」帝以爲譏，已銜之。高德政用事，弼不爲之下，嘗於衆前面折德政，德政數言其短于帝，弼恃舊，不自疑。夏，帝因飲酒，積其愆，失遣使就州斬之，既而悔之，驛追不及。○閏四月，戊子，周命有司更定新曆。○丁酉，遣鎮北將軍徐度將兵城南皖口。○齊高德政與楊愔同爲相，愔常忌之。齊主酣飲，德政數彊諫，齊主不悅，謂左右曰：「高德政恆以精神凌逼人，德政懼，稱疾欲自退。」帝謂楊愔曰：「我大憂德政病，對曰：「陛下若用爲冀州刺史，病當自差。」帝從之。德政見除書，即起。帝大怒，召德政，謂曰：「聞爾病，我爲爾針，親以小刀刺之，血流霑地。」又使曳下，斬去其足。劉桃枝執刀不敢下，帝責桃枝曰：「爾頭即墮地，桃枝乃斬其足之三指，帝怒不解。囚德政于門下，其夜以甃輿送還家。明日，德政妻出珍寶滿四牀，欲以寄人，帝奄至其宅，見之，怒曰：「我御府猶無是物，請其所從得，皆諸元賂之。」遂曳出，斬之。妻出拜，又斬之，并其子伯堅，以司州牧彭城王浹爲司徒，侍中高陽王湜爲尚書右僕射，乙巳，以浹

兼太尉。○齊主封子紹廉爲長安王。○辛亥，周以侯莫陳崇爲大司徒，達奚武爲大宗伯，武陽公豆盧寧爲大司寇，柱國輔城公邕爲大司空。○乙卯，周詔有司無得糾赦前事，唯廩庫倉廩與海內所共，若有侵盜，雖經赦宥，免其罪，徵備如法。○周賀蘭祥與吐谷渾戰，破之，拔其洮陽洪和二城，以其地爲洮州。○五月丙辰朔，日有食之。○齊太史奏：「今年當除舊布新，齊主問於特進彭城公元韶曰：『漢光武何故中興？』對曰：『爲誅諸劉不盡，於是齊主悉殺諸元，以厭之。』癸未，誅始平公元世哲等二十五家，囚韶等十九家，韶幽於地牢，絕食，啗衣袖而死。○周文育、周迪、黃法氈共討余公颺，豫章太守熊曇朗引兵會之，衆且萬人，文育軍於金口，公颺詐降，謀執文育、文育覺之，囚送建康，文育進屯三陂，王琳遣其將曹慶帥二千人救余，孝勸慶分遣主帥常衆愛與文育相拒，自帥其衆攻周迪，及安南將軍吳明徹、迪等敗，文育退據金口，熊曇朗因其失利，謀殺文育，以應衆愛，監軍孫白象聞其謀，勸文育先之，文育不從，時周迪棄船走，不知所在。乙酉，文育得迪書，自齎以示曇朗，曇朗殺之於坐，而併其衆，因據新淦城，曇朗將兵萬人襲周敷，敷擊破之，曇朗單騎奔巴山。○魯悉達部將梅天養等引齊軍入城，悉達帥麾下數千人濟江自歸，拜平南將軍，北江州刺史。○六月戊子，周以霖雨，詔羣臣上封事極諫，左光祿大夫猗氏樂遜上言四事，其一以爲比來守令代期既促，責其成效，專務威猛，今關東之民淪陷塗炭，若不布政優優，聞諸境外，何以使彼勞民歸就樂土，其二以爲頃者魏都洛陽一時殷盛，貴勢之家競爲侈靡，終使禍亂交興，天下喪敗，比來朝貴器服稍華，百工造作務盡奇巧，臣誠恐物逐好移，有損政俗，其三以爲選曹補擬宜與衆共之，今州郡選置猶集鄉閭，況天下銓衡不取物望，既非機事，何足可密，其選置之日，宜令衆心明白，然後呈奏，其四以爲高洋據有山東，未易猝制，譬猶基劫相持，爭行先後，若一行不當，或成彼利，誠應捨小營大，先保封域，不宜貪利邊陲，輕爲舉動。○周處士韋夔，孝寬之

兄也，志尚夷簡，魏周之際，十徵不屈，周太祖甚重之，不奪其志，世宗禮敬尤厚，號曰道遙公，晉公護延之至第，訪以政事，護盛脩第舍，復仰視堂，歎曰：『酣酒嗜音，峻宇彫牆，有一於此，未或不亡。』護不悅，驃騎大將軍開府儀同三司寇儁讚之孫也，少有學行，家人嘗賣物，多得絹五匹，儁於後知之，曰：『得財失行，吾所不取。』訪主還之，敦陸宗族，與同豐約，教訓子孫，必先禮義，自大統中稱老疾，不朝謁，世宗虛心欲見之，儁不得已入見，王引之同席而坐，問以魏朝舊事，載以御輿，令於王前乘之，以出，顧謂左右曰：『如此之事，唯積善者可以致之。』○周文育之討余孝勸也，帝令南豫州刺史侯安都繼之，文育死，安都還，遇王琳將周良、周協、南歸與戰，擒之，孝勸弟孝猷帥所部四千家詣安都降，安都進軍，至左里，擊曹慶，常衆愛破之，衆愛奔廬山，庚寅，廬山民斬之，傳首。○詔臨川王蒨於南皖口置城，使東徐州刺史吳興錢道戢守之。○丁酉，上不豫，丙午，殂，上臨戎制勝，英謀獨運，而爲政務崇寬簡，非軍旅急務，不輕調發，性儉素，常膳不過數品，私宴用瓦器蚌盤，殺核充事而已，後宮無金翠之飾，不設女樂，時皇子昌在長安，內無嫡嗣，外有疆敵，宿將皆將兵在外，朝無重臣，唯中領軍杜稜、典宿衛兵在建康，章皇后召稜及中書侍郎蔡景歷入禁中，定議，祕不發喪，急召臨川王蒨於南皖，景歷親與宦者宮人密營斂具，時天暑，須治梓宮，恐斧斤之聲聞於外，乃以蠟爲祕器，文書詔敕依舊宣行，侯安都軍還，適至南皖，與臨川王俱還朝，甲寅，王至建康，入居中書省，安都與羣臣定議奉王嗣位，王謙讓不敢當，皇后以昌故，未肯下令，羣臣猶豫不能決，安都曰：『今四方未定，何暇及遠，臨川王有大功於天下，須共立之。』今日之事，後應者斬，即按劍上殿，白皇后出璽，又手解髻髮，推就喪次，遷殯，大行於太極西階，皇后乃下令，以蒨纂承大統，是日，卽皇帝位，大赦，秋七月丙辰，尊皇后爲皇太后，辛酉，以侯瑱爲太尉，侯安都爲司空。○齊顯祖將如晉陽，乃盡誅諸元，或祖父爲王，或身嘗貴顯，皆斬於東市，其嬰兒投於空中，承之以稍，前

後死者凡七百二十一人。悉棄尸漳水。剖魚者。往往得人爪甲。鄴下爲之久不食魚。使元黃頭與諸囚。自金鳳臺各乘紙鷁以飛。黃頭獨能至紫陌。乃墮。仍付御史中丞畢義雲。餓殺之。唯開府儀同三司元蠻。祠部郎中元文遙等數家獲免。蠻繼之子常山王演之妃父文遙。遵之五世孫也。定襄令元景安。虔之玄孫也。欲請改姓高氏。其從兄景皓曰。安有棄其本宗而從人之姓者乎。丈夫寧可玉碎。何能瓦全。景安以其言白帝。帝收景皓誅之。賜景安姓高氏。○八月丙申。葬武帝於萬安陵。廟號高祖。○戊戌。齊封皇子紹義爲廣陽王。以尙書右僕射河間王孝琬爲左僕射。都官尙書崔昂爲右僕射。○周御正中大夫崔猷。建議以爲聖人沿革。因時制宜。今天子稱王。不足以威天下。請遵秦漢舊制。稱皇帝。建年號。己亥。周王始稱皇帝。追尊文王曰文皇帝。改元武成。○癸卯。齊詔民間或有父祖冒姓元氏。或假托攜養者。不問世數遠近。悉聽改復本姓。○初高祖追諡兄道譚爲始興昭烈王。以其次子頊襲封。及世祖卽位。頊在長安未還。上以本宗乏饗。庚戌。詔徙封頊爲安成王。皇子伯茂爲始興王。○初周太祖平蜀。以其形勝之地。不欲使宿將居之。問諸子誰可往者。皆不對。少子安成公憲請行。太祖以其幼不許。壬子。周人以憲爲益州總管。時年十六。善於撫綏。留心政術。蜀人悅之。九月乙卯。以大將軍天水公廣爲梁州總管。廣導之子也。○辛酉。立皇子伯宗爲太子。○己巳。齊主如晉陽。○辛未。周主封其弟輔城公邕爲魯公。安成公憲爲齊公。純爲陳公。盛爲越公。達爲代公。通爲冀公。迺爲滕公。○乙亥。立太子母吳興沈妃爲皇后。○周少保懷寧莊公蔡祐卒。○齊顯祖嗜酒成疾。不復能食。自知不能久。謂李后曰。人生必有死。何足致惜。但憐正道尙幼。人將奪之耳。又謂常山王演曰。奪則任汝。慎勿殺也。尙書令開封王楊愔。領軍大將軍平秦王歸彥。侍中廣漢燕子獻。黃門侍郎鄭頤。皆受遺詔輔政。冬十月甲午。殂。癸卯。發喪。羣臣號哭。無下泣者。唯楊愔涕泗嗚咽。太子殷卽位。大赦。庚戌。尊皇太后爲太皇太后。

皇后爲皇太后。詔諸土木金鐵雜作。一切停罷。○王琳聞高祖殂。乃以少府卿吳郡孫瑒爲郢州刺史。總留任。奉梁永嘉王莊出屯濡須口。齊揚州道行臺慕容儼帥衆臨江爲之聲援。十一月乙卯。琳寇大雷。詔侯瑱侯安都及儀同徐度將兵禦之。安州刺史吳明徹夜襲溢城。琳遣巴陵太守任忠擊明徹。大破之。明徹僅以身免。琳因引兵東下。○齊以右丞相斛律金爲左丞相。常山王演爲太傅。長廣王湛爲太尉。段韶爲司徒。平陽王淹爲司空。高陽王湜爲尙書左僕射。河間王孝琬爲司州牧。侍中燕子獻爲右僕射。○辛未。齊顯祖之喪至鄴。○十二月戊戌。齊徙上黨王紹仁爲漁陽王。廣陽王紹義爲范陽王。長樂王紹廣爲隴西王。

資治通鑑卷第一百六十七

陳紀 高祖武皇帝永定三年

資治通鑑卷第一百六十八

陳紀一一

世祖文皇帝上

天嘉元年春正月癸丑朔大赦改元○齊大赦改元乾明○辛酉上祀南郊○齊高陽王湜以滑稽便辟有寵於顯祖常在左右執杖以撻諸王太皇太后深銜之及顯祖殂湜有罪太皇太后杖之百餘癸亥卒○辛未上祀北郊○齊主自晉陽還至鄴○二月乙未高州刺史紀機自軍所逃還宣城據郡應王琳涇令賀當遷討平之王琳至柵口侯瑱督諸軍出屯蕪湖相持百餘日東關春水稍長舟楫得通琳引合肥淝湖之衆舳舻相次而下軍勢甚盛瑒進軍虎檻洲琳亦出船列於江西隔洲而泊明日合戰琳軍少却退保西岸及夕東北風大起吹其舟楫竝壞沒於沙中浪大不得還浦及旦風靜琳入浦治船瑒等亦引軍退入蕪湖周人聞琳東下遣都督荆襄等五十二州諸軍事荊州刺史寧將兵數萬乘虛襲郢州孫瑒嬰城自守琳聞之恐其衆潰乃帥舟師東下去蕪湖十里而泊擊柝聞於陳軍齊儀同三司劉伯球將兵萬餘人助琳水戰行臺慕容恃德之子子會將鐵騎二千屯蕪湖西岸爲之聲勢丙申瑒令軍中晨炊葦食以待之時西南風急琳自謂得天助引兵直趣建康瑒等徐出蕪湖躡其後西南風翻爲瑒用琳擲火炬以燒陳船皆反燒其船瑒發拍以擊琳艦又以牛皮冒葦衝小船以觸其艦并鎔鐵灑之琳軍大敗軍士溺死者什二三餘皆棄船登岸爲陳軍所殺殆盡齊步軍在西岸者自相蹂踐竝陷於蘆荻泥淖中騎皆棄馬脫走得免者什

二三擒劉伯球慕容子會斬獲萬計盡收梁齊軍資器械琳乘舴舺冒陳走至淝城欲收合離散衆無附者乃與妻妾左右十餘人奔齊先是琳使侍中袁泌御史中丞劉仲威侍衛永嘉王莊及敗左右皆散泌以輕舟送莊達於齊境拜辭而還遂來降仲威奉莊奔齊泌昂之子也樊猛及其兄毅帥部曲來降○齊葬文宣皇帝於武寧陵廟號高祖後改曰顯祖○戊戌詔衣冠士族將帥戰兵陷在王琳黨中者皆赦之隨材銓敘○己亥齊以常山王演爲太師錄尚書事以長廣王湛爲大司馬并省錄尚書事以尚書左僕射平秦王歸彥爲司空趙郡王叡爲尚書左僕射詔諸元良口配沒入官及賜人者竝縱遣○乙巳以太尉侯瑒都督湘巴等五州諸軍事鎮淝城○齊顯祖之喪常山王演居禁中護喪事婁太后欲立之而不果太子卽位乃就朝列以天子諒陰詔演居東館欲奏之事皆先咨決楊愔等以演與長廣王湛位地親逼恐不利於嗣主心忌之居頃之演出歸第自是詔敕多不關預或謂演曰鷲鳥離巢必有探卵之患今日王何宜屢出中山太守陽休之詣演演不見休之謂王友王晞曰昔周公朝讀百篇書夕見七十士猶恐不足錄王何所嫌疑乃爾拒絕賓客先是顯祖之世羣臣不自保及濟南王立演謂王晞曰一人垂拱吾曹亦保優閒因言朝廷寬仁真守文良主晞曰先帝時東宮委一胡人傳之今春秋尙富驟覽萬機殿下宜朝夕先後親承音旨而使他人姓出納詔命大權必有所歸殿下雖欲守藩其可得邪借令得遂冲退自審家祚得保靈長乎演默然久之曰何以處我晞曰周公抱成王攝政七年然後復子明辟惟殿下慮之演曰我何敢自比周公晞曰殿下今日地望欲不爲周公得邪演不應顯祖常遣胡人康虎兒保護太子故晞言及之齊主將發晉陽時議謂常山王必當留守根本之地執政欲使常山王從帝之鄴留長廣王鎮晉陽既而又疑之乃敕二王俱從至鄴外朝聞之莫不駭愕又敕以王晞爲并州長史演既行晞出郊送之演恐有覘察命晞還城執晞手曰努力自

慎躍馬而去。平秦王歸彥。總知禁衛。楊愔宣敕。留從駕五千兵於西中。陰備非常。至鄴數日。歸彥乃知之。由是怨愔。領軍大將軍可朱渾天和。道元之子也。尚帝姑東平公主。每日若不誅二王。少主無自安之理。燕子獻謀。處太皇太后於北宮。使歸政皇太后。又自天保八年已來。爵賞多濫。楊愔欲加澄汰。乃先自表。解開府。及開封王。諸叨竊恩榮者。皆從黜免。由是嬖寵失職之徒。盡歸心二叔。平秦王歸彥。初與楊燕同心。既而中變。盡以疎忌之迹告二王。侍中宋欽道。弁之孫也。顯祖使在東宮。教太子以吏事。欽道面奏帝。稱二叔威權既重。宜速去之。帝不許。曰。可與令公共詳其事。愔等議出二王為刺史。以帝慈仁。恐不可所奏。乃通啓皇太后。具述安危。宮人李昌儀。高仲密之妻也。李太后以其同姓。甚相昵愛。以啓示之。昌儀密啓太皇太后。愔等又議不可。令二王俱出。乃奏以長廣王湛鎮晉陽。以常山王演錄尚書事。二王既拜職。乙巳。於尚書省大會百僚。愔等將赴之。散騎常侍兼中書侍郎鄭頤止之。曰。事未可量。不宜輕脫。愔曰。吾等至誠體國。豈常山拜職。有不赴之理。長廣王湛。且伏家。僅數十人。於錄尚書後室。仍與席上勳貴賀拔仁。斛律金等。數人相知。約曰。行酒至愔等。我各勸雙盃。彼必致辭。我一曰執酒。二曰執酒。三曰何不執。爾輩即執之。及宴。如之。愔大言曰。諸王反逆。欲殺忠良邪。尊天子。削諸侯。赤心奉國。何罪之有。常山王演欲緩之。湛曰。不可。於是拳杖亂毆。愔及天和。欽道。皆頭面血流。各十人持之。燕子獻多力。頭又少髮。狼狽排衆。走出門。斛律光。逐而擒之。子獻歎曰。丈夫為計遲。遂至於此。使太子太保薛孤延等。執頤於尚藥局。頤曰。不用智者言。至此。豈非命也。二王與平秦王歸彥。賀拔仁。斛律金。擁愔等。唐突入雲龍門。見都督叱利騷。招之不進。使騎殺之。開府儀同三司成休寧。抽刀呵演。演使歸彥諭之。休寧厲聲不從。歸彥久為領軍。素為軍士所服。皆弛仗。休寧方歎息而罷。演入至昭陽殿。湛及歸彥。在朱華門外。帝與太皇太后並出。太皇太后坐殿上。皇太后及帝側立。演以博叩頭。進言。

曰。臣與陛下骨肉至親。楊遵彥等。欲獨擅朝權。威福自己。自王公已下。皆重足屏氣。共相唇齒。以成亂階。若不早圖。必為宗社之害。臣與湛。為國事重。賀拔仁。斛律金。惜獻武皇帝之業。共執遵彥等。入宮。未敢刑戮。專輒之罪。誠當萬死。時庭中及兩廡衛士二千餘人。皆被甲待詔。武衛娥永樂。武力絕倫。素為顯祖所厚。叩刀仰視。帝不睨之。帝素吃訥。倉猝不知所言。太皇太后令却仗。不退。又厲聲曰。奴輩。即今頭落。乃退。永樂內刀而泣。太皇太后因問楊郎何在。賀拔仁曰。一眼已出。太皇太后愴然曰。楊郎何所能為。留使豈不佳邪。乃讓帝曰。此等懷逆。欲殺我二子。次將及我。爾何為縱之。帝猶不能言。太皇太后怒且悲曰。豈可使我母子受漢老嫗斟酌。太后拜謝。太皇太后又為太后誓言。演無異志。但欲去逼而已。演叩頭不止。太后謂帝何不安慰。爾叔。帝乃曰。天子亦不敢為叔惜。況此漢輩。但何兒命。兒自下殿去。此屬任叔父處分。遂皆斬之。長廣王湛。以鄭頤昔嘗讒己。先拔其舌。截其手。而殺之。演令平秦王歸彥。引侍衛之士。向華林園。以京畿軍士。入守門閣。斬娥永樂於園。太皇太后臨愔喪。哭曰。楊郎忠而獲罪。以御金為之一眼。親內之。曰。以表我意。演亦悔殺之。於是下詔。罪狀愔等。且曰。罪止一身。家屬不問。頃之。復簿錄五家。王晞固諫。乃各沒一房。孩幼盡死。兄弟皆除名。以中書令趙彥深。代楊愔總機務。鴻臚少卿陽休之。私謂人曰。將涉千里。殺騏驎而策蹇驢。可悲之甚也。戊申。演為大丞相。都督中外諸軍。錄尚書事。湛為太傅。京畿大都督。段韶為大將軍。平陽王淹為太尉。平秦王歸彥為司徒。彭城王浹為尚書令。○江陵之陷也。長城世子昌及中書侍郎頭。皆沒於長安。高祖即位。屢請之於周。周人許而不遣。高祖殂。周人乃遣昌還。以王琳之難。居於安陸。琳敗。昌發安陸。將濟江。致書於上。辭甚不遜。上不懌。召侯安都。從容謂曰。太子將至。須別求一藩。為歸老之地。安都曰。自古豈有被代天子。臣愚不敢奉詔。因請自迎昌。於是羣臣上表。請加昌爵命。庚戌。以昌為驃騎將軍。湘州牧。封衡陽王。○齊大丞相。

演如晉陽既至。謂王晞曰。不用卿言。幾至傾覆。今君側雖清。終當何以處我。晞曰。殿下往時位地。猶可以名教出處。今日事勢。遂關天時。非復人理所及。演奏趙郡王叡為長史。王晞為司馬。三月甲寅。詔軍國之政。皆申晉陽。冀大丞相規算。○周軍初至郢州。助防張世貴。舉外城以應之。所失軍民三千餘口。周人起土山長梯。晝夜攻之。因風縱火。燒其內城南面五十餘樓。孫瑒兵不滿千人。身自撫循。行酒賦食。士卒皆為之死戰。周人不能克。乃授瑒柱國。郢州刺史。封萬戶郡公。瑒僞許以緩之。而潛修戰守之備。一朝而具。乃復拒守。既而周人聞王琳敗。陳兵將至。乃解圍去。瑒集將佐。謂之曰。吾與王公同獎梁室。勤亦至矣。今時事如此。豈非天乎。遂遣使奉表。舉中流之地。來降。王琳之東下也。帝徵南川兵。江州刺史周迪。高州刺史黃法𣏲。帥舟師將赴之。熊曇朗據城列艦。塞其中路。迪等與周敷共圍之。琳敗。曇朗部眾離心。迪攻拔其城。虜男女萬餘口。曇朗走入村中。村民斬之。丁巳。傳首建康。盡滅其族。齊軍先守魯山。戊午。棄城走。詔南豫州刺史程靈洗守之。○甲子。置武州。沅州。以右衛將軍吳明徹為武州刺史。以孫瑒為湘州刺史。瑒懷不自安。固請入朝。徵為中領軍。未拜。除吳郡太守。○壬申。齊封世宗之子孝珩為廣寧王。長恭為蘭陵王。○甲戌。衡陽獻王昌入境。詔主書舍人緣道迎候。丙子。濟江中流殞之。使以溺告侯安都。以功進爵清遠公。初高祖遣滎陽毛喜從安成王頊詣江陵。梁世祖以喜為侍郎。沒於長安。與昌俱還。因進和親之策。上乃使侍中周弘正通好於周。○夏四月丁亥。立皇子伯信為衡陽王。奉獻王祀。○周世宗明敏有識量。晉公護憚之。使膳部中大夫李安。實毒於糖餽而進之。帝頗覺之。庚子。大漸。口授遺詔。五百餘言。且曰。朕子年幼。未堪當國。魯公。朕之介弟。寬仁大度。海內共聞。能弘我周家。必此子也。辛丑。殂。魯公幼有器質。特為世宗所親愛。朝廷大事。多與之參議。性深沈。有遠識。非因顧問。終不輒言。世宗每歎曰。夫人不言。言必有中。壬寅。魯公即皇帝位。大赦。○五月壬子。齊以開

府儀同三司劉洪徽為尚書右僕射。○侯安都父文捍。為始興內史。卒。官。上迎其母。還建康。母固求停鄉里。乙卯。為置東衡州。以安都從弟曉為刺史。安都子祕。纔九歲。上以為始興內史。竝令在鄉侍養。○六月壬辰。詔葬梁元帝於江寧。車旗禮章。悉用梁典。○齊人收永安上黨二王遺骨。葬之。敕上黨王妃李氏。還第。馮文洛。尚以故意脩飾詣之。妃盛列左右。立文洛於階下。數之曰。遭難流離。以至大辱。志操寡薄。不能自盡。幸蒙恩詔。得反藩闈。汝何物奴。猶欲見侮。杖之一百。血流灑地。○秋七月丙辰。封皇子伯山為鄱陽王。○齊丞相演。以王晞儒緩。恐不允武將之意。每夜載入。晝則不與語。嘗進晞密室。謂曰。比王侯諸貴。每見敦迫。言我違天不祥。恐當或有變起。吾欲以法繩之。何如。晞曰。朝廷比者。疎遠親戚。殿下倉猝所行。非復人臣之事。芒刺在背。上下相疑。何由可久。殿下謙退。靴糠神器。實恐違上玄之意。墜先帝之基。演曰。卿何敢發此言。須致卿於法。晞曰。天時人事。皆無異謀。是以敢冒犯斧鉞。抑亦神明所贊耳。演曰。極難匡時。方俟聖哲。吾何敢私議。幸勿多言。丞相從事中郎陸杳。將出使。握晞手。使之勸進。晞以杳言告演。演曰。若內外咸有此意。趙彥深。朝夕左右。何故初無一言。晞乃以事隙。密問彥深。彥深曰。我比亦驚此聲論。每欲陳聞。則口噤心悸。弟既發端。吾亦當昧死。一披肝膽。因共勸演。演遂言於太皇太后。趙道德曰。相王不效周公輔成王。而欲骨肉相奪。不畏後世謂之篡邪。太皇太后曰。道德之言是也。未幾。演又啓云。天下人心未定。恐奄忽變生。須蚤定名位。太皇太后乃從之。八月壬午。太皇太后下令。廢齊主為濟南王。出居別宮。以常山王演入纂大統。且戒之曰。勿令濟南有他也。肅宗。即皇帝位於晉陽。大赦。改元皇建。太皇太后還稱皇太后。皇太后稱文宣皇后。宮曰昭信。乙酉。詔紹封功臣。禮賜耆老。延訪直言。褒賞死事。追贈名德。帝謂王晞曰。卿何為自同外客。略不可見。自今。假非局司。但有所懷。隨宜作一牒。候少隙。即徑進也。因敕與尚書陽休之。鴻臚卿崔劼等三人。每日職務罷。竝

入東廊共舉錄歷代禮樂職官及田市徵稅或不便於時而相承施用或自古為利而於今廢墜或道德高雋久在沈淪或巧言眩俗妖邪害政者悉令詳思以漸條奏朝晡給御食畢景聽還帝識度沈敏少居臺閣明習吏事即位尤自勤勵大革顯祖之弊時人服其明而譏其細嘗問舍人裴澤在外議論得失澤率爾對曰陛下聰明至公自可遠侔古昔而有識之士咸言傷細帝王之度頗為未弘帝笑曰誠如卿言朕初臨萬機慮不周悉故致爾耳此事安可久行恐後又嫌疎漏澤由是被寵遇庫狄顯安侍坐帝曰顯安我姑之子今序家人之禮除君臣之敬可言我之不逮顯安曰陛下多妄言帝曰何故對曰陛下昔見文宣以馬鞭撻人常以為非今自行之非妄言邪帝握其手謝之又使直言對曰陛下太細天子乃更似吏帝曰朕甚知之然無法日久將整之以至無為耳又問王晞晞曰顯安言是也顯安干之子也羣臣進言帝皆從容受納性至孝太后不豫帝行不能正履容色貶悴衣不解帶殆將四旬太后疾小增即寢伏閣外食飲藥物皆手親之太后嘗心痛不自堪帝立侍帷前以爪掐掌代痛血流袖友愛諸弟無君臣之隔戊子以長廣王湛為右丞相平陽王淹為太傅彭城王浟為大司馬○周軍司馬賀若敦帥眾一萬奄至武陵武州刺史吳明徹不能拒引軍還巴陵○江陵之陷也巴湘之地皆入於周周使梁人守之太尉侯瑱等將兵逼湘州賀若敦將步騎救之乘勝深入軍於湘川九月乙卯周將獨孤盛將水軍與敦俱進辛酉遣儀同三司徐度將兵會侯瑱於巴丘會秋水汎溢盛敦糧援斷絕分軍抄掠以供資費敦恐瑱知其糧少乃於營內多為土聚覆之以米召旁村人陽有訪問隨即遣之瑱聞之良以為實敦又增脩營壘造廬舍為久留之計湘羅之間遂廢農業瑱等無如之何先是土人亟乘輕船載米粟雞鴨以餉瑱軍敦患之乃偽為土人裝船伏甲士於中瑱軍人望見謂餉船之至逆來爭取敦甲士出而擒之又敦軍數有叛人乘馬投瑱者敦乃別取一馬牽以趣船令船

中逆以鞭鞭之如是者再三馬畏船不上然後伏兵於江岸使人乘長船馬以招瑱軍詐云投附瑱遣兵迎接競牽馬馬既畏船不上伏兵發盡殺之此後實有饋餉及亡降者瑱猶謂之詐竝拒擊之冬十月癸巳瑱襲破獨孤盛於楊葉洲盛收兵登岸築城自保丁酉詔司空侯安都帥眾會瑱南討○十一月辛亥齊主立妃元氏為皇后世子百年為太子百年時纔五歲齊主徵前開府長史盧叔虎為中庶子叔虎柔之從叔也帝問時務於叔虎叔虎請伐周曰我疆彼弱我富彼貧其勢相懸然干戈不息未能并吞者此失於不用疆富也輕兵野戰勝負難必是胡騎之法非萬全之術也宜立重鎮於平陽與彼蒲州相對深溝高壘運糧積甲彼閉關不出則稍蠶食其河東之地日使窮蹙若彼出兵非十萬以上不足為我敵所損糧食咸出關中我軍士年別一代穀食豐饒彼來求戰我則不應彼若退去我乘其弊自長安以西民疏城遠敵兵來往實自艱難與我相持農業且廢不過三年彼自破矣帝深善之○齊主自將擊庫莫奚至天池庫莫奚出長城北遁齊主分兵追擊獲牛羊七萬而還○十二月乙未詔自今孟春訖於夏首大辟事已款者宜且申停○己亥周巴陵城主尉遲憲降遣巴州刺史侯安鼎守之庚子獨孤盛將餘眾自楊葉洲潛遁○丙午齊主還晉陽齊主斬人於前問王晞曰是人應死不晞曰應死但恨死不得其地耳臣聞刑人於市與眾棄之殿庭非行戮之所帝改容謝曰自今當為王公改之帝欲以晞為侍郎苦辭不受或勸晞勿自疎晞曰我少年以來閱要人多矣得志少時鮮不顛覆且吾性實疎緩不堪時務入主恩私何由可保萬一披猖求退無地非不好作要官但思之爛熟耳○初齊顯祖之末穀羅踊貴濟南王即位尚書左丞蘇珍芝建議脩石鼈等屯自是淮南軍防足食肅宗即位平州刺史嵇暉建議開督亢陂置屯田歲收稻粟數十萬石北境周贖又於河內置懷義等屯以給河南之費由是稍止轉輸之勞

二年春正月戊申周改元保定以大家宰護爲都督中外諸軍事令五府總於天官事無巨細皆先斷後聞○庚戌大赦○周主祀園丘○辛亥齊主祀園丘壬子禘於太廟○周主祀方丘甲寅祀感生帝於南郊乙卯祭太社○齊主使王琳出合肥召募僉楚更圖進取合州刺史裴景徽琳兄珉之壻也請以私屬爲鄉導齊主使琳與行臺左丞盧潛將兵赴之琳沈吟不決景徽恐事泄挺身奔齊齊主以琳爲驃騎大將軍開府儀同三司揚州刺史鎮壽陽○己巳周主享太廟班太祖所述六官之法○辛未周湘州城主殷亮降湘州平侯瑛與賀若敦相持日久瑛不能制乃借船送敦等度江敦慮其詐不許報云湘州我地爲爾侵逼必須我歸可去我百里之外瑛留船江岸引兵去之敦乃自拔北歸軍士病死者什五六武陵天門南平義陽河東宜都郡悉平晉公護以敦失地無功除名爲民○二月甲午周主朝日於東郊○周人以小司徒韋孝寬嘗立勳於玉壁乃置勳州於玉壁以孝寬爲刺史孝寬有恩信善用間諜或齊人受孝寬金貨遙通書疏故齊之動靜周人皆先知之有主帥許益以所戍城降齊孝寬遣諜取之俄斬首而還離石以南生胡數爲抄掠而居於齊境不可誅討孝寬欲築城於險要以制之乃發河西役徒十萬甲士百人遣開府儀同三司姚岳監築之岳以兵少懼不敢前孝寬曰計此城十日可畢城距晉州四百餘里吾一日創手二日敵境始知設使晉州徵兵三日方集謀議之間自稽二日計其軍行二日不到我之城障足得辦矣乃令築之齊人果至境上疑有大軍停留不進其夜孝寬使汾水以南傍介山稷山諸村縱火齊人以爲軍營收兵自固岳卒城而還○三月乙卯太尉零陵壯肅公侯瑛卒○丙寅周改八丁兵爲十二丁兵率歲一月而役○夏四月丙子朔日有食之○周以少傅尉遲綱爲大司空○丙午周封愍帝子康爲紀國公皇子贊爲魯公贊李后之子也○六月乙酉周使御正殷不害來聘○秋七月周更鑄錢文曰布泉一當五與五銖並行○己酉周追封皇

伯父顛爲邵國公以晉公護之子會爲嗣顛弟連爲杞國公以章武公導之子亮爲嗣連弟洛生爲莒國公以護之子至爲嗣追封太祖之子武邑公震爲宋公以世宗之子實爲嗣○齊主之誅楊燕也許以長廣王湛爲太弟既而立太子百年湛心不平帝在晉陽湛居守於鄴散騎常侍高元海高祖之從孫也留典機密帝以領軍代人庫狄伏連爲幽州刺史斛律光之弟羨爲領軍以分湛權湛留伏連不聽羨視事先是濟南閔悼王常在鄴望氣者言鄴中有天子氣平秦王歸彥恐濟南復立爲己不利勸帝除之帝乃使歸彥至鄴徵濟南王如晉陽湛內不自安問計於高元海元海曰皇太后萬福至尊孝友異常殿下不須異慮湛曰此豈我推誠之意邪元海乞還省一夜思之湛即留元海於後堂元海達旦不眠唯遶牀徐步夜漏未盡湛遽出曰神算如何元海曰有三策恐不堪用耳請殿下如梁孝王故事從數騎入晉陽先見太后求哀後見主上請去兵權以死爲限不干朝政必保太山之安此上策也不然當具表云威權太盛恐取謗衆口請青齊二州刺史沈靖自居必不招物議此中策也更問下策曰發言即恐族誅固逼之元海曰濟南世嫡主上假太后令而奪之今集文武示以徵濟南之敕執斛律豐樂斬高歸彥尊立濟南號令天下以順討逆此萬世一時也湛大悅然性怯狐疑未能用使術士鄭道謙等卜之皆曰不利舉事靜則吉有林慮令潘子密曉占候潛謂湛曰宮車當晏駕殿下爲天下主湛拘之於內以候之又令巫覡卜之多云不須舉兵自有大慶湛乃奉詔令數百騎送濟南王至晉陽九月帝使人酖之濟南王不從乃扼殺之帝尋亦悔之○冬十月甲戌朔日有食之○丙子齊以彭城王浟爲太保長樂王尉祭爲太尉○齊肅宗出畋有兔驚馬墜地絕肋婁太后視疾問濟南所在者三齊主不對太后怒曰殺之邪不用吾言死其宜矣遂去不顧十一月甲辰詔以嗣子冲眇可遣尙書左僕射趙郡王叡諭旨徵長廣王湛統茲大寶又與湛書曰百年無罪汝可以樂處置之勿效前

人也。是日殂於晉陽宮。臨終言恨不見太后山陵。

顏之推論曰：孝昭天性至孝，而不知忌諱，乃至於此。良由不學之所為也。

趙郡王叡先使黃門侍郎王松年馳至鄴，宣肅宗遺命。湛猶疑其詐，使所親先詣殯所，發而視之，使者復命。湛喜，馳赴晉陽，使河南王孝瑜先入宮，改易禁衛。癸丑，世祖即皇帝位於南宮。大赦，改元太寧。○周人許歸安成王頊，使司會上士杜杲來聘，上悅，即遣使報之，并賂以黔中地。及魯山郡。○齊以彭城王浟為太師，錄尚書事。平秦王歸彥為太傅，尉祭為太保。平陽王淹為太宰，博陵王濟為太尉。段韶為大司馬，豐州刺史婁叡為司空。趙郡王叡為尚書令。任城王湝為尚書左僕射，并州刺史斛律光為右僕射。婁叡昭之兒子也。立太子百年為樂陵王。○丁巳，周主敗於岐陽。十二月壬午，還長安。○太子中庶子餘姚虞荔，御史中丞孔奐，以國用不足，奏立煮海鹽賦，及權酤之科，詔從之。○初，高祖以帝女豐安公主妻留異之子貞臣，徵異為南徐州刺史。異遷延不赴，帝即位，復以異為涇州刺史。領東陽太守。異屢遣其長史王漸入朝，漸每言朝廷虛弱，異信之。雖外示臣節，恆懷兩端。與王琳自鄱陽信安嶺潛通，使往來。琳敗，上遣左衛將軍沈恪代異，實以兵襲之。異出軍下淮，以拒恪。恪與戰而敗，退還錢塘。異復上表遜謝，時衆軍方事湘郢，乃降詔書慰諭，且羈縻之。異知朝廷終將討己，乃以兵戍下淮，及建德以備江路。丙戌，詔司空南徐州刺史侯安都討之。

三年春正月乙亥，齊主至鄴。辛巳，祀南郊。壬午，享太廟。丙戌，立妃胡氏為皇后。子緯為皇太子。后魏兖州刺史安定胡延之之女也。戊子，齊大赦。己亥，以馮翊王潤為尚書左僕射。○周涼景公賀蘭祥卒。○壬寅，周人鑿河渠於蒲州，龍首渠於同州。○丁未，周以安成王頊為柱國大將軍，遣杜杲送之南歸。○辛亥，上祀南郊，以胡公配天。二月辛酉，祀北郊。○閏月丁未，齊以太宰平陽王淹為青州刺史，太傅平秦王歸彥為太宰，冀州刺史歸彥為肅宗所厚，特

勢驕盈，陵侮貴戚。世祖即位，侍中開府儀同三司高元海、御史中丞畢義雲、黃門郎高乾和數言其短，且云：歸彥威權震主，必為禍亂。帝亦尋其反覆之跡，漸忌之。伺歸彥還家，召魏收於帝前，作詔草，除歸彥冀州，使乾和繕寫。晝日，仍敕門司不聽歸彥輒入宮。時歸彥縱酒為樂，經宿不知。至明欲參，至門知之，大驚而退。及通名謝，敕令早發，別賜錢帛等物，甚厚。又敕督將悉送，至清陽宮拜辭而退。莫敢與語。唯趙郡王叡與之久語。時無聞者。帝之為長廣王也，清都和士開以善握槊彈琵琶，有寵，辟為開府行參軍。及即位，累遷給事黃門侍郎。高元海、畢義雲、高乾和皆疾之。將言其事，士開乃奏。元海等交結朋黨，欲擅威福。乾和由是被疎。義雲納賂於士開，得為兖州刺史。○帝徵江州刺史周迪，出鎮潞城。又徵其子入朝。迪越起顧望，竝不至。其餘南江酋帥私署令長，多不受召。朝廷未暇致討，但羈縻之。豫章太守周敷獨先入朝，進號安西將軍，給鼓吹一部，賜以女妓金帛。令還豫章。迪以敷素出己下，深不平之。乃陰與留異相結，遣其弟方興襲敷，敷與戰破之。又遣其兄子伏甲船中，詐為賈人，欲襲寶應之父。為光祿大夫。子女皆受封爵。命宗正編入屬籍，而寶應以留異女為妻。陰與異合。虞荔弟寄流寓閩中。荔思之成疾，上為荔徵之。寶應留不遣，寄嘗從容諷以逆順。寶應輒引它語以亂之。寶應嘗使人讀漢書，臥而聽之。至蒯通說韓信，曰：相君之背，貴不可言。蹶然起坐，曰：可謂智士。寄曰：通一說殺三士，何足稱智。豈若班彪王命，識所歸乎。寄知寶應不可諫，恐禍及己，乃著居士服，居東山寺。陽稱足疾，寶應使人燒其屋，寄安臥不動。親近將扶之出，寄曰：吾命有所懸，避將安往。縱火者自救之。○乙卯，齊以任城王湝為司徒。○齊揚州刺史行臺王琳數欲南侵，尚書盧潛以為時事未可，上遣移書壽陽，欲與齊和親。潛以其書奏齊朝，仍上啓，請且息兵。齊主許之。遣散騎常侍崔瞻來聘，且歸南康愨王曇朗之喪。琳於是與

潛有隙。更相表列。齊主徵琳赴鄴。以潛爲揚州刺史。領行臺尚書。瞻之子也。○梁末喪亂。鐵錢不行。民間私用鵝眼錢。甲子。改鑄五銖錢。一當鵝眼之十。○後梁主安於儉素。不好酒色。雖多猜忌。而撫將士有恩。以封疆褊隘。邑居殘毀。干戈日用。鬱鬱不得志。疽發背而殂。葬平陵。諡曰宣皇帝。廟號中宗。太子歸卽皇帝位。改元天保。尊龔太后爲太皇太后。王后曰皇太后。母曹貴嬪爲皇太妃。○三月。丙子。安成王瑒。至建康。詔以爲中書監。中衛將軍。上謂杜杲曰。家弟。今蒙禮遣。實周朝之惠。然魯山不返。亦恐未能及此。杲對曰。安成。長安一布衣耳。而陳之介弟也。其價。豈止一城而已哉。本朝敦睦九族。恕己及物。上遵太祖遺旨。下思繼好之義。是以遣之南歸。今乃云以尋常之士。易骨肉之親。非使臣之所敢聞也。上甚慚曰。前言戲之耳。待杲之禮。有加焉。瑒妃柳氏。及子叔寶。猶在穰城。上復遣毛喜。如周請之。周人皆歸之。○丁丑。以安右將軍吳明徹爲江州刺史。督高州刺史黃法氈。豫章太守周敷。共討周迪。○甲申。大赦。○留異始謂臺軍。必自錢塘上。旣而侯安都步由諸暨出永康。異大驚。奔桃枝嶺。於巖口。堅柵以拒之。安都爲流矢所中。血流至踝。乘輿指麾。容止不變。因其山勢。迺而爲堰。會潦水漲。滿安都引船入堰。起樓艦。與異城等。發拍碎其樓堞。異與其子忠臣。脫身奔晉安。依陳寶應。安都虜其妻及餘子。盡收鎧仗而還。異黨向文政。據新安。上以貞毅將軍程文季。爲新安太守。帥精甲三百。輕往攻之。文政戰敗。遂降。文季。靈洗之子也。○夏。四月。辛丑。齊武明婁太后殂。齊主不改服。緋袍如故。未幾。登三臺。置酒作樂。宮女進白袍。帝投諸臺下。散騎常侍和士開。請止樂。帝怒。撻之。○乙巳。齊遣使來聘。○齊青州上言。河水清。齊主遣使祭之。改元河清。○先是。周之君臣受封爵者。皆未給租賦。癸亥。始詔柱國等貴臣邑戶。聽寄食佗縣。○五月。庚午。周大赦。○己丑。齊以右僕射斛律光爲尚書令。○壬辰。周以柱國楊忠爲大司空。六月。己亥。以柱國蜀國公尉遲迥爲大司馬。○秋。七月。己丑。納太子妃王氏。金紫光

祿大夫周之女也。○齊平秦王歸彥。至冀州。內不自安。欲待齊主如晉陽。乘虛入鄴。其郎中令呂思禮。告之。詔大司馬段韶。司空婁叡。討之。歸彥於南境。置私驛。開大軍將至。卽閉城拒守。長史宇文仲鸞等。不從。皆殺之。歸彥自稱大丞相。有衆四萬。齊主以都官尚書封子繪。冀州人。祖父世爲本州刺史。得人心。使乘傳至信都。巡城諭以禍福。吏民降者相繼。城中動靜。小大皆知之。歸彥登城大呼云。孝昭皇帝初崩。六軍百萬。悉在臣手。投身向鄴。奉迎陛下。當時不反。今日豈反邪。正恨高元海。畢義雲。高乾和。誑惑聖上。疾忌忠良。但爲殺此三人。卽臨城自刎。旣而城破。單騎北走。至交津。獲之。鎖送鄴。乙未。載以露車。銜木面縛。劉桃枝臨之以刃。擊鼓隨之。并其子孫十五人。皆棄市。命封子繪。行冀州事。齊主知歸彥前譖清河王岳。以歸彥家良賤。百口賜岳家。贈岳太師。丁酉。以段韶爲太傅。婁叡爲司徒。平陽王淹爲太宰。斛律光爲司空。趙郡王叡爲尚書令。河間王孝琬爲左僕射。○癸亥。齊主如晉陽。○上遣使聘齊。○九月。戊辰朔。日有食之。○以待中都官尚書到。仲舉爲尚書右僕射。丹陽尹仲舉。溉之弟子也。○吳明徹至臨川。攻周迪。不能克。丁亥。詔安成王瑒代之。○冬。十月。戊戌。詔以軍旅費廣。百姓空虛。凡供乘輿飲食衣服。及宮中調度。悉從減削。至於百司。宜亦思省約。○十一月。丁卯。周以趙國公招爲益州總管。○丁丑。齊遣兼散騎常侍封孝琰來聘。○十二月。丙辰。齊主還鄴。齊主逼通昭信李后。曰。若不從我。我殺爾兒。后懼從之。旣而有娠。太原王紹德至。閤不得見。慍曰。兒豈不知邪。姊腹大。故不見兒。后大慚。由是生女。不舉。帝橫刀詬曰。殺我女。我何得不殺爾兒。對后。以刀環築殺紹德。后大哭。帝愈怒。裸后。亂撻之。后號天不已。帝命盛以絹囊。流血淋漓。投諸渠水。良久乃蘇。輦車載送妙勝寺爲尼。

資治通鑑卷第一百六十八

陳紀 世祖文皇帝上天嘉三年

資治通鑑卷第一百六十九

陳紀三

世祖文皇帝下

天嘉四年春正月齊以太子少傅魏收兼尚書右僕射時齊主終日酣飲朝事專委侍中高元海元海庸俗帝亦輕之以收才名素盛故用之而收畏懦避事尋坐阿縱除名兖州刺史畢義雲作書與高元海論敘時事元海入宮不覺遺之給事中李孝貞得而奏之帝由是疎元海以孝貞兼中書舍人徵義雲還朝和士開復譖元海帝以馬鞭箠元海六十責曰汝昔教我反以弟反兄幾許不義以鄴城兵抗并州幾許無智出爲兖州刺史○甲申周迪衆潰脫身踰嶺奔晉安依陳寶應官軍克臨川獲迪妻子寶應以兵資迪留異又遣子忠臣隨之虞寄與寶應書以十事諫之曰自天厭梁德英雄互起人人自以爲得之然夷凶翦亂四海樂推者陳氏也豈非歷數有在惟天所授乎一也以王琳之彊侯瑱之力進足以搖蕩中原爭衡天下退足以屈彊江外雄張偏隅然或命一旅之師或資一士之說琳則瓦解冰泮投身異域瑱則厥角稽顙委命闕庭斯又天假其威而除其患二也今將軍以藩戚之重東南之衆盡忠奉上戮力勤王豈不動高寶融寵過吳芮析珪判野南面稱孤乎三也聖朝棄瑕忘過寬厚得人至於余孝頃潘純陀李孝欽歐陽頴等悉委以心腹任以爪牙胸中豁然曾無纖芥況將軍豈非張繡罪異畢謀當何慮於危亡何失於富貴四也方今周齊鄰陸境外無虞并兵一向匪朝伊夕非劉項競逐之機楚趙連從之勢何得雍容高拱坐論西伯哉五

也且留將軍狼顧一隅亟經摧剝聲實虧喪膽氣衰沮其將帥首鼠兩端唯利是視孰能被堅執銳長驅深入繫馬埋輪奮不顧命以先士卒者乎六也將軍之彊孰如侯景將軍之衆孰如王琳武皇滅侯景於前今上摧王琳於後此乃天時非復人力且兵革已後民皆厭亂其孰能棄墳墓捐妻子出萬死不顧之計從將軍於白刃之間乎七也歷觀前古子陽季孟顛覆相尋餘善右渠危亡繼及天命可畏山川難恃況將軍欲以數郡之地當天下之兵以諸侯之資拒天子之命強弱逆順可得侔乎八也且非我族類其心必異不愛其親豈能及物留將軍身縻國爵子尚王姬猶且棄天屬而不顧背明君而孤立危急之日豈能同憂共患不背將軍者乎至於師老力屈懼誅利賞必有韓智晉陽之謀張陳井陘之勢九也北軍萬里遠鬪鋒不可當將軍自戰其地人多顧後衆寡不敵將帥不侔師以無名而出事以無機而動以此稱兵未知其利十也爲將軍計莫若絕親留氏釋甲偃兵一遵詔旨方今藩維尙少皇子幼冲凡豫宗族皆蒙寵樹況以將軍之地將軍之才將軍之名將軍之勢而克脩藩服北面稱臣寧與劉澤同年而語其功業哉寄感恩懷德不覺狂言斧鉞之誅其甘如飴寶應覽書大怒或謂寶應曰虞公病勢稍篤言多錯謬寶應意乃小釋亦以寄民望故優容之○周梁躁公侯莫陳崇從周主如原州帝夜還長安入竊怪其故崇謂所親曰吾比聞術者言晉公今年不利車駕今忽夜還不過晉公死耳或發其事乙酉帝召諸公於大德殿面責崇崇惶恐謝罪其夜冢宰護遣使將兵就崇第逼令自殺葬如常儀○壬辰以高州刺史黃法甦爲南徐州刺史臨川太守周敷爲南豫州刺史周主命司憲大夫拓跋迪造大律十五篇二月庚子頒行之其制罪一曰杖刑自十至五十二曰鞭刑自六十至百三曰徒刑自一年至五年四曰流刑自二千五百里至四千五百里五曰死刑磔梟裂凡二十五等○庚戌以司空南徐州刺史侯安都爲江州刺史○辛酉周詔大冢宰晉國公親則懿昆任

當元輔。自今詔誥。及百司文書。竝不得稱公名。護抗表固讓。○三月乙丑朔。日有食之。○齊詔司空斛律光督步騎二萬築勳掌城於軹關。仍築長城二百里。置十二戍。○丙戌。齊以兼尚書右僕射趙彥深爲左僕射。○夏四月乙未。周以柱國達奚武爲太保。○周主將視學。以太傅燕國公于謹爲三老。謹上表固辭。不許。仍賜以延年杖。戊午。帝幸太學。謹入門。帝迎拜於門屏之間。謹答拜。有司設三老席於中楹。南向。太師護升階。設几。謹升席。南面。憑几而坐。大司馬豆盧寧升階。正寫。帝升階。立於斧扆之前。西面。有司進饌。帝跪設醬豆。親爲之袒割。謹食畢。帝親跪授爵以醕。有司撤訖。帝北面立而訪道。謹起立於席後。對曰。木受繩則正。后從諫則聖。明王虛心納諫。以知得失。天下乃安。又曰。去食。去兵。信不可去。願陛下守信勿失。又曰。有功必賞。有罪必罰。則爲善者日進。爲惡者日止。又曰。言行者立身之基。願陛下三思而言。九慮而行。勿使有過。天子之過。如日月之食。人莫不知。願陛下慎之。帝再拜受言。謹答拜。禮成而出。○司空侯安都恃功驕橫。數聚文武之士。騎射賦詩。齋中賓客。動至千人。部下將帥多不遵法度。檢問收攝。輒奔歸安都。上性嚴整。內銜之。安都弗之覺。每有表啓。封訖。有事未盡。開封自書之。云。又啓某事。及侍宴酒酣。或箕踞傾倚。嘗陪樂遊園。飲謂上曰。何如作臨川王時。上不應。安都再三言之。上曰。此雖天命。抑亦明公之力。宴訖。啓借供帳水飾。欲載妻妾於御堂。宴飲。上雖許之。意甚不憚。明日。安都坐於御座。賓客居羣臣位。稱觴上壽。會重雲殿災。安都帥將士帶甲入殿。上甚惡之。陰爲之備。及周迪反。朝議謂當使安都討之。而上更使吳明徹。又數遣臺使。案問安都部下。檢括亡叛。安都遣其別駕周弘實。自託於舍人蔡景歷。并問省中事。景歷錄其狀具奏之。因希旨。稱安都謀反。上慮其不受召。故用爲江州。五月。安都自京口還。建康部伍入于石頭。六月。帝引安都宴於嘉德殿。又集其部下將帥。會於尙書朝堂。於坐收安都。囚於嘉德西省。又收其將帥。盡奪馬仗而釋之。因出蔡景歷表以示

於朝。乃下詔。暴其罪惡。明日。賜死。宥其妻子。資給其喪。初。高祖在京口。嘗與諸將宴。杜僧明。周文育。侯安都。爲壽。各稱功伐。高祖曰。卿等悉良將也。而竝有所短。杜公志大而識闇。狎於下。而驕于上。周侯交不擇人。而推心過差。侯郎傲誕而無厭。輕佻而肆志。竝非全身之道。卒皆如其言。○乙卯。齊主使兼散騎常侍崔子武來聘。○齊侍中開府儀同三司和士開。有寵於齊主。齊主外朝視事。及在內宴賞。須臾之間。不得與士開相見。或累日不歸。一日數入。或放還之後。俄頃即追。未至之間。連騎督趣。姦諂百端。寵愛日隆。前後賞賜。不可勝紀。每侍左右。言辭容止。極諸鄙褻。以夜繼晝。無復君臣之禮。常謂帝曰。自古帝王。盡爲灰土。堯舜桀紂。竟復何異。陛下宜及少壯。極意爲樂。縱橫行之一日。取快可敵千年。國事盡付大臣。何慮不辦。無爲自勤約也。帝大悅。於是委趙彥深掌官爵。元文遙掌財用。唐邕掌外騎兵。信都馮子琮。胡長榮。掌東宮。帝三四日一視朝。書數字而已。略無所言。須臾罷入。長榮僧敬之子也。帝使士開與胡后握麋。河南康獻王孝瑜諫曰。皇后天下之母。豈可與臣下接手。孝瑜又言。趙郡王叡。其父死於非命。不可親近。由是叡及士開共譖之。士開言。孝瑜奢僭。叡言。山東唯聞河南王。不聞有陛下。帝由是忌之。孝瑜竊與爾朱御女言。帝聞之。大怒。庚申。頓飲。孝瑜酒三十七盃。孝瑜體肥大。腰帶十圍。帝使左右婁子彥。載以出。酖之於車。至西華門。煩躁。投水而絕。贈太尉。錄尙書事。諸侯在宮中者。莫敢舉聲。唯河間王孝琬大哭而出。○秋七月。戊辰。周主幸原州。○八月辛丑。齊以三臺宮爲大興聖寺。○九月壬戌。廣州刺史陽山穆公歐陽頌卒。詔子紇襲父爵位。○甲子。周主自原州登隴。○周迪復越東嶺。爲寇。辛未。詔護軍章昭達將兵討之。○丙戌。周主如同州。○初。周人欲與突厥木杆可汗連兵伐齊。許納其女爲后。遣御伯大夫楊荐。及左武伯太原王慶往結之。齊人聞之。懼。亦遣使求昏於突厥。賂遺甚厚。木杆貪齊幣。重欲執荐等。送齊。荐知之。責木杆曰。太祖昔與可汗共敦鄰好。蠕蠕部落。數

于來降。太祖悉以付可汗使者，以快可汗之意。如何今日，遽欲背恩忘義，獨不愧鬼神乎。木杆慘然良久曰：君言是也。吾意決矣。當相與共平東賊，然後遣女。君等復命，公卿請發十萬人擊齊。柱國楊忠獨以為得萬騎足矣。戊子，遣忠將步騎一萬與突厥自北道伐齊。又遣大將軍達奚武帥步騎三萬自南道出平陽，期會於晉陽。○冬十一月辛酉，章昭達大破周迪，迪脫身潛竄山谷，民相與匿之。雖加誅戮，無肯言者。○十二月辛卯，周主還長安。丙申，大赦。○章昭達進軍度嶺，趣建安，討陳寶應。詔益州刺史余孝頃督會稽、東陽、臨海、永嘉諸軍自東道會之。○是歲，初祭始興昭烈王於建康，用天子禮。○周楊忠拔齊二十餘城，齊人守陁嶺之隘，忠擊破之。突厥木杆地頭步離三可汗以十萬騎會之。己酉，自恆州三道俱入。時大雪數旬，南北千餘里，平地數尺。齊主自鄴倍道赴之。戊午，至晉陽，斛律光將步兵三萬屯平陽。己未，周師及突厥逼晉陽。齊主畏其彊，戎服帥宮人欲東走避之。趙郡王叡、河間王孝琬叩馬諫，孝琬請委叡部分，必得嚴整，帝從之。命六軍進止，皆取叡節度，而使并州刺史段韶總之。

五年春正月庚申朔，齊主登北城，軍容甚整。突厥咎周人曰：爾言齊亂，故來伐之。今齊人眼中亦有鐵，何可當邪。周人以步卒為前鋒，從西山下去城二里許，諸將咸欲逆擊之。段韶曰：步卒力勢自當有限，今積雪既厚，逆戰非便。不如陳以待之，彼勞我逸，破之必矣。既至，齊悉其銳師鼓譟而出，突厥震駭，引上西山，不肯戰。周師大敗而還。突厥引兵出塞，縱兵大掠，自晉陽以往，七百餘里，人畜無遺。段韶追之，不敢逼。突厥還至陁嶺，凍滑，乃鋪氈以度。胡馬寒瘦，膝已下皆無毛。比至長城，馬死且盡。截稍杖之以歸。達奚武至平陽，未知忠退，斛律光與書曰：鴻鵠已翔於寥廓，羅者猶視於沮澤。武得書亦還，光逐之入周境，獲二千餘口而還。光見帝於晉陽，帝以新遭大寇，抱光頭而哭。任城王浩進曰：何至於此。乃止。初，齊顯祖之世，周

人常懼齊兵西度，每至冬月，守河椎水。及世祖即位，嬖倖用事，朝政漸紊，齊人椎水以備周兵之逼。斛律光憂之曰：國家常有吞關隴之志，今日至此，而唯翫聲色乎。○辛巳，上祀南郊。○二月庚寅朔，日有食之。○初，齊顯祖命羣臣刊定魏麟趾格為齊律，久而不成。時軍國多事，決獄罕依律文，相承謂之變法。從事世祖即位，思革其弊，乃督脩律令者，至是而成。律十二篇，令四十卷，其刑名有五：一曰死，重者輶之，次梟首，次絞，二曰流，投邊裔為兵，三曰刑，自五歲至一歲，四曰鞭，自百至四十，五曰杖，自三十至十。凡十五等。其流外官及老小閹癡，并過失應贖者，皆以絹代金。三月辛酉，班行之。因大赦，是後為吏者始守法令。又敕仕門子弟常講習之，故齊人多曉法。又令民十八受田，輸租調二十充兵，六十免力役，六十六還田。免租調一夫受露田八十畝，婦人四十畝，奴婢依良人，牛受六十畝，大率一夫一婦調絹一匹，綿八兩，墾租二石，義租五斗，奴婢準良人之半，牛調二尺，墾租一斗，義租五升，墾租送臺，義租納郡，以備水旱。○己巳，齊羣盜田子禮等數十人共劫太師彭城景思王洸為主，詐稱使者，徑向洸第，至內室稱敕，牽洸上馬，臨以白刃，欲引向南殿。洸大呼不從，盜殺之。○庚辰，周初令百官執笏。○齊以斛律光為司徒，武興王普為尚書左僕射，普歸彥之兄子也。甲申，以馮翊王潤為司空。○夏四月辛卯，齊主使兼散騎常侍皇甫亮來聘。○庚子，周主遣使來聘。○癸卯，周以鄧公河南寶熾為大宗伯。五月壬戌，封世宗之子賢為畢公。○甲子，齊主還鄴。○壬午，齊以趙郡王叡為錄尚書事，前司徒婁叡為太尉，甲申，以段韶為太師。丁亥，以任城王湝為大將軍。○壬辰，齊主如晉陽。○周以太保達奚武為同州刺史。○六月，齊主殺樂陵王百年。時白虹暈日兩重，又橫貫而不達，赤星見。齊主欲以百年獻之，會博陵人賈德胃教百年書百年嘗作數敕字，德胃封以奏之，帝發怒，使召百年，百年自知不免，割帶玦留與其妃斛律氏，見帝於涼風堂，使百年書敕字，驗與德胃所奏相似，遣左右亂捶之，又令曳

之。遶堂行且捶。所過血皆遍地。氣息將盡。乃斬之。棄諸池。池水盡赤。妃把玦哀號不食。月餘亦卒。玦猶在手。不可開。其父光自擘之。乃開。○庚寅。周改御伯為納言。○初。周太祖之從賀拔岳在關中也。遣人迎晉公護於晉陽。護母閻氏及周主之姑皆留晉陽。齊人以配中山宮。及護用事。遣間使入齊。求之。莫知音息。齊遣使者至玉璧。求通互市。護欲訪求母姑。使司馬下大夫尹公正至玉璧。與之言。使者甚悅。勳州刺史韋孝寬獲關東人。復縱之。因致書為言。西朝欲通好之意。是時。周人以前攻晉陽不得志。謀與突厥再伐齊。齊主聞之。大懼。許遣護母西歸。且求通好。先遣其姑歸。○秋八月丁亥朔。日有食之。○周遣柱國楊忠會突厥。伐齊。至北河而還。○戊子。周以齊公憲為雍州牧。宇文貴為大司徒。九月丁巳。以衛公直為大司空。追錄佐命元功。封開府儀同三司。隴西公李昧為唐公。太馭中大夫長樂公若干鳳為徐公。昧虎之子。鳳惠之子也。○乙丑。齊主封其子綽為南陽王。儼為東平王。儼太子之母弟也。○突厥寇齊幽州。衆十餘萬。入長城。大掠而還。○周皇姑之歸也。齊主遣人為晉公護母作書。言護幼時數事。又寄其所著錦袍以為信驗。且曰。吾屬千載之運。蒙大齊之德。於老開恩。許得相見。禽獸草木。母子相依。吾有何罪。與汝分離。今復何福。還望見汝。言此悲喜。死而更蘇。世間所有。求皆可得。母子異國。何處可求。假汝貴極。王公富過山海。有一老母。八十之年。飄然千里。死亡旦夕。不得一朝覿見。不得一日同處。寒不得汝衣。饑不得汝食。汝雖窮榮極盛。光耀世間。於吾何益。吾今日之前。汝既不得申其供養。事往何論。今日以後。吾之殘命。唯繫於汝爾。戴天履地。中有鬼神。勿云冥昧。而可欺負。護得書。悲不自勝。復書曰。區宇分崩。遭遇災禍。遠離膝下。三十五年。受生稟氣。皆知母子。誰同。嗚呼。如此不孝。子為公侯。母為俘隸。暑不見母。暑寒不見母。寒衣不知有無。食不知知饑飽。混如天地之外。無由暫聞。分懷冤酷。終此一生。死若有知。冀奉見於泉下耳。不謂齊朝解網。惠以德音。磨敦四姑。竝許於放。初聞

此旨。魂爽飛越。號天叩地。不能自勝。齊朝需然之恩。既已霑洽。有家有國。信義為本。伏度來期。已應有日。一得奉見。慈顏永畢。生願生。死肉骨。豈過今恩。負山戴嶽。未足勝荷。齊人留護母。使更與護書。邀護重報。往返再三。時段詔拒突厥軍於塞下。齊主使黃門徐世榮乘傳齎周書。問詔。詔以周人反覆。本無信義。比晉陽之役。其事可知。護外託為相。其實主也。既為母請和。不遣一介之使。若據移書。即送其母。恐示之以弱。不如且外許之。待和親堅定。然後遣之。未晚。齊主不聽。即遣之。閻氏至周。舉朝稱慶。周主為之大赦。凡所資奉。窮極華盛。每四時伏臘。周主帥諸親戚。行家人之禮。稱觴上壽。○突厥自幽州還。留屯塞北。更集諸部兵。遣使告周。欲與共擊齊。如前約。閏月乙巳。突厥寇齊幽州。晉公護新得其母。未欲伐齊。恐負突厥約。更生邊患。不得已。徵二十四軍。及左右廂散隸秦隴巴蜀之兵。并羌胡內附者。凡二十萬人。冬十月甲子。周主授護斧鉞於廟庭。丁卯。親勞軍於沙苑。癸酉。還宮。護軍至潼關。遣柱國尉遲迥帥精兵十萬為前鋒。趣洛陽。大將軍權景宣帥山南之兵。趣懸瓠。少師楊綱出軹關。○周迪復出東興。宣城太守錢肅鎮東興。以城降迪。吳州刺史陳詳將兵擊之。詳兵大敗。迪衆復振。南豫州刺史西豐脫侯周敷帥所部擊之。至定川。與迪對壘。迪給敷曰。吾昔與弟戮力同心。豈規相害。今願伏罪還朝。因弟披露心腑。先乞挺身共盟。敷許之。方登壇。為迪所殺。○陳寶應據晉安建安二郡。水陸為柵。以拒章昭達。昭達與戰。不利。因據上流。命軍士伐木為筏。施拍其上。會大雨江漲。昭達放筏。衝寶應水柵。盡壞之。又出兵攻其步軍。方合戰。上遣將軍余孝頌自海道適至。并力乘之。十一月己丑。寶應大敗。逃至莆口。謂其子曰。早從虞公計。不至今日。昭達追擒之。并擒留異。及其族黨。送建康。斬之。異子貞臣以尚主得免。寶應賓客皆死。上聞虞寄嘗諫寶應。命昭達禮遣詣建康。既見。勞之曰。管寧無恙。以為衡陽王掌書記。○周晉公護進屯弘農。尉遲迥圍洛陽。雍州牧齊公憲同州刺史達奚武涇州總管王雄

軍於邙山。○戊戌，齊主遣兼散騎常侍劉遜來聘。○初，周楊檮為邵州刺史，鎮捍東境，二十餘年，數與齊戰，未嘗不捷，由是輕之。既出軹關，獨引兵深入，又不設備。甲辰，齊太尉婁叡將兵奄至，大破檮軍，檮遂降齊。權景宣圍懸瓠，十二月，齊豫州道行臺豫州刺史太原王士良、永州刺史蕭世怡竝以城降之。景宣使開府郭彥守豫州，謝徹守永州，送士良、世怡及降卒千人於長安。周人為土山地道，以攻洛陽，三旬不克。晉公護命諸將，塹斷河陽路，遏齊救兵。然後同攻洛陽，諸將以為齊兵必不敢出，唯張斥候而已。齊遣蘭陵王長恭、大將軍斛律光救洛陽，畏周兵之彊，未敢進。齊主召并州刺史段韶，謂曰：「洛陽危急，今欲遣王救之，突厥在北，復須鎮禦，如何？」對曰：「北虜侵邊，事等疥癬，今西鄰闕逼，乃腹心之病，請奉詔南行。」齊主曰：「朕意亦爾。」乃令韶督精騎一千發晉陽，丁巳，齊主亦自晉陽赴洛陽。○己未，齊太宰平陽靖翼王淹卒。○段韶自晉陽行，五日濟河，會連日陰霧，壬戌，韶至洛陽，帥帳下三百騎，與諸將登邙阪，觀周軍形勢。至太和谷，與周軍遇，韶即馳告諸營，追集騎士，結陳以待之。韶為左軍，蘭陵王長恭為中軍，斛律光為右軍。周人不意其至，皆怖懼。韶遙謂周人曰：「汝宇文護，纔得其母，遽來為寇，何也？」周人曰：「天遣我來，有何可問？」韶曰：「天道賞善罰惡，當遣汝送死來耳。周人以步兵在前，上山逆戰，韶且戰且却，以誘之，待其力弊，然後下馬擊之。周師大敗，一時瓦解，投墜谿谷，死者甚衆。蘭陵王長恭以五百騎突入周軍，遂至金墉城下，城上人弗識，長恭免胄示之面，乃下弩手救之。周師在城下者，亦解圍遁去。委棄營幕，自邙山至穀水三十里中，軍資器械，彌滿川澤。唯齊公憲、達奚武及庸忠公王雄在後，勒兵拒戰。王雄馳馬衝斛律光，陳光退走，雄追之，光左右皆散，唯餘一奴一矢，雄按稍不及，光者丈餘，謂光曰：「吾惜爾不殺，當生將爾見天子。」光射雄，中額，雄抱馬走，至營而卒。軍中益懼，齊公憲拊循督勵，衆心小安。至夜收軍，憲欲待明更戰，達奚武曰：「洛陽軍散，人情震駭，若不因夜速還，明日欲歸不得。」

武在軍久，備見形勢，公少年，未經事，豈可以數營士卒委之虎口乎？乃還。權景宣亦棄豫州走。丁卯，齊主至洛陽，己巳，以段韶為太宰，斛律光為太尉，蘭陵王長恭為尚書令，壬申，齊主如虎牢，遂自滑臺如黎陽。丙子，至鄴，楊忠引兵出沃野，應接突厥，軍糧不給，諸軍憂之，計無所出。忠乃招誘稽胡酋長，咸在坐，詐使河州刺史王傑勒兵鳴鼓而至，曰：「大家宰已平洛陽，欲與突厥共討稽胡，不服者坐者皆懼，忠慰諭而遣之。於是諸胡相帥饋輸，軍糧填積，屬周師罷歸，忠亦還。晉公護本無將略，是行也，又非本心，故無功。與諸將稽首謝罪。周主慰勞罷之。○是歲，齊山東大水，饑死者不可勝計。○宕昌王梁彌定屢寇周邊，周大將軍田弘討滅之，以其地置宕州。

六年春正月癸卯，齊以任城王潛為大司馬。○齊主如晉陽。○二月辛丑，周遣陳公純、許公貴、神武公竇毅、南陽公楊荐等備皇后儀衛行殿，并六宮百二十人詣突厥，可汗牙帳，逆女毅熾之兄子也。○丙寅，周以柱國安武公李穆為大司空，綏德公陸通為大司寇。○壬申，周主如岐州。○夏四月甲寅，以安成王瑒為司空，瑒以帝弟之重，勢傾朝野，直兵鮑僧叡恃瑒勢為不法，御史中丞徐陵為奏彈之，從南臺官屬引奏案而入，上見陵章服嚴肅，為斂容正坐。陵進讀奏版，時瑒在殿上侍立，仰視上，流汗失色。陵遣殿中御史引瑒下殿，上為之免瑒侍中，中書監朝廷肅然。○戊午，齊大將軍東安王婁叡坐事免。○齊著作郎祖珽有文學多技藝，而疎率無行，嘗為高祖中外府功曹，因宴失金叵羅於珽，珽上得之，又坐詐盜官粟三千石，鞭二百，配甲坊。顯祖時，珽為祕書丞，盜華林園略，及有它贓，當絞，除名為民。顯祖雖憎其數犯法，而愛其才伎，令直中書省。世祖為長廣王，珽為胡桃油，獻之，因言殿下有非常骨法，孝徵夢殿下乘龍上天，王曰：「若然，當使兄大富貴。」及即位，擢拜中書侍郎，遷散騎常侍，與和士開共為姦諂，珽私說士開曰：「君之寵幸，振古無比，宮車一日晚駕，欲何以克終？」士開因

從問計。珽曰：「宜說主上云：『文襄文宣孝昭之子，俱不得立，今宜令皇太子早踐大位，以定君臣之分。若事成，中宮少主，必皆德君。此萬全計也。』請君微說主上，令粗解。珽當自外上表論之。士開許諾，會有彗星見，太史奏云：『彗，除舊布新之象。當有易主。』珽於是上書言：『陛下雖爲天子，未爲極貴。宜傳位東宮。且以上應天道，并上魏顯祖禪子故事。齊主從之。』丙子，使太宰段韶持節奉皇帝璽綬，傳位於太子緯。太子卽皇帝位於晉陽宮。大赦，改元天統。又詔以太子妃斛律氏爲皇后。於是羣公、上世祖尊號爲太上皇帝。軍國大事，咸以聞。使黃門侍郎馮子琮尚書左丞胡長榮輔導少主。出入禁中，專典敷奏。子琮，胡后之妹夫也。祖珽拜祕書監，加儀同三司。大被親寵，見重二宮。○丁丑，齊以賀拔仁爲太師，侯莫陳相爲太保，馮翊王潤爲司徒，趙郡王叡爲司空，河南王孝琬爲尚書令，戊寅，以瀛州刺史尉粲爲太尉，斛律光爲大將軍，東安王婁叡爲太尉。尚書僕射趙彥深爲左僕射。○五月，突厥遣使至齊，始與齊通。○六月，己巳，齊主使兼散騎常侍王季高來聘。○秋，七月，辛巳朔，日有食之。○上遣都督程靈洗自鄱陽別道擊周迪，破之。迪與麾下十餘人竄於山穴中，日月浸久，從者亦稍苦之。後遣人潛出臨川，市魚鮓，臨川太守駱牙執之，令取迪自效。因使腹心勇士隨之入山，其人誘迪出獵，勇士伏於道傍，出斬之。丙戌，傳首至建康。○庚寅，周主如秦州。八月，丙子，還長安。○己卯，立皇子伯固爲新安王，伯恭爲晉安王，伯仁爲廬陵王，伯義爲江夏王。○冬，十月，辛亥，周以函谷關城爲通洛防，以金州刺史賀敦爲中州刺史，鎮函谷。敦恃才負氣，顧其流輩皆爲大將軍，敦獨未得兼，以湘州之役，全軍而返，謂宜受賞，翻得除名。對臺使出怨言，晉公護怒，徵還，逼令自殺。臨死，謂其子弼曰：『吾志平江南，今而不果，汝必成吾志。吾以舌死，汝不可不思。』因引錐刺弼，弼出血，以誠之。○十一月，癸未，齊太上皇至鄴。○齊世祖之爲長廣王也，數爲顯祖所捶，心常銜之。顯祖每見祖珽，常呼爲賊，故珽亦怨之。且欲求媚於世祖，乃說

世祖曰：「文宣狂暴，何得稱文？既非創業，何得稱祖？若文宣爲祖，陛下萬歲後，當何所稱？帝從之。」己丑，改諡太祖獻武皇帝爲神武皇帝，廟號高祖。獻明皇后爲武明皇后，令有司更議文宣諡號。○十二月，乙卯，封皇子伯禮爲武陵王。○壬戌，齊上皇如晉陽。○庚午，齊改諡文宣皇帝爲景烈皇帝，廟號威宗。

天康元年春正月己卯日有食之○癸未周大赦改元天和○辛卯齊主祀園丘癸巳詔太廟○丙申齊以吏部尚書尉瑾爲右僕射○己亥周主耕籍田○庚子齊主如晉陽○周遣小載師杜杲來聘○二月庚戌齊上皇還鄴○丙子大赦改元○三月己卯以安成王瑒爲尚書令○丙午周主祀南郊夏四月辛亥大雩○上不豫臺閣衆事並令尚書僕射到仲舉五兵尚書孔奐共決之奐瑒之曾孫也疾篤奐仲舉與司空尚書令揚州刺史安成王瑒吏部尚書袁樞中書舍人劉師知入侍醫藥樞君正之子也太子伯宗柔弱上憂其不能守位謂瑒曰吾欲遵太伯之事瑒拜伏泣涕固辭上又謂仲舉奐等曰今三方鼎峙四海事重宜須長君朕欲近則晉成遠隆殷法卿等宜遵此意孔奐流涕對曰陛下御膳違和瘞復非久皇太子春秋鼎盛聖德日躋安成介弟之尊足爲周且若有廢立之心臣等愚誠不敢聞詔上曰古之遺直復見於卿乃以奐爲太子詹事

臣光曰夫人臣之事君將順其美正救其惡孔奐在陳處腹心之重任決社稷之大計苟以世祖之言爲不誠則當如竇嬰面辯袁盎廷爭防微杜漸以絕覬覦之心以爲誠邪則當請明下詔書宣告中外使世祖有宋宣之美高宗無楚靈之惡不然謂太子嫡嗣不可動搖欲保輔而安全之則當盡忠竭節如晉之荀息趙之肥義奈何於君之存則逆探其情而求合焉及其既沒則權臣移國而不能救嗣主失位而不能死斯乃姦諛之尤者而世祖謂之遺直以託六尺之孤豈不悖哉

癸酉。上起自艱難。知民疾苦。性明察儉約。每夜刺聞。取外事分判者。前後相續。敕傳更籤於殿中者。必投籤於階石之上。令鎗然有聲。曰。吾雖眠。亦令驚覺。太子即位。大赦。五月。己卯。尊皇太后曰太皇太后。皇后曰皇太后。○己酉。齊以兼尚書左僕射武興王普為尚書令。○吐谷渾龍涸王莫昌帥部落附於周。以其地為扶州。○庚寅。以安成王頊為驃騎大將軍。司徒錄尚書都督中外諸軍事。丁酉。以中軍大將軍開府儀同三司徐度為司空。以吏部尚書袁樞為左僕射。吳興太守沈欽為右僕射。御史中丞徐陵為吏部尚書。陵以梁末以來。選授多濫。乃為書示眾。曰。梁元帝承侯景之凶荒。王太尉接荊州之禍敗。故使官方窮此紛雜。永安之時。聖朝草創。白銀難得。黃札易營。權以官階代於錢絹。致令員外常侍。路上比肩。諮議參軍。市中無數。豈是朝章。固應如此。今衣冠禮樂。日富年華。何可猶作舊意。非理望也。眾咸服之。○己亥。齊立上皇子弘為齊安王。仁固為北平王。仁英為高平王。仁光為淮南王。○六月。齊遣兼散騎常侍韋道儒來聘。○丙寅。葬文皇帝於永寧陵。廟號世祖。○秋。七月。戊寅。周築武功等諸城。以置軍士。○丁酉。立妃王氏為皇后。○八月。齊上皇如晉陽。○周信州蠻冉令賢。向五子王等。據巴峽。反。攻陷白帝。黨與連結。二千餘里。周遣開府儀同三司元契。趙剛等。前後討之。終不克。九月。詔開府儀同三司陸騰。督開府儀同三司王亮。司馬裔。討之。騰軍於湯口。令賢於江南據險要。置十城。遠結涪陽蠻。為聲援。自帥精卒。固守水邏城。騰召諸將。問計。皆欲先取水邏。後攻江南。騰曰。令賢內恃水邏。金湯之固。外託涪陽。輔車之援。資糧充實。器械精新。以我懸軍。攻其嚴壘。脫一戰不克。更成其氣。不如頓軍湯口。先取江南。翦其羽毛。然後進軍水邏。此制勝之術也。乃遣王亮。帥眾度江。旬日。拔其八城。捕虜及納降。各千計。遂間募驍勇。數道進攻水邏。蠻帥冉伯犁。冉安西。素與令賢有仇。騰說誘。賂以金帛。使為鄉導。水邏之旁。有石勝城。令賢使其兄子龍真據之。騰密誘龍真。龍真遂以城降。水邏眾潰。斬

首萬餘級。捕虜萬餘口。令賢走。追獲斬之。騰積骸於水邏城側。為京觀。是後。羣蠻望之。輒大哭。不敢復叛。向五子王據石墨城。使其子寶勝據雙城。水邏既平。騰頻遣諭之。猶不下。進擊皆擒之。盡斬諸酋會長。捕虜萬餘口。信州舊治白帝。騰徙之於八陳灘北。以司馬裔為信州刺史。小吏部隴西辛昂。奉使梁益。且為騰督軍糧。時臨信楚合等州民。多從亂。昂諭以禍福。赴者如歸。乃令老弱負糧。壯夫拒戰。咸樂為用。使還。會巴州萬榮郡民反。攻圍郡城。遏絕山路。昂謂其徒曰。凶狡猖狂。若待上聞。孤城必陷。苟利百姓。專之可也。遂募通開二州。得三千人。倍道兼行。出其不意。直趣賊壘。賊以為大軍至。望風瓦解。一郡獲全。周朝嘉之。以為渠州刺史。○冬。十月。齊以侯莫陳相為太傅。任城王湝為太保。婁叡為大司馬。馮翊王潤為太尉。開府儀同三司韓祖念為司徒。○庚申。帝幸太廟。○十一月。乙亥。周遣使來弔。丙戌。周主行視武功等新城。十二月。庚申。還長安。○齊河間王孝琬。怨執政。為草人而射之。和士開祖珽。譖之於上。皇曰。草人以擬聖躬也。又前突厥至并州。孝琬脫兜鍪抵地云。我豈老嫗。須著此物。此言屬大家也。又魏世謠言。河南種穀。河北生白楊。樹上金雞鳴。河南北者。河間也。孝琬將建金雞大赦耳。上皇頗惑之。會孝琬得佛牙。置第內。夜有光。上皇聞之。使搜之。得填庫稍幡數百。上皇以為反具。收訊諸姬。有陳氏者。無寵。誣孝琬云。孝琬常畫陛下像。而哭之。其實世宗像也。上皇怒。使武衛赫連輔文。倒鞭撻之。孝琬呼叔。上皇曰。何敢呼我為叔。孝琬曰。臣神武皇帝嫡孫。文襄皇帝嫡子。魏孝靜皇帝之甥。何為不得呼叔。上皇愈怒。折其兩脛而死。安德王延宗。哭之。淚赤。又為草人。鞭而訊之。曰。何故殺我兄。奴告之。上皇覆延宗於地。馬鞭鞭之二百。幾死。○是歲。齊賜侍中中書監元文遙。姓高氏。頃之。遷尚書左僕射。魏末以來。縣令多用廝役。由是士流恥為之。文遙以為縣令治民之本。遂請革選。密擇貴遊子弟。發敕用之。猶恐其披訴。悉召之。集神武門。令趙郡王叡。宣旨唱名。厚加慰諭。而遣之。齊之士人為縣

自此始。

資治通鑑卷第一百六十九

資治通鑑卷第一百七十

陳紀四

臨海王

光大元年春正月癸酉朔日有食之。○尚書左僕射袁樞卒。○乙亥大赦改元。○辛卯帝祀南郊。○壬辰齊上皇還鄴。○己亥周主耕籍田。○二月壬寅朔齊主加元服大赦。○初高祖為梁相用劉師知為中書舍人師知涉學工文練習儀體歷世祖朝雖位宦不遷而委任甚重與揚州刺史安成王瑒尚書僕射到仲舉同受遺詔輔政師知仲舉恆居禁中參決衆事瑒與左右三百人入居尚書省師知見瑒地望權執為朝野所屬心忌之與尚書左丞王暹等謀出瑒於外衆猶豫未敢先發東宮通事舍人殷不佞素以名節自任又受委東宮乃馳詣相府矯敕謂瑒曰今四方無事王可還東府經理州務瑒將出中記室毛喜馳入見瑒曰陳有天下日淺國禍繼臻中外危懼太后深惟至計令王入省共康庶績今日之言必非太后之意宗社之重願王三思須更聞奏無使奸人得肆其謀今出外即受制於人譬如曹爽願作富家翁其可得邪瑒遣喜與領軍將軍吳明徹籌之明徹曰嗣君諒闇萬機多闕殿下親實周召當輔安社稷願留中勿疑瑒乃稱疾召劉師知留之與語使毛喜先入言於太后太后曰今伯宗幼弱政事竝委二郎此非我意喜又言於帝帝曰此自師知等所為朕不知也喜出以報瑒瑒因囚師知自入見太后及帝極陳師知之罪仍自草敕請畫以師知付廷尉其夜於獄中賜死以到仲舉為金紫光祿大夫王暹殷不佞竝付治不佞不害之弟也少

有孝行。項雅重之。故獨得不死。免官而已。王暹伏誅。自是國政盡歸於項。右衛將軍會稽韓子高。鎮領軍府。在建康。諸將中士馬最盛。與仲舉通謀。事未發。毛喜請簡士馬。配子高。并賜鐵炭。使修器甲。項驚曰。子高謀反。方欲收執。何爲更如是邪。喜曰。山陵始畢。邊寇尙多。而子高受委前朝。名爲杖順。若收之。恐不卽授首。或能爲人患。宜推心安誘。使不自疑。伺間圖之。一壯士之力耳。項深然之。仲舉旣廢。歸私第。心不自安。子郁尙世祖妹信義長公主。除南康內史。未之官。子高亦自危。求出爲衡廣諸鎮。郁每乘小輿。蒙婦人衣。與子高謀。會前上虞令陸昉。及子高軍主。告其謀反。項在尙書省。因召文武在位。議立皇太子。平旦。仲舉子高入省。皆執之。并郁送廷尉。下詔於獄。賜死。餘黨一無所問。○辛亥。南豫州刺史余孝頃坐謀反誅。○癸丑。以東揚州刺史始興王伯茂爲中衛大將軍。開府儀同三司。伯茂帝之母弟也。劉師知韓子高之謀。伯茂皆預之。司徒項。恐扇動內外。故以爲中衛。專使之居禁中。與帝遊處。○三月甲午。以尙書右僕射沈欽爲侍中。左僕射。○夏四月癸丑。齊遣散騎常侍司馬幼之來聘。○湘州刺史華皎。聞韓子高死。內不自安。繕甲聚徒。撫循所部。啓求廣州。以下朝廷之意。司徒項。僞許之。而詔書未出。皎遣使潛引周兵。又自歸於梁。以其子玄響爲質。五月癸巳。項以丹楊尹吳明徹爲湘州刺史。○甲午。齊以東平王儼爲尙書令。○司徒項遣吳明徹帥舟師三萬。趣郢州。丙申。遣征南大將軍淳于量。帥舟師五萬。繼之。又遣冠武將軍楊文通。從安成步道。出茶陵。巴山太守黃法慧。從宜陽。出澧陵。共襲華皎。并與江州刺史章昭達。郢州刺史程靈洗。合謀進討。六月壬寅。以司空徐度爲車騎將軍。總督建康諸軍。步道趣湘州。○辛亥。周主尊其母叱奴氏爲皇太后。○己未。齊封皇弟仁機爲西河王。仁約爲樂浪王。仁儉爲潁川王。仁雅爲安樂王。仁直爲丹陽王。仁謙爲東海王。○華皎使者至長安。梁王亦上書言狀。且乞師。周人議出師應之。司會崔猷曰。前歲東征。死傷過半。比雖循撫。瘡痍未復。今陳氏

保境息民。共敦鄰好。豈可利其土地。納其叛臣。違盟約之信。興無名之師乎。晉公護不從。閏六月戊寅。遣襄州總管衛公直。督柱國陸通。大將軍田弘。權景宣。元定等。將兵助之。○辛巳。齊左丞相咸陽武王斛律金卒。年八十。長子光爲大將軍。次子羨。及孫武都。竝開府儀同三司。出鎮方岳。其餘子孫。封侯顯貴者甚衆。門中一皇后。二太子妃。三公主。事齊貴寵。三世無比。自肅宗以來。禮敬尤重。每朝見。常聽乘步挽車。至階。或以羊車迎之。然金不以爲喜。嘗謂光曰。我雖不讀書。聞古來外戚。鮮有能保其族者。女若有寵。爲諸貴所嫉。無寵爲天子所憎。我家直以助勞致富。何必藉女寵也。○壬午。齊以東平王儼錄尙書事。以左僕射趙彥深爲尙書令。并省尙書左僕射。婁定遠爲左僕射。中書監徐之才爲右僕射。定遠。昭之子也。○秋七月戊申。立皇子至澤爲太子。○八月。齊立任城王湝爲太師。馮翊王潤爲大司馬。段韶爲左丞相。賀拔仁爲右丞相。侯莫陳相爲太宰。婁叡爲太傅。斛律光爲太保。韓祖念爲大將軍。趙郡王叡爲太尉。東平王儼爲司徒。儼有寵於上皇。及胡后。時兼京畿大都督。領軍大將軍。領御史中丞。魏朝故事。中丞出。與皇太子分路。王公皆遙駐車。去牛頓。輒於地。以待其過。其或遲違。則前驅以赤棒棒之。自遷鄴以後。此儀廢絕。上皇欲尊寵儼。命一遵舊制。儼初從北宮出。將上中丞。凡京畿步騎。領軍官屬。中丞威儀。司徒鹵簿。莫不畢從。上皇與胡后張幕於華林園東門外。而觀之。遣中使驟馬趣仗。不得入。自言奉敕赤棒卒。應聲碎其鞍。馬驚人墜。上皇大笑。以爲善。更敕駐車。勞問良久。觀者傾鄴城。儼恆在宮中。坐含光殿。視事。諸父皆拜之。上皇或時如并州。儼恆居守。每送行。或半路。或至晉陽。乃還。器玩服飾。皆與齊主同。所須悉官給。嘗於南宮。見新水。早李。還怒曰。尊兄已有。我何意無。自是齊主或先得新奇。屬官及工人。必獲罪。儼性剛決。嘗言於上皇曰。尊兄儒。何能帥左右。上皇每稱其才。有廢立意。胡后亦勸之。旣而中止。○華皎遣使誘章昭達。昭達執送建康。又誘程靈洗。靈洗斬之。皎以武

州居其心腹。遣使誘都督陸子隆。子隆不從。遣兵攻之。不克。巴州刺史戴僧朔等竝隸於皎。長沙太守曹慶等本隸皎。下遂爲之用。司徒瑛恐上流守宰皆附之。乃曲赦湘巴二州。九月。乙巳。悉誅皎家屬。梁以皎爲司空。遣其柱國王操將兵二萬助之。周權景宣將水軍。元定將陸軍。衛公直總之。與皎俱下。淳于量軍夏口。直軍魯山。使元定以步騎數千圍郢州。皎軍于白螺。與吳明徹等相持。徐度。楊文通。由嶺路襲湘州。盡獲其所留軍士家屬。皎自巴陵與周梁水軍順流乘風而下。軍執甚盛。戰于沌口。量明徹募軍中小艦多賞金銀。令先出。當西軍大艦受其拍。西軍諸艦發拍皆盡。然後量等以大艦拍之。西軍艦皆碎。沒于中流。西軍又以艦載薪。因風縱火。俄而風轉自焚。西軍大敗。皎與戴僧朔單舸走。過巴陵。不敢發岸。逕奔江陵。衛公直亦奔江陵。元定孤軍。進退無路。斫竹開徑。且戰且引。欲趣巴陵。巴陵已爲徐度等所據。度等遣使僞與結盟。許縱之還國。定信之。解仗就度。度執之。盡俘其衆。并擒梁大將軍李廣。定憤恚而卒。皎黨曹慶等四十餘人竝伏誅。唯以岳陽太守章昭裕。昭達之弟。桂陽太守曹宣。高祖舊臣。衡陽內史汝陰任忠。嘗有密啓。皆宥之。吳明徹乘勝攻梁河東。拔之。周衛公直歸罪於梁柱國殷亮。梁主知非其罪。然不敢違。遂誅之。周與陳旣交惡。周沔州刺史裴寬。白襄州總管請益戍兵。并遷城於羊蹄山。以避水。總管兵未至。程靈洗舟師奄至城下。會大雨。水暴漲。靈洗引大艦臨城。發拍擊樓堞皆碎。矢石晝夜攻之三十餘日。陳人登城。寬猶帥衆執短兵拒戰。又二日。乃擒之。○丁巳。齊上皇如晉陽。山水水飢。僵尸滿道。○冬。十月。甲申。帝享太廟。○十一月。戊戌朔。日有食之。○丙午。齊大赦。○癸丑。周許穆公宇文貴自突厥還。卒于張掖。○齊上皇還鄴。○十二月。周晉公護母卒。詔令視事。○齊祕書監祖珽與黃門侍郎劉逖友善。珽欲求宰相。乃疏趙彥深。元文遙。和士開罪狀。令逖奏之。逖不敢通。彥深等聞之。先詣上皇自陳。上皇大怒。執珽詰之。珽因陳士開。文遙。彥深等朋黨弄權。賣官鬻獄。

事。上皇曰。爾乃誹謗我。珽曰。臣不敢誹謗。陛下取人女。上皇曰。我以其飢饉收養之耳。珽曰。何不開倉振給。乃買入後宮乎。上皇益怒。以刀環築其口。鞭杖亂下。將撲殺之。珽呼曰。陛下勿殺臣。臣爲陛下合金丹。遂得少寬。珽曰。陛下有一范增。不能用。上皇又怒曰。爾自比范增。以我爲項羽邪。珽曰。項羽布衣。帥烏合之衆。五年而成霸業。陛下藉父兄之資。纔得至此。臣以爲項羽未易可輕。上皇愈怒。令以土塞其口。珽且吐且言。乃鞭二百。配甲坊。尋徙光州。敕令牢掌別駕張奉福曰。牢者地牢也。乃置地牢中。桎梏不離身。夜以蕪菁子爲燭。眼爲所熏。由是失明。○齊七兵尚書畢義雲。爲治酷忍。非人理所及。於家尤甚。夜爲盜所殺。遺其刀。驗之。其子善昭所佩刀也。有司執善昭誅之。

二年春。正月。己亥。安成王瑛進位太傅。領司徒。加殊禮。○辛丑。周主祀南郊。○癸亥。齊主使兼散騎常侍鄭大護來聘。○湘東忠肅公徐度卒。○二月。丁卯。周主如武功。○突厥木杆可汗。貳於周。更許齊人以昏。留陳公純等數年不返。會大雷風。壞其穹廬。旬日不止。木杆懼。以爲天譴。卽備禮。送其女子周純等奉之以歸。三月。癸卯。至長安。周主行親迎之禮。甲辰。周大赦。○乙巳。齊以東平王儼爲大將軍。南陽王綽爲司徒。開府儀同三司。徐顯秀爲司空。廣寧王孝珩爲尚書令。○戊午。周燕文公于謹卒。謹勳高位重。而事上益恭。每朝參。所從不過二三騎。朝廷有大事。多與謹謀之。謹盡忠補益。於功臣中。特被親信。禮遇隆重。始終無間。教訓諸子。務存靜退。而子孫蕃衍。率皆顯達。○吳明徹乘勝進攻江陵。引水灌之。梁主出頓紀南。以避之。周總管田弘從梁主。副總管高琳與梁僕射王操守江陵三城。晝夜拒戰十旬。梁將馬武吉徹擊明徹敗之。明徹退保公安。梁主乃得還。○夏。四月。辛巳。周以達奚武爲太傅。尉遲迴爲太保。齊公憲爲大司馬。○齊上皇如晉陽。○齊尚書左僕射徐之才善醫。上皇有疾。之才療之。既愈。中書監和士開欲得次遷。乃出之才爲兗州刺史。五月。癸卯。以尚書右僕射

胡長仁爲左僕射。士開爲右僕射。長仁，太上皇后之兄也。○庚戌，周主享太廟。庚申，如醴泉宮。○壬戌，齊上皇還鄴。○秋七月壬寅，周隨桓公楊忠卒。子堅襲爵，堅爲開府儀同三司。小宮伯晉公護欲引以爲腹心，堅以白忠，忠曰：「兩姑之間，難爲婦，汝其勿往。」堅乃辭之。○丙午，帝享太廟。○戊午，周主還長安。○壬戌，封皇弟伯智爲永陽王，伯謀爲桂陽王。○八月，齊請和於周。周遣軍司馬陸程聘于齊。九月丙申，齊使侍中斛斯文略報之。○冬十月癸亥，周主享太廟。○庚午，帝享太廟。○辛巳，齊以廣寧王孝珩錄尚書事，左僕射胡長仁爲尚書令，右僕射和士開爲左僕射，中書監唐邕爲右僕射。○十一月壬辰朔，日有食之。○齊遣兼散騎常侍李諧來聘。○甲辰，周主如岐陽。○周遣開府儀同三司崔彥等聘于齊。○始興王伯茂以安成王瑱專政，意甚不平，屢肆惡言。甲寅，以太皇太后令誣帝云：「與劉師知華皎等通謀。」且曰：「文皇知子之變，事等帝堯，傳弟之懷。」又符太伯，今可還申曩志，崇立賢君，遂廢帝爲臨海王。以安成王入纂。又下令黜伯茂爲溫麻侯，冀諸別館。安成王使盜邀之於道，殺之車中。○齊上皇疾作，驛追徐之才未至。辛未，疾亟，以後事屬和士開，握其手曰：「勿負我也。」遂殂於士開之手。明日之才至，復遣還州。士開祕喪三日不發。黃門侍郎馮子琮問其故，士開曰：「神武文襄之喪，皆祕不發。今至尊年少，恐王公有貳心者，意欲盡追集於涼風堂，然後與公議之。」士開素忌太尉錄尚書事趙郡王叡，及領軍婁定遠，子琮恐其矯遺詔出叡於外，奪定遠禁兵，乃說之曰：「大行先已傳位於今上，羣臣富貴者皆至尊父子之恩，但令在內貴臣一無改易，王公必無異志，世異事殊，豈得與霸朝相比。」且公不出宮門已數日，升遐之事，行路皆傳，久而不舉，恐有佗變。士開乃發喪。丙子，大赦。戊寅，尊太上皇后爲皇太后，侍中尚書左僕射元文遙以馮子琮、胡太后之妹夫，恐其贊太后干預朝政，與趙郡王叡和士開謀，出子琮爲鄭州刺史，世祖驕奢淫泆，役繁賦重，吏民苦之。甲申，詔所在百工細作，悉罷之。鄴下晉陽

中山宮人，官口之老病者，悉簡放。諸家緣坐在流所者，聽還。○周梁州恆稜獠叛，總管長史南鄭趙文表討之，諸將欲四面進攻，文表曰：「四面攻之，獠無生路，必盡死以拒我，未易可克。今吾示以威恩，爲惡者誅之，從善者撫之，善惡既分，破之易矣。」遂以此意遍令軍中。時有從軍熟獠多與恆稜親識，即以實報之。恆稜猶豫未決，文表軍已至其境，獠中先有二路，一平一險，有獠帥數人來見，請爲鄉導。文表曰：「此路寬平，不須爲導，卿但先行，慰諭子弟，使來降也。」乃遣之。文表謂諸將曰：「獠帥謂吾從寬路而進，必設伏以邀我，當更出其不意，乃引兵自險路入，乘高而望，果有伏兵，獠既失計，爭帥衆來降。」文表皆慰撫之，仍徵其租稅，無敢違者。周人以文表爲蓬州刺史。

高宗宣皇帝上之上

太建元年春正月辛卯朔，周主以齊世祖之喪，罷朝會，遣司會李綸弔賻，且會葬。○甲午，安成王卽皇帝位，改元大赦。復太皇太后爲皇太后，皇太后爲文皇后，立妃柳氏爲皇后。世子叔寶爲太子，封皇子叔陵爲始興王，奉昭烈王祀。乙未，上謁太廟。丁酉，以尚書僕射沈欽爲左僕射，度支尚書王勣爲右僕射，勣，份之孫也。○辛丑，上祀南郊。○壬寅，封皇子叔英爲豫章王，叔堅爲長沙王。○戊午，上享太廟。○齊博陵文簡王濟，世祖之母弟也，爲定州刺史。語人曰：「次敘當至我矣。」齊主聞之，陰使人就州殺之，葬贈如禮。○二月乙亥，上耕籍田。○甲申，齊葬武成帝于永平陵，廟號世祖。○己丑，齊徙東平王儼爲琅邪王。○齊遣侍中叱列長叉聘于周。○齊以司空徐顯秀爲太尉，并省尚書令婁定遠爲司空。初，侍中尚書右僕射和士開爲世祖所親狎，出入臥內，無復期度，遂得幸於胡后。及世祖殂，齊主以士開受顧託，深委任之，威權益盛，與婁定遠及錄尚書事趙彥深、侍中尚書左僕射元文遙、開府儀同三司唐

邕領軍綦連猛高阿那肱度支尚書胡長榮俱用事時號八貴太尉趙郡王叡大司馬馮翊王潤安德王延宗與婁定遠元文遙皆言於齊主請出士開爲外任會胡太后觴朝貴於前殿叡面陳士開罪失云士開先帝弄臣城狐社鼠受納貨賂穢亂宮掖臣等義無杜口冒死陳之太后曰先帝在時王等何不言今日欲欺孤寡邪且飲酒勿多言叡等辭色愈厲儀同三司安吐根曰臣本商胡得在諸貴行末既受厚恩豈敢惜死不出士開朝野不定太后曰異日論之王等且散叡等或投冠於地或拂衣而起明日叡等復詣雲龍門令文遙入奏之三返太后不聽左丞相段韶使胡長榮傳太后言曰梓宮在殯事太忽忽欲王等更思之叡等遂皆拜謝長榮復命太后曰成妹母子家者兄之力也厚賜叡等罷之太后及齊主召問士開對曰先帝於羣臣之中待臣最厚陛下諒開始爾大臣皆有覬覦今若出臣正是翦陛下羽翼宜謂叡云文遙與臣俱受先帝任用豈可一去一留竝可用爲州且出納如舊待過山陵然後遣之叡等謂臣真出心必喜之帝及太后然之告叡等如其言乃以士開爲兗州刺史文遙爲西兗州刺史葬畢叡等促士開就路太后欲留士開過百日叡不許數日之內太后數以爲言有中人知太后密旨者謂叡曰太后意既如此殿下何宜苦違叡曰吾受委不輕今嗣主幼冲豈可使邪臣在側不守之以死何面戴天遂更見太后苦言之太后令酌酒賜叡叡正色曰今論國家大事非爲卮酒言訖遽出士開載美女珠簾詣婁定遠謝曰諸貴欲殺士開蒙王力特全其命用爲方伯今當奉別謹上二女子一珠簾定遠喜謂士開曰欲還入不士開曰在內久不自安今得出實遂本志不願更入但乞王保護長爲大州刺史足矣定遠信之送至門士開曰今當遠出願得一辭觀二宮定遠許之士開由是得見太后及帝進說曰先帝一旦登遐臣愧不能自死觀朝貴意欲以陛下爲乾明臣出之後必有大變臣何面目見先帝於地下因慟哭帝太后皆泣問計安出士開曰臣已得入復何所慮

正須數行詔書耳於是詔出定遠爲青州刺史責趙郡王叡以不臣之罪且日叡將復入諫妻子咸止之叡曰社稷事重吾寧死事先皇不忍見朝廷顛沛至殿門又有人謂曰殿下勿入恐有變叡曰吾上不負天死亦無恨入見太后太后復以爲言叡執之彌固出至永巷遇兵執送華林園雀離佛院令劉桃枝拉殺之叡久典朝政清正自守朝野冤惜之復以士開爲侍中尚書左僕射定遠歸士開所遣加以餘珍賂之○三月齊主如晉陽夏四月甲子以并州尚書省爲大基聖寺晉祠爲大崇皇寺乙丑齊主還鄴○齊主年少多嬖寵武衛將軍高阿那肱素以諂佞爲世祖及和士開所厚世祖多令在東宮侍齊主由是有寵累遷并省尚書令封淮陰王世祖簡都督二十人使侍衛東宮昌黎韓長鸞預焉齊主獨親愛長鸞長鸞名鳳以字行累遷侍中領軍總知內省機密宮婢陸令萱者其夫漢陽駱超坐謀叛誅令萱配掖庭子提婆亦沒爲奴齊主之在襁褓令萱保養之令萱巧黠善取媚有寵於胡太后宮掖之中獨擅威福封爲郡君和士開高阿那肱皆爲之養子齊主以令萱爲女侍中令萱引提婆入侍齊主朝夕戲狎累遷至開府儀同三司武衛大將軍宮人穆舍利者斛律后之從婢也有寵於齊主令萱欲附之乃爲之養母薦爲弘德夫人因令提婆冒姓穆氏然和士開用事最久諸幸臣皆依附之以固其寵齊主思祖珽就流囚中除海州刺史珽乃遣陸媼弟儀同三司悉達書曰趙彥深心腹深沈欲行伊霍事儀同姊弟豈得平安何不早用智士邪和士開亦以珽有膽略欲引爲謀主乃棄舊怨虛心待之與陸媼言於帝曰襄宣昭三帝之子皆不得立今至尊獨在帝位者祖孝徵之力也人有功不可不報孝徵心行雖薄奇略出人緩急可使且其人已盲必無反心請呼取問以籌筴齊主從之召入爲祕書監加開府儀同三司士開譖尚書令隴東王胡長仁驕恣出爲齊州刺史長仁怨憤謀遣刺客殺士開事覺士開與珽謀之珽引漢文帝誅薄昭故事遂遣使就州賜死○五月庚戌周主如醴泉

宮。○丁巳。以吏部尚書徐陵爲右僕射。○秋。七月。辛卯。皇太子納妃沈氏。吏部尚書君理之女也。○辛亥。周主還長安。○八月。庚辰。盜殺周孔城防主。以其地入齊。九月。辛卯。周遣齊公憲與柱國李穆將兵趣宜陽。築崇德等五城。○歐陽紇在廣州十餘年。威惠著於百越。自華皎之叛。帝心疑之。徵爲左衛將軍。紇恐懼。其下多勸之反。遂舉兵。攻衡州刺史錢道戢。帝遣中書侍郎徐儉持節諭旨。紇初見儉。盛仗衛。言辭不恭。儉曰。呂嘉之事。誠當已遠。將軍獨不見周迪陳寶應乎。轉禍爲福。未爲晚也。紇默然不應。置儉於孤園寺。累旬不得還。紇嘗出見儉。儉謂之曰。將軍業已舉事。儉須還報天子。儉之性命雖在將軍。將軍成敗不在於儉。幸不見留。紇乃遣儉還。儉陵之子也。冬。十月。辛未。詔車騎將軍章昭達討紇。○壬午。上享太廟。○十一月。辛亥。周郢文公長孫儉卒。○辛丑。齊以斛律光爲太傅。馮翊王潤爲太保。琅邪王儼爲大司馬。十二月。庚午。以蘭陵王長恭爲尚書令。庚辰。以中書監魏收爲左僕射。○周齊公憲等圍齊宜陽。絕其糧道。○自華皎之亂。與周人絕。至是。周遣御正大夫杜杲來聘。請復修舊好。上許之。遣使如周。

二年。春。正月。乙酉朔。齊改元武平。○齊東安王婁叡卒。○丙午。上享太廟。○戊申。齊使兼散騎常侍裴謙之來聘。齊太傅斛律光將步騎三萬救宜陽。屢破周軍。築統關豐化二城。而還。周軍追之。光縱擊。又破之。獲其開府儀同三司宇文英。梁景興。二月。己巳。齊以斛律光爲右丞相。并州刺史又以任城王湝爲太師。賀拔仁錄尚書事。○歐陽紇召陽春太守馮僕。至南海。誘與同反。僕遣使告其母沈夫人。夫人曰。我爲忠貞。經今兩世。不能惜汝負國。遂發兵拒境。帥諸酋長迎章昭達。昭達倍道兼行。至始興。紇聞昭達奄至。恒擾不知所爲。出頓淮口。多聚沙石。盛以竹籠。置于水柵之外。用遏舟艦。昭達居上流。裝艦造拍。令軍人吹刀潛行水中。以斫籠篋。皆解。因縱大艦隨流突之。紇衆大敗。生禽紇。送之。癸未。斬於建康市。紇之反也。士

人流寓在嶺南者。皆惶駭。前著作佐郎蕭引。獨恬然曰。管幼安。袁曜卿。亦但安坐耳。君子直己以行義。何憂懼乎。紇平。上徵爲金部侍郎。引允之弟也。馮僕以其母功。封信都侯。遷石龍太守。遣使持節。冊命沈氏爲石龍太夫人。賜繡幃油絡。馴馬安車一乘。給鼓吹一部。并麾幢旌節。其鹵簿一如刺史之儀。○三月。丙申。皇太后章氏殂。○戊戌。齊安定武王賀拔仁卒。○丁未。大赦。○夏。四月。甲寅。周以柱國宇文盛爲大宗伯。○周主如醴泉宮。○辛酉。齊以開府儀同三司徐之才爲尚書左僕射。○戊寅。葬武宣皇后於萬安陵。○閏月。戊申。上謁太廟。○五月。壬午。齊遣使來弔。○六月。乙酉。齊以廣寧王孝珩爲司空。○甲辰。齊穆夫人生子恆。齊主時未有男。爲之大赦。陸令萱欲以恆爲太子。恐斛律后恨怒。乃自齊主使斛律后母養之。○己丑。齊以開府儀同三司唐邕爲尚書右僕射。○秋。七月。齊立肅宗子彥基爲城陽王。彥忠爲梁郡王。甲寅。以尚書令蘭陵王長恭爲錄尚書事。中領軍和士開爲尚書令。賜爵淮陽王。士開威權日盛。朝士不知廉恥者。或爲之假子。與富商大賈同在伯仲之列。嘗有一人士。參士開疾。值醫云。王傷寒極重。應服黃龍湯。士開有難色。入士曰。此物甚易服。王不須疑。請爲王先嘗之。一舉而盡。士開感其意。爲之強服。遂得愈。○乙卯。周主還長安。○癸酉。齊以華山王凝爲太傅。○司空章昭達攻梁。梁主與周總管陸騰拒之。周人於峽口南岸築安蜀城。橫引大索於江上。編葦爲橋。以度軍糧。昭達命軍士爲長戟。施於樓船上。仰割其索。索斷糧絕。因縱兵攻安蜀城。下之。梁主告急于周襄州總管衛公直。直遣大將軍李遷哲將兵救之。遷哲以其所部守江陵外城。自帥騎兵出南門。使步出北門。首尾邀擊。陳兵多死。夜。陳兵竊於城西。以梯登城。登者已數百人。遷哲與陸騰力戰拒之。乃退。昭達又決龍川寧朔隄。引水灌江陵。騰出戰於西隄。昭達兵不利。乃引還。○八月。辛卯。齊主如晉陽。○九月。乙巳。齊立皇子恆爲太子。○冬。十月。辛巳朔。日有食之。○齊以廣寧王孝珩爲司徒。上洛王思宗爲

司空復以梁永嘉王莊爲開府儀同三司梁王許以興復竟不果及齊亡莊憤邑卒于鄴○
乙酉上享太廟○己丑齊復威宗諡曰文宣皇帝廟號顯祖○丁酉周鄭桓公達奚武卒○
十二月丁亥齊主還鄴○周大將軍鄒恪將兵平越嶺置西寧州○周齊爭宜陽久而不決
勳州刺史韋孝寬謂其下曰宜陽一城之地不足損益兩國爭之勞師彌年彼豈無智謀之
士若棄嶠東來圖汾北我必失地今宜速於華谷及長秋築城以杜其意脫我先我圖之寔
難乃畫地形具陳其狀晉公護謂使者曰韋公子孫雖多數不滿百汾北築城道誰守之事
遂不行齊斛律光果出晉州道於汾北築華谷龍門二城光至汾東與孝寬相見光曰宜陽
一城久勞爭戰今已舍彼欲於汾北取償幸勿怪也孝寬曰宜陽彼之要衝汾北我之所棄
我棄彼取其償安在君輔翼幼主位望隆重不撫循百姓而極武窮兵苟貪尋常之地塗炭
疲弊之民竊爲君不取也光進圍定陽築南汾城以逼之周人釋宜陽之圍以救汾北晉公
護問計於齊公憲憲曰兄宜暫出同州以爲聲執憲請以精兵居前隨機攻取護從之
三年春正月癸丑以尙書右僕射徐陵爲左僕射○丁巳齊使兼散騎常侍劉環備來聘○
辛酉上祀南郊辛未祀北郊○齊斛律光築十三城於西境馬上以鞭指畫而成拓地五百
里而未嘗伐功又與周韋孝寬戰於汾北破之齊公憲督諸將東拒齊師○二月辛巳上祀
明堂丁酉耕藉田壬寅齊以蘭陵王長恭爲太尉趙彥深爲司空和士開錄尙書事徐之才
爲尙書令唐邕爲左僕射吏部尙書馮子琮爲右僕射仍攝選子琮素諂附士開至是自以
太后親屬且典選頗擅引用人不復啓稟由是與士開有隙○三月丁丑大赦○周齊公憲
自龍門度河斛律光退保華谷憲攻拔其新築五城齊太宰段韶蘭陵王長恭將兵禦周師
攻柏谷城拔之而還○夏四月戊寅朔日有食之○壬午齊以琅邪王儼爲太保○壬辰齊
遣使來聘○周陳公純取齊宜陽等九城齊斛律光將步騎五萬赴之○五月癸亥周使納

言鄭詡來聘○周晉公護使中外府參事郭榮城於姚襄城南定陽城西齊段韶引兵襲周
師破之六月韶圍定陽城周汾州刺史楊敷固守不下韶急攻之屠其外城時韶臥病謂蘭
陵王長恭曰此城三面重澗皆無走路唯慮東南一道耳賊必從此出宜簡精兵專守之此
必成禽長恭乃令壯士千餘人伏於東南澗口城中糧盡齊公憲總兵救之憚韶不敢進敷
帥見兵突圍夜走伏兵擊擒之盡俘其衆乙巳齊取周汾州及姚襄城唯郭榮所築城獨存
敷惜之族子也敷子素少多才藝有大志不拘小節以其父守節陷齊未蒙贈諡上表申理
周主不許至於再三帝大怒命左右斬之素大言曰臣事無道天子死其分也帝壯其言贈
敷大將軍諡曰忠壯以素爲儀同三司漸見禮遇帝命素爲詔書下筆立成詞義兼美帝曰
勉之勿憂不富貴素曰但恐富貴來逼臣臣無心圖富貴也○齊斛律光與周師戰於宜陽
城下取周建安等四城捕虜千餘人而還軍未至鄴齊主敕使散兵光以軍士多有功者未
得慰勞乃密通表請遣使宣旨軍仍且進齊朝發使遲留軍還將至紫陌光乃駐營待使帝
聞光軍已逼心甚惡之亟令舍人召光入見然後宣勞散兵○齊琅邪王儼以和士開穆提婆
等專橫奢縱意甚不平二人相謂曰琅邪王眼光奕奕數步射人向者暫對不覺汗出吾輩
見天子奏事尙不然由是忌之乃出儼居北宮五日一朝不得無時見太后儼之除太保也
餘官悉解猶帶中丞及京畿士開等以北城有武庫欲移儼於外然後奪其兵權治書侍御
史王子宜與儼所親開府儀同三司高舍洛中常侍劉辟疆說儼曰殿下被疏正由士開間
構何可出北宮入民間也儼謂侍中馮子琮曰士開罪重兒欲殺之何如子琮心欲廢帝而
立儼因勸成之儼令子宜表彈士開罪請禁推子琮雜佗文書奏之帝王不審省而可之儼
誑領軍庫狄伏連曰奉敕令領軍收士開伏連以告子琮且請覆奏子琮曰琅邪受敕何必
更奏伏連信之發京畿軍士伏於神虎門外并戒門者不聽士開入秋七月庚午且士開依

常早參伏連前執士開手曰今有一大好事王子宜授以一函云有敕令王向臺因遣軍士護送儼遣都督馮永洛就臺斬之儼本意唯殺士開其黨因逼儼曰事既然不可中止儼遂帥京畿軍士三千餘人屯千秋門帝使劉桃枝將禁兵八十人召儼桃枝遙拜儼命反縛將斬之禁兵散走帝又使馮子琮召儼儼辭曰士開昔來寔合萬死謀廢至尊剃家髮為尼臣為是矯詔誅之尊兄若欲殺臣不敢逃罪若赦臣願遣姊來迎臣即入見姊謂陸令萱也儼欲誘出殺之令萱執刀在帝後聞之戰栗帝又使韓長鸞召儼儼將入劉辟彊牽衣諫曰若不斬穆提婆母子殿下無由得入廣寧王孝珩安德王延宗自西來曰何不入辟彊曰兵少延宗願衆而言曰孝昭帝殺楊遵彥止八十人今有數千何謂少帝泣啓太后曰有緣復見家無緣永別乃急召斛律光儼亦召之光聞儼殺士開撫掌大笑曰龍子所為固自不似凡人入見帝於永巷帝帥宿衛者步騎四百授甲將出戰光曰小兒輩弄兵與交手即亂鄙諺云奴見大家心死至尊宜自至千秋門琅邪必不敢動帝從之光步道使人走出曰大家來儼徒駭散帝駐馬橋上遙呼之儼猶立不進光就謂曰天子弟殺一夫何所苦執其手彊引以前請於帝曰琅邪王年少腸肥腦滿輕為舉措稍長自不復然願寬其罪帝拔儼所帶刀鑲亂築辮頭良久乃釋之收庫狄伏連高舍洛王子宜劉辟彊都督翟顯貴於後園支解暴之都街帝欲盡殺儼府文武職吏光曰此皆勳貴子弟誅之恐人心不安趙彥深亦曰春秋責帥於是罪之各有差太后責問儼曰馮子琮教兒太后怒遣使就內省以弓絃絞殺子琮使內參以庫車載尸歸其家自是太后常置儼於宮中每食必自嘗之○八月己亥齊主如晉陽○九月辛亥齊以任城王湝為太宰馮翊王潤為太師○己未齊平原忠武王段韶卒韶有謀略得將士死力出總軍旅入參幃幄功高望重而雅性溫慎得宰相體事後母孝閨門雍肅齊勳貴之家無能及者○齊祖珽說陸令萱出趙彥深為兗州刺史齊

主以珽為侍中陸令萱說帝曰人稱琅邪王聰明雄勇當今無敵觀其相表殆非人臣自專殺以來常懷恐懼宜早為之計幸臣何洪珍等亦請殺之帝未決以食輦密迎珽問之珽稱周公誅管叔季友醜慶父帝乃攜儼之晉陽使右衛大將軍趙元侃誘儼執之元侃曰臣昔事先帝見先帝愛王今寧就死不忍行此帝出元侃為豫州刺史庚午帝啓太后曰明且欲與仁威早出獵夜四鼓帝召儼儼疑之陸令萱曰兄呼兒何為不去儼出至永巷劉桃枝反接其手儼呼曰乞見家家尊兄桃枝以袖塞其口反袍蒙頭負出至大明宮鼻血滿面拉殺之時年十四裹之以席埋於室內帝使啓太后太后臨哭十餘聲即擁入殿遺腹四男皆幽死冬十月罷京畿府入領軍○壬午周冀公通卒○甲申上享太廟○乙未周遣右武伯谷會琨等聘于齊○齊胡太后出入不節與沙門統曇獻通諸僧至有戲呼曇獻為太上皇者齊主聞太后不謹而未之信後朝太后見二尼悅而召之乃男子也於是曇獻事亦發皆伏誅己亥帝自晉陽奉太后還鄴至紫陌遇大風舍人魏僧伽習風角奏言即時當有暴逆事帝詐云鄴中有變彎弓纏鞘馳入南城遣宦者鄧長顓幽太后於北宮仍敕內外諸親皆不得與胡太后相見太后或為帝設食帝亦不敢嘗○十一月庚戌齊遣侍中赫連子悅聘于周○丁巳周主如散關丙寅齊以徐州行臺廣寧王孝珩錄尚書事庚午又以為司徒癸酉以斛律光為左丞相○十二月己丑周主還長安○壬辰邵陵公章昭達卒○是歲梁華皎將如周過襄陽說衛公直曰梁主既失江南諸郡民少國貧朝廷興亡繼絕理宜資贍望借數州以資梁國直然之遣使言狀周主詔以基平都三州與之

資治通鑑卷第一百七十

資治通鑑卷第一百七十一

陳紀五

高宗宣皇帝上之下

太建四年春正月丙午以尚書僕射徐陵為左僕射中書監王勸為右僕射○己巳齊主祀南郊○庚午上享太廟○辛未齊主贈琅邪王儼為楚恭哀帝以慰太后心又以儼妃李氏為楚帝后○二月癸酉周遣大將軍昌城公深聘於突厥司賓李徐小賓部賀遂禮聘於齊深護之子也○己卯齊以衛菩薩為太尉辛巳以并省吏部尚書高元海為尚書右僕射○乙酉封皇子叔卿為建安王○庚寅齊以尚書左僕射唐邕為尚書令侍中祖珽為左僕射初胡太后既幽於北宮珽欲以陸令萱為太后為令萱言魏保太后故事且謂人曰陸雖婦人然實雄傑自女媧以來未之有也令萱亦謂珽為國師國寶由是得僕射○三月癸卯朔日有食之○初周太祖為魏相立左右十二軍總屬相府太祖殂皆受晉公護處分凡所徵發非護書不行護第屯兵侍衛盛於宮闕諸子僚屬皆貪殘恣橫士民患之周主深自晦匿無所關預人不測其淺深護問稍伯大夫庾季才曰比日天道何如季才對曰荷恩深厚敢不盡言頃上台有變公宜歸政天子請老私門此則享期頤之壽受旦爽之美子孫常為藩屏不然非復所知護沈吟久之曰吾本志如此但辭未獲免耳公既為王官可依朝例無煩別參寡人也自是疎之衛公直帝之母弟也深昵於護及沌口之敗坐免官由是怨護勸帝誅之冀得其位帝乃密與直及右宮伯中大夫宇文神舉內史下大夫太原王軌右侍上士

宇文孝伯謀之神舉顯和之子孝伯安化公深之子也帝每於禁中見護常行家人禮太后賜護坐帝立侍於旁丙辰護自同州還長安帝御文安殿見之因引護入含仁殿謁太后且謂之曰太后春秋高頗好飲酒雖屢諫未蒙垂納兄今入朝願更啓請因出懷中酒誥授之曰以此諫太后護既入如帝所戒讀酒誥未畢帝以玉珽自後擊之護踏於地帝令宦者何泉以御刀斫之泉惶懼斫不能傷衛公直匿於戶內躍出斬之時神舉等皆在外更無知者帝召宮伯長孫覽等告以護已誅令收護子柱國譚公會大將軍葛公至崇業公靜正平公乾嘉及其弟乾基乾光乾蔚乾祖乾威并柱國北地侯龍恩龍恩弟大將軍萬壽大將軍劉勇中外府司錄尹公正袁傑膳部下大夫李安等於殿中殺之覽稚之孫也初護既殺趙貴等侯龍恩為護所親其從弟開府儀同三司植謂龍恩曰主上春秋既富安危繫於數公若多所誅戮以自立威權豈唯社稷有累卵之危恐吾宗亦緣此而敗兄安得知而不言龍恩不能從植又承間言於護曰公以骨肉之親當社稷之寄願推誠王室擬迹伊周則率土幸甚護曰我誓以身報國卿豈謂吾有它志邪又聞其先與龍恩言陰忌之植以憂卒及護敗龍恩兄弟皆死高祖以植為忠特免其子孫大司馬兼小冢宰雍州牧齊公憲素為護所親任賞罰之際皆得參預權執頗盛護欲有所陳多令憲聞奏其間或有不可慮主相嫌隙每曲而暢之帝亦察其心及護死召憲入憲免冠拜謝帝慰勉之使詣護第收兵符及諸文籍衛公直素忌憲固請誅之帝不許護世子訓為蒲州刺史是夜帝遣柱國越公盛乘傳徵訓至同州賜死昌城公深使突厥未還遣開府儀同三司宇文德齋齋書就殺之護長史代郡叱羅協司祿弘農馮遷及所親任者皆除名丁巳大赦改元以宇文孝伯為車騎大將軍與王軌並加開府儀同三司初孝伯與帝同日生太祖愛之養於第中幼與帝同學及即位欲引致左右託言欲與孝伯講習舊經故護弗之疑也以爲右侍上士出入臥內預聞機務

孝伯爲人。沈正忠諒。朝政得失。外間細事。無不使帝聞之。帝閱護書記。有假託符命。妄造異謀者。皆坐誅。唯得庾季才書兩紙。盛言緯候災祥。宜返政歸權。帝賜季才粟三百石。帛二百段。遷太中大夫。癸亥。以尉遲迴爲太師。柱國寶熾爲太傅。李穆爲太保。齊公憲爲大冢宰。衛公直爲大司徒。陸通爲大司馬。柱國辛威爲大司寇。趙公招爲大司空。時帝始親覽朝政。頗事威刑。雖骨肉無所寬借。齊公憲雖遷冢宰。實奪之權。又謂憲侍讀裴文舉曰。昔魏末不綱。太祖輔政。及周室受命。晉公復執大權。積習生常。愚者謂法應如是。豈有年三十天子而可爲人所制乎。詩云。夙夜非懈。以事一人。一人謂天子耳。卿雖陪侍齊公。不得遽同爲臣。欲死於所事。宜輔以正道。勸以義方。輯睦我君。臣協和我兄弟。勿令自致嫌疑。文學成以白憲。憲指心撫几曰。吾之夙心。公寧不知。但當盡忠竭節耳。知復何言。衛公直性浮詭。貪狠。意望大冢宰。既不得。殊怏怏。更請爲大司馬。欲據兵權。帝揣知其意曰。汝兄弟長幼有序。豈可返居下列。由是用爲大司徒。○夏四月。周遣工部公建。小禮部辛彥之。聘於齊。○庚寅。周追尊畧陽公爲孝閔皇帝。○癸巳。周立皇子魯公贊爲太子。大赦。○五月。癸卯。王勣卒。○齊尙書左僕射祖珽。執傾朝野。左丞相成陽王斛律光。惡之。遙見。輒罵曰。多事乞索小人。欲行何計。又嘗謂諸將曰。兵馬處分。趙令恆與吾輩參論。盲人掌機密以來。全不與吾輩語。正恐誤國家事耳。光嘗在朝堂。垂簾坐。珽不知。乘馬過其前。光怒曰。小人乃敢爾。後珽在內省。言聲高慢。光適過聞之。又怒。珽覺之。私賂光從奴。問之。奴曰。自公用事。相王每夜抱膝歎曰。盲人入國必破矣。穆提婆求娶光庶女。不許。齊主賜提婆晉陽田。光言於朝曰。此田神武帝以來。常種禾。飼馬數千匹。以擬寇敵。今賜提婆。母乃闕軍務也。由是祖穆皆怨之。斛律後無寵。珽因而間之。光弟羨爲都督幽州刺史。行臺尙書令。亦善治兵。士馬精彊。鄴候嚴整。突厥畏之。謂之南可汗。光長子武都。爲開府儀同三司。梁克二州刺史。光雖貴極人臣。性節儉。不好聲色。

罕接賓客。杜絕饋餉。不貪權勢。每朝廷會議。常獨後言。言輒合理。或有表疏。令人執筆口占之。務從省實。行兵倣其父金之法。營舍未定。終不入幕。或竟日不坐。身不脫介冑。常爲士卒先。士卒有罪。唯大杖撻背。未嘗妄殺。衆皆爭爲之死。自結髮從軍。未嘗敗北。深爲鄰敵所憚。周勳州刺史韋孝寬。密爲謠言曰。百升飛上天。明月照長安。又曰。高山不推自崩。榘木不扶自舉。令諜人傳之於鄴。鄴中小兒。歌之於路。珽因續之曰。盲老公背受大斧。饒舌老母不得語。使其妻兄鄭道蓋奏之。帝以問珽。珽與陸令萱皆曰。實聞有之。珽因解之曰。百升者斛也。盲老公謂臣也。與國同憂。饒舌老母。似謂女侍中陸氏也。且斛律累世大將。明月聲震關西。豐樂威行突厥。女爲皇后。男尙公主。謠言甚可畏也。帝以問韓長鸞。長鸞以爲不可。事遂寢。珽又見帝請問。唯何洪珍在側。帝曰。前得公啓。即欲施行。長鸞以爲無此理。珽未對。洪珍進曰。若本無意。則可。既有此意。而不決行。萬一泄露。如何。帝曰。洪珍言是也。然猶未決。會丞相府佐封士讓。密啓云。光前西討還。敕令散兵。光引兵逼帝城。將行不軌。事不果而止。家藏弩甲。僮奴千數。每遣使往豐樂武都所。陰謀往來。若不早圖。恐事不可測。帝遂信之。謂何洪珍曰。人心亦大靈。我前疑其欲反。果然。帝性怯。恐即有變。令洪珍馳召祖珽。告之。欲召光。恐其不從命。珽請遣使。賜以駿馬。語云。明日將遊東山。王可乘此同行。光必入謝。因而執之。帝如其言。六月。戊辰。光入至涼風堂。劉桃枝自後撲之。不仆。顧曰。桃枝常爲如此事。我不負國家。桃枝與三力士。以弓弦貫其頸。拉而殺之。血流於地。割之。迹終不滅。於是下詔。稱其謀反。并殺其子開府儀同三司世雄。儀同三司恆伽。祖珽使二千石邢祖信。簿錄光家。珽於都省問所得物。祖信曰。得弓十五。宴射箭百。刀七。賜稍二。珽厲聲曰。更得何物。曰。得棗杖二十束。擬奴僕與人鬪者。不問曲直。即杖之一百。珽大慙。乃下聲曰。朝廷已加重刑。郎中何宜爲雪。及出人。尤其抗直。祖信慨然曰。賢宰相尙死。我何惜餘生。齊主遣使就州斬斛律武都。又遣

中領軍賀拔伏恩乘驛捕斛律羨仍以洛州行臺僕射中山獨孤永業代羨與大將軍鮮于桃枝發定州騎卒續進伏恩等至幽州門者使人衷甲馬有汗宜閉城門羨曰敕使豈可疑拒出見之伏恩執而殺之初羨常以盛滿爲懼表解所職不許臨刑歎曰富貴如此女爲皇后公主滿家常使三百兵何得不敗及其五子伏護世達世遷世辨世曾皆死周主聞光死爲之大赦祖珽與侍中高元海共執齊政元海妻陸令萱之甥也元海數以令萱密語告珽珽求爲領軍齊主許之元海密言於帝曰孝徵漢人兩目又盲豈可爲領軍因言珽與廣寧王孝珩交結由是中止珽求見自辨且言臣與元海素嫌必元海所泄密語告令萱怒以實告之珽因言元海與司農卿尹子華等結爲朋黨又以元海所泄密語告令萱怒出元海爲鄭州刺史子華等皆被黜珽自是專主機衡總知騎兵外兵事內外親戚皆得顯位帝常令中要人扶持出入直至永巷每同御榻論決政事委任之重羣臣莫比○秋七月遣使如周○八月庚午齊廢皇后斛律氏爲庶人以任城王湣爲右丞相馮翊王潤爲太尉蘭陵王長恭爲大司馬廣寧王孝珩爲大將軍安德王延宗爲大司徒○齊使領軍封輔相聘于周○辛未周使司城中大夫杜杲來聘上謂之曰若欲合從圖齊宜以樊鄧見與對曰合從圖齊豈弊邑之利必須城鎮宜待得之於齊先索漢南使臣不敢聞命○初齊胡太后自愧失德欲求悅於齊主乃飾其兄長仁之女置宮中令帝見之帝果悅納爲昭儀及斛律后廢陸令萱欲立穆夫人太后欲立胡昭儀力不能遂乃卑辭厚禮以求令萱結爲姊妹令萱亦以胡昭儀寵幸方隆不得已與祖珽白帝立之戊子立皇后胡氏○己丑齊以北平王仁堅爲尙書令特進許季良爲左僕射彭城王寶德爲右僕射○癸巳齊主如晉陽○九月庚子朔日有食之○辛亥大赦○冬十月庚午周詔江陵所虜充官口者悉免爲民○辛未周遣小匠師楊勰等來聘○周綏德公陸通卒○乙酉上享太廟○齊陸令萱欲立穆昭儀爲

皇后私謂齊主曰豈有男爲皇太子而身爲婢妾者胡后有寵於帝不可離間令萱乃使人行厭蠱之術旬朔之間胡后精神恍惚言笑無恆帝漸畏而惡之令萱一旦忽以皇后服御衣被昭儀又別造寶帳爰及枕席器玩莫非珍奇坐昭儀於帳中謂帝曰有一聖女出將大家看之及見昭儀令萱乃曰如此人不作皇后遣何物人作帝納其言甲午立穆氏爲右皇后以胡氏爲左皇后○十一月庚戌周主行如羌橋集長安以東諸軍都督以上頒賜有差乙卯還宮以趙公招爲大司馬壬申周主如斜谷集長安以西都督已上頒賜有差丙戌還宮○庚寅周主遊道會苑以上善殿壯麗焚之○十二月辛巳周主祀南郊○齊胡后之立非陸令萱意令萱一旦於太后前作色而言曰何物親姪作如此語太后問其故令萱曰不可道固問之乃曰語大家云太后行多非法不可以訓太后大怒呼后出立剃其髮送還家辛丑廢胡后爲庶人然齊主猶思之每致物以通意自是令萱與其子侍中穆提婆執領內外賈官鬻獄聚斂無厭每一賜與動傾府藏令萱則自太后以下皆受其指麾提婆則唐邕之徒皆重足屏氣殺生予奪唯意所欲○乙巳周以柱國田弘爲大司空○乙卯周主享太廟○是歲突厥木杆可汗卒復捨其子大邏便而立其弟是爲佗鉢可汗佗鉢以攝圖爲爾伏可汗統其東面又以其弟褥但可汗之子爲步離可汗居西面周人與之和親歲給繒絮錦綵十萬段突厥在長安者衣錦食肉常以千數齊人亦畏其爲寇爭厚賂之佗鉢益驕謂其下曰但使我在南兩兒常孝何憂於貧阿史那后無寵於周主神武公竇毅尙襄陽公主生女尙幼密言於帝曰今齊陳鼎峙突厥方彊願舅抑情慰撫以生民爲念帝深納之五年春正月癸酉以吏部尙書沈君理爲右僕射○戊寅齊以并省尙書令高阿那肱錄尙書事總知外兵及內省機密與侍中城陽王穆提婆領軍大將軍昌黎王韓長鸞共處衝軸號曰三貴蠹國害民日月滋甚長鸞弟萬歲子寶行寶信竝開府儀同三司萬歲仍兼侍中

實行。實信皆尚公主。每羣臣旦參。帝常先引長鸞。願訪出後。方引奏事官。若不視事。內省有急。奏事皆附長鸞。奏聞。軍國要密。無不經手。尤疾士人。朝夕宴私。唯事諧訴。常帶刀走馬。未嘗安行。瞋目張拳。有噉人之執。朝士咨事。莫敢仰視。動致呵叱。每罵云。漢狗。大不可耐。唯須殺之。○庚辰。齊遣崔象來聘。○辛巳。上幸南郊。甲午。享太廟。二月。辛丑。祀明堂。○乙巳。齊立右皇后。穆氏爲皇后。穆后母。名輕霄。本穆氏之婢也。面有黥字。后既以陸令萱爲母。穆提婆爲外家。號令萱曰大姬。大姬者。齊皇后母號也。視一品。班在長公主上。由是不復問輕霄。輕霄自療面。欲求見后。大姬使禁掌之。竟不得見。齊主頗好文學。丙午。祖珽奏。置文林館。多引文學之士。以充之。謂之待詔。以中書侍郎博陵李德林。黃門侍郎琅邪顏之推。同判館事。又命。共撰修文殿御覽。○甲寅。周太子贊。巡省西土。○乙卯。齊以北平王堅。錄尚書事。○丁巳。齊主如晉陽。○壬戌。周遣司會侯莫陳凱等。聘於齊。○三月。己卯。周太子於岐州獲二白鹿。以獻。周主詔曰。在德不在瑞。○庚辰。齊主還鄴。○帝謀伐齊。公卿各有異同。唯鎮前將軍吳明徹。決策請行。帝謂公卿曰。朕意已決。卿可共舉元帥。衆議以中權將軍淳于量位重。共署推之。尚書左僕射徐陵獨曰。吳明徹家在淮左。悉彼風俗。將略人才。當今亦無過者。都官尙書河東裴忌曰。臣同徐僕射。陵應聲曰。非但明徹良將。裴忌卽良副也。壬午。分命衆軍。以明徹都督。征討諸軍事。忌監軍事。統衆十萬。伐齊。明徹出秦郡。都督黃法氤出歷陽。○夏。四月。己亥。周主享太廟。○癸卯。前巴州刺史魯廣達。與齊師戰于大峴。破之。○戊申。齊以蘭陵王長恭爲太保。南陽王綽爲大司馬。安德王延宗爲太尉。武興王普爲司徒。開府儀同三司宜陽王趙彥深爲司空。○齊人於秦郡置秦州。州前江浦。通涂水。齊人以大木爲柵於水中。辛亥。吳明徹遣豫章內史程文季。將驍勇。拔其柵。克之。文季。靈洗之子也。齊人議禦陳師。開府儀同三司王紘曰。官軍比屢失利。人情騷動。若復出頓江淮。恐北狄西寇。乘弊而來。莫若薄

賦省徭。息民養士。使朝廷輯睦。遐邇歸心。天下皆當肅清。豈直陳氏而已。不從。遣軍救歷陽。庚申。黃法氤擊破之。又遣開府儀同三司尉破胡。長孫洪畧。救秦州。趙彥深。私問計於祕書監源文宗曰。吳賊侏張。遂至于此。弟往爲秦涇刺史。悉江淮間情事。今何術以禦之。文宗曰。朝廷精兵。必不肯多付諸將。數千已下。適足爲吳人之餌。尉破胡人品。王之所知。敗績之事。匪朝伊夕。國家待遇淮南。失之同於蒿箭。如文宗計者。不過專委王琳。招募淮南三四萬人。風俗相通。能得死力。兼令舊將。將兵屯于淮北。且琳之於項。必不肯北面事之。明矣。竊謂此計之上者。若不推赤心於琳。更遣餘人掣肘。復成速禍。彌不可爲。彥深歎曰。弟此策。誠足制勝千里。但口舌爭之十日。已不見從。時事至此。安可盡言。因相顧流涕。文宗名彪。以字行。子恭之子也。文宗子師爲左外兵郎中。攝祠部。嘗白高阿那肱。龍見當零。阿那肱驚曰。何處龍見。其色如何。師曰。龍星初見。禮當零祭。非真龍也。阿那肱怒曰。漢兒多事。強知星宿。遂不祭。師出。竊歎曰。禮既廢矣。齊能久乎。齊師選長大有膂力者。爲前隊。又有蒼頭犀角。大力其鋒。甚銳。又有西域胡。善射。弦無虛發。衆軍尤憚之。辛酉。戰于呂梁。將戰。吳明徹謂巴山太守蕭摩訶曰。若殪此胡。則彼軍奪氣。君才不減關羽矣。摩訶曰。願示其狀。當爲公取之。明徹乃召降人。有識胡者。使指示之。自酌酒以飲摩訶。摩訶飲畢。馳馬衝齊軍。胡挺身出陳前。十餘步。穀弓未發。摩訶遙擲銑鏡。正中其額。應手而仆。齊軍大力十餘人。出戰。摩訶又斬之。於是齊軍大敗。尉破胡走。長孫洪畧戰死。破胡之出師也。齊人使侍中王琳。與之俱。琳謂破胡曰。吳兵甚銳。宜以長策制之。慎勿輕鬪。破胡不從而敗。琳單騎僅免。還至彭城。齊人卽使之。赴壽陽召募。以拒陳師。復以盧潛爲揚州道行臺尙書。甲子。南譙太守徐棧。克石梁城。五月。己巳。瓦梁城降。癸酉。陽平郡降。甲戌。徐棧克廬江城。歷陽窘蹙。乞降。黃法氤緩之。則又拒守。法氤怒。帥卒急攻。丙子。克之。盡殺戍卒。進軍合肥。合肥望旗請降。法氤禁侵掠。撫勞戍卒。與之盟。

而縱之。○丁丑。周以柱國侯莫陳瓊為大宗伯。滎陽公司馬涓難為大司寇。江陵總管陸騰為大司空。瓊崇之弟也。○己卯。齊北高唐郡降。辛巳。詔南豫州刺史黃法氈徙鎮歷陽。乙酉。南齊昌太守黃詠克齊昌外城。丙戌。廬陵內史任忠軍于東關。克其東西二城。進克蕪城。戊子。又克譙郡城。秦州城降。癸巳。瓜步胡墅二城降。帝以秦郡吳明徹之鄉里。詔具太牢。令拜祠上冢。文武羽儀甚盛。鄉人榮之。○齊自和士開用事以來。政體隳紊。及祖珽執政。頗收舉才望。內外稱美。珽復欲增損政務。沙汰人物。官號服章。竝依故事。又欲黜諸闒豎。及羣小輩。為致治之方。陸令萱穆提婆。議頗同異。珽乃諷御史中丞麗伯律。令劾主書王子沖。納賂。知其事連提婆。欲使賊罪相及。望因此并坐。及令萱猶恐齊主溺於近習。欲引后黨為援。乃請以胡后兄君瑜為侍中。領軍。又徵君瑜兄梁州刺史君璧。欲以為御史中丞。令萱聞而懷怒。百方排毀。出君瑜為金紫光祿大夫。解中領軍。君璧還鎮梁州。胡后之廢。頗亦由此釋。王子沖不問。珽日以益疎。諸宦者更共譖之。帝以問陸令萱。令萱憫默不對。三問。乃下牀拜曰。老婢應死。老婢始聞和士開言。孝徵多才博學。意謂善人。故舉之。比來觀之。大是奸臣。人寔難知。老婢應死。帝令韓長鸞檢案。長鸞素惡珽。得其詐。出勅受賜等十餘事。帝以嘗與之重誓。故不殺。解珽侍中。僕射。出為北徐州刺史。珽求見帝。長鸞不許。遣人推出柏閣。珽坐不肯行。長鸞令牽曳而出。癸巳。齊以領軍穆提婆為尚書左僕射。侍中中書監段孝言為右僕射。孝言。韶之弟也。初祖珽執政。引孝言為助。除吏部尚書。孝言凡所進擢。非賄則舊。求仕者。或於廣會。膝行跪伏。公自陳請。孝言顏色揚揚。以為己任。隨事酬許。將作丞崔成。忽於眾中抗言曰。尚書天下尚書。豈獨段家尚書也。孝言無辭以應。唯厲色遣下而已。既而與韓長鸞共構祖珽。遂而代之。○齊蘭陵武王長恭。貌美而勇。以邗山之捷。威名大盛。武士歌之。為蘭陵王入陳曲。齊主忌之。及代段韶督諸軍。攻定陽。頗務聚斂。其所親尉相願。問之曰。王受朝寄。

何得如此。長恭未應。相願曰。豈非以邗山之捷。欲自穢乎。長恭曰。然。相願曰。朝廷若忌王。即當用此為罪。無乃避禍。而更速之乎。長恭涕泣。前膝問計。相願曰。王前既有功。今復告捷。威聲太重。宜屬疾在家。勿預時事。長恭然其言。未能退。及江淮用兵。恐復為將。歎曰。我去年面腫。今何不發。自是有疾。不療。齊主遣使酖殺之。○六月。庚子。郢州刺史李綜。克瀟口城。乙巳。任忠克合州外城。庚戌。淮陽。沛陽郡。皆奔城走。○壬子。周皇孫衍生。○齊主遊南苑。從官賜死者六十人。以高阿那肱為司徒。○癸丑。程文季攻齊涇州。拔之。乙卯。宣毅司馬湛陀。克新蔡城。○丙辰。齊使開府儀同三司王紘。聘于周。○癸亥。黃法氈克合州。吳明徹進攻仁州。甲子。克之。○治明堂。○秋。七月。戊辰。齊遣尚書左丞陸騫。將兵二萬救齊昌。出自巴。斬。遇西陽太守汝南周吳。吳留羸弱。設疑兵。以當之。身帥精銳。由間道。邀其後。大破之。己巳。征北大將軍吳明徹軍。至峽口。克其北岸城。南岸守者棄城走。周吳克巴州。淮北絳城。及穀陽士民。竝殺其戍主。以城降。齊巴陵王王琳。與揚州刺史王貴顯。保壽陽外郭。吳明徹以琳初入。衆心未固。丙戌。乘夜攻之。城潰。齊兵退。據相國城及金城。八月。乙未。山陽城降。壬寅。盱眙城降。壬子。戎昭將軍徐敬辯。克海安城。青州東海城降。戊午。平固侯敬泰等。克晉州。九月。甲子。陽平城降。壬申。高陽太守沈善慶。克馬頭城。甲戌。齊安城降。丙子。左衛將軍樊毅。克廣陵。楚子城。○壬午。周太子贊。納妃楊氏。妃。大將軍隨公堅之女也。太子好昵近小人。左宮正宇文孝伯。言於周主曰。皇太子。四海所屬。而德聲未聞。臣忝宮官。實當其責。且春秋尚少。志業未成。請妙選正人。為其師友。調護聖質。猶望日就月將。如或不然。悔無及矣。帝斂容曰。卿世載鯁直。竭誠所事。觀卿此言。有家風矣。孝伯拜謝曰。非言之難。受之難也。帝曰。正人豈復過卿。於是中。帝願謂齊公憲曰。百官佞我。皆稱太子聰明睿智。唯運所言忠直耳。因問運中人之狀。

對曰。如齊桓公是也。管仲相之則霸。豎貂輔之則亂。可與爲善。可與爲惡。帝曰。我知之矣。乃妙選宮官以輔之。仍擢運爲京兆丞。太子聞之。意甚不悅。○癸未。沈君理卒。○壬辰晦。前鄱陽內史魯天念克黃城。冬十月甲午。郭默城降。○己亥。以特進領國子祭酒周弘正爲尚書右僕射。○齊國子祭酒張雕以經授齊主。爲侍讀。帝甚重之。雕與寵胡何洪珍相結。穆提婆韓長鸞等惡之。洪珍薦雕爲侍中。加開府儀同三司。奏度支事。大爲帝所委信。常呼博士。雕自以出於微賤。致位大臣。欲立效以報恩。論議抑揚。無所回避。省宮掖不急之費。禁約左右驕縱之臣。數譏切寵要。獻替帷幄。帝亦深倚仗之。雕遂以澄清爲己任。意氣甚高。貴倖皆側目。尚書左丞封孝琰。隆之弟子。與侍中崔季舒皆爲祖珽所厚。孝琰嘗謂珽曰。公是衣冠宰相。異於餘人。近習聞之。大以爲恨。會齊主將如晉陽。季舒與張雕議。以爲壽陽被圍。大軍出拒之。信使往還。須稟節度。且道路小人。或相驚恐。以爲大駕向并州。畏避南寇。若不啓諫。恐人情駭動。遂與從駕文官連名進諫。時貴臣趙彥深。唐邕。段孝言等。意有異同。季舒與爭。未決。長鸞遽言於帝曰。諸漢官連名進諫。時貴臣趙彥深。唐邕。段孝言等。意有異同。季舒與爭。主悉召已署名者。集含章殿。斬季舒。雕。孝琰。及散騎常侍劉遜。黃門侍郎裴澤。郭遵於殿庭。家屬皆徙北邊。婦女配奚官。幼男下蠶室。沒入貲產。癸卯。遂如晉陽。○吳明徹攻壽陽。堰肥水以灌城。城中多病腫泄。死者什六七。齊行臺右僕射琅邪皮景和等救壽陽。以尉破胡新敗。怯懦不敢前。屯於淮口。敕使屢促之。然始度淮。衆數十萬。去壽陽三十里。頓軍不進。諸將皆懼曰。堅城未拔。大援在近。將若之何。明徹曰。兵貴神速。而彼結營不進。自挫其鋒。吾知其不敢戰。明矣。乙巳。躬擐甲胄。四面疾攻。一鼓拔之。生擒王琳。王貴顯。盧潛。及扶風王可朱渾道裕。尚書左丞李駒。除送建康。景和北遁。盡收其駝馬輜重。琳體貌閑雅。喜怒不形於色。彊記明敏。軍府佐吏千數。皆能識其姓名。刑罰不濫。輕財愛士。得將卒心。雖失地流寓在鄴。齊

人皆重其忠義。及被擒。故麾下將卒多在明徹軍中。見者皆歔歔。不能仰視。爭爲之請命。及致資給。明徹恐其爲變。遣使追斬之於壽陽東二十里。哭者聲如雷。有一叟以酒脯來。祭哭盡哀。收其血而去。田夫野老。知與不知。聞者莫不流涕。齊穆提婆。韓長鸞。聞壽陽陷。握槩不輟曰。本是彼物。從其取去。齊主聞之。頗以爲憂。提婆等曰。假使國家盡失黃河以南。猶可作一龜茲國。更可憐。人生如寄。唯當行樂。何用愁爲。左右嬖臣。因共贊和之。帝卽大喜。酣飲鼓舞。仍使於黎陽臨河築城。戍丁未。齊遣兵萬人至潁口。樊毅擊走之。辛亥。遣兵援蒼陵。又破之。齊主以皮景和全軍而還。賞之。除尚書令。丙辰。詔以壽陽復爲豫州。以黃城爲司州。以明徹爲都督豫合等六州諸軍事。車騎大將軍。豫州刺史。遣謁者蕭淳風就壽陽冊命。於城南設壇。士卒二十萬。陳旗鼓。甲。明徹登壇拜受。成禮而退。將卒築之上置酒。舉杯屬徐陵曰。賞卿知人。陵避席曰。定策聖衷。非臣力也。以黃法氈爲征西大將軍。合州刺史。戊午。湛陀克齊昌城。十一月甲戌。淮陰城降。庚辰。虜將軍劉桃枝克胸山城。辛巳。樊毅克濟陰城。己丑。魯廣達攻濟南徐州。克之。以廣達爲北徐州刺史。鎮其地。齊北徐州民多起兵以應陳。逼其州城。祖珽命不閉城門。禁人不得出衢路。城中寂然。反者不測其故。疑人走城空。不設備。珽忽令鼓譟震天。反者皆驚走。既而復結。陳向城。珽令錄事參軍王君植將兵拒之。自乘馬臨陳。左右射。反者先聞其旨。謂其必不能出。忽見之大驚。穆提婆欲令城陷。不遣援兵。珽且戰且守。十餘日。反者竟散走。詔懸王琳首於建康市。故吏梁驃騎倉曹參軍朱瑒致書徐陵。求其首曰。竊以典午將滅。徐廣爲晉家遺老。當塗已謝。馬孚稱魏室忠臣。梁故建寧公琳。當離亂之辰。總方伯之任。天厭梁德。尚思匡繼。徒蘊包胥之志。終遭萇弘之責。至使身沒九泉。頭行千里。伏惟聖恩博厚。明詔爰發。赦王經之哭。許田橫之葬。不使壽春城下。唯傳報葛之人。滄洲島上。獨有悲田之客。陵爲之啓上。十二月壬辰朔。并熊曇明等首。皆還其親屬。瑒瘞琳

於八公山側。義故會葬者數千人。場間道奔齊。別議迎葬。尋有壽陽人茅智勝等五人。密送其柩於鄴。齊贈琳開府儀同三司。錄尚書事。諡曰忠武王。給輜輶車。以葬之。○癸巳。周主集羣臣。及沙門道士。帝自升高坐。辨三教先後。以儒為先。道為次。釋為後。○乙未。譙城降。○乙巳。立皇子叔明為宜都王。叔獻為河東王。○壬午。任忠克霍州。○詔徵安州刺史周昺入朝。初。梁定州刺史田龍升。以城降。詔仍舊任。及昺入朝。龍升以江北六州七鎮叛。入于齊。齊遣歷陽王景安將兵應之。詔以昺為江北道大都督。總衆軍。以討龍升。斬之。景安退走。盡復江北之地。○是歲。突厥求昏於齊。

六年春正月。壬戌朔。周齊公憲等七人。進爵為王。○己巳。周主享太廟。乙亥。耕藉田。○壬午。上享太廟。○甲申。廣陵金城降。○二月。壬辰朔。日有食之。○乙未。齊主還鄴。○丁酉。周紀國公賢等六人。進爵為王。○辛亥。上耕藉田。○齊朔州行臺南安王思好。本高氏養子。驍勇。得邊鎮人心。齊主使嬖臣斫骨光弁至州。光弁不禮於思好。思好怒。遂反。云欲入除君側之惡。進軍至陽曲。自號大丞相。武衛將軍趙海。在晉陽。倉猝不暇。矯詔發兵拒之。帝聞變。使尚書令唐邕等。馳之晉陽。辛丑。帝勒兵繼進。未至。思好軍敗。投水死。其麾下二千人。劉桃枝圍之。且殺。且招終不降。以至於盡。先是有人告思好謀反。韓長鸞女適思好子。奏言。是人誣告貴臣。不殺無以息後。乃斬之。思好既誅。告者弟伏闕下。求贈官。長鸞不為通。丁未。齊主還鄴。甲寅。以唐邕為錄尚書事。○乙卯。周主如雲陽宮。○丙辰。周大赦。○庚申。周叱奴太后有疾。三月。辛酉。周主還長安。癸酉。太后殂。帝居倚廬。朝夕進一溢米。羣臣表請。累旬乃止。命太子總蓋庶政。衛王直。諧齊王憲於帝曰。憲飲酒食肉。無異平日。帝曰。吾與齊王異生。俱非正嫡。特以吾故。同祖括髮。汝當愧之。何論得失。汝親太后之子。特承慈愛。但當自勉。無論它人。○夏。四月。乙卯。齊遣侍中薛孤康買。弔於周。且會葬。初。齊世祖為胡后造珠裙袴。所費不可勝計。

為火所焚。至是。齊主復為穆后營之。使商胡賣錦綵三萬。與弔使偕往。市珠。周人不與。齊主竟自造之。及穆后愛衰。其侍婢馮小憐。大幸。拜為淑妃。與齊主坐則同席。出則並馬。誓同生死。○五月。庚申。周葬文宣皇后於永固陵。周主跣行。至陵所。辛酉。詔曰。三年之喪。達於天子。但軍國務重。須自聽朝。衰麻之節。苦廬之禮。率遵前典。以申罔極。百僚宜依遺令。既葬而除。公卿固請。依權制。帝不許。卒申三年之制。五服之內。亦令依禮。○庚午。齊大赦。○齊人恐陳師渡淮。使皮景和屯西兗州以備之。○丙子。周禁佛道二教。經像悉毀。罷沙門道士。竝令還俗。并禁諸淫祀。非祀典所載者。盡除之。○六月。壬辰。周弘正卒。○壬子。周更鑄五行大布錢。一當十。與布泉竝行。○戊午。周立通道觀。以壹聖賢之教。○秋。七月。庚申。周主如雲陽。以右宮正尉遲運兼司武。與薛公長孫覽輔太子。守長安。初。帝取衛王直第為東宮。使直自擇所居。直歷觀府署。無如意者。未取廢陟配寺。欲居之。齊王憲謂直曰。弟子孫多。此無乃褊小。直曰。一身尚不自容。何論子孫。直嘗從帝校獵。而亂行。帝對衆撻之。直積怨憤。因帝在外。遂作亂。乙酉。帥其黨襲肅章門。長孫覽懼。奔詣帝所。尉遲運偶在門中。直兵奄至。手自闔門。直黨與運爭門。斫傷運指。僅而得閉。直不得入。縱火焚門。運恐火盡。直黨得進。取宮中材木。及牀榻。以益火。膏油灌之。火轉熾。久之。直不得進。乃退。運帥留守兵。因其退而擊之。直大敗。帥百餘騎奔荊州。戊子。帝還長安。八月。辛卯。擒直。廢為庶人。囚於別宮。尋殺之。以尉遲運為大將軍。賜賚甚厚。丙申。周主復如雲陽。○癸丑。齊主如晉陽。○甲辰。齊以高勸為尚書右僕射。○九月。庚申。周主如同州。○冬。十月。丙申。周遣御正弘農楊尙希。禮部盧愷。來聘。愷柔之子也。○甲寅。周主如蒲州。丙辰。如同州。十一月。甲戌。還長安。○十二月。戊戌。以吏部尙書王瑒為右僕射。度支尙書孔奐為吏部尙書。瑒冲之子也。時新復淮泗。攻戰降附。功賞紛紜。奐識鑒精敏。不受請託。事無凝滯。人皆悅服。湘州刺史始興王叔陵。屢諷有司。求為三公。奐曰。袁章

之職。本以德舉。未必皇枝。因以白帝。帝曰。始興那忽望公。且朕兒爲公。須在鄱陽王後。奐曰。臣之所見。亦如聖旨。○齊定州刺史南陽王綽。喜爲殘虐。嘗出行。見婦人抱兒。奪以飼狗。婦人號哭。綽怒。以兒血塗婦人。縱狗使食之。常云。我學文宣伯之爲人。齊主聞之。鎖詣行在。至而宥之。問在州何事最樂。對曰。多聚蠹於器。置狙其中。觀之極樂。帝卽命。夜索蠹一斗。比曉。得三二升。置浴斛。使人裸臥斛中。號叫宛轉。帝與綽臨觀。喜噤不已。因讓綽曰。如此樂事。何不馳驛奏聞。由是有寵。拜大將軍。朝夕同戲。韓長鸞疾之。是歲。出爲齊州刺史。將發。使人誣告其反。奏云。此犯國法。不可赦。帝不忍明誅。使寵胡猥薩與之手搏。搯而殺之。

資治通鑑卷第一百七十一

資治通鑑卷第一百七十二

陳紀六

高宗宣皇帝中之上

太建七年春正月辛未。上祀南郊。○癸酉。周主如同州。○乙亥。左衛將軍樊毅克潼州。○齊主還鄴。○辛巳。上祀北郊。○二月丙戌朔。日有食之。○戊申。樊毅克下邳高柵等六城。○齊主言語澁訥。不喜見朝士。自非寵私昵狎。未嘗交語。性懦。不堪人視。雖三公令錄奏事。莫得仰視。皆略陳大指。驚走而出。承世祖奢泰之餘。以爲帝王當然。後宮皆寶衣玉食。一裙之費。至直萬匹。競爲新巧。朝衣夕弊。盛脩宮苑。窮極壯麗。所好不常。數毀又復。百工土木。無時休息。夜則然火照作。寒則以湯爲泥。鑿晉陽西山爲大像。一夜然油萬盆。光照宮中。每有災異。寇盜不自貶損。唯多設齋。以爲脩德。好自彈琵琶。爲無愁之曲。近侍和之者。以百數。民間謂之無愁天子。於華林園立貧兒村。帝自衣藍縷之服。行乞其間。以爲樂。又寫築西鄙諸城。使人衣黑衣攻之。帝自帥內參拒鬪。寵任陸令萱。穆提婆。高阿那肱。韓長鸞等。宰制朝政。宦官鄧長顒。陳德信。胡兒何洪珍等。竝參預機權。各引親黨。超居顯位。官由財進。獄以賄成。競爲姦諂。蠹政害民。舊蒼頭劉桃枝等。皆開府封王。其餘宦官。胡兒歌舞人。見鬼人。官奴婢等。濫得富貴者。殆將萬數。庶姓封王者。以百數。開府千餘人。儀同無數。領軍一時至二十人。侍中中常侍數十人。乃至狗馬及鷹。亦有儀同郡君之號。有鬪雞號。開府皆食其幹祿。諸嬖倖。朝夕娛侍左右。一戲之費。動踰巨萬。既而府藏空竭。乃賜二三郡。或六七縣。使之賣官取直。由

是爲守令者。率皆富商大賈。競爲貪縱。民不聊生。周高祖謀伐齊。命邊鎮益儲待。加戍卒。齊人聞之。亦增脩守禦。柱國于翼諫曰。疆場相侵。互有勝負。徒損兵儲。無益大計。不如解嚴。縱好。使彼懈而無備。然後乘間出其不意。一舉可取也。周主從之。韋孝寬上疏陳三策。其一曰。臣在邊積年。頗見間隙。不因際會。難以成功。是以往歲出軍。徒有勞費。功績不立。由失機會。何者。長淮之南。舊爲沃土。陳氏以破亡餘燼。猶能一舉平之。齊人歷年赴救。喪敗而返。內離外叛。計盡力窮。讎敵有豐不可失也。今大軍若出。輒關方軌而進。兼與陳氏共爲犄角。竝令廣州義旅。出自三鵠。又募山南驍銳。沿河而下。又遣北山稽胡。絕其并晉之路。凡此諸軍。仍令各募關河之外。勁勇之士。厚其爵賞。使爲前驅。岳動川移。雷駭電激。百道俱進。竝趨虜庭。必當望旗奔潰。所向摧殄。一戎大定。寔在此機。其二曰。若國家更爲後圖。未卽大舉。宜與陳人分其兵勢。三鵠以北。萬春以南。廣事屯田。預爲貯積。募其驍悍。立爲部伍。彼既東南有敵。戎馬相持。我出奇兵。破其疆場。彼若興師赴援。我則堅壁清野。待其去遠。還復出師。常以邊外之軍。引其腹心之衆。我無宿春之費。彼有奔命之勞。一二年中。必自離叛。且齊氏昏暴。政出多門。鬻獄賣官。唯利是視。荒淫酒色。忌害忠良。闔境嗷然。不勝其弊。以此而觀。覆亡可待。然後乘間電掃。事等摧枯。其三曰。昔句踐亡吳。尚期十載。武王取紂。猶煩再舉。今若更存遵養。且復相時。臣謂宜還崇鄰好。申其盟約。安民和衆。通商惠工。蓄銳養威。觀釁而動。斯乃長策遠馭。坐自兼并也。書奏。周主引開府儀同三司伊婁謙入內殿。從容謂曰。朕欲用兵。何者爲先。對曰。齊氏沈溺倡優。耽昏麴蘖。其折衝之將。斛律明月。已斃於讒口。上下離心。道路以目。此易取也。帝大笑。三月丙辰。使謙與小司寇元衛聘於齊。以觀釁。○丙寅。周主還長安。○夏四月甲午。上享太廟。○監豫州陳桃根。得青牛獻之。詔遣還民。又表上織成羅文錦被。各二百首。詔於雲龍門外焚之。○庚子。齊以中書監陽休之爲尙書右僕射。○六月壬辰。以尙

書右僕射王瑒爲左僕射。○甲戌。齊主如晉陽。○秋七月丙辰。周主如雲陽宮。大將軍楊堅。姿相奇偉。畿伯下大夫長安來和。嘗謂堅曰。公眼如曙星。無所不照。當王有天下。願忍誅殺。周主待堅素厚。齊王憲言於帝曰。普六茹堅。相貌非常。臣每見之。不覺自失。恐非人下。請早除之。帝亦疑之。以問來和。和詭對曰。隋公止是守節人。可鎮一方。若爲將領。陳無不破。丁卯。周主還長安。先是。周主獨與齊王憲及內史王誼謀伐齊。又遣納言盧韞乘駟三日。詣安州總管于翼問策。餘人皆莫之知。丙子。始召大將軍以上於大德殿。告之。丁丑。下詔伐齊。以柱國陳王純。滎陽公司馬消難。鄭公達奚震爲前三軍總管。趙王盛。周昌公侯莫陳崇。趙王招爲後三軍總管。齊王憲。帥衆二萬。趨黎陽。隋公楊堅。廣寧公薛迴。將舟師三萬。自渭入河。梁公侯莫陳芮。帥衆二萬。守太行道。申公李穆。帥衆三萬。守河陽道。常山公于翼。帥衆二萬。出陳汝。誼。盟之。兄孫震。武之子也。周主將出河陽。內史上士宇文弼曰。齊氏建國於今累世。雖曰無道。藩鎮之任。尙有其人。今之出師。要須擇地。河陽衝要。精兵所聚。盡力攻圍。恐難得志。如臣所見。出於汾曲。戍小山平。攻之易拔。用武之地。莫過於此。民部中大夫天水趙嘏曰。河南洛陽。四面受敵。縱得之。不可以守。請從河北。直指太原。傾其巢穴。可一舉而定。遂伯下大夫鮑宏曰。我疆齊弱。我治齊亂。何憂不克。但先帝往日。屢出洛陽。彼既有備。每有不捷。如臣計者。進兵汾潞。直掩晉陽。出其不虞。似爲上策。周主皆不從。宏。泉之弟也。壬午。周主帥衆六萬。直指河陰。楊素請帥其父麾下。先驅。周主許之。○八月癸卯。周遣使來聘。○周師入齊境。禁伐樹踐稼。犯者皆斬。丁未。周主攻河陰大城。拔之。齊王憲拔武濟。進圍洛口。拔東西二城。縱火焚浮橋。橋絕。齊永橋大都督太安傅伏。自永橋夜入中潭城。周人既克南城。圍中潭。二旬不下。洛州刺史獨孤永業守金墉。周主自攻之。不克。永業通夜。辦馬槽二千。周人聞之。以爲大軍且至。而憚之。九月。齊右丞高阿那肱。自晉陽將兵拒周師。至河陽。會周主有疾。辛酉。

引兵還。水軍焚其舟艦。傅伏謂行臺乞伏貴和曰。周師疲弊。願得精騎二千追擊之。可破也。貴和不許。齊王憲于翼。李穆所向克捷。降拔三十餘城。皆棄而不守。唯以王藥城要害。令儀同三司韓正守之。尋以城降齊。戊寅。周主還長安。○庚辰。齊以趙彥深爲司徒。斛阿列羅爲司空。○閏月。車騎大將軍吳明徹將兵擊齊彭城。壬辰。敗齊兵數萬於呂梁。○甲午。周主如同州。○冬。十月。己巳。立皇子叔齊爲新蔡王。叔文爲晉熙王。○十二月。辛亥朔。日有食之。○壬戌。以王瑒爲尙書左僕射。太子詹事。吳郡陸繕爲右僕射。○庚午。周主還長安。八年。春。正月。癸未。周主如同州。辛卯。如河東涑川。甲午。復還同州。○甲寅。齊大赦。○乙卯。齊主還鄴。○二月。辛酉。周主命太子巡撫西土。因伐吐谷渾。上開府儀同大將軍王軌。宮正宇文孝伯。從行。軍中節度。皆委二人。太子仰成而已。○齊括雜戶女未嫁者悉集。有隱匿者。家長坐死。○壬申。以開府儀同三司吳明徹爲司空。○三月。壬寅。周主還長安。夏。四月。乙卯。復如同州。○己未。上享太廟。○尙書左僕射王瑒卒。○五月。壬辰。周主還長安。○六月。戊申朔。日有食之。○辛亥。周主享太廟。○初。太子叔寶欲以左戶部尙書江總爲詹事。令管記陸瑜言於吏部尙書孔奐。奐謂瑜曰。江有潘陸之華。而無園綺之實。輔弼儲宮。竊有所難。太子深以爲恨。自言於帝。帝將許之。奐奏曰。江總文華之士。今皇太子文華不少。豈藉於總。如臣所見。願選敦敏之才。以居輔導之職。帝曰。卽如卿言。誰當居此。奐曰。都官尙書王廓。世有懿德。識性敦敏。可以居之。太子時在側。乃曰。廓。王泰之子。不宜爲太子詹事。奐曰。宋朝范曄。卽范泰之子。亦爲太子詹事。前代不疑。太子固爭之。帝卒以總爲詹事。總數之曾孫也。甲寅。以尙書右僕射陸繕爲左僕射。帝欲以孔奐代繕。詔已出。太子沮之而止。更以晉陵太守王克爲右僕射。頃之。總與太子爲長夜之飲。養良娣陳氏爲女。太子亟微行遊總家。上怒。免總官。○周利州刺史紀王康。驕矜無度。繕脩戎器。陰有異謀。司錄裴融諫止之。康殺融。丙辰。賜康死。

○丁巳。周主如雲陽。○庚申。齊宜陽王趙彥深卒。彥深歷事累朝。常參機近。以溫謹著稱。既卒。朝貴典機密者。唯侍中開府儀同三司斛律孝卿一人而已。其餘皆嬖倖也。孝卿羌舉之子。比於餘人。差不貪穢。○秋。八月。乙卯。周主還長安。○周太子伐吐谷渾。至伏俟城而還。宮尹鄭譯。王端等。皆有寵於太子。太子在軍中。多失德。譯等皆預焉。軍還。王軌等言之於周主。周主怒。杖太子及譯等。仍除譯等名。宮臣親幸者。咸被譴。太子復召譯。戲狎如初。譯因曰。殿下何時可得據天下。太子悅。益昵之。譯儼之。兄孫也。周主遇太子甚嚴。每朝見。進止與羣臣無異。雖隆寒盛暑。不得休息。以其著酒。禁酒不得至東宮。有過輒加捶撻。嘗謂之曰。古來太子。被廢者幾人。餘兒豈不堪立邪。乃敕東宮官屬錄太子言語動作。每月奏聞。太子畏帝威嚴。矯情脩飾。由是過惡不上聞。王軌嘗與小內史賀若弼言。太子必不克負荷。弼深以爲然。勸軌陳之。軌後因侍坐。言於帝曰。皇太子仁孝無聞。恐不了陛下家事。愚臣短暗。不足可信。陛下恆以賀若弼有文武奇才。亦常以此爲憂。帝以問弼。對曰。皇太子養德春宮。未聞有過。既退。軌讓弼曰。平生言論。無所不道。今者對揚。何得乃爾。反覆。弼曰。此公之過也。太子國之儲副。豈易發言。事有蹉跌。便至滅族。本謂公密陳臧否。何得遂至昌言。軌默然。久之。乃曰。吾專心國家。遂不存私計。向者對衆。良實非宜。後軌因內宴。上壽。持酒。帝須臾曰。可愛好老公。但恨後嗣弱耳。先是。帝問右宮伯宇文孝伯曰。吾兒比來何如。對曰。太子比懼天威。更無過失。罷酒。帝責孝伯曰。公嘗語我云。太子無過。今軌有此言。公爲誑矣。孝伯再拜曰。父子之際。人所難言。臣知陛下不能割慈忍愛。遂爾結舌。帝知其意。默然久之。乃曰。朕已委公矣。公其勉之。王軌驟言於帝曰。皇太子非社稷主。普六茹堅。貌有反相。帝不悅曰。必天命有在。將若之何。楊堅聞之。甚懼。深自晦匿。帝深以軌等言爲然。但漢王贊次長。又不才。餘子皆幼。故得不廢。○丁卯。以司空吳明徹爲南兗州刺史。○齊主如晉陽。營邯鄲宮。○九月。戊戌。以皇子叔彪

爲淮南王。○周主謂羣臣曰。朕去歲屬有疾疹。遂不得克平逋寇。前入齊境。備見其情。彼之行師。殆同兒戲。況其朝廷昏亂。政由羣小。百姓嗷然。朝不謀夕。天與不取。恐貽後悔。前出河外。直爲拊背。未扼其喉。晉州本高歡所起之地。鎮攝要重。今往攻之。彼必來援。吾嚴軍以待。擊之必克。然後乘破竹之勢。鼓行而東。足以窮其巢穴。混同文軌。諸將多不願行。帝曰。機不可失。有沮吾軍者。當以軍法裁之。冬十月己酉。周主自將伐齊。以越王盛。杞公亮。隨公楊堅。爲右三軍。譙王儉。大將軍寶泰。廣化公丘崇。爲左三軍。齊王憲。陳王純。爲前軍。亮。導之子也。丙辰。齊主獵於祁連池。癸亥。還晉陽。先是。晉州行臺左丞張延雋。公直勤敏。儲侍有備。百姓安業。疆場無虞。諸嬖倖。惡而代之。由是。公私煩擾。周主至晉州。軍于汾曲。遣齊王憲。將兵二萬。守雀鼠谷。陳王純。步騎二萬。守千里徑。鄭公達。奚震。步騎一萬。守統軍川。大將軍韓明。步騎五千。守齊子嶺。馮氏公尹升。步騎五千。守鼓鍾鎮。涼城公辛韶。步騎五千。守蒲津關。趙王招。步騎一萬。自華谷。攻齊汾州諸城。柱國宇文盛。步騎一萬。守汾水關。遣內史王誼。監諸軍。攻平陽城。齊行臺僕射海昌王尉相貴。嬰城拒守。甲子。齊集兵晉祠。庚午。齊主自晉陽。帥諸軍。趣晉州。周主。日自汾曲。至城下。督戰。城中窘急。庚午。行臺左丞侯子欽。出降於周。壬申。晉州刺史崔景嵩。守北城。夜遣使請降於周。王軌。帥衆應之。未明。周將北海段文振。杖槩。與數十人。先登。與景嵩。同至尉相貴所。拔佩刀。劫之。城上鼓譟。齊兵大潰。遂克晉州。虜相貴。及甲士八千人。齊主。方與馮淑妃。獵於天池。晉州告急者。自旦至午。驛馬三至。右丞相高阿那肱。曰。大家正爲樂。邊鄙小小交兵。乃是常事。何急奏聞。至暮。使更至。云平陽已陷。乃奏之。齊主將還。淑妃請更殺一圍。齊主從之。周齊王憲。攻拔洪洞。永安二城。更圖進取。齊人焚橋。守險。軍不得進。乃屯永安。使永昌公椿。屯雞栖原。伐柏爲菴。以立營。椿。廣之弟也。癸酉。齊主。分軍萬人。向千里徑。又分軍出汾水關。自帥大軍。上雞栖原。宇文盛。遣人告急。齊王憲。自救之。齊

師退。盛追擊破之。俄而椿告齊師稍逼。憲復還救之。與齊對陳。至夜不戰。會周主召憲還。憲引兵夜去。齊人見柏菴在。不之覺。明日始知之。齊主使高阿那肱。將前軍先進。仍節度諸軍。甲戌。周以上開府儀同大將軍安定梁士彥。爲晉州刺史。留精兵一萬鎮之。十一月己卯。齊主至平陽。周主以齊兵新集。聲勢甚盛。且欲西還。以避其鋒。開府儀同大將軍宇文忻。諫曰。以陛下之聖武。乘敵人之荒縱。何患不克。若使齊得令主。君臣協力。雖湯武之勢。未易平也。今主暗臣愚。士無鬪志。雖有百萬之衆。實爲陛下奉耳。軍正京兆王紘。曰。齊失紀綱。於茲累世。天獎周室。一戰而扼其喉。取亂侮亡。正在今日。釋之而去。臣所未諭。周主雖善其言。竟引軍還。忻。貴之子也。周主留齊王憲。爲後拒。齊師追之。憲與宇文忻。各將百騎。與戰。斬其驍將賀蘭豹子等。齊師乃退。憲引軍度汾。追及周主於玉壁。齊師遂圍平陽。晝夜攻之。城中危急。樓堞皆盡。所存之城。尋仞而已。或短兵相接。或交馬出入。外援不至。衆皆震懼。梁士彥。怛慨自若。謂將士曰。死在今日。吾爲爾先。於是。勇烈齊奮。呼聲動地。無不一當百。齊師少却。乃令妻妾。軍民婦女。晝夜脩城。三日而就。周主使齊王憲。將兵六萬。屯涑川。遙爲平陽聲援。齊人作地道。攻平陽。城陷十餘步。將士乘勢欲入。齊主敕且止。召馮淑妃觀之。淑妃粧點不時。至。周人以木拒塞之。城遂不下。舊俗相傳。晉州城西石上。有聖人跡。淑妃欲往觀之。齊主恐弩矢及橋。乃抽攻城木。造遠橋。齊主與淑妃度橋。橋壞。至夜乃還。癸巳。周主還長安。甲午。復下詔。以齊人圍晉州。更帥諸軍擊之。丙申。縱齊降人。使還。丁酉。周主發長安。壬寅。濟河與諸軍合。十二月丁未。周主至高顯。遣齊王帥所部。先向平陽。戊申。周主至平陽。庚戌。諸軍總集。凡八萬人。稍進逼城。置陳東西二十餘里。先是。齊人恐周師猝至。於城南穿塹。自喬山。屬於汾水。齊主大出兵。陳於塹北。周主命齊王憲。馳往觀之。憲復命曰。易與耳。請破之。而後食。周主悅。曰。如汝言。吾無憂矣。周主乘常御馬。從數人。巡陳。所至。輒呼主帥姓名。慰勉之。將士喜於

見知成思自奮將戰。有司請換馬。周主曰：朕獨乘良馬，欲何之？周主欲薄齊師，礙而止。自旦至申，相持不決。齊主謂高阿那肱曰：戰是邪？不戰是邪？阿那肱曰：吾兵雖多，堪戰不過十萬，病傷及饒，城樵爨者復三分居一。昔攻玉壁，援軍來即退。今日將士，豈勝神武時邪？不如勿戰。却守高梁橋。安吐根曰：一撮許賊，馬上刺取，擲著汾水中耳。齊主意未決。諸內參曰：彼亦天子，我亦天子，彼尚能遠來，我何爲守？暫示弱。齊主曰：此言是也。於是填塹南引。周主大喜，勸諸軍擊之。兵纔合，齊主與馮淑妃竝騎觀戰。東偏少却，淑妃怖曰：軍敗矣。錄尚書事城陽王穆提婆曰：大家去，大家去。齊主即以淑妃奔高梁橋。開府儀同三司奚長諫曰：半進半退，戰之常體。今兵衆全整，未有虧傷。陛下捨此安之，馬足一動，人情駭亂，不可復振。願速還安慰之。武衛張常山自後至，亦曰：軍尋收訖，甚完整。圍城兵亦不動，至尊宜回，不信臣言，乞將內參往視。齊主將從之。穆提婆引齊主肘曰：此言難信。齊主遂以淑妃北走。齊師大潰，死者萬餘人。軍資器械數百里間委棄山積。安德王延宗獨全軍而還。齊主至洪洞，淑妃方以粉鏡自玩，後聲亂唱賊至，於是復走。先是，齊主以淑妃爲有功勳，將立爲左皇后，遣內參至晉陽，取皇后服御，祿翟等至，是遇於中塗。齊主爲按轡，命淑妃著之。然後去。辛亥，周主入平陽。梁士彥見周主，持周主須而泣曰：臣幾不見陛下。周主亦爲之流涕。周主以將士疲弊，欲引還。士彥叩馬諫曰：今齊師遁散，衆心皆動，因其懼而攻之，其勢必舉。周主從之，執其手曰：余得晉州，爲平齊之基，若不固守，則大事不成。朕無前憂，唯慮後變，汝善爲我守之。遂帥諸將追齊師，諸將固請西還。周主曰：縱敵患生，卿等若疑，朕將獨往。諸將乃不敢言。癸丑，至汾水關。齊主入晉陽，憂懼不知所之。甲寅，齊大赦。齊主問計於朝臣，皆曰：宜省賦息役，以慰民心。收遺兵，背城死戰。以安社稷。齊主欲留安德王延宗、廣寧王孝珩守晉陽，自向北朔州。若晉陽不守，則奔突厥。羣臣皆以爲不可。帝不從。開府儀同三司賀拔伏恩等宿衛近臣三十

餘人，西奔周軍。周主封賞各有差。高阿那肱所部兵尙一萬，守高壁，餘衆保洛女砦。周主引軍向高壁，阿那肱望風退走。齊王憲攻洛女砦，拔之。有軍士告阿那肱，招引西軍。齊主令侍中斛律孝卿檢校孝卿，以爲妄，還至晉陽。阿那肱腹心復告阿那肱謀反，又以爲妄，斬之。乙卯，齊主詔安德王延宗、廣寧王孝珩募兵。延宗入見，齊主告以欲向北朔州。延宗泣諫，不從。密遣左右先送皇太后太子於北朔州。丙辰，周主與齊王憲會於介休。齊開府儀同三司韓建業舉城降，以爲上柱國，封郇公。是夜，齊主欲遁去，諸將不從。丁巳，周師至晉陽。齊主復大赦，改元隆化。以安德王延宗爲相國，并州刺史。總山西兵，謂曰：并州，兄自取之。兒今去矣。延宗曰：陛下爲社稷，勿動。臣爲陛下，出死力戰，必能破之。穆提婆曰：至尊計已成，王不得輒沮。齊主乃夜斬五龍門而出，欲奔突厥。從官多散，領軍梅勝郎叩馬諫，乃回向鄴。時唯高阿那肱等十餘騎從。廣寧王孝珩、襄城王彥道繼至，得數十人，與俱。穆提婆西奔周軍。陸令萱自殺，家屬皆誅沒。周主以提婆爲柱國，宜州刺史。下詔諭齊羣臣曰：若妙盡人謀，深達天命，官榮爵賞，各有加隆。或我之將卒，逃逸彼朝，無問貴賤，皆從蕩滌。自是齊臣降者，相繼初齊高祖爲魏丞相，以唐邕典外兵曹。太原白建典騎兵曹，皆以善書計。工簿帳，受委任。及齊受禪，諸司咸歸尙書。唯二曹不廢。更名二省。邕官至錄尙書事，建官至中書令。常典二省，世稱唐白。邕兼領度支，與高阿那肱有隙。阿那肱譖之，齊主敕侍中斛律孝卿總知騎兵度支。孝卿事多專決，不復詢稟。邕自以宿習舊事，爲孝卿所輕，意甚鬱鬱。及齊主還鄴，邕遂留晉陽。并州將帥請於安德王延宗曰：王不爲天子，諸人實不能爲王。出死力，延宗不得已。戊午，卽皇帝位。下詔曰：武平孱弱，政由宦豎，斬關夜遁，莫知所之。王公卿士，猥見推逼，今祇承寶位，大赦。改元德昌。以晉昌王唐邕爲宰相，齊昌王莫多婁敬顯、涑陽王右衛大將軍段暢、開府儀同三司韓骨胡等爲將帥。敬顯，貸文之子也。衆聞之，不召而至者，前後相屬。延宗發府藏，及

後宮美女以賜將士，籍沒內參十餘家。齊主聞之，謂近臣曰：「我寧使周得并州，不欲安德得之。」左右曰：「理然。」延宗見士卒皆親執，手稱名，流涕嗚咽，衆爭爲死。童兒女子亦乘屋攘袂，投輒石以禦敵。己未，周主至晉陽。庚申，齊主入鄴。周師圍晉陽，四合如黑雲。安德王延宗命莫多婁敬顯、韓骨胡拒城南，和阿千子、段暢拒城東。自帥衆拒齊。王憲於城北，延宗素肥，前如偃。後如伏。人常笑之。至是，奮大稍往來督戰，勁捷若飛。所向無前。和阿千子、段暢以千騎奔周軍。周主攻東門，際昏遂入之。進焚佛寺。延宗敬顯自門入夾擊之。周師大亂，爭門相填壓，塞路不得進。齊人從後斫刺死者二千餘人。周主左右略盡，自拔無路。承御上士張壽牽馬首，賀拔伏恩以鞭拂其後，崎嶇得出。齊人奮擊，幾中之。城東道陌曲，伏恩及降者皮子信導之，僅得免。時已四更。延宗謂周主爲亂兵所殺，使於積尸中求長鬣者，不得。時齊人既捷，入坊飲酒，盡醉臥。延宗不復能整。周主出城，饑甚，欲遁去。諸將亦多勸之。還宇文忻，勃然進曰：「陛下自克晉州，乘勝至此，今僞主奔波，關東響震，自古行兵，未有若斯之盛。昨日破城，將士輕敵，微有不利，何足爲懷。丈夫當死中求生，敗中取勝。今破竹之勢已成，奈何棄之而去。齊王憲、柱國王誼亦以爲去必不免。段暢等又盛言城內空虛，周主乃駐馬鳴角收兵，俄頃復振。辛酉旦，還攻東門，克之。延宗戰力屈，走至城北，周人擒之。周主下馬執其手，延宗辭曰：「死人手，何敢迫至尊。」周主曰：「兩國天子，非有怨惡，直爲百姓來耳。遂不相害，勿怖也。」使復衣帽而禮之。唐邕等皆降於周，獨莫多婁敬顯奔鄴。齊主以爲司徒。延宗初稱尊號，遣使脩啓於瀛州刺史任城王湣曰：「至尊出奔，宗廟事重，羣公勸迫，權主號令，事寧終歸叔父。湣曰：「我人臣，何容受此啓。」執使者送鄴。壬戌，周主大赦，削除齊制，收禮文武之士。鄴伊婁謙聘於齊，其參軍高遵以情輸於齊。齊人拘之於晉陽。周主既克晉陽，召謙勞之，執遵付謙，任其報復。謙頓首請赦之。周主曰：「卿可聚衆睡面，使其知愧。」謙曰：「以遵之罪，又非睡面可責。帝善其言而止，謙待遵如初。」

止，謙待遵如初。

臣光曰：賞有功，誅有罪，此人君之任也。高遵奉使異國，漏泄大謀，斯叛臣也。周高祖自行戮，乃以賜謙，使之復怨，失政刑矣。孔子謂以德報怨者，何以報德爲謙者，宜辭而不受。

歸諸有司，以正典刑，乃請而赦之，以成其私名，美則美矣，亦非公義也。

齊主命立重賞，以募戰士，而竟不出物。廣寧王孝珩請使任城王湣將幽州道兵入土門，揚聲趣并州，獨孤永業將洛州道兵入潼關，揚聲趣長安。臣請將京畿兵出滏口，鼓行逆戰。敵聞南北有兵，自然逃潰。又請出宮人珍寶賞將士，齊主不悅。斛律孝卿請齊主親勞將士，爲之撰辭，且曰：「宜愴流涕，以感激人心。」齊主既出臨衆，將令之，不復記所受言，遂大笑。左右亦笑。將士怒曰：「身尚如此，吾輩何急，皆無戰心。」於是自大丞相已下，太宰、三師、大司馬、大將軍、三公等官，竝增員而授，或三或四，不可勝數。朔州行臺僕射高勸將兵，侍衛太后太子，自土門道還鄴。時宦官儀同三司荀子溢猶恃寵縱暴，民間雞彘，縱鷹犬搏噬取之。勸執以徇，將斬之。太后救之，得免。或謂勸曰：「子溢之徒，言成禍福，獨不慮後患邪。」勸攘袂曰：「今西寇已據并州，達官率皆委叛。正坐此輩濁亂朝廷，若得今日斬之，明日受誅，亦無所恨。」岳之子也。甲子，齊太后至鄴。丙寅，周主出齊宮中珍寶及宮女二千人，班賜將士，加立功者官爵。各有差。周主問高延宗以取鄴之策，辭曰：「此非亡國之臣所及。」疆問之，乃曰：「若任城王據鄴，臣不能知。若今主自守，陛下兵不血刃，癸酉，周師趣鄴，命齊王憲先驅，以上柱國陳王純爲并州總管，齊主引諸貴臣入朱雀門，賜酒食，問以禦周之策。人人異議。齊主不知所從。是時，人情恟懼，莫有鬪心。朝士出降，晝夜相屬。高勸曰：「今之叛者，多是貴人，至於卒伍，猶未離心。請追五品已上家屬，置之三臺，因脅之以戰。若不捷，則焚臺。此曹願惜妻子，必當死戰。」且王師頻北，賊徒輕我，今背城一決，理必破之。齊主不能用。望氣者言：「當有革易。」齊主引尚書令高

元誨等議。依天統故事。禪位皇太子。

資治通鑑卷第一百七十二

資治通鑑卷第一百七十三

陳紀七

高宗宣皇帝中之下

太建九年春正月乙亥朔齊太子恆即皇帝位生八年矣改元承光大赦尊齊主爲太上皇帝皇太后爲太皇太后皇后爲太上皇后以廣寧王孝珩爲太宰司徒莫多婁敬顯領軍大將軍尉相願謀伏兵千秋門斬高阿那肱立廣寧王孝珩會阿那肱自它路入朝不果孝珩求拒周師謂阿那肱等曰朝廷不賜遣擊賊豈不畏孝珩反邪孝珩若破宇文邕遂至長安反亦何預國家事以今日之急猶如此猜忌邪高韓恐其爲變出孝珩爲滄州刺史相願拔佩刀斫柱歎曰大事去矣知復何言齊主使長樂王尉世辯帥千餘騎覘周師出濫口登高阜西望遙見羣鳥飛起謂是西軍旗幟即馳還比至紫陌橋不敢回顧世辯榮之子也於是黃門侍郎顏之推中書侍郎薛道衡侍中陳德信等勸上皇往河外募兵更爲經略若不濟南投陳國從之道衡孝通之子也丁丑太皇太后太上皇后自鄴先趣濟州癸未幼主亦自鄴東行己丑周師至紫陌橋○辛卯上祭北郊○壬辰周師至鄴城下癸巳圍之燒城西門齊人出戰周師奮擊大破之齊上皇從百騎東走使武衛大將軍慕容三藏守鄴宮周師入鄴齊王公以下皆降三藏猶拒戰周主引見禮之拜儀同大將軍三藏紹宗之子也領軍大將軍漁陽鮮于世榮齊高祖舊將也周主先以馬腦酒鍾遺之世榮得卽碎之周師入鄴世榮在三臺前鳴鼓不輟周人執之世榮不屈乃殺之周主執莫多婁敬顯數之曰汝有死罪

三前自晉陽走鄴。攜妾棄母。不孝也。外爲僞朝戮力。內實通啓於朕。不忠也。送款之後。猶持兩端。不信也。用心如此。不死何待。遂斬之。使將軍尉遲勤追齊主。甲午。周主入鄴。齊國子博士長樂熊安生。博通五經。聞周主入鄴。遽令掃門。家人怪而問之。安生曰。周帝重道尊儒。必將見我。俄而周主幸其家。不聽拜。親執其手。引與同坐。賞賜甚厚。給安車駟馬。以自隨。又遣小司馬唐道和。就中書侍郎李德林宅。宣旨慰諭曰。平齊之利。唯在於爾。引入宮。使內史宇文昂。訪問齊朝風俗政教。人物善惡。即留內省。三宿乃歸。乙未。齊上皇渡河。入濟州。是日。幼主禪位於大丞相任城王湝。又爲湝詔。尊上皇爲無上皇。幼主爲宋國天王。令侍中斛律孝卿。送禪文及璽紱於瀛州。孝卿即詣鄴。周主詔。去年大赦所未及之處。皆從赦例。齊洛州刺史獨孤永業。有甲士三萬。聞晉州陷。請出兵擊周。奏寢不報。永業憤慨。又聞并州陷。乃遣子須達。請降於周。周以永業爲上柱國。封應公。丙申。周以越王盛爲相州總管。齊上皇留胡太后於濟州。使高阿那肱守濟州關。覘候周師。自與穆后。馮淑妃。幼主。韓長鸞。鄧長顥等。數十人。奔青州。使內參田鵬鸞西出。參伺動靜。周師獲之。問齊主何在。給云。已去。計當出境。周人疑其不信。捶之。每折一支。辭色愈厲。竟折四支而死。上皇至青州。即欲入陳。而高阿那肱密召周師。約生致齊主。屢啓云。周師尙遠。已令燒斷橋路。上皇由是淹留自寬。周師至關。阿那肱即降之。周師奄至青州。上皇囊金繫於鞍。與后妃幼主等十餘騎南走。己亥。至南鄆村。尉遲勤追及。盡擒之。并胡太后。送鄴。庚子。周主詔。故斛律光。崔季舒等。宜追加贈諡。并爲改葬。子孫各隨蔭敘錄。家口田宅沒官者。並還之。周主指斛律光名曰。此人在。朕安得至鄴。辛丑。詔齊之東山。南園。三臺。並可毀撤。瓦木諸物。可用者。悉以賜民。山園之田。各還其主。○二月。壬午。上耕籍田。○丙午。周主宴從官將士於齊太極殿。頒賞有差。丁未。高緯至鄴。周主降階。以賓禮見之。齊廣寧王孝珩。至滄州。以五千人。會任城王湝於信都。共謀匡復。召募得四萬。

餘人。周主使齊王憲。柱國楊堅。擊之。令高緯爲手書。招湝。湝不從。憲軍至趙州。湝遣二謀覘之。候騎執以白憲。憲集齊舊將。遍示之。謂曰。吾所爭者大。不在汝曹。今縱汝還。仍充吾使。乃與湝書曰。足下謀者爲候騎所拘。軍中情實。具諸執事。戰非上計。無待卜疑。守乃下策。或未相許。已勒諸軍分道竝進。相望非遠。憑軾有期。不俟終日。所望知機也。憲至信都。湝陳於城南。以拒之。湝所署領軍尉相願。詐出略陳。遂以衆降。相願。湝心腹也。衆皆駭懼。湝殺相願妻子。明日復戰。憲擊破之。俘斬三萬人。執湝。及廣寧王孝珩。憲謂湝曰。任城王。何苦至此。湝曰。下官神武皇帝之子。兄弟十五人。幸而獨存。逢宗社顛覆。無愧墳陵。憲壯之。命歸其妻子。又親爲孝珩洗瘡傅藥。禮遇甚厚。孝珩歎曰。自神武皇帝以外。吾諸父兄弟。無一人至四十者。命也。嗣君無獨見之明。宰相非柱石之寄。恨不得握兵符。受斧鉞。展我心力耳。齊王憲善用兵。多謀略。得將士心。齊人憚其威聲。多望風沮潰。芻牧不擾。軍無私焉。周主以齊降將封輔相。爲北朔州總管。北朔州。齊之重鎮。士卒驍勇。前長史趙穆等。謀執輔相。迎任城王湝於瀛州。不果。乃迎定州刺史范陽王紹義。紹義至馬邑。自肆州以北。二百八十餘城。皆應之。紹義與靈州刺史袁洪猛。引兵南出。欲取并州。至新興。而肆州已爲周守。前隊二儀同。以所部降周。周兵擊顯州。執刺史陸瓊。復攻拔諸城。紹義還。保北朔州。周東平公神舉。將兵逼馬邑。紹義戰敗。北奔突厥。猶有衆三千人。紹義令曰。欲還者。從其意。於是辭去者大半。突厥佗鉢可汗。常謂齊顯祖爲英雄天子。以紹義重蹀似之。甚見愛重。凡齊人在北者。悉以隸之。於是齊之行臺州鎮。唯東雍州行臺傅伏。營州刺史高寶寧。不下。其餘皆入於周。凡得州五十。郡一百六十二。縣三百八十。戶三百三萬二千五百。高寶寧者。齊之疎屬。有勇略。久鎮和龍。甚得夷夏之心。周主於河陽。幽。青。南。兗。豫。徐。北。朔。定。置總管府。相并二州。各置宮。及六府官。周師之克晉陽也。齊使開府儀同三司紇奚永安。求救於突厥。比至。齊已亡。佗鉢可汗。處永安於

吐谷渾使者之下。永安言於佗鉢曰。今齊國已亡。永安何用餘生。欲閉氣自絕。恐天下謂大齊無死節之臣。乞賜一刀。以顯示遠近。佗鉢嘉之。贈馬七十匹。而歸之。梁主入朝于鄴。自秦兼天下。無朝覲之禮。至是始命有司。草具其事。致積致餼。設九饋九介。受享於廟。三公三孤六卿。致食勞賓。還贊致享。皆如古禮。周主與梁主宴。酒酣。周主自彈琵琶。梁主起舞曰。陛下既親撫五絃。臣何敢不同百獸。周主大悅。賜賚甚厚。乙卯。周主自鄴西還。三月。壬午。周詔山東諸軍。各舉明經幹治者二人。若奇才異術。卓爾不羣者。不拘此數。周主之擒尉相貴也。招齊東雍州刺史傅伏。伏不從。齊人以伏為行臺右僕射。周主既克并州。復遣韋孝寬招之。令其子以上大將軍武鄉公告身。及金馬腦二酒鍾。賜伏為信。伏不受。謂孝寬曰。事君有死無貳。此兒為臣不能竭忠。為子不能盡孝。人所讎疾。願速斬之。以令天下。周主自鄴還。至晉州。遣高阿那肱等百餘人。臨汾水。召伏。伏出軍。隔水見之。問至尊今何在。阿那肱曰。已被擒矣。伏仰天大哭。帥眾入城。於聽事前北面哀號良久。然後降。周主見之曰。何不早下。伏流涕對曰。臣三世為齊臣。食齊祿。不能自死。羞見天地。周主執其手曰。為臣當如此。乃以所食羊肋骨賜伏。伏曰。骨親肉疎。所以相付。遂引使宿衛。授上儀同大將軍。敕之曰。若亟與公高官。恐歸附者心動。努力事朕。勿憂富貴。佗日又問前救河陰。得何賞。對曰。蒙一轉授。特進永昌郡公。周主謂高緯曰。朕三年教戰。決取河陰。正為傳伏善守。城不可動。遂斂軍而退。公當時賞功。何其薄也。夏四月乙巳。周主至長安。置高緯於前。列其王公於後。車輿旗幟器物。以次陳之。備大駕。布六軍。奏凱樂。獻俘於太廟。觀者皆稱萬歲。戊申。封高緯為溫公。齊之諸王三十餘人。皆受封爵。周主與齊君臣飲酒。令溫公起舞。高延宗悲不自持。屢欲仰藥。其傅婢禁止之。周主以李德林為內史上士。自是詔詰格式。及用山東人物。並以委之。帝從容謂羣臣曰。我常日唯聞李德林名。復見其為齊朝。作詔書移檄。正謂是天上人。豈言今日。得其驅使。神武

公紇豆陵毅對曰。臣聞麒麟鳳皇。為王者瑞。可以德感。不可力致。麒麟鳳皇得之無用。豈如德林為瑞。且有用哉。帝大笑曰。誠如公言。○己巳。周主享太廟。○五月。丁丑。周以譙王儉為大冢宰。庚辰。以杞公亮為大司徒。鄭公達奚震為大宗伯。梁公侯莫陳芮為大司馬。應公獨孤永業為大司空。寇郎公韋孝寬為大司空。己丑。周主祭方丘。詔以路寢會義崇信舍仁雲和思齊諸殿。皆晉公護專政時所為。事窮壯麗。有踰清廟。悉可毀撤。彫斲之物。並賜貧民。繕造之宜。務從卑朴。戊戌。又詔并鄴諸堂殿壯麗者。準此。

臣光曰。周高祖可謂善處勝矣。佗人勝則益奢。高祖勝而愈儉。六月。丁卯。周主東巡。秋七月。丙戌。幸洛州。八月。壬寅。議定權衡度量。頒之於四方。初魏虜西涼之人。沒為隸戶。齊氏因之。仍供廝役。周主滅齊。欲施寬惠。詔曰。罪不及嗣。古有定科。雜役之徒。獨異常憲。一從罪配。百代不免。罰既無窮。刑何以措。凡諸隸戶。悉放為民。自是無復隸戶。甲子。鄴州獲九尾狐。已死。獻其骨。周主曰。瑞應之來。必彰有德。若五品時敘。四海和平。乃能致此。今無其時。恐非實錄。命焚之。九月。戊寅。周制。庶人已上。唯聽衣綢。綿綢。絲布。圓綾。紗。絹。綃。葛。布等九種。餘悉禁之。朝祭之服。不拘此制。冬十月。戊申。周主如鄴。○上聞周人滅齊。欲爭徐兗。詔南兗州刺史司空吳明徹督諸軍伐之。以其世子戎昭將軍惠覺攝行州事。明徹軍至呂梁。周徐州總管梁士彥帥眾拒戰。戊午。明徹擊破之。士彥嬰城自守。明徹圍之。帝銳意以為河南指麾可定。中書通事舍人蔡景歷諫曰。師老將驕。不宜過窮遠略。帝怒。以為沮眾。出為豫章內史。未行。有飛章劾景歷在省。贓汗狼籍。坐免官削爵土。○周改葬德皇帝於冀州。周主服縗。哭于太極殿。百官素服。○周人誣溫公高緯。與宜州刺史穆提婆謀反。并其宗族皆賜死。眾人多自陳無之。高延宗獨攘袂泣而不言。以椒塞口而死。唯緯弟仁英以清狂。仁雅以瘡疾得免。徙於蜀。其餘親屬不殺者。散配西土。皆死於邊裔。周主以高潛妻盧

氏賜其將斛斯微盧氏蓬首垢面長齋不言笑微放之乃為尼齊后妃貧者至以賣燭為業
 ○十一月壬申周立皇子衍為道王允為蔡王○癸酉周遣上大將軍王軌將兵救徐州○
 初周人敗齊師於晉州乘勝逐北齊人所棄甲仗未暇收斂稽胡乘間竊出竝盜而有之仍
 立劉蠡升之孫沒鐸為主號聖武帝改元石平周人既克關東將討稽胡議欲窮其巢穴
 齊王憲曰步落稽種類既多又山谷險絕王師一舉未可盡除且當翦其魁首餘加慰撫周
 主從之以憲為行軍元帥督諸軍討之至馬邑分道俱進沒鐸分遣其黨天柱守河東穆支
 守河西據險以拒之憲命譙王儉擊天柱滕王迥擊穆支竝破之斬首萬餘級趙王招擊沒
 鐸禽之餘眾皆降○周詔自永熙三年以來東土之民掠為奴婢及克江陵之日良人沒為
 奴婢者竝放為良又詔後宮唯置妃二人世婦三人御妻三人此外皆減之周主性節儉常
 服布袍寢布被後宮不過十餘人每行兵親在行陳步涉山谷人所不堪撫將士有恩而明
 察果斷用法嚴峻由是將士畏威而樂為之死○己亥晦日有食之○周初行刑書要制羣
 盜賊一匹及正長隱五丁若地頃以上皆死○十二月戊申新作東宮成太子徙居之○庚
 申周主如并州徙并州軍民四萬戶於關中戊辰廢并州宮及六府○高寶寧自黃龍上表
 勸進於高紹義紹義遂稱皇帝改元武平以寶寧為丞相突厥佗鉢可汗舉兵助之
 十年春正月壬午周主幸鄴辛卯幸懷州癸巳幸洛州置懷州宮○二月甲辰周譙孝王儉
 卒○丁巳周主還長安○吳明徹圍周彭城環列舟艦於城下攻之甚急王軌引兵輕行據
 淮口結長圍以鐵鎖貫車輪數百沈之清水以遏陳船歸路軍中懼譙州刺史蕭摩訶言
 於明徹曰聞王軌始鎖下流其兩端築城今尚未立公若見遣擊之彼必不敢相拒水路未
 斷賊勢不堅彼城若立則吾屬必為虜矣明徹奮髯曰奉旗陷陳將軍事也長算遠略老夫
 事也摩訶失色而退一旬之間水路遂斷周兵益至諸將議破堰拔軍以舫載馬而去馬主

裴子烈曰若破堰下船船必傾倒不如先遣馬出時明徹苦背疾甚篤蕭摩訶復請曰今求
 戰不得進退無路若潛軍突圍未足為恥願公帥步卒乘馬疊徐行摩訶領鐵騎數千驅馳
 前後必當使公安達京邑明徹曰弟之此策乃良圖也然步軍既多吾為總督必須身居其
 後相帥兼行弟馬軍宜速在前不可遲緩摩訶因帥馬軍夜發甲子明徹決堰乘水勢退軍
 冀以入淮至清口水勢漸微舟艦竝礙車輪不復得過王軌引兵圍而蹙之眾潰明徹為周
 人所執將士三萬并器械輜重皆沒於周蕭摩訶以精騎八十居前突圍眾騎繼之比且達
 淮南與將軍任忠周羅暉獨全軍得還初帝謀取彭汴以問五兵尚書毛喜對曰淮左新平
 邊民未輯周氏始吞齊國難與爭鋒且棄舟楫之工踐車騎之地去長就短非吳人所能臣
 愚以為不若安民保境寢兵結好斯久長之術也及明徹敗帝謂喜曰卿言驗於今矣即日
 召蔡景歷復以為征南諮議參軍周主封吳明徹為懷德公位大將軍明徹憂憤而卒○乙
 丑周以越王盛為大冢宰○三月戊辰周於蒲州置宮廢同州及長春二宮甲戌周主初服
 常冠以皂紗全幅向後僕髮仍裁為四脚○丙子命軍大將軍開府儀同三司淳于量為
 大都督總水陸諸軍事鎮西將軍孫瑒都督荆郢諸軍平北將軍樊毅都督清口至上荆山
 緣淮諸軍寧遠將軍任忠都督壽陽新蔡霍州諸軍以備周○乙酉大赦○壬辰周改元宣
 政○夏四月庚申突厥寇周幽州殺掠吏民○戊午樊毅遣軍度淮北對清口築城壬戌清
 口城不守○五月己丑周高祖帥諸軍伐突厥遣柱國原公姬願東平公神舉等將兵五道
 俱入癸巳帝不豫留止雲陽宮丙申詔停諸軍驛召宗師宇文孝伯赴行在所帝執其手曰
 吾自量必無濟理以後事付君是夜授孝伯司衛上大夫總宿衛兵又令馳驛入京鎮守以
 備非常六月丁酉朔帝疾甚還長安是夕殂年三十六戊戌太子即位尊皇后阿史那氏為
 皇太后宣帝初立即還奢欲大行在殯會無戚容捫其杖痕大罵曰死晚矣閱視高祖宮人

逼為淫欲。超拜吏部下大夫。鄭譯為開府儀同大將軍。內史中大夫。委以朝政。己未。葬武皇帝於孝陵。廟號高祖。既葬。詔內外公除。帝及六宮皆議。即吉。京兆郡丞樂運上疏以為。葬期既促。事訖即除。太為汲汲。帝不從。帝以齊煬王憲屬尊望重。忌之。謂宇文孝伯曰。公能為朕圖齊王。當以其官相授。孝伯叩頭曰。先帝遺詔。不許濫誅骨肉。齊王陛下之叔父。功高德茂。社稷重臣。陛下若無故害之。臣又順旨曲從。則臣為不忠之臣。陛下為不孝之子矣。帝不懌。由是疎之。乃與開府儀同大將軍于智。鄭譯等密謀之。使智就宅候憲。因告憲有異謀。甲子。帝遣宇文孝伯。語憲欲以憲為太師。憲辭讓。又使孝伯召憲曰。晚與諸王俱入。既至殿門。憲獨被引進。帝先伏壯士於別室。至即執之。憲自辯理。帝使于智證憲。憲目光如炬。與智相質。或謂憲曰。以王今日事勢。何用多言。憲曰。死生有命。寧復圖存。但老母在堂。恐留茲恨耳。因擲笏於地。遂縊之。帝召憲僚屬。使證成憲罪。參軍勃海李綱誓之以死。終無撓辭。有司以露車載憲尸而出。故吏皆散。唯李綱撫棺號慟。躬自瘞之。哭拜而去。又殺上大將軍王興。上開府儀同大將軍獨孤熊。開府儀同大將軍豆盧紹。皆素與憲親善者也。帝既誅憲而無名。乃云與興等謀反。時人謂之伴死。以于智為柱國。封齊公。以賞之。○閏月乙亥。周主立妃楊氏為皇后。○辛巳。周以趙王招為太師。陳王純為太傅。○齊范陽王紹義聞周高祖殂。以為得天助。幽州人盧昌期起兵。據范陽。迎紹義。紹義引突厥兵赴之。周遣柱國東平公神舉將兵討昌期。紹義聞幽州總管出兵在外。欲乘虛襲薊。神舉遣大將軍宇文恩將四千人救之。半為紹義所殺。會神舉克范陽。擒昌期。紹義聞之。素衣舉哀。還入突厥。高寶寧帥夷夏數萬騎救范陽。至潞水。聞昌期死。還據和龍。○秋七月。周主享太廟。丙午。祀園丘。○庚戌。周以小宗伯斛斯微為大宗伯。壬戌。以亳州總管楊堅為上柱國。大司馬。○癸亥。周主尊所生母李氏為帝太后。○八月丙寅。周主祀西郊。壬申。如同州。以大司徒杞公亮為安州總管。上柱國長

孫覽為大司徒。揚公王誼為大司空。丙戌。以柱國永昌公椿為大司寇。○九月乙巳。立方明壇於婁湖。戊申。以揚州刺史始興王叔陵為王官伯。臨盟百官。○庚戌。周主封其弟元為荆王。○周主詔諸應拜者。皆以三拜成禮。○甲寅。上幸婁湖。誓衆。乙卯。分遣大使。以盟誓。班下四方。上下相警戒。○冬十月癸酉。周主還長安。以大司空王誼為襄州總管。○戊子。以尙書左僕射陸繕為尙書僕射。○十一月。突厥寇周邊。圍酒泉。殺掠吏民。○十二月甲子。周以畢王賢為大司空。○己丑。周以河陽總管滕王迥為行軍元帥。帥衆入寇。十一年春正月癸巳。周主受朝於露門。始與羣臣服漢魏衣冠。大赦。改元大成。置四輔官。以大冢宰越王盛為大前疑。相州總管蜀公尉遲迥為大右弼。申公李穆為大左輔。大司馬隋公楊堅為大後承。周主之初立也。以高祖刑書要制。為太重。而除之。又數行赦宥。京兆郡丞樂運上疏以為。虞書所稱。眚災肆赦。謂過誤為害。當緩赦之。呂刑云。五刑之疑。有赦。謂刑疑從罰。罰疑從免也。謹尋經典。未有罪無輕重。溥天大赦之文。大尊豈可數施非常之惠。以肆姦宄之惡乎。帝不納。既而民輕犯法。又自以奢淫多過失。惡人規諫。欲為威虐。懾服羣下。乃更為刑經。聖制用法益深。大醮於正武殿。告天而行之。密令左右伺察羣臣。小有過失。輒行誅譴。又居喪纒踰年。輒恣聲樂。魚龍百戲。常陳殿前。累日繼夜。不知休息。多聚美女。以實後宮。增置位號。不可詳錄。遊宴沈湎。或旬日不出。羣臣請事者。皆因宦者奏之。於是樂運與樞詣朝堂。陳帝八失。其一。以為大尊比來。事多獨斷。不參諸宰輔。與衆共之。其二。搜美人。以實後宮。儀同以上。女不許輒嫁。貴賤同怨。其三。大尊一入後宮。數日不出。所須聞奏。多附宦官。其四。下詔寬刑。未及半年。更嚴前制。其五。高祖斲雕為朴。崩未踰年。而遽窮奢麗。其六。徭賦下民。以奉俳優。角抵。其七。上書字誤者。即治其罪。杜獻書之路。其八。玄象垂誠。不能諮諫。善道脩布。德政若不革。茲八事。臣見周廟不血食矣。帝大怒。將殺之。朝臣恐懼。莫有救者。內史

中大夫洛陽元巖歎曰。滅洪同死。人猶願之。況比干乎。若樂運不免。吾將與之俱斃。乃詣閤請見。曰。樂運不顧其死。欲以求名。陛下不如勞而遣之。以廣聖度。帝頗感悟。明日召運。謂曰。朕昨夜思卿所奏。實為忠臣。賜御食而罷之。○癸卯。周立皇子闡為魯王。甲辰。周主東巡。以許公宇文善為大宗伯。戊午。周主至洛陽。立魯王闡為皇太子。○二月。癸亥。上耕籍田。○周下詔。以洛陽為東京。發山東諸州兵。治洛陽宮。常役四萬人。徙相州六府於洛陽。○周徐州總管王軌。聞鄭譯用事。自知及禍。謂所親曰。吾昔在先朝。寔申社稷。至計今日之事。斷可知矣。此州控帶淮南。鄰近疆寇。欲為身計。易如反掌。但忠義之節。不可虧違。況荷先帝厚恩。豈可以獲罪。嗣主遽忘之邪。止可於此待死。冀千載之後。知吾此心耳。周主從容問譯曰。我脚杖痕。誰所為也。對曰。事由烏丸軌。宇文孝伯。因言軌。須事帝。使內史杜慶信。就州殺軌。元巖不肯署詔。御正中大夫顏之儀。切諫。帝不聽。巖進繼之。脫巾頓額。三拜三進。帝曰。汝欲黨烏丸軌邪。巖曰。臣非黨軌。正恐濫誅。失天下之望。帝怒。使閻豎搏其面。軌遂死。巖亦廢于家。遠近知與不知。皆為軌流涕。之儀之推之弟也。周主之為太子也。上柱國尉遲運。為宮正。數進諫。不用。又與王軌。宇文孝伯。宇文神舉。皆為高祖所親待。太子疑其同毀己。及軌死。運懼。私謂孝伯曰。吾徒。必不免禍。為之奈何。孝伯曰。今堂上有老母。地下有武帝。為臣為子。知欲何之。且委質事人。本狗名義。諫而不入。死焉可逃。足下若為身計。宜且遠之。於是運求出。為秦州總管。它日。帝託以齊王憲事。讓孝伯曰。公知齊王謀反。何以不言。對曰。臣知齊王忠於社稷。為羣小所譖。言必不用。所以不言。且先帝付囑。微臣唯令輔導陛下。今諫而不從。寔負願託。以此為罪。是所甘心。帝大慙。俛首不語。命將出。賜死于家。時宇文神舉。為并州刺史。帝遣使就州。酖殺之。尉遲運至秦州。亦以憂死。○周罷南伐諸軍。○突厥佗鉢可汗。請和於周。周主以趙王招女。為千金公主。妻之。且命執送高紹義。佗鉢不從。○辛巳。周宣帝傳位於太

子闡。大赦。改元大象。自稱天元皇帝。所居稱天臺。冕二十四旒。車服旂鼓。皆倍於前王之數。皇帝稱正陽宮。置納言。御正。諸衛等官。皆準天臺。尊皇太后為天元皇太后。天元既傳位。驕侈彌甚。務自尊大。無所顧憚。國之儀典。率情變更。每對臣下。自稱為天。用樽彝珪瓚。以飲食。令羣臣。朝天臺者。致齋三日。清身一日。既自比上帝。不欲羣臣同己。常自帶綬。冠通天冠。加金附蟬。顧見侍臣。弁上有金蟬。及王公有綬者。竝令去之。不聽。人有天高上大之稱。官名有犯。皆改之。改姓高者為姜。九族稱高祖者。為長祖。又令天下車。皆以渾木為輪。禁天下婦人。不得施粉黛。自非宮人。皆黃眉墨。每召侍臣論議。唯欲興造變革。未嘗言及政事。游戲無常。出入不節。羽儀仗衛。晨出夜還。陪侍之官。皆不堪命。自公卿以下。常被楚撻。每捶人。皆以百二十為度。謂之天杖。其後。又加至二百四十。宮人內職。亦如之。后妃嬪御。雖被寵幸。亦多杖背。於是內外恐怖。人不自安。皆求苟免。莫有固志。重足累息。以逮於終。○戊子。周以越王盛為太保。尉遲迥為大前疑。代王達為大右弼。辛卯。徙鄴城石經於洛陽。詔河陽。幽。相。豫。毫。青。徐。七總管。竝受東京六府處分。三月。庚申。天元還長安。大陳軍伍。親擐甲冑。入自青門。靜帝備法駕以從。夏四月。壬戌朔。立妃朱氏為天元皇后。后吳人。本出寒微。生靜帝。長於天元十餘歲。疎賤無寵。以靜帝故。特尊之。己巳。周主祠太廟。壬午。大醮於正武殿。五月。以襄國郡為趙國。濟南郡為陳國。武當安富二郡為越國。上黨郡為代國。新野郡為滕國。邑各萬戶。令趙王招。陳王純。越王盛。代王達。滕王迥。竝之國。隋公楊堅。私謂大將軍汝南公慶曰。天元實無積德。視其相貌。壽亦不長。又諸藩微弱。各令就國。曾無深根固本之計。羽翮既翦。何能及遠哉。慶神舉之弟也。○突厥寇周并州。六月。周發山東諸民。修長城。○秋七月。庚寅。周以楊堅為大前疑。柱國司馬消難為大後承。○辛卯。初用大貨六銖錢。○丙申。周納司馬消難女為正陽宮皇后。○己酉。周尊天元帝太后李氏為天皇太后。壬子。改天元皇后朱氏為天皇

后立妃元氏爲天右皇后。陳氏爲天左皇后。凡四后。云元氏開府儀同大將軍晟之女。陳氏大將軍山提之女也。八月庚申。天元如同州。○丁卯。上閱武於大壯觀。命都督任忠帥步騎十萬。陳於玄武湖。都督陳景帥樓艦五百出瓜步江。振旅而還。○壬申。周天元還長安。甲戌。以陳山提元晟竝爲上柱國。○戊寅。上還宮。豫章內史南康王方泰在郡秩滿。縱火延燒邑居。因行暴掠。驅錄富人徵求財賄。上閱武。方泰當從。啓稱母疾不行。而微服往民間。淫人妻。爲州所錄。又帥人仗抗拒。傷禁司。爲有司所奏。上大怒。下方泰獄。免官。削爵土。尋而復舊。○壬午。周以上柱國畢王賢爲太師。郇公韓業爲大左輔。九月乙卯。以鄆王貞爲大冢宰。以郟公孝寬爲行軍元帥。帥行軍總管杞公亮。郟公梁士彥。寇淮南。仍遣御正杜杲。禮部薛舒。來聘。○冬十月壬戌。周天元幸道會苑。大醮。以高祖配醮。初復佛像。及天尊像。天元與二像俱南面坐。大陳雜戲。令長安士民縱觀。○甲戌。以尙書僕射陸繕爲尙書左僕射。○十一月辛卯。大赦。○周韋孝寬分遣杞公亮自安陸攻黃城。梁士彥攻廣陵。甲午。士彥至肥口。○乙未。周天元如溫湯。○戊戌。周軍進圍壽陽。○周天元如同州。○詔開府儀同三司南兗州刺史淳于量爲上流水軍都督。中領軍樊毅都督北討諸軍事。左衛將軍任忠都督北討前軍事。前豐州刺史阜文奏帥步騎三千趣陽平郡。○壬寅。周天元還長安。○癸卯。任忠帥步騎七千趣秦郡。丙午。仁威將軍魯廣達帥衆入淮。是日樊毅將水軍二萬自東關入焦湖。武毅將軍蕭摩訶帥步騎趣歷陽。戊申。韋孝寬拔壽陽。杞公亮拔黃城。梁士彥拔廣陵。辛亥。又取霍州。癸丑。以揚州刺史始興王叔陵爲大都督。總水步衆軍。○丁巳。周鑄永通萬國錢。一當千。與五行大布竝行。○十二月戊午。周天元以災異屢見。舍仗衛。如天興宮。百官上表勸復寢膳。甲子。還宮。御正武殿。集百官及宮人。外命婦。大列妓樂。初作乞寒胡戲。○乙丑。南北齊晉三州及盱眙。山陽。陽平。馬頭。秦。歷陽。沛。北譙。南梁等九郡民。竝自拔還江南。周又取譙。北徐

州。自是江北之地盡沒于周。○周天元如洛陽。親御驛馬。日行三百里。四皇后及文武侍衛數百人。竝乘駟以從。仍令四后。方駕齊驅。或有先後。輒加譴責。人馬頓仆。相及於道。○癸酉。遣平北將軍沈恪。電威將軍裴子烈。鎮南徐州。開遠將軍徐道奴。鎮柵口。前信州刺史楊寶安。鎮白下。戊寅。以中領軍樊毅都督荆郢巴武四州水陸諸軍事。○己卯。周天元還長安。○貞毅將軍汝南周法尙與長沙王叔堅不相能。叔堅譖之於上。云其欲反。上執其兄定州刺史法僧發兵將擊法尙。法尙奔周。周天元以爲儀同大將軍。順州刺史。上遣將軍樊猛。濟江擊之。法尙遣部曲督韓朗詐降於猛。曰。法尙部兵不願降北。人皆竊議欲叛還。若得軍來。自當倒戈。猛以爲然。引兵急趨之。法尙陽爲畏懼。自保江曲。戰而僞走。伏兵邀之。猛僅以身免。沒者幾八千人。

資治通鑑卷第一百七十三

資治通鑑卷第一百七十四

陳紀八

高宗宣皇帝下之上

太建十二年春正月癸巳周天元祠太廟○戊戌以左衛將軍任忠為南豫州刺史督緣江軍防事○乙卯周稅入市者入一錢○二月丁巳周天元幸露門學釋奠○戊午突厥入貢于周且迎千金公主○乙丑周天元改制為天制敕為天敕壬午尊天元皇太后為天元上皇太后天皇太后為天元聖皇太后癸未詔楊后與三后皆稱太皇后司馬后直稱皇后行軍總管杞公亮天元之從祖兄也其子西陽公溫妻尉遲氏蜀公迴之孫有美色以宗婦入朝天元飲之酒逼而淫之亮聞之懼三月軍還至豫州密謀襲韋孝寬并其衆推諸父為主鼓行而西亮國官茹寬知其謀先告孝寬孝寬潛設備亮夜將數百騎襲孝寬營不克而走戊子孝寬追斬之溫亦坐誅天元即召其妻入宮拜長貴妃辛卯立亮弟永昌公椿為杞公○周天元如同州增候正前驅式道候為三百六十重自應門至於赤岸澤數十里間幡旗相蔽音樂俱作又令虎賁持鉞馬上稱警蹕乙未改同州宮為成天宮庚子還長安詔天臺侍衛之官皆著五色及紅紫綠衣以雜色為緣名曰品色衣有大事與公服間服之壬寅詔內外命婦皆執笏其拜宗廟及天臺皆俯伏如男子天元將立五皇后以問小宗伯狄道辛彥之對曰皇后與天子敵體不宜有五太學博士西城何妥曰昔帝嘗四妃虞舜二妃先代之數何常之有帝大悅免彥之官甲辰詔曰坤儀比德土數惟五四太皇后外可增置天中

太皇后一人於是以陳氏為天中太皇后尉遲妃為天左太皇后又造下帳五使五皇后各居其一實宗廟祭器於前自讀祝版而祭之又以五輅載婦人自帥左右步從又好倒懸雞及碎瓦於車上觀其號呼以為樂○夏四月癸亥尚書左僕射陸繕卒○己巳周天元祀太廟己卯大雩壬午幸仲山祈雨甲申還宮令京城士女於衢巷作樂迎候○五月癸巳以尚書右僕射晉安王伯恭為僕射○周楊后性柔婉不妬忌四皇后及嬪御等咸愛而仰之天元昏暴滋甚喜怒乖度嘗譴后欲加之罪后進止詳閑辭色不撓天元大怒遂賜后死逼令引訣后母獨孤氏詣閣陳謝叩頭流血然後得免后父大前疑堅位望隆重天元忌之嘗因忿謂后曰必族滅爾家因召堅謂左右曰色動即殺之堅至神色自若乃止內史上大夫鄭譯與堅少同學奇堅相表傾心相結堅既為帝所忌情不自安嘗在永巷私於譯曰久願出藩公所悉也願少留意譯曰以公德望天下歸心欲求多福豈敢忘也謹即言之天元將遣譯入寇譯請元帥天元曰卿意如何對曰若定江東自非懿戚重臣無以鎮撫可令隋公行且為壽陽總管以督軍事天元從之己丑以堅為揚州總管使譯發兵會壽陽將行會堅暴有足疾不果行甲午夜天元備法駕幸天興宮乙未不豫而還卜御正博陵劉昉素以狡諂得幸於天元與御正中大夫顏之儀並見親信天元召昉之儀入臥內欲屬以後事天元瘖不復能言昉見靜帝幼冲以楊堅后父有重名遂與領內史鄭譯御節大夫柳裘內史大夫杜陵韋暮御正下士朝那皇甫績謀引堅輔政堅固辭不敢當昉曰公若為速為之不為昉自為也堅乃從之稱受詔居中侍疾裘之孫也是日帝殂祕不發喪昉譯矯詔以堅總知中外兵馬事顏之儀知非帝指拒而不從昉等草詔署訖逼之儀連署之儀厲聲曰主上升遐嗣子冲幼阿衡之任宜在宗英方今趙王最長以親以德合膺重寄公等備受朝恩當思盡忠報國奈何一旦欲以神器假人之儀有死而已不能誣罔先帝昉等知不可屈乃代之

儀署而行之。諸衛既受敕，竝受堅節度。堅恐諸王在外生變，以千金公主將適突厥爲辭，徵趙陳越代滕五王入朝。堅索符璽，顏之儀正色曰：「此天子之物，自有主者，宰相何故索之？」堅大怒，命引出將殺之。以其民望，出爲西邊郡守。丁未，發喪，靜帝入居天臺，罷正陽宮。大赦，停洛陽宮作。庚戌，尊阿史那太后爲太皇太后，李太后爲太帝太后，楊后爲皇太后，朱后爲帝太后。其陳后、元后、尉遲后、竝爲尼。以漢王贊爲上柱國，右大丞相，尊以虛名，實無所綜理。以楊堅爲假黃鉞，左大丞相，秦王贇爲上柱國，百官總己，以聽於左丞相。堅初受顧命，使邗國公楊惠謂御正下大夫李德林曰：「朝廷賜令，總文武事，經國任重，今欲與公共事，必不得辭。」德林曰：「願以死奉公。」堅大喜，始劉昉、鄭譯議，以堅爲大冢宰，譯自攝大司馬。昉又求小冢宰，堅私問德林曰：「欲何以見處？」德林曰：「宜作大丞相，假黃鉞，都督中外諸軍事，不爾，無以壓衆心。」及發喪，即依此行之。以正陽宮爲丞相府，時衆情未壹，堅引司武上士盧賁，置左右，將之東宮。百官皆不知所從。堅潛令賁部伍仗衛，因召公卿謂曰：「欲求富貴者，宜相隨，往往偶語，欲有去就，賁嚴兵而至，衆莫敢動。」出崇陽門，至東宮，門者拒不納。賁諭之，不去。瞋目叱之，門者遂却。堅入，賁遂典丞相府宿衛。賁辯之弟子也，以鄭譯爲丞相府長史，劉昉爲司馬，李德林爲府屬。二人由是怨德林。內史下大夫勃海高穎，明敏有器局，習兵事，多計略。堅欲引之入府，遣楊惠諭意，穎受旨欣然曰：「願受驅馳。」縱令公事不成，穎亦不辭滅族，乃以爲相府司錄。時漢王贇居禁中，每與靜帝同帳而坐。劉昉飾美妓進贊，贊甚悅之。昉因說贊曰：「大王先帝之弟，時望所歸，孺子幼冲，豈堪大事。今先帝初崩，人情尙擾，王且歸第，待事寧後，入爲天子。此萬全之計也。」贇年少，性識庸下，以爲信然，遂從之。堅革宣帝苛酷之政，更爲寬大，刪略舊律，作刑書要制，奏而行之。躬履節儉，中外悅之。堅夜召太史中大夫庾季才，問曰：「吾以庸虛受茲顧命，天時人事，卿以爲何如？」季才曰：「天道精微，難可意察，竊以人事卜之，符兆已定。」

季才縱言不可，公豈復得爲箕穎之事乎？堅默然久之曰：「誠如君言，獨孤夫人亦謂堅曰：『大事已然，騎虎之勢，必不得下。』勉之。」堅以相州總管尉遲迴位望素重，恐有異圖，使迴子魏安公惇奉詔書召之。會葬壬子，以上柱國韋孝寬爲相州總管，又以小司徒叱列長叉爲相州刺史，先令赴鄴。孝寬續進，陳王純時鎮齊州，堅使門正上士崔彭徵之。彭以兩騎往，止傳舍，遣人召純。純至，彭請屏左右，密有所道，遂執而鎖之。因大言曰：「陳王有罪，詔徵入朝，左右不得輒動。其從者愕然而去。彭，楷之孫也。六月，五王皆至長安。○庚申，周復行佛道二教，舊沙門道士精志者，簡令入道。○周尉遲迴知丞相堅將不利於帝室，謀舉兵討之。韋孝寬至朝歌，迴遣其大都督賀蘭貴齎書候韋孝寬，孝寬留貴與語，以審之。疑其有變，遂稱疾徐行。又使人至相州，求醫藥，密以伺之。孝寬兄子藝爲魏郡守，迴遣藝迎孝寬，孝寬問迴所爲，藝黨於迴，不以實對。孝寬怒，將斬之。藝懼，悉以迴謀語。孝寬攜藝西走，每至亭驛，盡驅其傳馬而去。謂驛司曰：「蜀公將至，宜速具酒食。」迴尋遣儀同大將軍梁子康將數百騎追孝寬，追者至驛，輒逢盛饌，又無馬，遂遲留不進。孝寬與藝由是得免。堅又令候正破六韓哀詣迴諭旨，密與總管府長史晉昶等書，令爲之備。迴聞之，殺昶及哀，集文武士民，登城北樓，令之曰：「楊堅藉后父之勢，挾幼主以作威福，不臣之迹，暴於行路，吾與國舅甥，任兼將相，先帝處吾於此，本欲寄以安危，今欲與卿等糾合義勇，以匡國庇民，何如？」衆咸從命。迴乃自稱大總管，承制置官司。時趙王招入朝，留少子在國。迴奉以號令。甲子，堅發關中兵，以韋孝寬爲行軍元帥，郟公梁士彥、樂安公元諧、化政公宇文忻、濮陽公武川宇文述、武鄉公崔弘度、清河公楊素、隴西公李詢等皆爲行軍總管，以討迴。弘度、楷之孫詢、穆之兄子也。初，宣帝使計部中大夫楊尙希撫慰山東，至相州，聞宣帝殂，與尉遲迴發喪，尙希出，謂左右曰：「蜀公哭不哀，而視不安，將有他計，吾不去，懼及於難。」遂夜從捷徑而遁。遲明，迴覺追之不及，遂歸長安。堅遣

尙希督宗兵三千人鎮潼關。雍州牧畢刺史王賢與五王謀殺堅，事洩，堅殺賢，并其三子，掩五王之謀不問。以秦王贇爲大冢宰，杞公椿爲大司徒，庚辰，以柱國梁睿爲益州總管，睿禦之子也。○周遣汝南公神慶、司衛上士長孫晟、送千金公主突厥，晟幼，曾孫也。又遣建威侯賀若誼、賂佗鉢可汗，且說之，以求高紹義。佗鉢僞與紹義獵於南境，使誼執之，誼敦之弟也。秋七月甲申，紹義至長安，徙之蜀，久之，病死於蜀。○周青州總管尉遲勤，迴之弟子也。初得迴書，表送之，尋亦從迴。迴所統相衛黎、洛貝、趙冀、瀛滄，勤所統青齊、膠光、莒等州，皆從之。衆數十萬，榮州刺史邵公冑、申州刺史李惠、東楚州刺史費也利進、潼州刺史曹孝遠，各據本州。徐州總管司錄席毗羅據兗州，前東平郡守畢義緒據蘭陵，皆應迴。懷縣永橋鎮將紇豆陵惠以城降迴，迴使其所署大將軍石遜攻建州，建州刺史宇文弁以州降之。又遣西道行臺韓長業攻拔潞州，執刺史趙威，署城人郭子勝爲刺史。紇豆陵惠襲陷鉅鹿，遂圍恆州。上大將軍宇文威攻汴州，莒州刺史烏丸尼等帥青齊之衆圍沂州，大將軍檀讓攻拔曹亳二州，屯兵梁郡，席毗羅衆號八萬，軍於蕃城，攻陷昌慮下邑。李惠自申州攻永州，拔之。迴遣使招大左輔并州刺史李穆，穆鎖其使，封上其書，穆子士榮以穆所居天下精兵處，陰勸穆從迴。穆深拒之，堅使內史大夫柳裘詣穆，爲陳利害，又使穆子左侍上士渾往布腹心。穆使渾奉尉斗於堅，曰：願執威柄，以尉安天下。又以十三鑲金帶遺堅，十三鑲金帶者，天子之服也。堅大悅，遣渾詣韋孝寬，述穆意。穆兄子崇爲懷州刺史，初欲應迴，後知穆附堅，慨然太息曰：閭家富貴者數十人，值國有難，竟不能扶傾繼絕，復何面目處天地間乎？不得已，亦附於堅。迴子誼爲朔州刺史，穆執送長安，又遣兵討郭子勝擒之。迴招徐州總管源雄，東郡守于仲文，皆不從。雄賀之曾孫仲文，謹之孫也。迴遣宇文冑自石濟、宇文威自白馬、濟河二道攻仲文。仲文棄郡走還長安，迴殺其妻子。迴遣檀讓徇地河南，丞相堅以仲文爲河南道行軍總

管，使詣洛陽發兵討讓，命楊素討宇文冑。丁未，周以丞相堅都督中外諸軍事，鄖州總管司馬消難亦舉兵應迴。己酉，周以柱國王誼爲行軍元帥，以討消難。廣州刺史于顛、仲文之兄也，與總管趙文表不協，詐得心疾，誘文表手殺之。因唱言文表與尉遲迴通謀，堅以迴未平，因勞勉之，即拜吳州總管。趙偕王招謀殺堅，邀堅過其第，齎酒殺就之。招引入寢室，招子員貫及兄弟魯封等皆在左右，佩刀而立。又藏刃於帷席之間，伏壯士於室後，堅左右皆不得從。唯從祖弟開府大將軍弘，大將軍元冑，坐于戶側。冑順之孫也，弘冑皆有勇力，爲堅腹心。酒酣，招以佩刀刺瓜，連啗堅，欲因而刺之。元冑進曰：相府有事，不可久留，招訶之曰：我與丞相言，汝何爲者？叱之使却。冑瞋目憤氣，扣刀入衛，招賜之酒曰：吾豈有不善之意邪？卿何猜警如是？招僞吐，將入後閣，冑恐其爲變，扶令上坐。如此再三，招僞稱喉乾，命冑就厨取飲。冑不動，會滕王迥後至，堅降階迎之。冑耳語曰：事勢大異，可速去。堅曰：彼無兵馬，何能爲？冑曰：兵馬皆彼物，彼若先發，大事去矣。冑不辭死，恐死無益，堅復入坐。冑聞室後有被甲聲，遽請曰：相府事殷，公何得如此？因扶堅下牀趨去。招將追之，冑以身蔽戶，招不得出。堅及門，冑自後至，招恨不時發，彈指出血。壬子，堅誣招與越野王盛謀反，皆殺之。及其諸子，賞賜元冑不可勝計。周室諸王數欲伺隙殺堅，堅都督臨涇李圓通常保護之，由是得免。○癸丑，周主封其弟衍爲葉王，術爲郢王。○周豫荆襄三州蠻反，攻破郡縣。○周韋孝寬軍至永橋城，諸將請先攻之。孝寬曰：城小而固，若攻而不拔，損我兵威。今破其大軍，此何能爲？於是引軍壁於武陟。尉遲迴遣其子魏安公惇帥衆十萬入武德，軍於沁東，會沁水漲，孝寬與迴隔水相持不進。孝寬長史李詢密啓丞相堅云：梁士彥、宇文忻、崔弘度竝受尉遲迴餽金，軍中慳慙，人情大異。堅深以爲憂，與內史上大夫鄭譯謀代此三人者。李德林曰：公與諸將皆國家貴臣，未相服從，今正以挾令之威，控御之耳。前所遣者，疑其乖異，後所遣者，又安知能盡其腹

心邪。又取金之事。虛實難明。今一旦代之。或懼罪逃逸。若加縻繫。則自郟公以下。莫不驚疑。且臨敵易將。此燕趙之所以敗也。如愚所見。但遣公一腹心。明於智略。素爲諸將所信服者。速至軍所。使觀其情偽。縱有異意。必不敢動。動亦能制之矣。堅大悟曰。公不發此言。幾敗大事。乃命少內史崔仲方。往監諸軍。爲之節度。仲方獻之子也。辭以父在。山東又命劉昉。鄭譯。昉辭以未嘗爲將。譯辭以母老。堅不悅。府司錄高頴。請行。堅喜遣之。頴受命亟發。遣人辭母而已。自是。堅措置軍事。皆與李德林謀之。時軍書日以百數。德林口授數人。文意百端。不加治點。司馬消難。以郟隨溫。應土順。沔岳九州。及魯山等八鎮來降。遣其子爲質。以求援。八月。己未。詔以消難爲大都督。總督九州八鎮諸軍事。司空。賜爵隨公。庚申。詔鎮西將軍樊毅。進督沔漢諸軍事。南豫州刺史任忠。帥衆趣歷陽。超武將軍陳慧紀。爲前軍都督。趣南兗州。○周益州總管王謙。亦不附。丞相堅起巴蜀之兵。以攻始州。梁睿至漢川。不得進。堅即以睿爲行軍元帥。以討謙。○戊辰。詔以司馬消難爲大都督。水陸諸軍事。庚午。通直散騎常侍淳于陵。克臨江郡。○梁世宗使中書舍人柳莊。奉書入周。丞相堅執莊手曰。孤昔開府。從役江陵。深蒙梁主殊眷。今主幼時艱。猥蒙顧託。梁主奕葉。委誠朝廷。當相與共保歲寒。時諸將競勸梁主舉兵。與尉遲迥連謀。以爲進可以盡節。周氏退可以席卷山南。梁主疑未決。會莊至。具道堅語。且曰。昔袁紹。劉表。王陵。諸葛誕。皆一時雄傑。據要地。擁彊兵。然功業莫就。禍不旋踵者。良由魏晉挾天子。保京都。仗大順以爲名。故也。今尉遲迥。雖曰舊將。昏耄已甚。司馬消難。王謙。常人之下者。非有匡合之才。周朝將相。多爲身計。競效節於楊氏。以臣料之。迥等終當覆滅。隋公必移周祚。未若保境息民。以觀其變。梁主深然之。衆議遂止。高頴至軍。爲橋於沁水。尉遲惇於上流縱火。楸頴豫爲土狗。以禦之。惇布陳二十餘里。麾兵少却。欲待孝寬軍半度而擊之。孝寬因其却。鳴鼓齊進。軍旣度。頴命焚橋。以絕士卒反顧之心。惇兵大敗。單騎

走。孝寬乘勝進追至鄴。庚午。迥與惇及惇弟西都公祐。悉將其卒十三萬。陳於城南。迥別統萬人。皆綠巾錦襖。號黃龍兵。迥弟勤帥衆五萬。自青州赴迥。以三千騎先至。迥素習軍旅。老猶被甲臨陳。其麾下皆關中人。爲之力戰。孝寬等軍不利而却。鄴中士民觀戰者數萬人。行軍總管宇文忻曰。事急矣。吾當以詭道破之。乃先射觀者。觀者皆走。轉相騰藉。聲如雷霆。忻乃傳呼曰。賊敗矣。衆復振。因其擾而乘之。迥軍大敗。走保鄴城。孝寬縱兵圍之。李詢及思安伯代人賀婁子幹。先登。崔弘度妹。先適迥子爲妻。及鄴城破。迥窘迫。升樓。弘度直上龍尾。追之。迥彎弓將射弘度。弘度脫兜鍪。謂迥曰。頗相識不。今日各圖國事。不得顧私。以親戚之情。謹遏亂兵。不許侵辱。事勢如此。早爲身計。何所待也。迥擲弓於地。罵左丞相極口。而自殺。弘度顧其弟弘升曰。汝可取迥頭。弘升斬之。軍士在小城中者。孝寬盡阬之。勤。惇。祐。東走青州。未至。開府儀同大將軍郭衍。追獲之。丞相堅以勤初有誠款。特不之罪。李惠先自縛歸罪。堅復其官爵。迥末年衰耄。及起兵。以小御正。崔達。挈爲長史。達挈暹之子也。文士無籌略。舉措多失。凡六十八日而敗。于仲文軍至。蓼隄。去梁郡七里。檀讓擁衆數萬。仲文以羸師挑戰。棄僞北。讓不設備。仲文還擊。大破之。生獲五千餘人。斬首七百級。進攻梁郡。迥守將劉子寬。棄城走。仲文進擊曹州。獲迥所署刺史李仲康。檀讓以餘衆屯成武。仲文襲擊破之。遂拔成武。迴將席毗羅。衆十萬。屯沛縣。將攻徐州。其妻子在金鄉。仲文遣人詐爲毗羅使者。謂金鄉城主徐善淨曰。檀讓明日午時至金鄉。宣蜀公令。賞賜將士。金鄉人皆喜。仲文簡精兵。僞建迴旗幟。倍道而進。善淨望見。以爲檀讓。出迎謁。仲文執之。遂取金鄉。諸將多勸屠其城。仲文曰。此城乃毗羅起兵之所。當寬其妻子。其兵自歸。如卽屠之。彼望絕矣。衆皆稱善。於是毗羅恃衆。來薄官軍。仲文設伏擊之。毗羅衆大潰。爭投洙水。水爲之不流。獲檀讓。檻送京師。斬毗羅。傳首。韋孝寬分兵討關東叛者。悉平之。堅徙相州於安陽。毀鄴城及邑居。分相州置毛州。

魏州。梁主聞迴敗，謂柳莊曰：「若從衆人之言，社稷已不守矣。丞相堅之初得政也，待黃公劉昉、沛公鄭譯甚厚，賞賜不可勝計，委以心膂，朝野傾屬，稱爲黃沛二人。皆恃功驕恣，溺於財利，不親職務，及辭監軍，堅始疎之。恩禮漸薄，高穎自軍所還，寵遇日隆。時王謙司馬消難未平，堅憂之，忘寢與食，而昉逸遊縱酒，相府事多遺落，堅乃以高穎代昉，爲司馬，不忍廢譯，陰勅官屬不得白事於譯，譯猶坐聽事，無所關預，惶恐頓首求解職，堅猶以恩禮慰勉之。○癸酉，智武將軍魯廣達克周之郭默城。丙子，淳于陵克祐州城。○周以漢王贊爲太師，申公李穆爲太傅，宋王實爲大前疑，秦王贊爲大右弼，燕公子寔爲大左輔，寔仲文之父也。○己卯，周大赦。○周王誼帥四總管至鄆州，司馬消難擁其衆以魯山、甌山二鎮來奔，初消難遣上開府儀同大將軍段珣將兵圍順州，順州刺史周法尚不能拒，棄城走，消難虜其母弟而南，樊毅救消難不及，周亳州總管元景山擊之，毅掠居民而去，景山與南徐州刺史宇文弼追之，與毅戰於漳口，一日三戰三捷，毅退保甌山鎮，城邑爲消難所據者，景山皆復取之。鄆州巴蠻多叛，共推渠帥蘭維州爲主，以附消難，王誼遣諸將分討之，旬月皆平。陳紀蕭摩訶攻廣陵，周吳州總管于顛擊破之，沙州氏帥楊永安聚衆應王謙，大將軍樂寧公達奚儒討之，楊素破宇文胄於石濟，斬之。○周以神武公竇毅爲大司馬，齊公于智爲大司空，九月，以李宗伯竟陵公楊惠爲大宗伯。○丁亥，周將王延貴帥衆援歷陽，任忠擊破之，生擒延貴。○壬辰，周廢皇后司馬氏爲庶人，庚戌，以隨世子勇爲洛州總管，東京小冢宰，總統舊齊之地，壬子，以左丞相堅爲大丞相，罷左右丞相之官。○冬十月甲寅，日有食之。○周丞相堅殺陳惑王純及其子。○周梁睿將步騎二十萬討王謙，謙分命諸將據險拒守，睿奮擊屢破之，蜀人大駭，謙遣其將達奚恚、高阿那肱、乙弗虔等帥衆十萬攻利州，堰江水以灌之，城中戰士不過二千，總管昌黎豆盧勣晝夜拒守，凡四旬，時出奇兵擊恚等破之，會梁睿至，恚等遁去，睿

自劍閣入，進逼成都，謙令達奚恚、乙弗虔、城守親帥精兵五萬背城結陳，睿擊之，謙戰敗，將入城，恚虔以城降，謙將麾下三十騎走新都，新都令王寶執之，戊寅，睿斬謙及高阿那肱，劍南平。○十一月甲辰，周達奚儒破楊永安，沙州平。○丁未，周郎襄公韋孝寬卒，孝寬久在邊境，屢抗疆敵，所經略布置，人初莫之解，見其成事，方乃驚服，雖在軍中，篤意文史，敦睦宗族，所得俸祿不入私室，人以此稱之。○十二月庚辰，河東康簡王叔獻卒。○癸亥，周詔諸改姓者宜悉復舊。○甲子，周以大丞相堅爲相國，總百揆，去都督中外大冢宰之號，進爵爲王，以安陸等二十郡爲隋國，贊拜不名，備九錫之禮，堅受王爵十郡而已，辛未，殺代曩王達，滕聞王迨及其子壬申，以小冢宰元孝規爲大司徒。○是歲，周境內有州二百一十一，郡五百八

資治通鑑卷第一百七十四

陳紀 高宗宣皇帝下之上太建十二年

資治通鑑卷第一百七十五

陳紀九

高宗宣皇帝下之下

太建十三年春正月壬午以晉安王伯恭爲尚書左僕射吏部尚書袁憲爲右僕射憲樞之弟也○周改元大定○二月甲寅隋王始受相國百揆九錫建臺置官丙辰詔進王妃獨孤氏爲王后世子勇爲太子開府儀同大將軍庾季才勸隋王宜以今月甲子應天命太傅李穆開府儀同大將軍盧賁亦勸之於是周主下詔遜居別宮甲子命兼太傅杞公椿奉冊大宗伯趙煚奉皇帝璽紱禪位于隋隋主冠遠遊冠受冊璽改服紗帽黃袍入御臨光殿服衰冕如元會之儀大赦改元開皇命有司奉冊祀于南郊遣少冢宰元孝矩代太子勇鎮洛陽孝矩名矩以字行天賜之孫也女爲太子妃少內史崔仲方勸隋主除周六官依漢魏之舊從之置三師三公及尚書門下內史祕書內侍五省御史都水二臺太常等十一寺左右衛等十二府以分司統職又置上柱國至都督十一等勳官以酬勤勞特進至朝散大夫七等散官以加文武官之有德聲者改侍中爲納言以相國司馬高穎爲尚書左僕射兼納言相國司錄京兆虞慶則爲內史監兼吏部尚書相國內郎李德林爲內史令乙丑追尊皇考爲武元皇帝廟號太祖皇妣呂氏爲元明皇后丙寅修廟社立王后獨孤爲皇后王太子勇爲皇太子丁卯以太尉趙煚爲尚書右僕射己巳封周靜帝爲介公周氏諸王皆降爵爲公初劉鄭矯詔以隋主輔政楊后雖不預謀然以嗣子幼冲恐權在它族聞之甚喜後知其父

有異圖意頗不平形於言色及禪位憤惋逾甚隋主內甚愧之改封樂平公主久之欲奪其志公主誓不許乃止隋主與周載下大夫北平榮建緒有舊隋主將受禪建緒爲息州刺史將之官隋主謂曰且躊躇當共取富貴建緒正色曰明公此旨非僕所聞及即位來朝帝謂之曰卿亦悔不建緒稽首曰臣位非徐廣情類楊彪帝笑曰朕雖不曉書語亦知卿此言不遜上柱國竇毅之女聞隋受禪自投堂下撫膺太息曰恨我不爲男子救舅氏之患毅及襄陽公主掩其口曰汝勿妄言滅吾族毅由是奇之及長以適唐公李淵淵嗣之子也虞慶則勸隋主盡滅宇文氏高穎楊惠亦依違從之李德林固爭以爲不可隋主作色曰君書生不足與議此於是周太祖孫譙公乾暉冀公絢閔帝子紀公湜明帝子鄴公貞宋公實高祖子漢公贊秦公贊曹公允道公充蔡公兌荆公元宣帝子萊公衍郢公術皆死德林由此品位不進○乙亥上耕藉田○隋主封其弟邵公慧爲滕王安公爽爲衛王子鴈門公廣爲晉王俊爲秦王秀爲越王諒爲漢王○隋主賜李穆詔曰公既舊德且又父黨敬惠來旨義無有違卽以今月十三日恭膺天命俄而穆入朝帝以穆爲太師贊拜不名子孫雖在襁褓悉拜儀同一門執象笏者百餘人貴盛無比又以上柱國竇熾爲太傅幽州總管于翼爲太尉李穆上表乞骸骨詔曰呂尚以期頤佐周張蒼以華皓相漢高才命世不拘常禮仍以穆年者救獨朝集有大事就第詢訪美陽公蘇威綽之子也少有令名周晉公護強以女妻之威見護專權恐禍及己屏居山寺以諷讀爲娛周高祖聞其賢除車騎大將軍儀同三司又除稍伯下大夫皆辭疾不拜宣帝就除開府儀同大將軍隋主爲丞相高穎薦之隋主召見與語大悅居月餘聞將受禪遁歸田里穎請追之隋主曰此不欲預吾事耳置之及受禪徵拜太子少保追封其父爲邳公以威襲爵○丁丑隋以晉王廣爲并州總管三月戊子以上開府儀同三司賀若弼爲吳州總管鎮廣陵和州刺史河南韓擒虎爲廬州總管鎮廬江隋主有

并吞江南之志。問將帥於高穎。穎薦弼與擒虎。故置於南邊。使潛為經略。戊戌。以太子少保蘇威兼納言。度支尚書。初蘇綽在西魏。以國用不足。制征稅法。頗重。既而歎曰。今所為者。譬如張弓。非平世法也。後之君子。誰能弛之。威聞其言。每以為己任。至是。奏減賦役。務從輕簡。隋主悉從之。漸見親重。與高穎參掌朝政。帝嘗怒一人。將殺之。威入閣進諫。帝不納。將自出斬之。威當帝前不去。帝避之而出。威又遮止。帝拂衣而入。良久乃召威。謝曰。公能若是。吾無憂矣。賜馬二匹。錢十餘萬。尋復兼大理卿。京兆尹。御史大夫。本官悉如故。治書侍御史安定梁毗。以威兼領五職。安繁戀劇。無舉賢自代之心。抗表劾威。帝曰。蘇威朝夕孜孜。志存遠大。何遽迫之。因謂朝臣曰。蘇威不值我。無以措其言。我不得蘇威。何以行其道。楊素才辯無雙。至於斟酌古今。助我宣化。非威之匹也。威若逢亂世。南山四皓。豈易屈哉。威嘗言於帝曰。臣先入每戒臣云。唯讀孝經一卷。足以立身治國。何用多為。帝深然之。高穎深避權勢。上表遜位。讓於蘇威。帝欲成其美。聽解僕射。數日。帝曰。蘇威高蹈前朝。穎能推舉。吾聞進賢受上賞。寧可使之去官。命穎復位。穎威同心協贊。政刑大小。帝無不與之謀議。然後行之。故革命數年。天下稱平。太子左庶子盧賁。以穎威執政。心甚不平。時柱國劉昉亦被疎忌。賁因諷昉。及上柱國元諧。李詢。華州刺史張寶等。謀黜穎威。五人相與輔政。又以晉王廣有寵於帝。私謂太子曰。賁欲數謁殿下。恐為上所譴。願察區區之心。謀洩。帝窮治其事。昉等委擧於寶。賁公卿奏。二人當死。帝以故舊不忍。誅。竝除名為民。○庚子。隋詔前代品爵皆依舊不降。○丁未。梁主遣其弟太宰巖。入賀于隋。○夏四月辛巳。隋大赦。戊戌。悉放太常散樂為民。仍禁雜戲。○散騎常侍韋鼎。兼通直散騎常侍。王瑳聘于周。辛丑。至長安。隋已受禪。隋主致之介國。○隋主召汾州刺史韋沖。為兼散騎常侍。時發稽胡築長城。汾州胡千餘人。在塗亡叛。帝召沖問計。對曰。夷狄之性。易為反覆。皆由牧宰不稱之所致。臣請以理綏靜。可不勞兵而定。帝然

之。命沖綏懷叛者。月餘皆至。竝赴長城之役。沖。復之子也。○五月戊午。隋封邗公雄為廣平王。永康公弘為河間王。雄。高祖之族子也。○隋主潛害周靜帝。而為之舉哀。葬于恭陵。以其族人洛為嗣。○六月癸未。隋詔郊廟冕服。必依禮經。其朝會之服。旗幟犧牲。皆尚赤。戎服以黃。常服用雜色。秋七月乙卯。隋主始服黃。百僚畢賀。於是百官常服。同於庶人。皆著黃袍。隋主朝服亦如之。唯以十三纓帶為異。○八月壬午。隋廢東京宮。○吐谷渾寇涼州。隋主遣行軍元帥樂安公元諧等。步騎數萬擊之。諧擊破吐谷渾於豐利山。又敗其太子可博汗於青海。俘斬萬計。吐谷渾震駭。其王侯三十人。各帥所部來降。吐谷渾可汗夸呂帥親兵遠遁。隋主以其高寧王移茲哀為河南王。使統降眾。以元諧為寧州刺史。留行軍總管賀婁子幹鎮涼州。○九月庚午。將軍周羅暉。攻隋故墅。拔之。蕭摩訶攻江北。○隋奉車都尉于宣敏。奉使巴蜀還。奏稱蜀土沃饒。人物殷阜。周德之衰。遂成戎首。宜樹建藩屏。封殖子孫。隋主善之。辛未。以越王秀為益州總管。改封蜀王。宣敏謹之孫也。○隋以上柱國長孫覽。元景山。竝為行軍元帥。發兵入寇。命尚書左僕射高穎節度諸軍。○初周齊所鑄錢。凡四等。及民間私錢。名品甚眾。輕重不等。隋主患之。更鑄五銖錢。背面肉好。皆有周郭。每一千重四斤二兩。悉禁古錢及私錢。置樣於關。不如樣者。沒官銷毀之。自是錢幣始壹。民間便之。○隋鄭譯以上柱國歸第。賞賜豐厚。譯自以被疎。呼道士章醮祈福。為婢所告。以為巫蠱。譯又與母別居。為憲司所劾。由是除名。隋主下詔曰。譯若留之於世。在人為不道之臣。戮之於朝。入地為不孝之鬼。有累幽顯。無所置之。宜賜以孝經。令其熟讀。仍遣與母共居。○初周法比於齊律。煩而不要。隋主命高穎。鄭譯。及上柱國楊素。率更令裴政等。更加修定。政。練習典故。達於從政。乃采魏晉舊律。下至齊梁。沿革重輕。取其折衷。時同修者十餘人。凡有疑滯。皆取決於政。於是去前世梟獍及鞭法。自非謀叛以上。無收族之罪。始制死刑二絞。斬。流刑三。自二千里至三千

里。徒刑五。自一年至三年。杖刑五。自六十至百。笞刑五。自十至五十。又制議請減贖官當之科。以優士大夫。除前世訊囚酷法。考掠不得過二百。枷杖大小。咸有程式。民有枉屈。縣不為理者。聽以次經郡及州。若仍不為理。聽詣闕伸訴。冬十月。戊子。始行新律。詔曰。夫絞以致斃。斬則殊形。除惡之體。於斯已極。梟首輓身。義無所取。不益懲肅之理。徒表安忍之懷。鞭之為用。殘剝膚體。徹骨侵肌。酷均轡切。雖云往古之式。事乖仁者之刑。梟輓及鞭。竝令去之。貴帶礪之書。不當徒罰。廣軒冕之蔭。旁及諸親。流役六年。改為五載。刑徒五歲。變從三祀。其餘以輕代重。化死為生。條目甚多。備於簡策。雜格嚴科。竝宜除削。自是。法制遂定。後世多遵用之。隋主嘗怒一郎。於殿前笞之。諫議大夫劉行本進曰。此人素清。其過又小。願少寬之。帝不顧。行本於是正當。帝前曰。陛下不以臣不肖。置臣左右。臣言若是。陛下安得不聽。若非。當致之於理。因置笏於地而退。帝斂容謝之。遂原所笞者。行本。璠之兄子也。獨孤皇后家世貴盛。而能謙恭。雅好讀書。言事多與隋主意合。帝甚寵憚之。宮中稱為二聖。帝每臨朝。后輒與帝方輦而進。至閣乃止。使宦官伺帝政有所失。隨即匡諫。候帝退朝。同反燕寢。有司奏稱。周禮。百官之妻。命於王后。請依古制。后曰。婦人與政。或從此為漸。不可開其源也。大都督崔長仁。后之中外兄弟也。犯法當斬。帝以后故。欲免其辜。后曰。國家之事。焉可顧私。長仁竟坐死。后性儉約。帝嘗合止利藥。須胡粉一兩。宮內不用。求之竟不得。又欲賜柱國劉嵩妻織成衣。領宮內亦無之。然帝懲周氏之失。不以權任。假借外戚。后兄弟不過將軍刺史。帝外家呂氏。濟南人。素微賤。齊亡以來。帝求訪不知所在。及即位。始求得舅子呂永吉。追贈外祖雙周為太尉。封齊郡公。以永吉襲爵。永吉從父道貴。性尤頑駘。言詞鄙陋。帝厚加供給。而不許接對朝士。拜上儀同三司。出為濟南太守。後郡廢。終于家。○壬辰。隋主如岐州。岐州刺史安定梁彥光。有惠政。隋主下詔褒美。賜束帛及御傘。以厲天下之吏。久之。徙相州刺史。岐俗質厚。彥光以

靜鎮之。奏課連為天下最。及居相部。如岐州法。鄴自齊亡。衣冠士人多遷入關。唯工商樂戶。移實州郭。風俗險詖。好興謠詛。目彥光為著帽錫。帝聞之。免彥光官。歲餘。拜趙州刺史。彥光自請復為相州。帝許之。豪猾聞彥光再來。皆嗤之。彥光至。發擿姦伏。有若神明。豪猾潛竄。闔境大治。於是招致名儒。每鄉立學。親臨策試。褒勤黜怠。及舉秀才。祖道於郊。以財物資之。於是風化大變。吏民感悅。無復訟者。時又有相州刺史陳留樊叔略。有異政。帝以璽書褒美。班示天下。徵拜司農。新豐令房恭懿。政為三輔之最。帝賜以粟帛。雍州諸縣令。朝謁。帝見恭懿。必呼至榻前。咨以治民之術。累遷德州司馬。帝謂諸州朝集使曰。房恭懿。志存體國。愛養我民。此乃上天宗廟之所祐。朕若置而不賞。上天宗廟。必當責我。卿等宜師範之。因擢為海州刺史。由是州縣吏多稱職。百姓富庶。○十一月。丁卯。隋遣兼散騎侍郎鄭樞來聘。○十二月。庚子。隋主還長安。復鄭譯官爵。○廣州刺史馬靖。得嶺表人心。兵甲精練。數有戰功。朝廷疑之。遣吏部侍郎蕭引。觀靖舉措。諷令送質。外託收督賧物。引至番禺。靖即遣子弟入質。○是歲。隋主詔境內之民。任聽出家。仍令計口出錢。營造經像。於是時俗隨風而靡。民間佛書。多於六經。數十倍。○突厥佗鉢可汗病。且卒。謂其子菴邏曰。吾兄不立其子。委位於我。我死。汝曹當避大邏便。及卒。國人將立大邏便。以其母賤。眾不服。菴邏實貴。突厥素重之。攝圖最後至。謂國人曰。若立菴邏者。我當帥兄弟事之。若立大邏便。我必守境。利刃長矛。以相待。攝圖長且雄勇。國人莫敢拒。竟立菴邏為嗣。大邏便不得立。心不服。菴邏每遣人詈辱之。菴邏不能制。因以國讓攝圖。國中相與議曰。四可汗子。攝圖最賢。共迎立之。號沙鉢略可汗。居都斤山。菴邏降居獨洛水。稱第二可汗。大邏便乃謂沙鉢略曰。我與爾俱可汗子。各承父後。爾今極尊。我獨無位。何也。沙鉢略略患之。以為阿波可汗。還領所部。又沙鉢略從父玷厥。居西面。號達頭可汗。諸可汗。各統部眾。分居四面。沙鉢略勇而得眾。北方皆畏附之。隋主既立。待突

厥禮薄。突厥大怨。千金公主傷其宗祀覆滅。日夜言於沙鉢略。請爲周室復讐。沙鉢略謂其臣曰。我周之親也。今隋主自立而不能制。復何面目見可賀敦乎。乃與故齊營州刺史高寶寧合兵爲寇。隋主患之。敕緣邊修保障。峻長城。命上柱國武威陰壽鎮幽州。京兆尹虞慶則鎮并州。屯兵數萬以備之。初奉車都尉長孫晟送千金公主入突厥。突厥可汗愛其善射。留之竟歲。命諸子弟貴人與之親友。冀得其射法。沙鉢略弟處羅侯號突利設。尤得衆心。爲沙鉢略所忌。密託心腹陰與晟盟。晟與之遊獵。因察山川形勢。部衆彊弱。靡不知之。及突厥入寇。晟上書曰。今諸夏雖安。戎虜尚梗。興師致討。未是其時。棄於度外。又相侵擾。故宜密運籌策。有以攘之。玷厥之於攝圖。兵彊而位下。外名相屬。內隙已彰。鼓動其情。必將自戰。又處羅侯者。攝圖之弟。姦多勢弱。曲取衆心。國人愛之。因爲攝圖所忌。其心殊不自安。迹示彌縫。實懷疑懼。又阿波首鼠。介在其間。頗畏攝圖。受其牽率。唯彊是與。未有定心。今宜遠交而近攻。離彊而合弱。通使玷厥。說合阿波。則攝圖廻兵。自防右地。又引處羅。遣連奚霫。則攝圖分衆。還備左方。首尾猜嫌。腹心離阻。十數年後。乘釁討之。必可一舉而空其國矣。帝省表大悅。因召與語。晟復口陳形勢。手畫山川。寫其虛實。皆如指掌。帝深嗟異。皆納用之。遣太僕元暉。出伊吾道。詣達頭。賜以狼頭纛。達頭使來。引居沙鉢略略使上。以晟爲軍騎將軍。出黃龍道。齎幣賜奚霫契丹。遣爲鄉導。得至處羅侯所。深布心腹。誘之內附。反間既行。果相猜貳。○始興王叔陵。太子之次弟也。與太子異母。母曰彭貴人。叔陵爲江州刺史。性苛酷。狡險。新安王伯固以善諧諛。有寵於上。及太子。叔陵疾之。陰求其過失。欲中之。以法。叔陵入爲揚州刺史。事務多關涉省閣。執事承意順旨。卽諷上進用之。微致違忤。必抵以大梟。重者至殊死。伯固憚之。乃諂求其意。叔陵好發古冢。伯固好射雉。常相從郊野。大相款狎。因密圖不軌。伯固爲侍中。每得密語。必告叔陵。

十四年春正月己酉。上不豫。太子與始興王叔陵。長沙王叔堅。並入侍疾。叔陵陰有異志。命典藥吏曰切藥。刀甚鈍。可礪之。甲寅。上殂。倉猝之際。叔陵命左右於外取劍。左右弗悟。取朝服木劍以進。叔陵怒。叔堅在側。聞之。疑有變。伺其所爲。乙卯。小斂。太子哀哭俯伏。叔陵抽劍。刺藥刀。斫太子中項。太子悶絕于地。母柳皇后走來救之。又斫后數下。乳媪吳氏自後掣其肘。太子乃得起。叔陵持太子衣。太子自奮得免。叔堅手搯叔陵。奪去其刀。仍牽就柱。以其褶袖縛之。時吳媪已扶太子避賊。叔堅求太子所在。欲受生殺之命。叔陵多力。奮袖得脫。突出雲龍門。馳車還東府。召左右斷青溪道。赦東城囚。以充戰士。散金帛賞賜。又遣人往新林。追所部兵。仍自被甲。著白布帽。登城西門。招募百姓。又召諸王將帥。莫有至者。唯新安王伯固單馬赴之。助叔陵指揮。叔陵兵可千人。欲據城自守。時衆軍並緣江防守。臺內空虛。叔堅白柳后。使太子舍人河內司馬申以太子命。召右衛將軍蕭摩訶。入見受敕。帥馬步數百。趣東府。屯城西門。叔陵惶恐。遣記室韋諒送其鼓吹。與摩訶謂曰。事捷。必以公爲台輔。摩訶給報之曰。須王心膂節將自來。方敢從命。叔陵遣其所親戴溫。譚驎。詣摩訶。摩訶執以送臺。斬其首。徇東城。叔陵自知不濟。入內。沈其妃張氏。及寵妾七人于井。帥步騎數百。自小航度。欲趣新林。乘舟奔隋。行至白楊路。爲臺軍所邀。伯固見兵至。旋避入巷。叔陵馳騎。拔刃追之。伯固復還。叔陵部下多奔甲潰去。摩訶馬容陳智深。迎刺叔陵。僵仆。陳仲華就斬其首。伯固爲亂兵所殺。自寅至巳。乃定。叔陵諸子。並賜死。伯固諸子。有爲庶人。韋諒。及前衡陽內史彭嵩。諮議參軍兼記室鄭信。典籤俞公喜。並伏誅。嵩。叔陵舅也。信。諒有寵於叔陵。常參謀議。諒。祭之子也。丁巳。太子卽皇帝位。大赦。○辛酉。隋置河北道。行臺於并州。以晉王廣爲尙書令。置西南道行臺於益州。以蜀王秀爲尙書令。隋主懲周氏孤弱而亡。故使二子分蒞方面。以二王年少。盛選貞良有才望者爲之僚佐。以靈州刺史王韶爲并省右僕射。鴻臚卿趙郡李雄。

為兵部尚書。左武衛將軍朔方李徹，總督王府軍事。兵部尚書元巖為益州總管府長史，王韶、李雄、元巖俱有骨鯁名。李徹前朝舊將，故用之。初，李雄家世以學業自通，雄獨習騎射，其兄子旦讓之曰：「非士大夫之素業也。」雄曰：「自古聖賢文武不備，而能成其功業者鮮矣。雄雖不敏，頗觀前志，但不守章句耳。」既文且武，兄何病焉？及將如并省，帝謂雄曰：「吾兒更事未多，以卿兼文武才，吾無北顧之憂矣。」二王欲為奢侈非法，韶、巖輒不奉教，或自鎖，或排閣切諫。二王甚憚之。每事諮而後行，不敢違法度。帝聞而賞之，又以秦王俊為河南道行臺尚書令，洛州刺史，領關東兵。○癸亥，以長沙王叔堅為驃騎將軍，開府儀同三司，揚州刺史，蕭摩訶為車騎將軍，南徐州刺史，封綏遠公。始興王家金帛累巨萬，悉以賜之。以司馬申為中書通事舍人。乙丑，尊皇后為皇太后。時帝病創，臥承香殿，不能聽政。太后居柏梁殿，百司衆務皆決於太后。帝創愈，乃歸政焉。丁卯，封皇弟叔重為始興王，奉昭烈王祀。○隋元景山出漢口，遣上開府儀同三司鄧孝儒將卒四千攻甌山鎮，將軍陸綸以舟師救之。為孝儒所敗，涇口、甌山、沌陽守將皆棄城走。戊辰，遣使請和於隋，歸其胡墅。○己巳，立妃沈氏為皇后。辛未，立皇弟叔儼為尋陽王，叔慎為岳陽王，叔達為義陽王，叔熊為巴山王，叔虞為武昌王。○隋高祖奏禮不伐喪。二月己丑，隋主詔頴等班師。○三月己巳，以尚書左僕射晉安王伯恭為湘州刺史。永陽王伯智為尚書僕射。○夏四月庚寅，隋大將軍韓僧壽破突厥於鷄頭山。上柱國李充破突厥於河北山。○丙申，立皇子永康公胤為太子。胤，孫姬之子。沈后養以為子。○五月己未，高寶寧引突厥寇隋平州。突厥悉發五可汗控弦之士四十萬入長城。○壬戌，隋任穆公于翼卒。○甲子，隋更命傳國璽曰受命璽。六月甲申，隋遣使來弔。○乙酉，隋上柱國李光敗突厥於馬邑。突厥又寇蘭州。涼州總管賀婁子幹敗之於洛岐。○隋主嫌長安城制度狹小，又宮內多妖異，納言蘇威勸帝遷都。帝以初受命難之，夜與威及高穎共議，明旦

通直散騎庚季才奏曰：「臣仰觀乾象，俯察圖記，必有遷都之事。且漢營此城，將八百歲，水皆鹹鹵，不甚宜人。願陛下協天人之心，為遷徙之計。」帝愕然，謂穎威曰：「是何神也？」太師李穆亦上表請遷都。帝省表曰：「天道聰明，已有徵應。太師人望，復抗此請，無不可矣。」丙申，詔高穎等創造新都於龍首山。以太子左庶子宇文愷有巧思，領營新都副監。愷忻之弟也。○秋七月辛未，大赦。○九月丙午，設無導大會於太極殿，捨身及乘輿御服，大赦。○丙寅，以長沙王叔堅為司空，將軍刺史如故。○冬十月癸酉，隋太子勇屯兵咸陽，以備突厥。○十二月丙子，隋命新都曰大興城。○乙酉，隋遣沁源公虞慶則屯弘化，以備突厥。行軍總管達奚長儒將兵二千與突厥沙鉢略可汗遇於周槃。沙鉢略有衆十餘萬，軍中大懼。長儒神色慷慨，且戰且行。為虜所衝，散而復聚。四面抗拒，轉鬪三日。晝夜凡十四戰，五兵咸盡。士卒以拳毆之，手皆骨見，殺傷萬計。虜氣稍奪，於是解去。長儒身被五瘡，通中者二，其戰士死者什八九。詔以長儒為上柱國，餘勳回授一子。時柱國馮昱屯乙弗泊，蘭州總管叱列長叉守臨洮，上柱國李崇屯幽州，皆為突厥所敗。於是突厥縱兵自木峽石門兩道入寇。武威、天水、金城、上郡、弘化、延安、六畜咸盡。沙鉢略更欲南入，達頭不從，引兵而去。長孫晟又說沙鉢略之子染干詐告沙鉢略曰：「鐵勒等反，欲襲其牙。」沙鉢略懼，廻兵出塞。○隋主既立，待遇梁主恩禮彌厚。是歲納梁主女為晉王妃。又欲以其子瑒尚蘭陵公主，由是罷江陵總管。梁主始得專制其國。

長城公上

至德元年春正月庚子，隋將入新都，大赦。○壬寅，大赦，改元。○初，上病創，不能視事，政無大小，皆決於長沙王叔堅。權傾朝廷，叔堅頗驕縱。上由是忌之。都官尚書山陰孔範中書舍人施文慶皆惡叔堅，而有寵於上。日夕求其短，構之於上。上乃即叔堅驃騎將軍本號，用三司

之儀。出爲江州刺史。以祠部尚書江總爲吏部尚書。○癸卯。立皇子深爲始安王。○二月。己巳朔。日有食之。○癸酉。遣兼散騎常侍賀徹等聘于隋。○突厥寇隋北邊。○癸巳。葬孝宣皇帝于顯寧陵。廟號高宗。○右衛將軍兼中書通事舍人司馬申。既掌機密。頗作威福。多所譖毀。能候人主顏色。有忤己者。必以微言譖之。附己者。因機進之。是以朝廷內外。皆從風而靡。上欲用侍中吏部尚書毛喜爲僕射。申惡喜彊直。言於上曰。喜。臣之妻兄。高宗時。稱陛下有酒德。請逐去宮臣。陛下寧忘之邪。上乃止。上創愈。置酒於後殿。以自慶。引吏部尚書江總以下。展樂賦詩。既醉而命毛喜。于時山陵初畢。喜見之不懌。欲諫。則上已醉。喜升階。陽爲心疾。仆于階下。移出省中。上醒。謂江總曰。我悔召毛喜。彼實無疾。但欲阻我歡宴。非我所爲耳。乃與司馬申謀曰。此人負氣。吾欲乞鄱陽兄弟。聽其報讐。可乎。對曰。彼終不爲官用。願如聖旨。中書通事舍人北地傅縡。爭之曰。不然。若許報讐。欲置先皇何地。上曰。當乞一小郡。勿令見人事耳。乃以喜爲永嘉內史。○三月。丙辰。隋遷于新都。初。令民二十一成丁。減役者。每歲十番。爲二十日役。減調絹一匹。爲二丈。周末。榷酒坊鹽池鹽井。至是。皆罷之。祕書監牛弘。上表以典籍屢經喪亂。率多散逸。周氏聚書。僅盈萬卷。平齊所得。除其重雜。裁益五千。與集之期。屬膺聖世。爲國之本。莫此爲先。豈可使之流落私家。不歸王府。必須勒之以天威。引之以微利。則異典必臻。觀閣斯積。隋主從之。丁巳。詔購求遺書於天下。每獻書一卷。賚縑一匹。○夏。四月。庚午。吐谷渾寇隋臨洮。洮州刺史皮子信出戰。敗死。洮州總管梁遠擊走之。又寇廓州。州兵擊走之。○壬申。隋以尚書右僕射趙煥兼內史令。○突厥數爲隋寇。隋主下詔曰。往者周齊抗衡。分割諸夏。突厥之虜。俱通二國。周人東慮。恐齊好之深。齊氏西虞。懼周交之厚。謂虜意輕重。國遂安危。蓋竝有大敵之憂。思減一邊之防也。朕以爲厚斂兆庶。多惠豺狼。未嘗感恩。資而爲賊。節之以禮。不爲虛費。省徭薄賦。國用有餘。因入賊之物。加賜將士。息道路之

民。務爲耕織。清邊制勝。成策在心。凶醜愚闇。未知深旨。將大定之日。比戰國之時。乘昔世之驕。結今時之恨。近者。盡其巢窟。俱犯北邊。蓋上天所忿。驅就齊斧。諸將今行。義兼含育。有降者納。有違者死。使其不敢南望。永服威刑。何用侍子之朝。寧勞渭橋之拜。於是命衛王爽等。爲行軍元帥。分八道出塞。擊之。爽督總管李充等四將。出朔州道。己卯。與沙鉢略可汗遇於白道。李充言於爽曰。突厥狂於驟勝。必輕我而無備。以精兵襲之。可破也。諸將多以爲疑。唯長史李徹贊成之。遂與充帥精騎五千。掩擊突厥。大破之。沙鉢略棄所服金甲。潛艸中而遁。其軍中無食。粉骨爲糧。加以疾疫。死者甚衆。幽州總管陰壽帥步騎數萬。出盧龍塞。擊高寶寧。寶寧求救於突厥。突厥方禦隋師。不能救。庚辰。寶寧棄城奔磧北。和龍諸縣悉平。壽設重賞。以購寶寧。又遣人離其腹心。寶寧奔契丹。爲其麾下所殺。○己丑。郢州城主張子譏遣使請降於隋。隋主以和好不納。○辛卯。隋主遣兼散騎常侍薛舒兼通直散騎常侍王劼來聘。劼。松年之子也。○癸巳。隋主大雩。○甲午。突厥遣使入見于隋。○隋改度支尚書爲民部。都官尚書爲刑部。命左僕射判吏禮兵三部事。右僕射判民刑工三部事。廢光祿衛尉鴻臚寺。及都水臺。○五月。癸卯。隋行軍總管李晃破突厥於摩那渡口。○乙巳。梁太子琮入朝于隋。賀遷都。○辛酉。隋主祀方澤。○隋秦州總管竇榮定帥九總管步騎三萬。出涼州。與突厥阿波可汗相拒於高越原。阿波屢敗。榮定熾之。兄子也。前上大將軍京兆史萬歲坐事。配敦煌。爲戍卒。詣榮定軍門請自效。榮定素聞其名。見而大悅。壬戌。將戰。榮定遣人謂突厥曰。士卒何罪。而殺之。但當各遣一壯士決勝負耳。突厥許諾。因遣一騎挑戰。榮定遣萬歲出應之。萬歲馳斬其首而還。突厥大驚。不敢復戰。遂請盟。引軍而去。長孫晟時在榮定軍中。爲偏將。使謂阿波曰。攝圖每來。戰皆大勝。阿波纔入。遽即奔敗。此乃突厥之恥也。且攝圖之與阿波。兵勢本敵。今攝圖日勝。爲衆所崇。阿波不利。爲國生辱。攝圖必當以臯歸阿波。成其宿計。滅北

牙矣。願自量度，能禦之乎？阿波使至，晟又謂之曰：「今達頭與隋連和，而攝圖不能制，可汗何不依附天子，連結達頭，相合爲疆，此萬全計也。豈若喪兵負臯，歸就攝圖，受其戮辱邪？」阿波然之。遣使隨晟入朝。沙鉢略素忌阿波驍悍，自白道敗歸，又聞阿波貳於隋，因先歸。襲擊北牙，大破之。殺阿波之母。阿波還，無所歸。西奔達頭，達頭大怒，遣阿波帥兵而東，其部落歸之者，將十萬騎。遂與沙鉢略相攻，屢破之。復得故地，兵執益彊。貪汗可汗素睦於阿波，沙鉢略奪其衆，而廢之。貪汗亡奔達頭。沙鉢略從弟地勤察，別統部落，與沙鉢略有隙。復以衆叛，歸阿波。連兵不已。各遣使詣長安，請和求援。隋主皆不許。○六月庚辰，隋行軍總管梁遠破吐谷渾於爾汗山。○突厥寇幽州，隋幽州總管廣宗壯公李崇帥步騎三千拒之。轉戰十餘日，師人多死。遂保砂城。突厥圍之，城荒頽，不可守禦。曉夕力戰，又無所食。每夜出掠虜營，得六畜以繼軍糧。突厥畏之，厚爲其備。每夜中結陳以待之。崇軍苦飢，出輒遇敵，死亡略盡。及明，奔還城者，尙百許人。然多重傷，不堪更戰。突厥意欲降之，遣使謂崇曰：「若來降者，封爲特勤。崇知不免，令其士卒曰：『崇喪師，徒罪當萬死。今日效命，以謝國家。汝俟吾死，且可降賊。』便散走。努力還鄉。若見至尊，道崇此意，乃挺刃突陳，復殺二人。突厥亂射殺之。秋七月辛丑，以豫州刺史代人周搖爲幽州總管。命李崇子敏襲爵。敏娶樂平公主之女娥英，詔假一品羽儀。禮如尙帝女。既而將侍宴，公主謂敏曰：「我以四海與至尊，唯一壻當爲爾求柱國。若餘官，汝慎勿謝。及進見，帝授以儀同及開府，皆不謝。帝曰：『公主有大功於我，我何得於其壻而惜官乎？』今授汝柱國，敏乃拜而蹈舞。○八月丁卯朔，日有食之。○長沙王叔堅未之江州，復留爲司空，實奪之權。○壬午，隋遣尙書左僕射高穎出寧州道，內史監虞慶則出原州道，以擊突厥。○九月癸丑，隋大赦。○冬十月甲戌，廢河南道行臺省，以秦王俊爲秦州總管，隴右諸州盡隸焉。○丁酉，立皇弟叔平爲湘東王，叔敖爲臨賀王，叔宣爲陽山王，叔穆爲西陽王。○戊

戌，侍中建昌侯徐陵卒。○癸丑，立皇弟叔儉爲安南王，叔澄爲南郡王，叔興爲沅陵王。叔詔爲岳山王，叔純爲新興王。○十一月，遣散騎常侍周墳、通直散騎常侍袁彥聘于隋。帝聞隋主狀貌異人，使彥畫像而歸。帝見，大駭曰：「吾不欲見此人，亟命屏之。」○隋既班律令，蘇威屢欲更易事條，內史令李德林曰：「修律令時，公何不言？今始頒行，且宜專守，自非大爲民害，不可數更。河南道行臺兵部尙書楊尙希曰：『竊見當今郡縣，倍多於古，或地無百里，數縣並置，或戶不滿千，二郡分領，具僚已衆，資費日多。吏卒增倍，租調歲減，民少官多，十羊九牧。今存要去閑，併小爲大，國家則不虧粟帛，選舉則易得賢良。蘇威亦請廢郡，帝從之。甲午，悉罷諸郡爲州。○十二月乙卯，隋遣兼散騎常侍曹令則、通直散騎常侍魏澹來聘。澹收之族也。○丙辰，司空長沙王叔堅免。叔堅既失恩，心不自安，乃爲厭媚。醮日月以求福，或上書告其事。帝召叔堅，囚于西省，將殺之。令近侍宣敕數之。叔堅對曰：「臣之本心，非有佗故，但欲求親媚耳。臣既犯天憲，臯當萬死。臣死之日，必見叔陵，願宣明詔，責之於九泉之下。帝乃赦之，免官而已。○隋以上柱國竇榮定爲右武衛大將軍，榮定妻，隋主姊安成公主也。隋主欲以榮定爲三公，辭曰：「衛霍梁鄧，若少自貶損，不至覆宗。帝乃止。帝以李穆功大，詔曰：『法備小人，不防君子。太師申公，自今雖有臯，但非謀逆，縱有百死，終不推問。禮部尙書牛弘請立明堂，帝以時事草創，不許。帝覽刑部奏，斷獄數猶至萬，以爲律尙嚴密，故人多陷罪。又敕蘇威、牛弘等更定新律，除死罪八十一條，流罪一百五十四條，徒杖等千餘條，唯定留五百條。凡十二卷，自是刑網簡要，疎而不失。仍置律博士弟子員。○隋主以長安倉廩尙虛，是歲詔西自蒲陝，東至衛汴，水次十三州募丁運米。又於衛州置黎陽倉，陝州置常平倉，華州置廣通倉。轉相灌輸，漕關東及汾晉之粟，以給長安。時刺史多任武將，類不稱職。治書侍御史柳或上表曰：「昔漢光武與二十八將披荆棘，定天下，及功成之後，無所任職，伏見詔書，以上柱國和子

爲杞州刺史。千子前任趙州。百姓歌之曰。老禾不早殺。餘種穢良田。千子弓馬武用。是其所長。治民泄衆。非其所解。如謂優老尙年。自可厚賜金帛。若令刺舉。所損殊大。帝善之。千子竟免。或見上勤於聽受。百僚奏請。多有煩碎。上疏諫曰。臣聞上古聖帝。莫過唐虞。不爲叢脞。是謂欽明。舜任五臣。堯咨四岳。垂拱無爲。天下以治。所謂勞於求賢。逸於任使。比見陛下留心治道。無憚疲勞。亦由羣官懼罪。不能自決。取判天旨。聞奏過多。乃至營造細小之事。出給輕微之物。一日之內。酬答百司。至乃日旰忘食。夜分未寢。動以文簿。憂勞聖躬。伏願察臣至言。少減煩務。若經國大事。非臣下裁斷者。伏願詳決。自餘細務。責成所司。則聖體盡無疆之壽。臣下蒙覆育之賜。上覽而嘉之。因曰。柳或直士。國之寶也。或以近世風俗。每正月十五夜。然燈遊戲。奏請禁之。曰。竊見京邑。爰及外州。每以正月望夜。充街塞陌。聚戲朋遊。鳴鼓聒天。燎炬照地。竭貲破產。競此一時。盡室并孥。無問貴賤。男女混雜。縑素不分。穢行因此而成。盜賊由斯而起。因循弊風。曾無先覺。無益於化。實損於民。請頒天下。竝即禁斷。詔從之。

資治通鑑卷第一百七十五

資治通鑑卷第一百七十六

陳紀十

長城公下

至德二年春正月甲子。日有食之。○己巳。隋主享太廟。辛未。祀南郊。○壬申。梁主入朝于隋。服通天冠。絳紗袍。北面受郊勞。及入。見於大興殿。隋主服通天冠。絳紗袍。梁主服遠遊冠。朝服。君臣竝拜。賜縑萬匹。珍玩稱是。○隋前華州刺史張寶。儀同三司劉暉等。造甲子元曆成。奏之。壬辰。詔頒新曆。○癸巳。大赦。○二月乙巳。隋主餞梁主於灞上。○突厥蘇尼部男女萬餘口。降隋。○庚戌。隋主如隴州。○突厥達頭可汗。請降於隋。○夏四月庚子。隋以吏部尚書虞慶則爲右僕射。○隋上大將軍賀婁子幹。發五州兵。擊吐谷渾。殺男女萬餘口。二旬而還。帝以隴西頻被寇掠。而俗不設村塢。命子幹。勒民爲堡。仍營田積穀。子幹上書曰。隴右河西。土曠民稀。邊境未寧。不可廣佃。比見屯田之所。獲少費多。虛役人功。卒逢踐暴。屯田疎遠者。請皆廢省。但隴右之民。以畜牧爲事。若更屯聚。彌不自安。但使鎮戍連接。烽埃相望。民雖散居。必謂無慮。帝從之。以子幹曉習邊事。丁巳。以爲榆關總管。○五月。以吏部尚書江總爲僕射。○隋主以渭水多沙。深淺不常。漕者苦之。六月壬子。詔太子左庶子宇文愷。帥水工鑿渠。引渭水。自大興城。東至潼關。三百餘里。名曰廣通渠。漕運通利。關內賴之。○秋七月丙寅。遣兼散騎常侍謝泉等。聘于隋。○八月壬寅。隋鄧恭公寶熾卒。○乙卯。將軍夏侯苗。請降于隋。隋主以通和不納。○九月甲戌。隋主以關中饑。行如洛陽。○隋主不喜詞華。詔天下公私文。

翰竝宜實錄。泗州刺史司馬幼之。文表華艷。付所司治罪。治書侍御史趙郡李諤。亦以當時屬文。體尚輕薄。上書曰。魏之三祖。崇尚文詞。忽君人之大道。好雕蟲之小藝。下之從上。遂成風俗。江左齊梁。其弊彌甚。競一韻之奇。爭一字之巧。連篇累牘。不出月露之形。積案盈箱。唯是風雲之狀。世俗以此相高。朝廷據茲擢士。祿利之路。既開。愛尚之情。愈篤。於是閭里童昏。貴遊總卯。未窺六甲。先製五言。至如羲皇舜禹之典。伊傅周孔之說。不復關心。何嘗入耳。以傲誕爲清虛。以緣情爲勳績。指儒素爲古拙。用詞賦爲君子。故文筆日繁。其政日亂。良由弃大聖之軌模。構無用以爲用也。今朝廷雖有是詔。如聞外州遠縣。仍踵弊風。躬仁孝之行者。擯落私門。不加收齒。工輕薄之藝者。選充吏職。舉送天朝。蓋由刺史縣令。未遵風教。請普加采察。送臺推劾。又上言。士大夫矜伐干進。無復廉恥。乞明加罪黜。以懲風軌。詔以諤前後所奏。頒示四方。○突厥沙鉢略可汗。數爲隋所敗。乃請和親。千金公主自請改姓楊氏。爲隋主女。隋主遣開府儀同三司徐平和。使於沙鉢略。更封千金公主爲大義公主。晉王廣請因鹽乘之。隋主不許。沙鉢略遣使致書曰。從天生大突厥。天下賢聖天子。伊和利居盧設。莫何沙鉢略可汗。致書大隋皇帝。皇帝婦父。乃是翁比。此爲女夫。乃是兒例。兩境雖殊。情義如一。自今子子孫孫。乃至萬世。親好不絕。上天爲證。終不違負。此國羊馬。皆皇帝之畜。彼之繒綵。皆此國之物。帝復書曰。大隋天子。貽書大突厥。沙鉢略可汗。得書。知大有善意。既爲沙鉢略婦翁。今日視沙鉢略。與兒子不異。時遣大臣。往彼省女。復省沙鉢略也。於是遣尙書右僕射虞慶則。使於沙鉢略。車騎將軍長孫晟。副之。沙鉢略陳兵。列其珍寶。坐見慶則。稱病不能起。且曰。我諸父以來。不向人拜。慶則責而諭之。千金公主私謂慶則曰。可汗豺狼性。過與爭。將齧人。長孫晟謂沙鉢略曰。突厥與隋。俱大國天子。可汗不起。安敢違意。但可賀敦爲帝女。則可汗是大隋女婿。奈何不敬婦翁。沙鉢略笑謂其達官曰。須拜婦翁。乃起拜頓顙。跪受璽書。以戴

於首。既而大歡。與羣下相聚。慟哭。慶則又遣稱臣。沙鉢略謂左右曰。何謂臣。左右曰。隋言臣。猶此云奴耳。沙鉢略曰。得爲大隋天子奴。虞僕射之力也。贈慶則馬千匹。并以從妹妻之。○冬十一月壬戌。隋主遣兼散騎常侍薛道衡等來聘。戒道衡當識朕意。勿以言辭相折。○是歲。上於光昭殿前。起臨春。結綺。望仙三閣。各高數十丈。連延數十間。其牕牖。壁帶。縣楣。欄檻。皆以沈檀爲之。飾以金玉。間以珠翠。外施珠簾。內有寶牀寶帳。其服玩瑰麗。近古所未有。每微風暫至。香聞數里。其下積石爲山。引水爲池。雜植奇花異卉。上自居臨春閣。張貴妃居結綺閣。龔孔二貴嬪居望仙閣。竝複道。交相往來。又有王李二美人。張薛二淑媛。袁昭儀。何婕妤。江脩容。竝有寵。迭遊其上。以宮人有文學者。袁大捨等爲女學士。僕射江總。雖爲宰輔。不好。江脩容。竝有寵。迭遊其上。以宮人有文學者。袁大捨等爲女學士。僕射江總。雖爲宰輔。不親政務。日與都宮尙書孔範。散騎常侍王瑳等。文士十餘人。侍上遊宴後庭。無復尊卑之序。謂之狎客。上每飲酒。使諸妃嬪及女學士。與狎客共賦詩。互相贈答。采其尤艷麗者。被以新聲。選宮女千餘人。習而歌之。分部迭進。其曲有玉樹後庭花。臨春樂等。大略皆美諸妃嬪之容色。君臣酣歌。自夕達旦。以此爲常。張貴妃名麗華。本兵家女。爲龔貴嬪侍兒。上見而悅之。得幸生太子深。貴妃髮長七尺。其光可鑑。性敏慧。有神彩。進止詳華。每瞻視。眄睐。光采溢目。照映左右。善候人主顏色。引薦諸宮女。後宮咸德之。競言其善。又有厭魅之術。常置淫祀於宮中。聚女巫巫鼓舞。上怠於政事。百司啓奏。竝因宦者蔡脫兒。李善度。進請。上倚隱囊。置張貴妃於膝上。共決之。李蔡所不能記者。貴妃竝爲條疏。無所遺脫。因參訪外事。人間有一言一事。貴妃必先知白之。由是益加寵異。冠絕後庭。宦官近習。內外連結。援引宗戚。縱橫不法。賣官鬻獄。貨賂公行。賞罰之命。不出于外。大臣有不從者。因而譖之。於是孔張之權。熏灼四方。大臣執政。皆從風諂附。孔範與孔貴嬪。結爲兄妹。上惡聞過失。每有惡事。孔範必曲爲文飾。稱揚贊美。由是寵遇優渥。言聽計從。羣臣有諫者。輒以罪斥之。中書舍人施文慶。頗涉書史。

嘗事上於東宮。聰敏彊記。明閑吏職。心算口占。應時條理。由是大被親幸。又薦所善吳興沈客卿。陽惠朗。徐哲。暨慧景等。云有吏能。上皆擢用之。以客卿爲中書舍人。客卿有口辯。頗知朝廷典故。兼掌金帛局。舊制。軍人土人。竝無關市之稅。上盛脩宮室。窮極耳目。府庫空虛。有所興造。恆苦不給。客卿奏請。不問士庶。竝責關市之征。而又增重其舊。於是陽惠朗爲太市令。暨慧景爲尙書金倉都令史。二人家本小吏。考校簿領。纖毫不差。然皆不達大體。督責苛碎。聚斂無厭。士民嗟怨。客卿總督之。每歲所入。過於常格。數十倍。上大悅。益以施文慶爲知入。尤見親重。小大衆事。無不委任。轉相汲引。珥貂蟬者五十人。孔範自謂文武才能。舉朝莫及。從容白。上曰。外間諸將。起自行伍。匹夫敵耳。深見遠慮。豈其所知。上以問施文慶。文慶畏範。亦以爲然。司馬申復贊之。自是將帥微有過失。卽奪其兵。分配文吏。奪任忠部曲。以配範。及蔡徵。由是文武解體。以至覆滅。

三年春正月。戊午朔。日有食之。○隋主命禮部尙書牛弘。脩五禮。勒成百卷。戊辰。詔行新禮。○三月。戊午。隋以尙書左僕射高穎爲左領軍大將軍。○豐州刺史章大寶。昭達之子也。在州貪縱。朝廷以太僕卿李暈代之。暈將至。辛酉。大寶襲殺暈。舉兵反。○隋大司徒郢公王誼。與隋主有舊。其子尙帝女蘭陵公主。帝待之恩禮稍薄。誼頗怨望。或告誼自言。名應圖讖。相表當王。公卿奏誼大逆不道。夏四月壬寅。賜誼死。○戊申。隋主還長安。○章大寶遣其將楊通。攻建安。不克。臺軍將至。大寶衆潰。逃入山。爲追兵所擒。夷三族。○隋度支尙書長孫平。奏令民間。每秋家出粟麥一石以下。貧富爲差。儲之当社。委社司檢校。以備凶年。名曰義倉。隋主從之。五月甲申。初詔郡縣置義倉。時民間多妄稱。老小。以免賦役。山東承北齊之弊。政戶口租調。姦僞尤多。隋主命州縣大索貌閱。戶口不實者。里正黨長。遠配。大功以下。皆令析籍。以防容隱。於是計帳得新附一百六十四萬餘口。高穎請爲輸籍法。徧下諸州。帝從之。自是

姦無所容矣。諸州調物。每歲河南自潼關。河北自蒲坂。輸長安者。相屬於路。晝夜不絕者數月。○梁主殂。諡曰孝明皇帝。廟號世宗。世宗孝慈儉約。境內安之。太子琮嗣位。○初。突厥阿波可汗。旣與沙鉢略有隙。阿波浸彊。東距都斤。西越金山。龜茲。鐵勒。伊吾。及西域諸胡。悉附之。號西突厥。隋主亦遣上大將軍元契。使于阿波。以撫之。○秋七月庚申。遣散騎常侍王話等。聘于隋。○突厥沙鉢略。旣爲達頭所困。又畏契丹。遣使告急於隋。請將部落。度漠南。寄居白道川。隋主許之。命晉王廣。以兵援之。給以衣食。賜之車服。鼓吹。沙鉢略大喜。乃立約。以磧而阿拔國。乘虛掠其妻子。官軍爲擊阿拔。敗之。所獲悉與沙鉢略。沙鉢略大喜。乃立約。以磧爲界。因上表曰。天無二日。土無二王。大隋皇帝。眞皇帝也。豈敢阻兵恃險。偷竊名號。今感慕淳風。歸心有道。屈膝稽顙。永爲藩附。遣其子庫合眞。入朝。八月丙戌。庫合眞至長安。隋主下詔曰。沙鉢略往雖與和。猶是二國。今作君臣。便成一體。因命肅告郊廟。普頒遠近。凡賜沙鉢略詔。不稱其名。宴庫合眞於內殿。引見皇后。賞勞甚厚。沙鉢略大悅。自是歲時貢獻不絕。○九月。將軍湛文徹。侵隋和州。隋儀同三司費寶首擊擒之。○丙子。隋使李若等來聘。○冬十月壬辰。隋以上柱國楊素爲信州總管。○初。北地傅綽。以庶子。事上於東宮。及卽位。遷祕書監。右衛將軍。兼中書通事舍人。負才使氣。人多怨之。施文慶。沈客卿。共譖綽。受高麗使金。上收綽下獄。綽於獄中。上書曰。夫君人者。恭事上帝。子愛下民。省嗜欲。遠諂佞。未明求衣。日旰忘食。是以澤被區宇。慶流子孫。陛下頃來。酒色過度。不虔郊廟。大神專媚。淫昏之鬼。小人在側。宦豎弄權。惡忠直若仇讎。視生民如草芥。後宮曳綺繡。廐馬餘菽粟。百姓流離。殍尸蔽野。貨賄公行。帑藏損耗。神怒民怨。衆叛親離。臣恐東南王氣。自斯而盡。書奏。上大怒。頃之意稍解。遣使謂綽曰。我欲赦卿。卿能改過不。對曰。臣心如面。臣面可改。則臣心可改。上益怒。令宦者李善慶。窮治其事。遂賜死獄中。上每當郊祀。常稱疾不行。故綽言及之。○是歲。梁大將軍

戚昕以舟師襲公安不克而還。隋主徵梁主叔父太尉吳王岑入朝。拜大將軍。封懷義公。因留不遣。復置江陵總管以監之。梁大將軍許世武密以城召荊州刺史宜黃侯慧紀。謀泄。梁主殺之。慧紀高祖之從孫也。○隋主使司農少卿崔仲方發丁三萬於朔方。靈武築長城。東距河西至綏州。綿歷七百里。以遏胡寇。

四年春正月。梁改元廣運。○甲子。党項羌請降於隋。○庚午。隋頒曆於突厥。○二月。隋始令刺史上佐。每歲暮更入朝。上考課。○丁亥。隋復令崔仲方發丁十五萬於朔方。以東緣邊險要築數十城。丙申。立皇弟叔謨爲巴東王。叔顯爲臨江王。叔坦爲新會王。叔隆爲新寧王。○庚子。隋大赦。○三月。己未。洛陽男子高德上書請隋主爲太上皇。傳位皇太子。帝曰。朕承天命。撫育蒼生。日旰夜食。猶恐不逮。豈效近代帝王傳位於子。自求逸樂者哉。○夏四月。己亥。遣周碯等聘于隋。○五月。丁巳。立皇子莊爲會稽王。○秋八月。隋遣散騎常侍裴豪等來聘。○戊申。隋申明公李穆卒。葬以殊禮。○閏月。丁卯。隋太子勇鎮洛陽。○隋上柱國郟公梁士彥討尉遲迥。所當必破。代迥爲相州刺史。隋主忌之。召還長安。上柱國杞公宇文忻與隋主少相厚。善用兵。有威名。隋主亦忌之。以譴去官。以柱國舒公劉昉皆被疎遠。閑居事無頗懷。怨望。數相往來。陰謀不軌。忻欲使士彥於蒲州起兵。己爲內應。士彥之甥裴通預其謀。而告之。帝隱其事。以士彥爲晉州刺史。欲觀其意。士彥欣然。謂昉等曰。天也。又請儀同三司薛摩兒爲長史。帝亦許之。後與公卿朝謁。帝令左右執士彥。忻昉於行間詰之。初猶不伏。捕薛摩兒適至。命之庭對。摩兒具論始末。士彥失色。顧謂摩兒曰。汝殺我。丙子。士彥忻昉皆伏誅。叔姪兄弟免死除名。九月。辛巳。隋主素服臨射殿。命百官射三家資物。以爲誠。○冬十月。己酉。隋以兵部尚書楊尙希爲禮部尚書。隋主每旦臨朝。日昃不倦。尙希諫曰。周文王以憂勤損壽。武王以安樂延年。願陛下舉大綱。責成宰輔。繁碎之務。非人主所宜親也。帝善之。而不能

從。○癸丑。隋置山南道行臺於襄州。以秦王俊爲尙書令。俊妃崔氏生男。隋主喜。頒賜羣官。直祕書內省。博陵李文博家素貧。人往賀之。文博曰。賞罰之設。功過所存。今王妃生男。於羣官何事。乃妄受賞也。聞者愧之。○癸亥。以尙書僕射江總爲尙書令。吏部尙書謝劬爲僕射。○十一月。己卯。大赦。○吐谷渾可汗夸呂在位百年。屢因喜怒廢殺太子。後太子懼。謀執夸呂而降。請兵於隋邊吏。秦州總管河間王弘請以兵應之。隋主不許。太子謀洩。爲夸呂所殺。復立其少子暹王訶爲太子。疊州刺史杜粲請因其豐而討之。隋主又不許。是歲。暹王訶復懼誅。謀帥部落萬五千戶降隋。遣使詣闕。請兵迎之。隋主曰。渾賊風俗特異。人倫。父既不慈。子復不孝。朕以德訓人。何有成其惡逆乎。乃謂使者曰。父有過失。子當諫爭。豈可潛謀非法。受不孝之名。溥天之下。皆朕臣妾。各爲善事。即稱朕心。暹王既欲歸朕。唯教暹王爲臣子之法。不可遠遣兵馬。助爲惡事。暹王訶乃止。

禎明元年春正月。戊寅。大赦。改元。○癸巳。隋主享太廟。○乙未。隋制諸州歲貢士三人。○二月。丁巳。隋主朝于東郊。○遣兼散騎常侍王亨等聘于隋。○隋發丁男十萬餘人修長城。二旬而罷。夏四月。於揚州開山陽瀆。以通運。○突厥沙鉢略可汗遣其子入貢于隋。因請獵於恆代之間。隋主許之。仍遣人賜以酒食。沙鉢略帥部落再拜受賜。沙鉢略尋卒。隋爲之廢朝三日。遣太常吊祭。初沙鉢略以其子雍虞閭懦弱。遣令立其弟葉護處羅侯。雍虞閭遣使迎處羅侯。將立之。處羅侯曰。我突厥自木杆可汗以來。多以弟代兄。以庶奪嫡。失先祖之法。不相敬畏。汝當嗣位。我不憚拜汝。雍虞閭曰。叔與我父共根連體。我枝葉也。豈可使根本反從枝葉。叔父屈於卑幼乎。且亡父之命。何可廢也。願叔勿疑。遣使相讓者五六。處羅侯竟立。是爲莫何可汗。以雍虞閭爲葉護。遣使上表言狀。隋使車騎將軍長孫晟持節拜之。賜以鼓吹幡旗。莫何勇而有謀。以隋所賜旗鼓西擊阿波。阿波之衆以爲得隋兵助之。多望風降附。